

令和 6 年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業分）

高齢者の社会参加及び地域貢献に資する 互助組織の推進に関する調査研究事業

調査結果報告書

令和 7 年 3 月

株式会社浜銀総合研究所

目 次

1. 本調査の概要	1
(1) 本調査の背景と目的	1
(2) 本調査の全体像	1
(3) 有識者研究委員会	2
2. 昨年度調査研究事業の結果と本調査研究事業の目指すもの	4
(1) 昨年度調査研究事業の概要	4
(2) 老人クラブの活動の「見える化」の重要性	5
(3) 本調査研究事業の目的と事業を通じて作成する成果物	6
3. アンケート調査結果	7
(1) アンケート調査の実施概要	7
① 調査目的	7
② 調査対象者	7
③ 調査実施期間	7
④ 調査方法	7
⑤ 配布・回収状況	7
⑥ 集計結果の表示方法	8
(2) 調査結果（市区町村向け調査）	9
① 自治体や老人クラブ等に関する基礎情報	9
② 老人クラブの活動の評価等の実施状況	13
③ 老人クラブの活動に関する情報収集の状況	21
④ 各自治体における老人クラブ活動状況等	45
⑤ 老人クラブへの支援の状況	57
⑥ 老人クラブの支援を行ううえでの課題	60
(3) 調査結果（市区町村老人クラブ連合会向け調査）	61
① 老人クラブの活動状況	61
② 活動から得られるやりがい、達成感	73
③ 活動の課題、問題点と感ずること	75
④ 単位老人クラブに対する支援	76
⑤ 単位老人クラブの活動推進をはかるための事業	77
⑥ 単位クラブとの連絡状況	78
4. ヒアリング調査結果	81
(1) ヒアリング調査の実施概要	81
① 調査目的	81
② 調査対象	81
(2) ヒアリング調査結果	82
① 事例1：神奈川県横浜市	82
② 事例2：大阪府堺市	91

③ 事例3：千葉県松戸市	97
④ 事例4：島根県松江市	103
⑤ 事例5：滋賀県長浜市	110
⑥ 事例6：大分県臼杵市	118
5. 調査結果から見た老人クラブの活動の「見える化」の重要性と取組の要点	125
(1) 老人クラブの活動継続・発展に向けての課題	125
(2) 老人クラブと地方自治体とのコミュニケーションの現状	126
① 地方自治体による老人クラブに関する情報収集等の状況	126
② 老人クラブへの補助金の交付や、連絡・相談における中間組織の役割	128
(3) 老人クラブ側の意識と自治体側の意識の比較（「見える化」の試行）	129
① 高齢者の生きがいづくり・健康づくりに関する活動	131
② 高齢者の仲間づくりに関する活動	132
③ 地域を豊かにする環境づくりに関する活動	134
(4) 調査結果に基づく「見える化」の重要性と取組の要点	136
① 老人クラブの活動の「見える化」の重要性	136
② 老人クラブの活動の「見える化」に関する取組の要点	136
6. 老人クラブの活動の振り返りに関する手法の提案	142
(1) 老人クラブの活動の振り返りに関する手法の検討過程	142
(2) 「老人クラブの活動の振り返りに関するワークシート」の提案	143
① 「老人クラブの活動の振り返りに関するワークシート」のねらい	143
② 「老人クラブの活動の振り返りに関するワークシート」試案に対する検討結果	143
③ 試案への意見を踏まえた「老人クラブの活動の振り返りに関するワークシート」（案）	145
④ 「老人クラブの活動の振り返りに関するワークシート」の使用方法	147
7. 今後の老人クラブの活動支援に向けて	151
(1) 老人クラブにおける活動の「やりがい」	151
(2) 老人クラブの「できていること」・「できていないこと」の意識	151
(3) 老人クラブにおける活動意欲を高め、協働を推進するための働きかけ	152

◇ 資料編

【資料1】 (1) アンケート調査項目	155
① 市区町村向け調査	157
② 老人クラブ向け調査	165
【資料2】 (2) 老人クラブの活動を振り返るためのワークシート	173

1. 本調査の概要

(1) 本調査の背景と目的

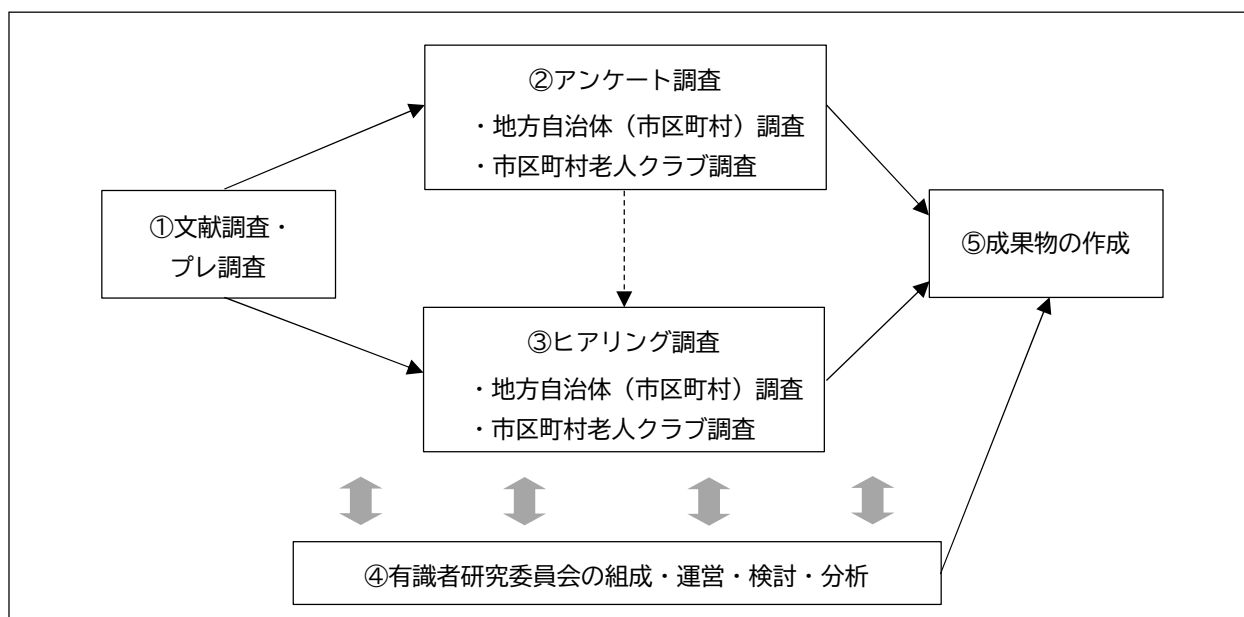
本調査研究事業は、令和5年度老人保健健康増進等事業「老人クラブにおける効果的な活動促進に関する調査研究事業」(実施機関:有限責任監査法人トーマツ 以下、「昨年度調査研究事業」という)の成果を踏まえ、今後の老人クラブの活動の発展に向けた取組の方向性等を検討することを主眼として実施されたものである。

なお、本調査研究事業では、昨年度調査研究事業において把握・整理された老人クラブの現状や課題を踏まえ、老人クラブの今後の活動継続・発展に向けて、特に各クラブの活動に関する振り返り及び活動方針の検討・見直し等に関する有効な方法の検討・提案を行うことを目的としている。

(2) 本調査の全体像

本調査研究事業においては、以下のとおりアンケート調査・ヒアリング調査を軸に情報収集・整理を行い、その結果に基づき研究委員会での議論・検討を通じて成果物を取りまとめた。

【本調査研究事業の全体像（概略）】



(3) 有識者研究委員会

本調査研究事業の実施にあたり、地域における高齢者の生活支援等に精通する学識経験者や、老人クラブ等の活動主体、地方自治体等で構成される有識者研究委員会を組成し、調査方法・内容等について検討を行うとともに、調査結果の分析やまとめについて議論・検討を行った。

なお、委員の構成は以下のとおりである。

【委員】

(敬称略、順不同、2025 年 3 月末時点)

氏 名	所 属
藤原 佳典	東京都健康長寿医療センター研究所 社会科学系副所長
関 ふ佐子	神奈川大学法学部 教授
埴岡 健一	国際医療福祉大学大学院 教授
正立 斉	全国老人クラブ連合会 理事・事務局長
大藪 定信	千葉県老人クラブ連合会 常務理事・事務局長
川鍋 愛美	松戸市 福祉長寿部 高齢者支援課 課長
大塚 宏未	長浜市 健康福祉部 長寿推進課 課長

【オブザーバー】

(敬称略)

厚生労働省 老健局 認知症施策・地域介護推進課

【事務局】

氏 名	所 属
田中 知宏	株式会社浜銀総合研究所 地域戦略研究部 上席主任研究員
樽田 俊祐	株式会社浜銀総合研究所 地域戦略研究部 副主任研究員
石川 翔大	株式会社浜銀総合研究所 地域戦略研究部 副主任研究員
江川 湧	株式会社浜銀総合研究所 地域戦略研究部 研究員
遠山 夏子	株式会社浜銀総合研究所 地域戦略研究部 研究員

有識者研究委員会は計3回、以下のような内容で実施した。

【各回委員会の実施概要】

回	実施方法	議題等
第1回 (2024年12月11日)	オンライン会議形式	・調査全体像・実施方針等の確認・共有 ・アンケート・ヒアリングの調査方法・調査対象・調査項目等に関する検討
第2回 (2025年2月28日)	ハイブリッド形式	・アンケート調査結果速報 ・ヒアリング調査の経過報告 ・支援ツール及びガイドブックの構成・内容等に関する検討
第3回 (2025年3月17日)	ハイブリッド形式	・アンケート・ヒアリング調査の結果報告（続報） ・調査結果の取りまとめに向けた議論 ・成果物案の提示及び意見交換 等

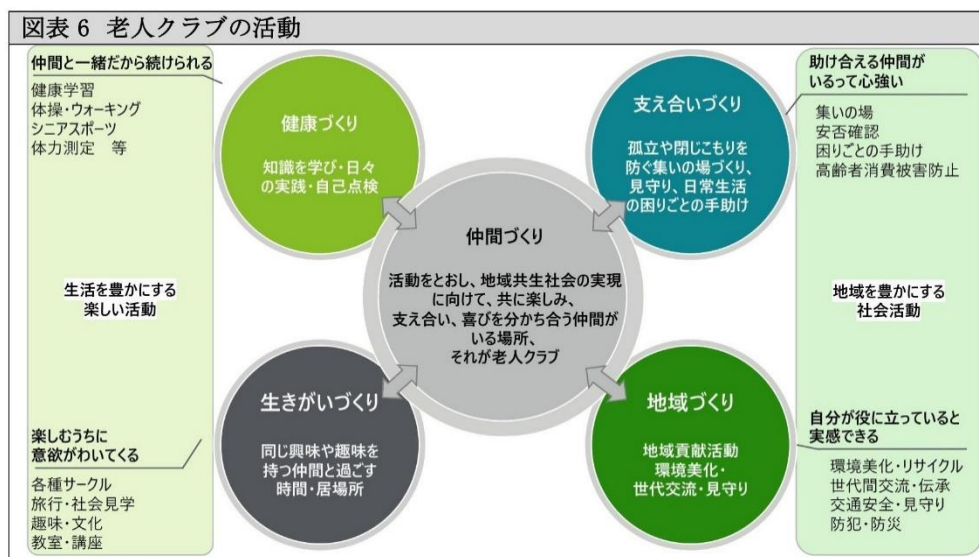
2. 昨年度調査研究事業の結果と本調査研究事業の目指すもの

(1) 昨年度調査研究事業の概要

昨年度調査研究事業では、老人クラブの活動実態についての調査が行われ、各種調査の結果に基づき、老人クラブの活動内容について以下のように整理された。

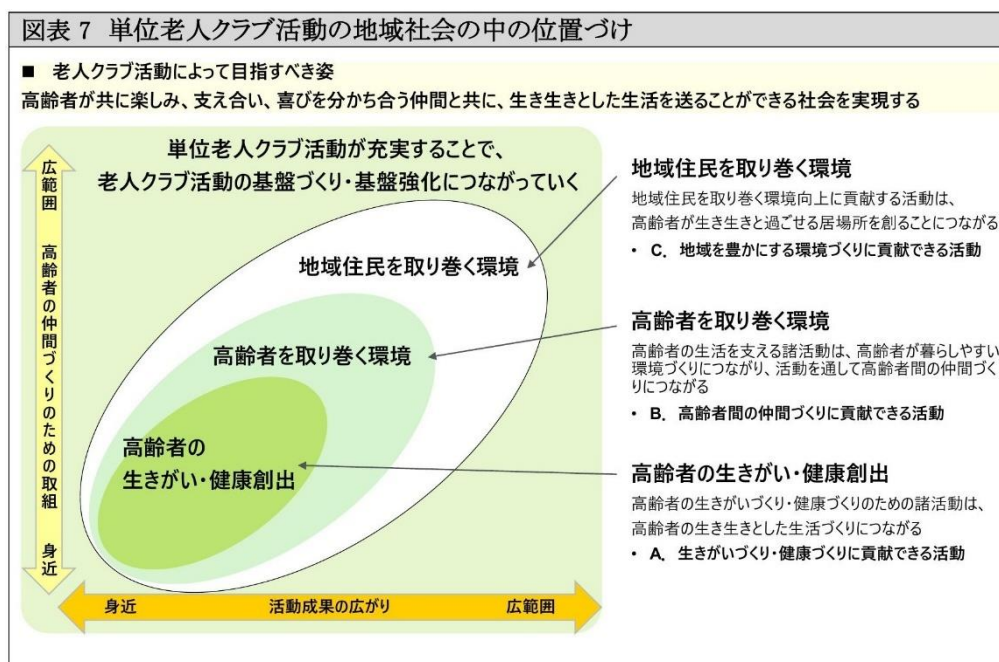
老人クラブの活動は「健康づくり」・「生きがいづくり」・「仲間づくり」・「支え合いづくり」・「地域づくり」といった多様な分野にわたり、様々な活動を通じ、結果的に高齢者も含めた地域社会を支える重要な活動を担っており、その活動を通じて地域づくりに貢献している存在である。

【老人クラブの活動】



出典：有限責任監査法人トーマツ「令和5年度老人保健健康増進等事業 老人クラブにおける効果的な活動促進に関する調査研究事業 調査研究報告書」

【単位老人クラブ活動の地域社会の中での位置づけ】



出典：有限責任監査法人トーマツ「令和5年度老人保健健康増進等事業 老人クラブにおける効果的な活動促進に関する調査研究事業 調査研究報告書」

また、老人クラブの活動を「A：高齢者の生きがいづくり・健康づくり」、「B：高齢者の仲間づくり」、「C：地域を豊かにする環境づくり」の3つに分類し、それぞれの活動に関するアウトプット・アウトカムの関係について、以下のように整理されていた。

【単位老人クラブ活動の整理】

図表 8 単位老人クラブ活動の整理(アウトプットとアウトカム)

■ 老人クラブ活動によって目指すべき姿

高齢者が、共に楽しみ、支え合い、喜びを分かち合う仲間と共に、生き生きとした生活を送ることができる社会を実現する

活動の基盤づくり・基盤強化につながる

アウトカム	アウトプット	活動内容
A. 高齢者の生きがい・健康づくりに 貢献できている	生きがいづくり	・ 趣味・文化・サークル活動 等
	健康づくり	・ 学習活動：健康・介護予防の学習 ・ 実践活動：体操、スポーツ、ウォーキング 等
B. 高齢者間の仲間づくりに 貢献できている	学びの場づくり	・ 各種学習講座の開催社会見学、研修、携帯・スマホ講習会 等
	多様な集いの場づくり	・ 高齢者が集うサロン活動、定期的な集いの場づくり 等
	孤立防止の環境づくり	・ 高齢者への声かけ運動、訪問活動 等 ・ 生活の困りごと手助け活動、ゴミ出し活動 等
C. 地域を豊かにする環境づくりに 貢献できている	ものづくり	・ 農作物・手工芸品等の生産活動 等
	環境美化づくり	・ 清掃活動、花いっぱい・緑化活動、リサイクル活動 等
	安心安全のまちづくり	・ 交通安全、事故防止の取組、防犯・防災活動、街頭での防犯呼びかけ運動 等 ・ 見守り活動：子どもの登下校時の見守り 等
	世代間交流づくり	・ 子どもへの読み聞かせ運動、子ども食堂での協働活動、地域イベント・行事（町内会催し等）の運営・参加 等 ・ 伝承活動：伝統文化・郷土史、戦争・災害体験 等
	地域社会づくり	・ 協働活動：地域団体や行政等の求めに協力する 等 ・ 提言・提案：地域団体や行政等との会議体等のへ参画 等

高齢者仲間 Swell being

地域社会 Swell being

出典：有限責任監査法人トーマツ「令和５年度老人保健健康増進等事業 老人クラブにおける効果的な活動促進に関する調査研究事業 調査研究報告書」

（２）老人クラブの活動の「見える化」の重要性

昨年度調査研究事業においては、老人クラブが地域づくりの担い手として期待される一方、会員数の減少や担い手不足等の課題が顕在化していることも指摘されていた。また、地方自治体による活動状況の把握や情報集約の不足も指摘されており、老人クラブの活動の「見える化」に向けた仕組みの検討が今後の重要な課題として挙げられていた。

【昨年度調査研究を通じてみえた課題】

老人クラブは、会員本位の主体的かつ民主的な運営をしている高齢者の自主組織ではあるが、高齢者福祉の向上のみならず、自治体や地域関係者と連携して地域づくり等にも広く貢献している貴重な存在である。

しかし、自治体が把握する老人クラブ活動に関する情報は、補助金申請業務内の実績報告書が中心となっており、老人クラブとのコミュニケーションや連携により具体的な活動の実態や成果を把握している自治体は乏しいと推測される。また、地域において老人クラブが高齢者福祉向上に重要であると認識しつつも、老人クラブが直面する課題を把握し、その後方支援の在り方について検討するための情報が集約されていない状況があると推測される。

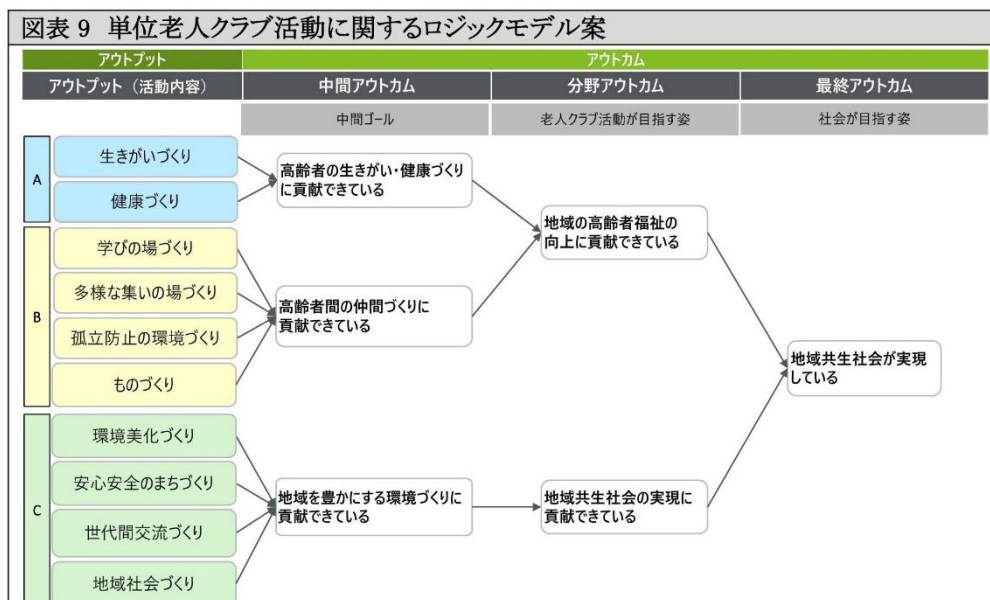
そのため、老人クラブが地域の社会資源の一つとして認知され、社会的役割を十分に果たすことができるよう、自治体が積極的に老人クラブとの接点機会を増やす等により、地域における老人クラブ活動の具体的な内容や効果を把握し「見える化」していくことが重要である。

したがって、今後は、老人クラブ活動の「見える化」を推進していくために、現状の実態を考慮した仕組みの検討が必要である。

出典：有限責任監査法人トーマツ「令和５年度老人保健健康増進等事業 老人クラブにおける効果的な活動促進に関する調査研究事業 調査研究報告書」

こうした課題を踏まえ、老人クラブ活動の「見える化」に向けた手法として、現状や課題の可視化・施策の検討及び評価のためのロジックモデル（原因と結果の因果関係の考え方について、論理構造をモデル化したもの）の検討が行われ、以下のようなロジックモデル案が作成されていた。

【単位老人クラブ活動に関するロジックモデル案】



出典：有限責任監査法人トーマツ「令和5年度老人保健健康増進等事業 老人クラブにおける効果的な活動促進に関する調査研究事業 調査研究報告書」

（3）本調査研究事業の目的と事業を通じて作成する成果物

本調査研究事業は、昨年度事業にて提示された課題や成果物等を踏まえ、以下を目的として各種調査・検討を行った。

【本調査研究事業の目的】

- （1）昨年度調査研究事業を通じて検討された老人クラブの活動実態や課題、ロジックモデル案等に基づき、「活動の見える化」（活動の適切な振り返り、活動の意義に関する情報発信・理解促進等の取組）や、地域共生社会の実現に向けた、活動の企画・運営・振り返り等を効果的に行っていくための仕組みの全体像、振り返りに使用するシート等の構成・内容等について検討する。
- （2）老人クラブの今後の活動継続・発展に向けた関係者及び地域住民の理解促進のため、地方自治体と老人クラブとのコミュニケーションに関する現状と課題等について調査を行い、そこから得られた今後の取組のヒントを整理する。

3. アンケート調査結果

(1) アンケート調査の実施概要

① 調査目的

全国の地方自治体（市区町村）における老人クラブとのコミュニケーションや活動支援、老人クラブの活動内容の把握等に関する現状や課題等を把握すること、また市区町村老人クラブ連合会における、自分たちの地域の老人クラブの活動に対する意識について把握することを目的に、アンケート調査を実施した。

② 調査対象者

ア) 地方自治体（市区町村）向け調査

全国の市区町村（1,741 自治体）の高齢者福祉事業担当者を対象に、アンケートへの回答を依頼した。

イ) 市区町村老人クラブ連合会向け調査

全国の市区町村の老人クラブ連合会を対象に、アンケートへの回答を依頼した。なお、政令指定都市の場合は各区の老人クラブ連合会も対象としている。

③ 調査実施期間

調査実施期間は、2025 年（令和 7 年）2 月 7 日～2 月 28 日とした（調査画面上での回答受付期間）。

④ 調査方法

ア) 地方自治体（市区町村）向け調査

厚生労働省より、全国の市区町村（1,741 自治体）の高齢者福祉担当者を対象に、アンケートへの回答依頼に関する E メールを送信し、Web 上の回答画面に誘導する形式で実施した。

イ) 市区町村老人クラブ連合会向け調査

全国の市区町村の高齢者福祉担当者宛に、調査依頼に関する資料一式を送付し、各市区町村の老人クラブ連合会への転送を依頼する形で配布した。なお、回答については Web 上の回答画面に誘導し、そちらでの回答を求める形で実施した。

⑤ 配布・回収状況

今回実施したアンケート調査の配布・回収状況は以下のとおりである。

調査種別	送付件数	回答件数	回収率 ※
市区町村向け調査	1,741 件	643 件	36.1%
市区町村老人クラブ連合会向け調査	1,901 件	764 件	40.2%

※ 回収率は、回答件数を送付件数で割った割合。

⑥ 集計結果の表示方法

回答結果の見方については、以下のとおりである。

- 図（グラフ）の中で使用されている「n=」は、その設問に対する回答者数を示す。
- 設問の中には単一回答の質問（選択肢の中から1つ回答を選ぶ質問）、複数回答の質問（選択肢の中から該当するものを複数選択する質問）、数値を回答する質問がある。
- 回答の比率は、その設問の回答者数を基数（件数）として算出している。したがって、複数回答の設問の場合、すべての比率を合計すると100%を超える場合がある。
- 回答の比率は選択肢ごとに小数点第2位で四捨五入しているため、その割合の合計が100.0%にならない場合がある。
- 数値回答の質問は、集計単位をカテゴリー化して回答を集計している。

(2) 調査結果（市区町村向け調査）

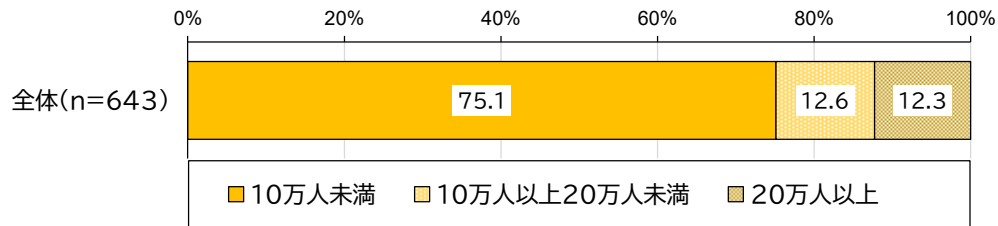
① 自治体や老人クラブ等に関する基礎情報

まず、自治体や老人クラブ等に関する基礎情報を尋ねた。

回答があった市区町村の総人口（2024/10/1 時点）は、「10 万人未満」が 75.1%と最も多く、次いで「10 万人以上 20 万人未満」が 12.6%。

【市区町村向け Q1_1_1】 総人口（2024/10/1 時点）

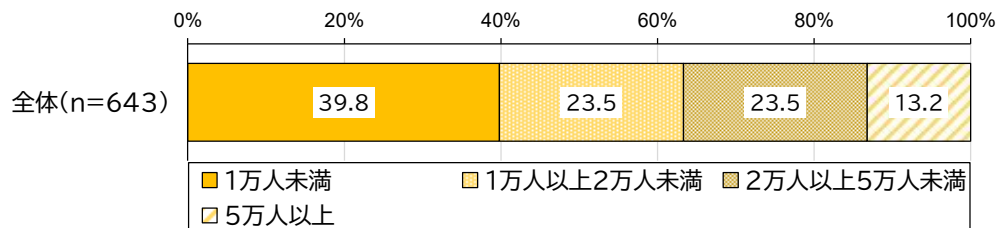
図表 3－2－1 総人口（2024/10/1 時点）



回答があった市区町村の高齢者人口（2024/10/1 時点）は、「1 万人未満」が 39.8%と最も多く、次いで「1 万人以上 2 万人未満」「2 万人以上 5 万人未満」が 23.5%。

【市区町村向け Q1_1_2】 高齢者人口（2024/10/1 時点）

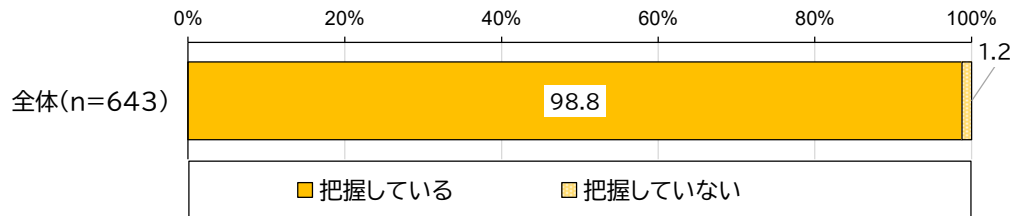
図表 3－2－2 高齢者人口（2024/10/1 時点）



回答があった市区町村は、地域内の単位老人クラブ数を「把握している」が 98.8%、「把握していない」が 1.2%。

【市区町村向け Q1_2_1】 地域内の単位老人クラブ数の把握

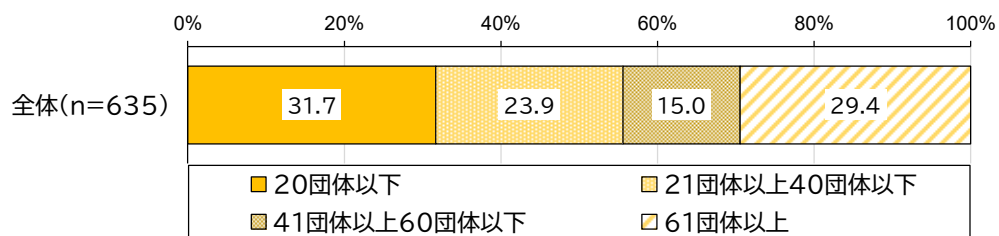
図表 3-2-3 地域内の単位老人クラブ数の把握状況（2024/10/1 時点）



回答があった市区町村の単位老人クラブの数（2024/10/1 時点）は、「20 団体以下」が 31.7%と最も多く、次いで「61 団体以上」が 29.4%。

【市区町村向け Q1_2_1】 単位老人クラブの数（2024/10/1 時点）

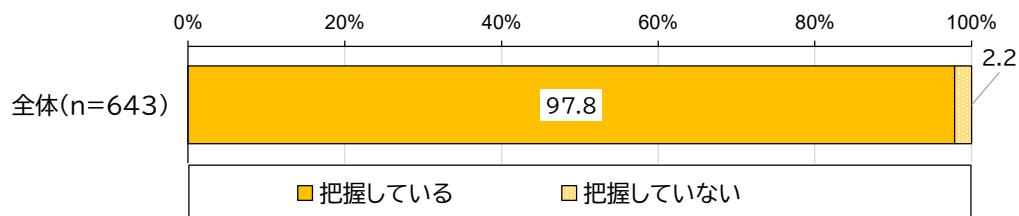
図表 3-2-4 地域内の単位老人クラブの数（2024/10/1 時点）



回答があった市区町村は、地域内の単位老人クラブの会員数を「把握している」が 97.8%、「把握していない」が 2.2%。

【市区町村向け Q1_2_2】 地域内の単位老人クラブの会員数の把握

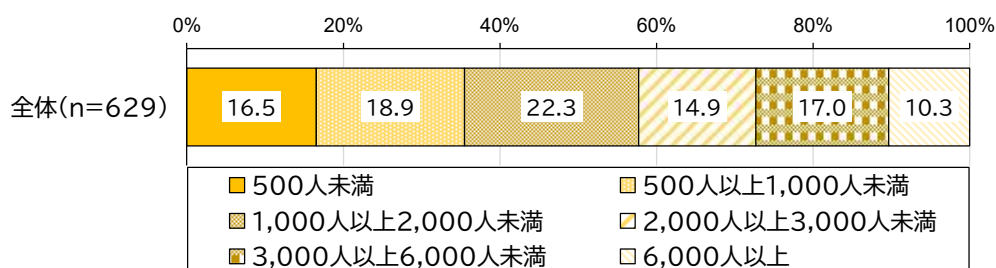
図表 3-2-5 地域内の単位老人クラブの会員数の把握状況



回答があった市区町村の全単位老人クラブの会員数合計（2024/10/1 時点）は、「1,000 人以上 2,000 人未満」が 22.3%と最も多く、次いで「500 人以上 1,000 人未満」が 18.9%。

【市区町村向け Q1_2_2】 地域内の全単位老人クラブの会員数合計（2024/10/1 時点）

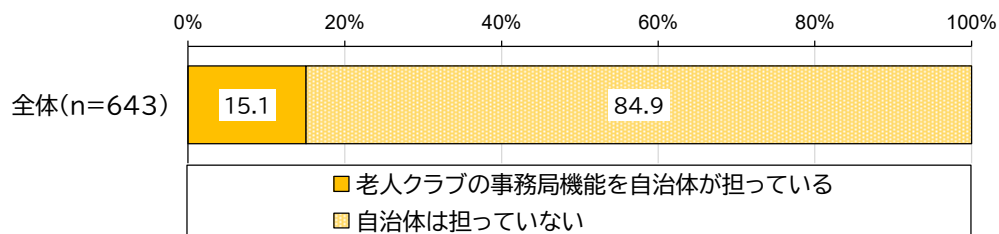
図表 3-2-6 地域内の全単位老人クラブの会員数合計（2024/10/1 時点）



自治体における老人クラブ事務局機能の有無は、「自治体は担っていない」が 84.9%と最も多く、次いで「老人クラブの事務局機能を自治体が担っている」が 15.1%。

【市区町村向け Q1_3】 （自治体における）老人クラブ事務局機能の有無

図表 3-2-7 自治体における老人クラブ事務局機能の有無



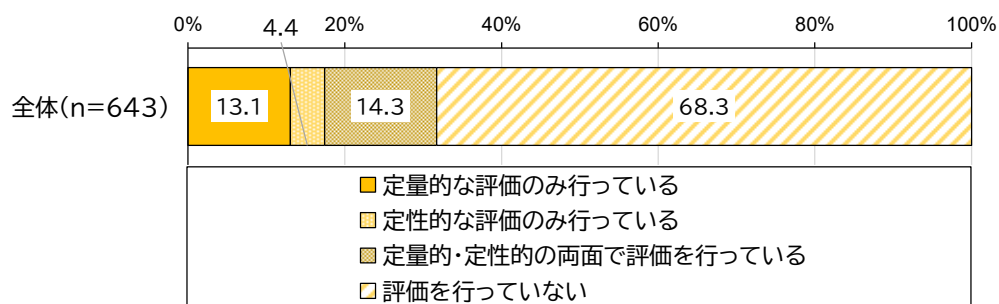
② 老人クラブの活動の評価等の実施状況

【老人クラブの活動への評価に伴う振り返りやフィードバックの実施状況】

自治体において老人クラブの活動に対する評価を行っているかを尋ねたところ、「評価を行っていない」が68.3%と最も多く、次いで「定量的・定性的の両面で評価を行っている」が14.3%。

【市区町村向け Q2】 貴自治体では、老人クラブ（単位老人クラブのこと、以下同様）の活動に対して評価を行っていますか。

図表 3-2-8 老人クラブの活動に対する評価の有無



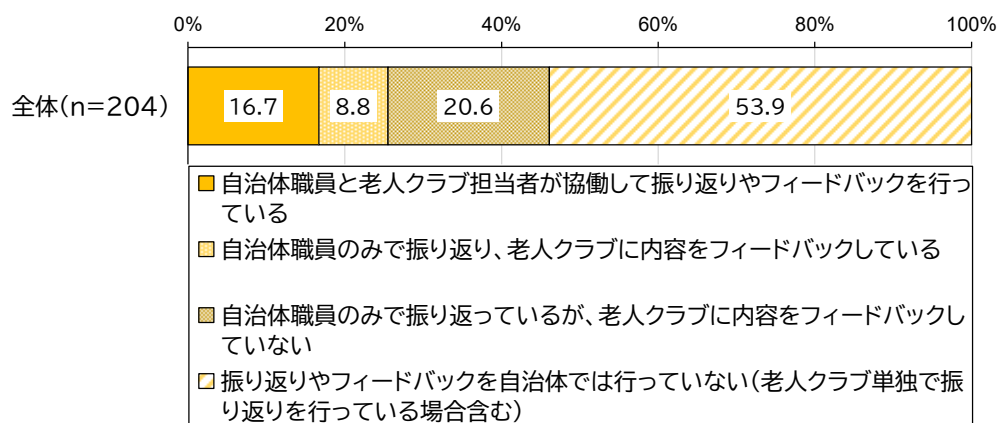
【老人クラブの活動への評価に伴う振り返りやフィードバックの実施状況】

老人クラブの活動に対する評価を行っている市区町村に対して、評価の前後に振り返りやフィードバックを行っているか、項目別に尋ねた。

「老人クラブの活動目標の妥当性」については、「振り返りやフィードバックを自治体では行っていない（老人クラブ単独で振り返りを行っている場合含む）」が 53.9%と最も多く、次いで「自治体職員のみで振り返っているが、老人クラブに内容をフィードバックしていない」が 20.6%。

【市区町村向け Q3_1】 貴自治体では、老人クラブの活動に対する評価の前後に、次のようなことについて振り返りやフィードバックを行っていますか。／老人クラブの活動目標の妥当性

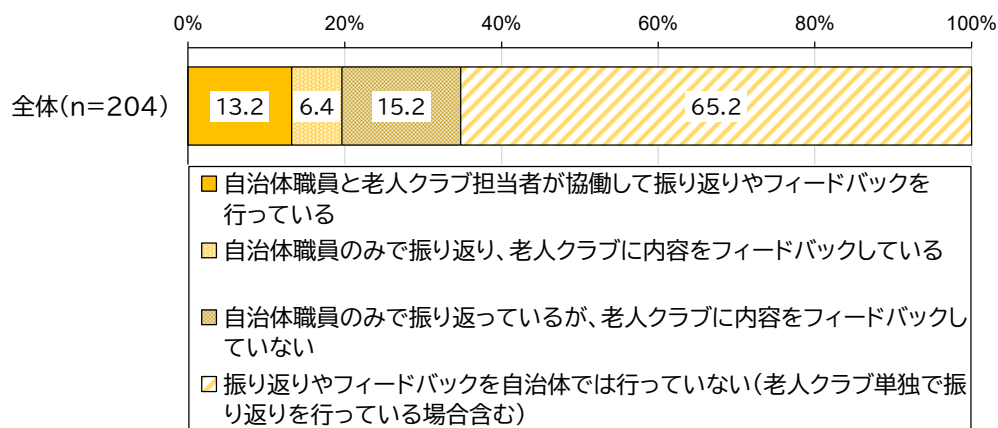
図表 3-2-9 振り返りやフィードバックの有無／老人クラブの活動目標の妥当性



「老人クラブの活動目標の設定方法」については、「振り返りやフィードバックを自治体では行っていない（老人クラブ単独で振り返りを行っている場合含む）」が 65.2%と最も多く、次いで「自治体職員のみで振り返っているが、老人クラブに内容をフィードバックしていない」が 15.2%。

【市区町村向け Q3_2】 貴自治体では、老人クラブの活動に対する評価の前後に、次のようなことについて振り返りやフィードバックを行っていますか。／老人クラブの活動目標の設定方法

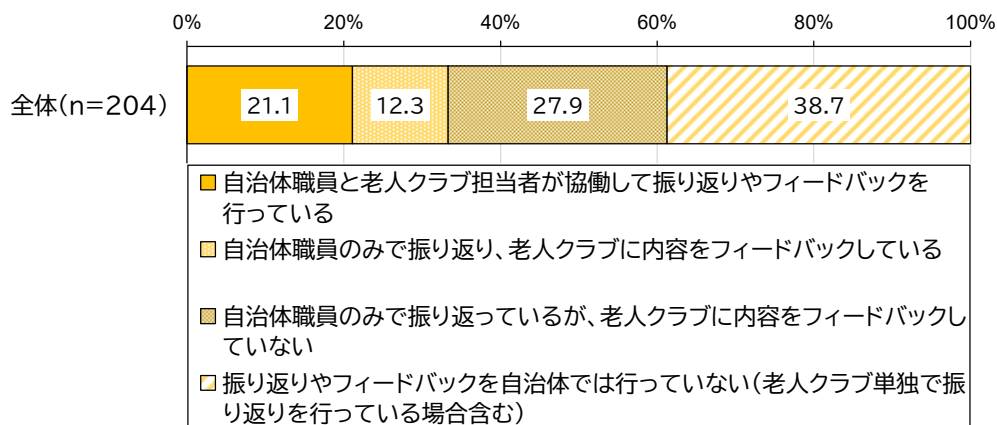
図表 3-2-10 振り返りやフィードバックの有無／老人クラブの活動目標の設定方法



「老人クラブの活動計画の妥当性」については、「振り返りやフィードバックを自治体では行っていない（老人クラブ単独で振り返りを行っている場合含む）」が 38.7%と最も多く、次いで「自治体職員のみで振り返っているが、老人クラブに内容をフィードバックしていない」が 27.9%。

【市区町村向け Q3_3】 貴自治体では、老人クラブの活動に対する評価の前後に、次のようなことについて振り返りやフィードバックを行っていますか。／老人クラブの活動計画の妥当性

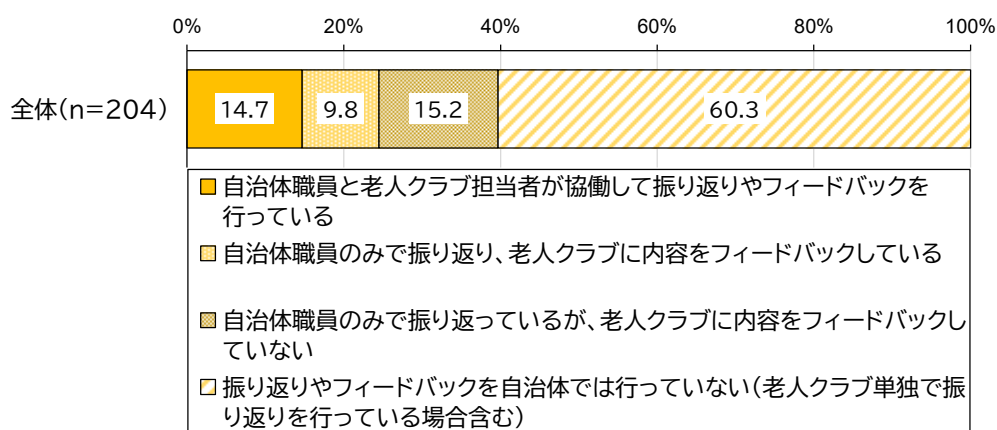
図表 3-2-11 振り返りやフィードバックの有無／老人クラブの活動計画の妥当性



「老人クラブの活動計画の作成方法」については、「振り返りやフィードバックを自治体では行っていない（老人クラブ単独で振り返りを行っている場合含む）」が 60.3%と最も多く、次いで「自治体職員のみで振り返っているが、老人クラブに内容をフィードバックしていない」が 15.2%。

【市区町村向け Q3_4】 貴自治体では、老人クラブの活動に対する評価の前後に、次のようなことについて振り返りやフィードバックを行っていますか。／老人クラブの活動計画の作成方法

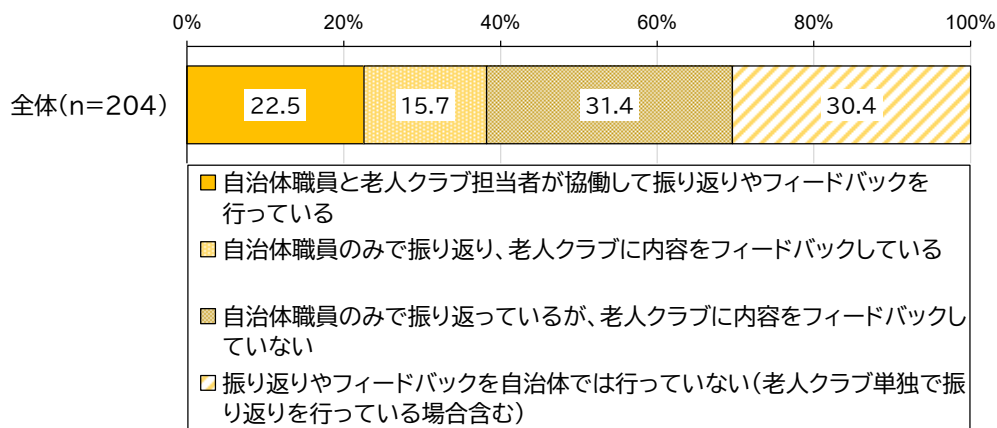
図表 3-2-12 振り返りやフィードバックの有無／老人クラブの活動計画の作成方法



「老人クラブの活動の実施内容の妥当性」については、「自治体職員のみで振り返っているが、老人クラブに内容をフィードバックしていない」が31.4%と最も多く、次いで「振り返りやフィードバックを自治体では行っていない（老人クラブ単独で振り返りを行っている場合含む）」が30.4%。

【市区町村向け Q3_5】 貴自治体では、老人クラブの活動に対する評価の前後に、次のようなことについて振り返りやフィードバックを行っていますか。／老人クラブの活動の実施内容の妥当性

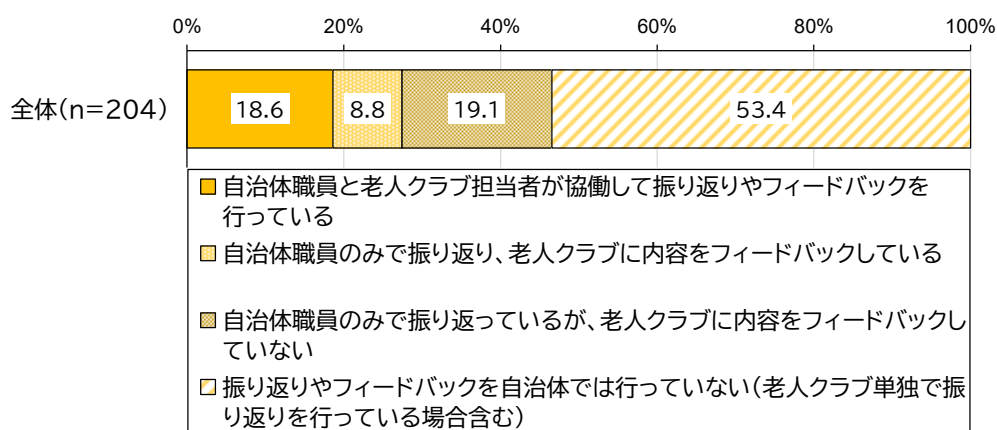
図表 3-2-13 振り返りやフィードバックの有無／老人クラブの活動の実施内容の妥当性



「老人クラブの活動の実施方法」については、「振り返りやフィードバックを自治体では行っていない（老人クラブ単独で振り返りを行っている場合含む）」が53.4%と最も多く、次いで「自治体職員のみで振り返っているが、老人クラブに内容をフィードバックしていない」が19.1%。

【市区町村向け Q3_6】 貴自治体では、老人クラブの活動に対する評価の前後に、次のようなことについて振り返りやフィードバックを行っていますか。／老人クラブの活動の実施方法

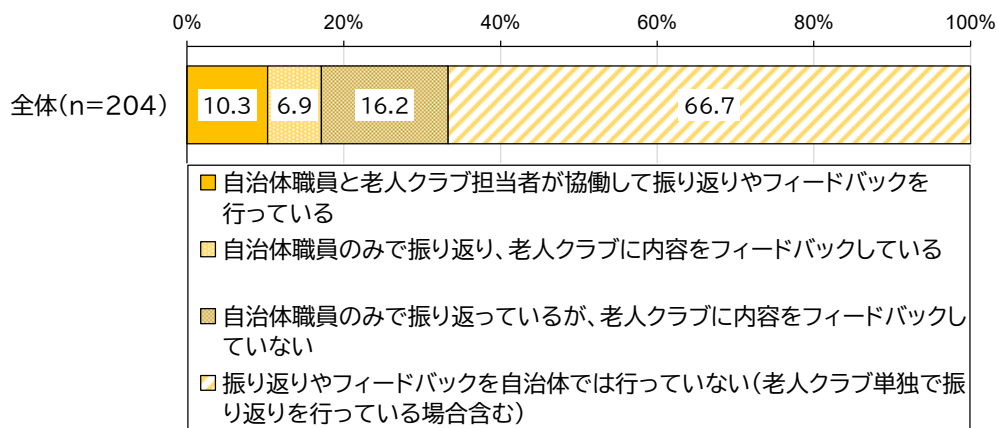
図表 3-2-14 振り返りやフィードバックの有無／老人クラブの活動の実施方法



「老人クラブの活動効果測定の測定項目の妥当性」については、「振り返りやフィードバックを自治体では行っていない（老人クラブ単独で振り返りを行っている場合含む）」が 66.7%と最も多く、次いで「自治体職員のみで振り返っているが、老人クラブに内容をフィードバックしていない」が 16.2%。

【市区町村向け Q3_7】 貴自治体では、老人クラブの活動に対する評価の前後に、次のようなことについて振り返りやフィードバックを行っていますか。／老人クラブの活動効果測定の測定項目の妥当性

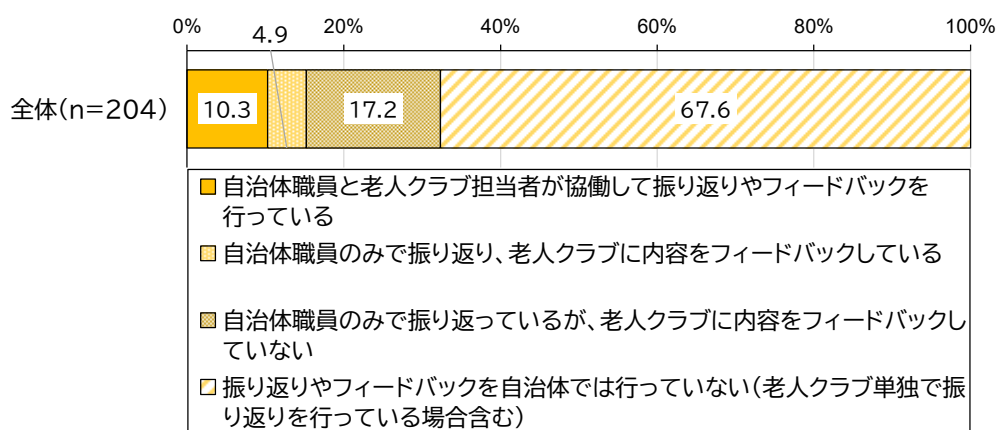
図表 3-2-15 振り返りやフィードバックの有無／老人クラブの活動効果測定の測定項目の妥当性



「老人クラブの活動効果測定の方法」については、「振り返りやフィードバックを自治体では行っていない（老人クラブ単独で振り返りを行っている場合含む）」が 67.6%と最も多く、次いで「自治体職員のみで振り返っているが、老人クラブに内容をフィードバックしていない」が 17.2%。

【市区町村向け Q3_8】 貴自治体では、老人クラブの活動に対する評価の前後に、次のようなことについて振り返りやフィードバックを行っていますか。／老人クラブの活動効果測定の方法

図表 3-2-16 振り返りやフィードバックの有無／老人クラブの活動効果測定の方法



評価前後の振り返りやフィードバックの有無に関する回答についてすべての項目を比較すると、特に「老人クラブの活動計画の妥当性」や「老人クラブの活動の実施内容の妥当性」において、自治体職員が振り返りやフィードバックに関与している旨の回答が多い。

【市区町村向け Q3】 貴自治体では、老人クラブの活動に対する評価の前後に、次のようなことについて振り返りやフィードバックを行っていますか。

図表 3-2-17 振り返りやフィードバックの有無

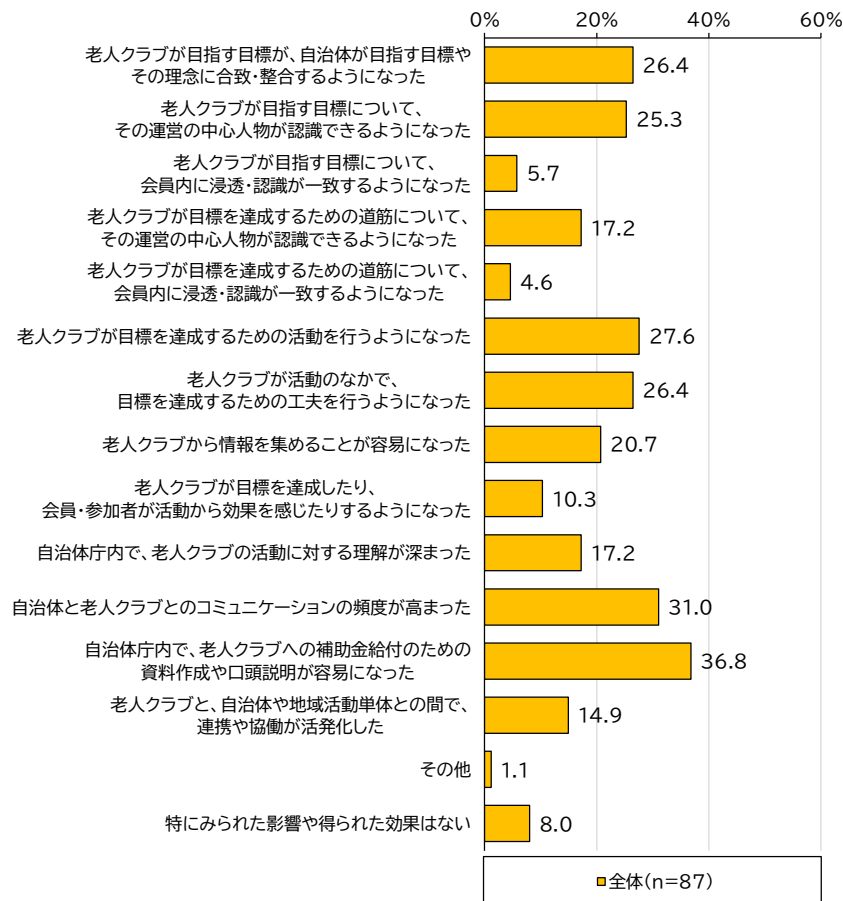
	N値	1 自治体職員 と老人クラブ 担当者が協 働して振り返 りやフィード バックを行っ ている	2 自治体職員 のみで振り返 り、老人ク ラブに内容 をフィード バックしてい る	3 自治体職員 のみで振り返 っている が、老人ク ラブに内容を フィードバッ クしていない	4 振り返りや フィードバッ クを自治体で は行ってい ない(老人ク ラブ単独で 振り返りを行 っている 場合含む)
老人クラブの活動目標の妥当性	204	16.7	8.8	20.6	53.9
老人クラブの活動目標の設定方法	204	13.2	6.4	15.2	65.2
老人クラブの活動計画の妥当性	204	21.1	12.3	27.9	38.7
老人クラブの活動計画の作成方法	204	14.7	9.8	15.2	60.3
老人クラブの活動の実施内容の妥当性	204	22.5	15.7	31.4	30.4
老人クラブの活動の実施方法	204	18.6	8.8	19.1	53.4
老人クラブの活動効果測定の測定項目の妥当性	204	10.3	6.9	16.2	66.7
老人クラブの活動効果測定の方法	204	10.3	4.9	17.2	67.6

【振り返りやフィードバックによる影響や効果】

老人クラブの活動に対する評価を行っている市区町村に対して、振り返りやフィードバックによる影響や効果について項目別に尋ねたところ、「自治体庁内で、老人クラブへの補助金給付のための資料作成や口頭説明が容易になった」が36.8%と最も多く、次いで「自治体と老人クラブとのコミュニケーションの頻度が高まった」が31.0%。

【市区町村向け Q4】 振り返りやフィードバックを行った結果、みられた影響や得られた効果があれば、教えてください。

図表 3-2-18 振り返りやフィードバックによる影響や効果

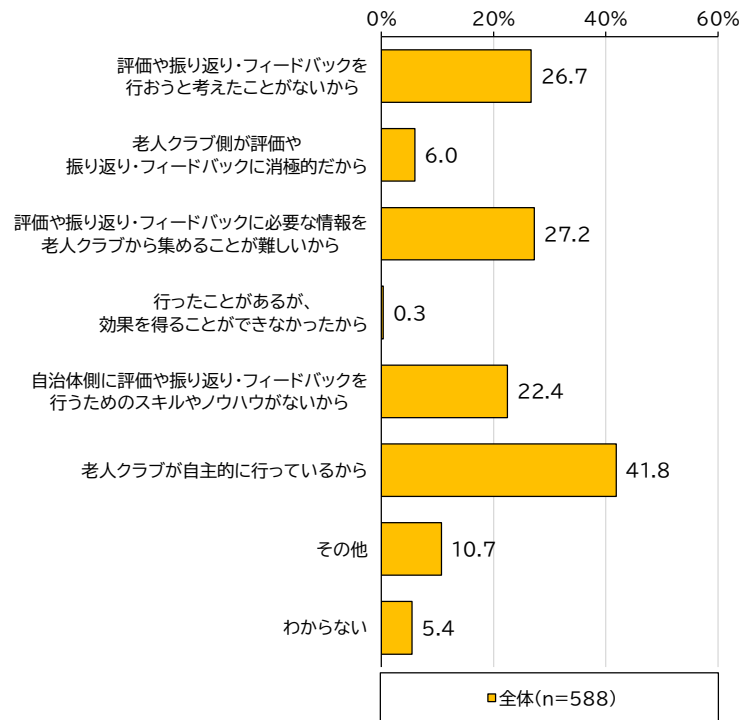


【評価や振り返り・フィードバックを行っていない理由】

評価や振り返り・フィードバックを行っていない市区町村と、一部項目について振り返りやフィードバックを行っていない市区町村に対して、その理由を尋ねたところ、「老人クラブが自主的に行っているから」が41.8%と最も多く、次いで「評価や振り返り・フィードバックに必要な情報を老人クラブから集めることが難しいから」が27.2%。

【市区町村向け Q5】 評価や振り返り・フィードバックを行っていない項目について、その理由を教えてください。

図表 3-2-19 評価や振り返り・フィードバックを行っていない理由



③ 老人クラブの活動に関する情報収集の状況

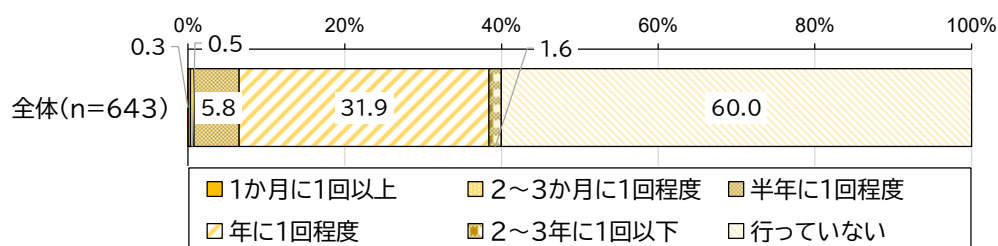
【老人クラブの活動に関する情報収集の手段と頻度】

各市区町村の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集の手段と頻度について、項目別に尋ねた。

「貴自治体で用意した様式（選択肢から選ぶもの・数字記入するもの。アンケート調査含む）」については、「行っていない」が60.0%と最も多く、次いで「年に1回程度」が31.9%。

【市区町村向け Q6_1_1】 貴自治体の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集について教えてください。／①手段と頻度／貴自治体で用意した様式（選択肢から選ぶもの・数字記入するもの。アンケート調査含む）

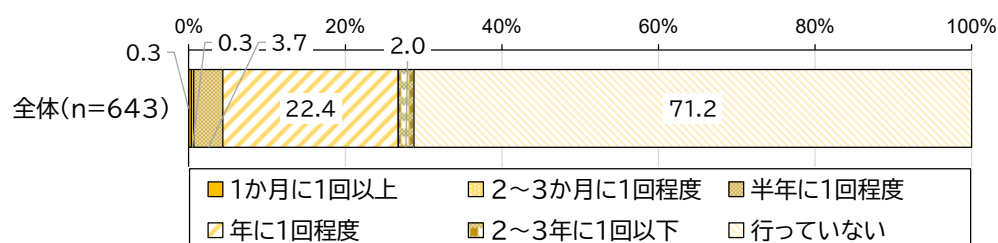
図表 3-2-20 手段と頻度／自治体で用意した様式
(選択肢から選ぶもの・数字記入するもの。アンケート調査含む)



「貴自治体で用意した様式（自由記述式のもの。アンケート調査含む）」については、「行っていない」が71.2%と最も多く、次いで「年に1回程度」が22.4%。

【市区町村向け Q6_1_2】 貴自治体の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集について教えてください。／①手段と頻度／貴自治体で用意した様式（自由記述式のもの。アンケート調査含む）

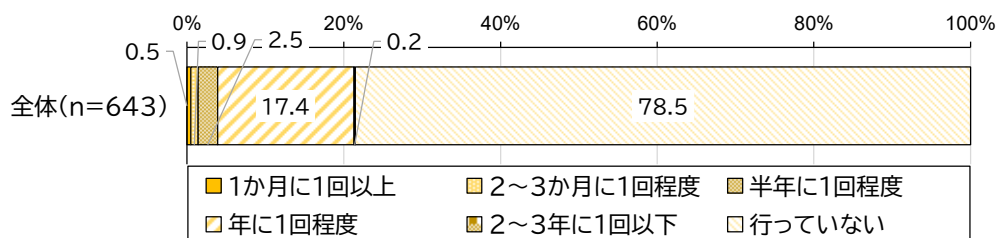
図表 3-2-21 手段と頻度／自治体で用意した様式（自由記述式のもの。アンケート調査含む）



「様式自由の書類」については、「行っていない」が78.5%と最も多く、次いで「年に1回程度」が17.4%。

【市区町村向け Q6_1_3】 貴自治体の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集について教えてください。／①手段と頻度／様式自由の書類

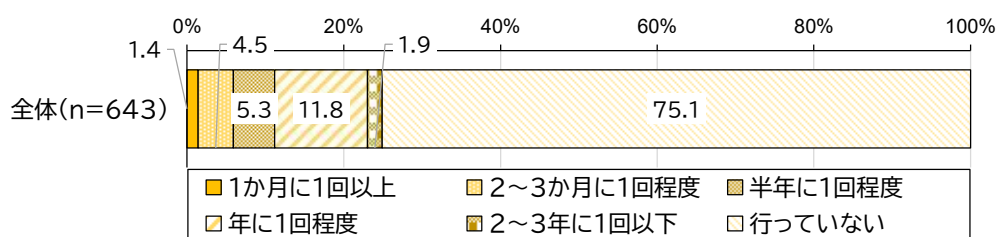
図表 3-2-22 手段と頻度／様式自由の書類



「自治体職員によるヒアリングやインタビュー」については、「行っていない」が75.1%と最も多く、次いで「年に1回程度」が11.8%。

【市区町村向け Q6_1_4】 貴自治体の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集について教えてください。／①手段と頻度／自治体職員によるヒアリングやインタビュー

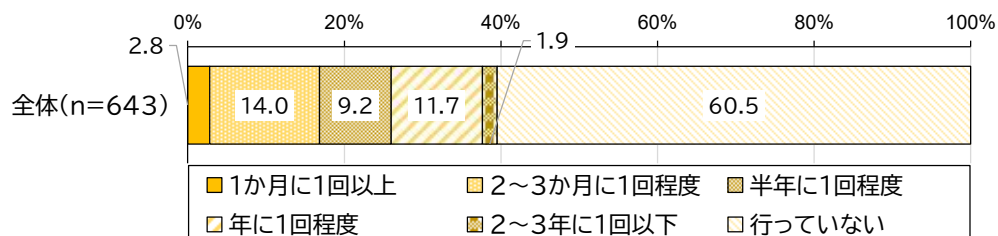
図表 3-2-23 手段と頻度／自治体職員によるヒアリングやインタビュー



「自治体職員による老人クラブ活動現場への訪問・見学や活動参加など」については、「行っていない」が60.5%と最も多く、次いで「2～3か月に1回程度」が14.0%。

【市区町村向け Q6_1_5】 貴自治体の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集について教えてください。／①手段と頻度／自治体職員による老人クラブ活動現場への訪問・見学や活動参加など

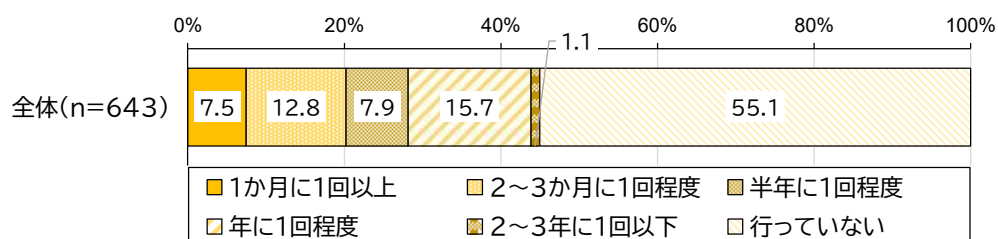
図表 3-2-24 手段と頻度／自治体職員による老人クラブ活動現場への訪問・見学や活動参加など



「自治体職員による対話・意見交換・打ち合わせ等（対面・Web 会議・電話など全て含む）」については、「行っていない」が55.1%と最も多く、次いで「年に1回程度」が15.7%。

【市区町村向け Q6_1_6】 貴自治体の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集について教えてください。／①手段と頻度／自治体職員による対話・意見交換・打ち合わせ等（対面・Web 会議・電話など全て含む）

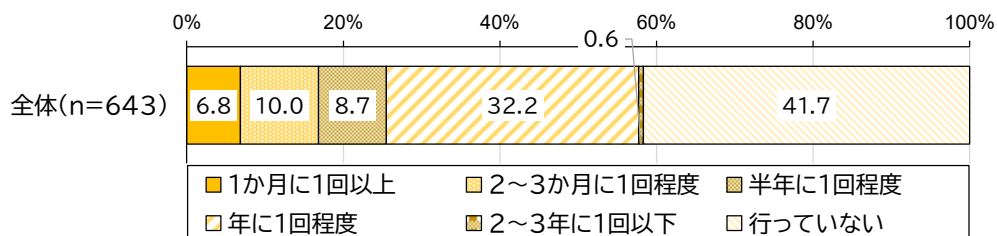
図表 3-2-25 手段と頻度／自治体職員による対話・意見交換・打ち合わせ等（対面・Web 会議・電話など全て含む）



「老人クラブ連合会による情報収集の結果報告（間接的な情報収集）」については、「行っていない」が41.7%と最も多く、次いで「年に1回程度」が32.2%。

【市区町村向け Q6_1_7】 貴自治体の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集について教えてください。／①手段と頻度／老人クラブ連合会による情報収集の結果報告（間接的な情報収集）

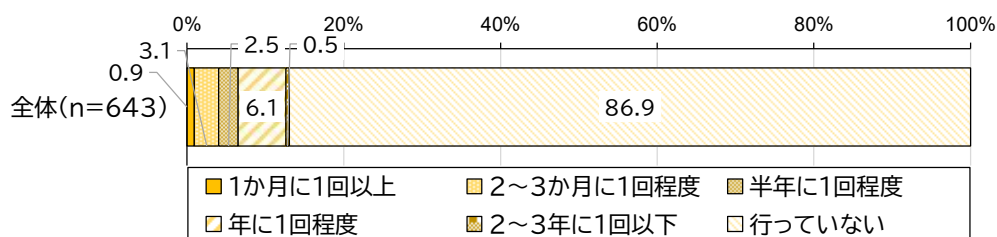
図表 3-2-26 手段と頻度／老人クラブ連合会による情報収集の結果報告（間接的な情報収集）



「中間支援者（老人クラブ連合会を除く）や外部委託先による情報収集の結果報告（間接的な情報収集）」については、「行っていない」が86.9%と最も多く、次いで「年に1回程度」が6.1%。

【市区町村向け Q6_1_8】 貴自治体の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集について教えてください。／①手段と頻度／中間支援者（老人クラブ連合会を除く）や外部委託先による情報収集の結果報告（間接的な情報収集）

図表 3-2-27 手段と頻度／中間支援者（老人クラブ連合会を除く）や外部委託先による情報収集の結果報告（間接的な情報収集）



情報収集の手段と頻度に関する回答についてすべての項目を比較すると、「貴自治体で用意した様式（選択肢から選ぶもの・数字記入するもの。アンケート調査含む）」や「老人クラブ連合会による情報収集の結果報告（間接的な情報収集）」といった手段は、「年に1回程度」の頻度で利用しているという回答が比較的多い（それぞれ、31.9%、32.2%）。

また、「1か月に1回以上」の頻度で利用されている手段として最も多いのは「自治体職員による対話・意見交換・打ち合わせ等（対面・Web会議・電話など全て含む）」であった（7.5%）。

【市区町村向け Q6_1】 貴自治体の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集について教えてください。／①手段と頻度

図表 3-2-28 手段と頻度

	N値	1 1か月に1回以上	2 2～3か月に1回程度	3 半年に1回程度	4 年に1回程度	5 2～3年に1回以下	6 行っていない
貴自治体で用意した様式(選択肢から選ぶもの・数字記入するもの。アンケート調査含む)	643	0.3	0.5	5.8	31.9	1.6	60.0
貴自治体で用意した様式(自由記述式のもの。アンケート調査含む)	643	0.3	0.3	3.7	22.4	2.0	71.2
様式自由の書類	643	0.5	0.9	2.5	17.4	0.2	78.5
自治体職員によるヒアリングやインタビュー	643	1.4	4.5	5.3	11.8	1.9	75.1
自治体職員による老人クラブ活動現場への訪問・見学や活動参加など	643	2.8	14.0	9.2	11.7	1.9	60.5
自治体職員による対話・意見交換・打ち合わせ等(対面・Web会議・電話など全て含む)	643	7.5	12.8	7.9	15.7	1.1	55.1
老人クラブ連合会による情報収集の結果報告(間接的な情報収集)	643	6.8	10.0	8.7	32.2	0.6	41.7
中間支援者(老人クラブ連合会を除く)や外部委託先による情報収集の結果報告(間接的な情報収集)	643	0.9	3.1	2.5	6.1	0.5	86.9

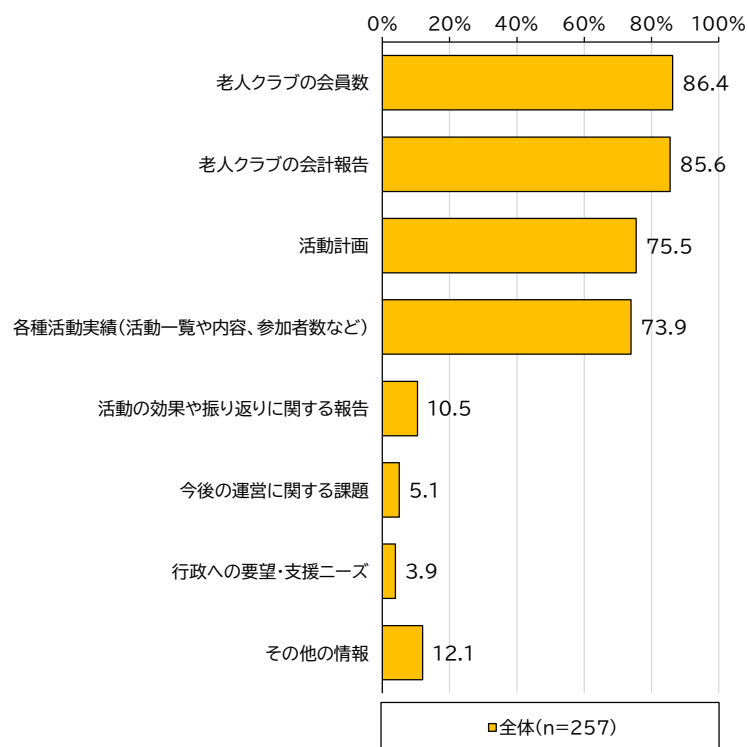
【老人クラブの活動に関する情報収集の手段と収集している情報の内容】

利用している情報収集手段を回答した市区町村に、その手段で収集している情報の内容について、項目別に尋ねた。

「貴自治体で用意した様式（選択肢から選ぶもの・数字記入するもの。アンケート調査含む）」で収集している情報は、「老人クラブの会員数」が86.4%と最も多く、次いで「老人クラブの会計報告」が85.6%。

【市区町村向け Q6_2_1】 貴自治体の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集について教えてください。／②手段と収集している情報の内容／貴自治体で用意した様式（選択肢から選ぶもの・数字記入するもの。アンケート調査含む）

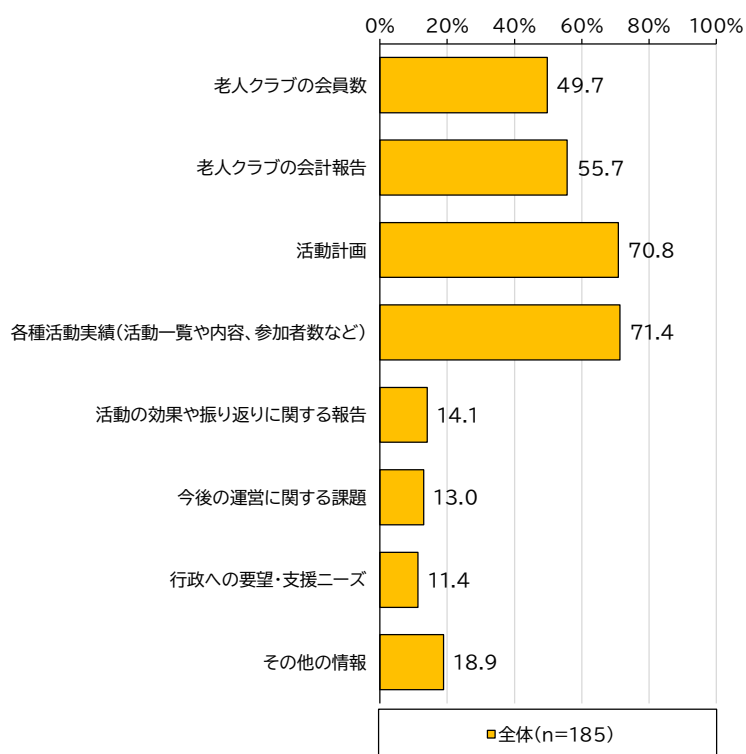
図表 3-2-29 手段と収集している情報の内容／貴自治体で用意した様式
（選択肢から選ぶもの・数字記入するもの。アンケート調査含む）



「貴自治体で用意した様式（自由記述式のもの。アンケート調査含む）」で収集している情報は、「各種活動実績（活動一覧や内容、参加者数など）」が71.4%と最も多く、次いで「活動計画」が70.8%。

【市区町村向け Q6_2_2】 貴自治体の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集について教えてください。／②手段と収集している情報の内容／貴自治体で用意した様式（自由記述式のもの。アンケート調査含む）

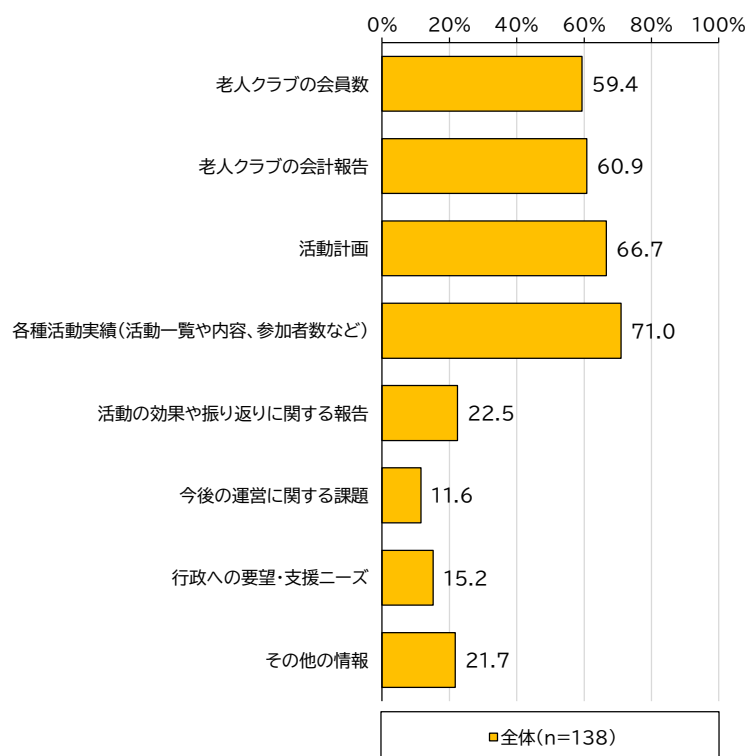
図表 3-2-30 手段と収集している情報の内容／貴自治体で用意した様式
（自由記述式のもの。アンケート調査含む）



「様式自由の書類」で収集している情報は、「各種活動実績（活動一覧や内容、参加者数など）」が71.0%と最も多く、次いで「活動計画」が66.7%。

【市区町村向け Q6_2_3】 貴自治体の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集について教えてください。／②手段と収集している情報の内容／様式自由の書類

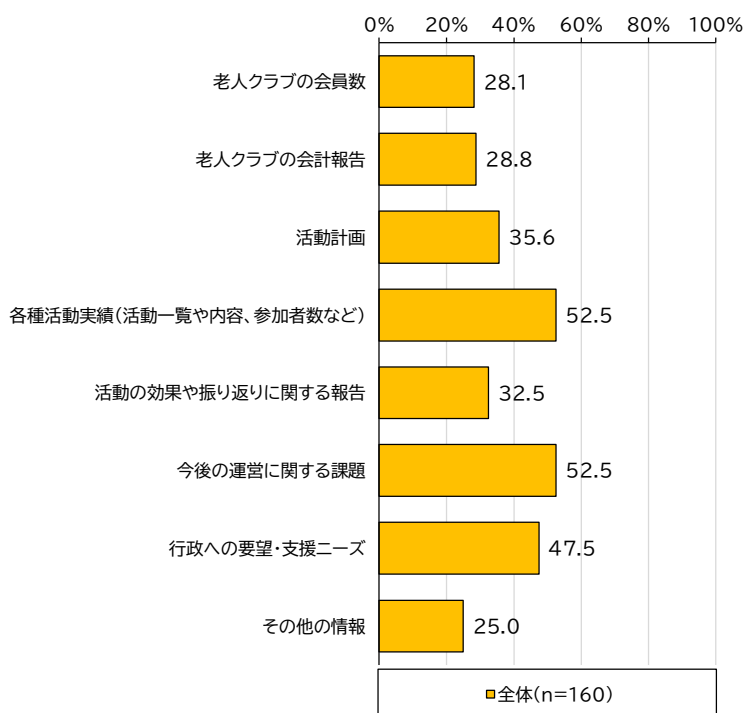
図表 3－2－31 手段と収集している情報の内容／様式自由の書類



「自治体職員によるヒアリングやインタビュー」で収集している情報は、「各種活動実績（活動一覧や内容、参加者数など）」「今後の運営に関する課題」が52.5%と最も多く、次いで「行政への要望・支援ニーズ」が47.5%。

【市区町村向け Q6_2_4】 貴自治体の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集について教えてください。／②手段と収集している情報の内容／自治体職員によるヒアリングやインタビュー

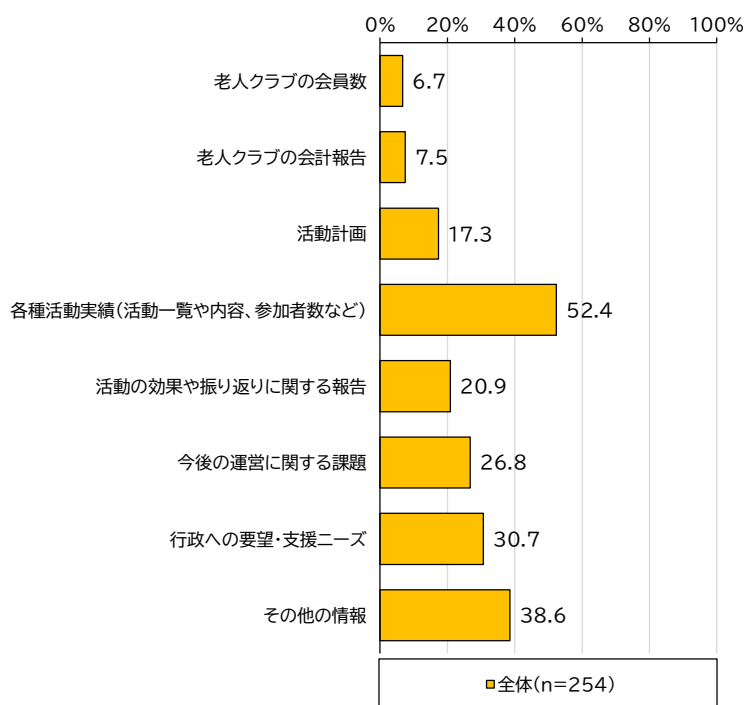
図表 3-2-32 手段と収集している情報の内容／自治体職員によるヒアリングやインタビュー



「自治体職員による老人クラブ活動現場への訪問・見学や活動参加など」で収集している情報は、「各種活動実績（活動一覧や内容、参加者数など）」が52.4%と最も多く、次いで「その他の情報」が38.6%。

【市区町村向け Q6_2_5】 貴自治体の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集について教えてください。／②手段と収集している情報の内容／自治体職員による老人クラブ活動現場への訪問・見学や活動参加など

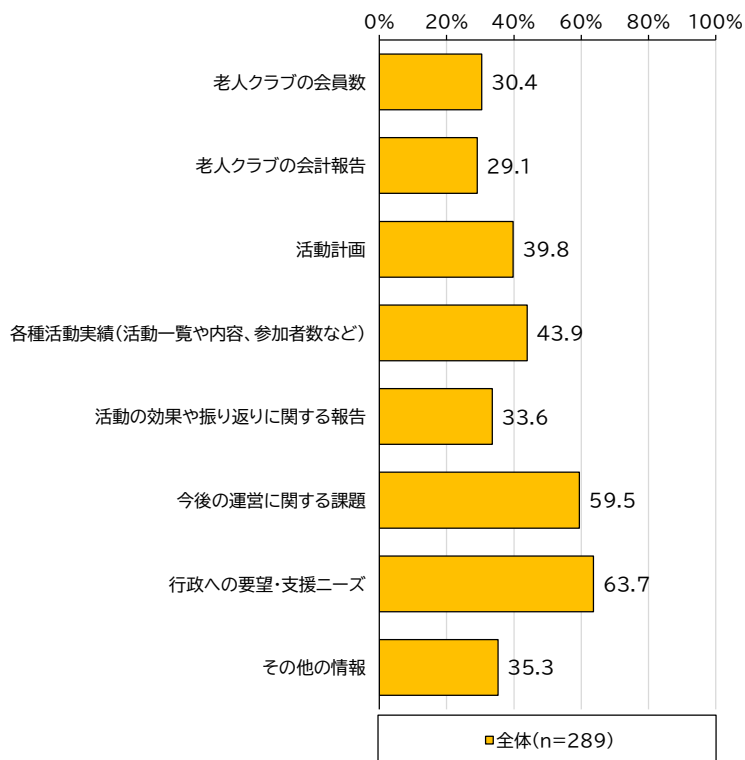
図表 3-2-33 手段と収集している情報の内容／自治体職員による老人クラブ活動現場への訪問・見学や活動参加など



「自治体職員による対話・意見交換・打ち合わせ等（対面・Web 会議・電話など全て含む）」で収集している情報は、「行政への要望・支援ニーズ」が 63.7%と最も多く、次いで「今後の運営に関する課題」が 59.5%。

【市区町村向け Q6_2_6】 貴自治体の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集について教えてください。／②手段と収集している情報の内容／自治体職員による対話・意見交換・打ち合わせ等（対面・Web 会議・電話など全て含む）

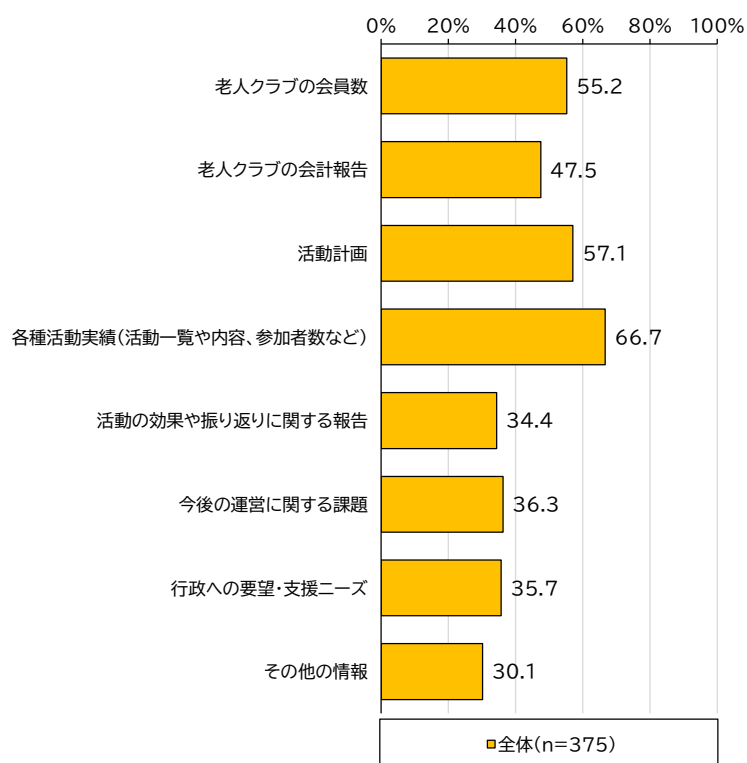
図表 3-2-34 手段と収集している情報の内容／自治体職員による対話・意見交換・打ち合わせ等（対面・Web 会議・電話など全て含む）



「老人クラブ連合会による情報収集の結果報告（間接的な情報収集）」で収集している情報は、「各種活動実績（活動一覧や内容、参加者数など）」が66.7%と最も多く、次いで「活動計画」が57.1%。

【市区町村向け Q6_2_7】 貴自治体の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集について教えてください。／②手段と収集している情報の内容／老人クラブ連合会による情報収集の結果報告（間接的な情報収集）

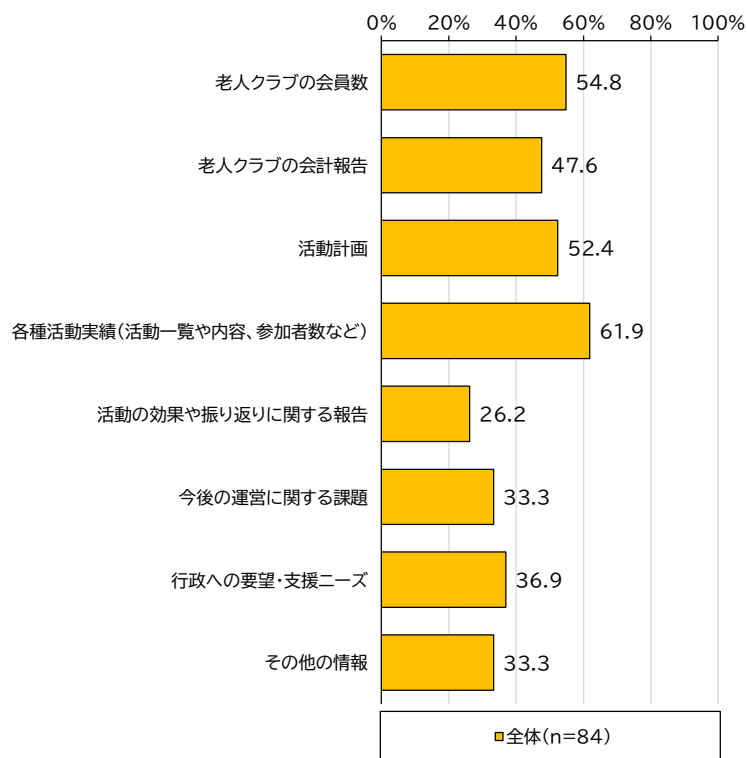
図表 3-2-35 手段と収集している情報の内容／老人クラブ連合会による
情報収集の結果報告（間接的な情報収集）



「中間支援者（老人クラブ連合会を除く）や外部委託先による情報収集の結果報告（間接的な情報収集）」で収集している情報は、「各種活動実績（活動一覧や内容、参加者数など）」が61.9%と最も多く、次いで「老人クラブの会員数」が54.8%。

【市区町村向け Q6_2_8】 貴自治体の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集について教えてください。／②手段と収集している情報の内容／中間支援者（老人クラブ連合会を除く）や外部委託先による情報収集の結果報告（間接的な情報収集）

図表 3-2-36 手段と収集している情報の内容／中間支援者（老人クラブ連合会を除く）や外部委託先による情報収集の結果報告（間接的な情報収集）



情報収集の手段と収集している情報の内容に関する回答についてすべての項目を比較すると、「貴自治体で用意した様式（選択肢から選ぶもの・数字記入するもの。アンケート調査含む）」は、「老人クラブの会員数」や「老人クラブの会計報告」、「活動計画」、「各種活動実績（活動一覧や内容、参加者数など）」といった情報を収集するために用いられているが、「活動の効果や振り返りに関する報告」を収集するための手段としては他と比べて最も回答割合が低い。

「活動の効果や振り返りに関する報告」を収集するための手段としては、「老人クラブ連合会による情報収集の結果報告（間接的な情報収集）」が 34.4%と最も多く使われ、次いで「自治体職員による対話・意見交換・打ち合わせ等（対面・Web 会議・電話など全て含む）」が 33.6%、「自治体職員によるヒアリングやインタビュー」が 32.5%と比較的多く使われている。

なお、「活動の効果や振り返りに関する報告」の情報収集を行っているのは、回答があった自治体全体の 36.9%（237 件）となっていた（図表 3－2－45 参照）。

【市区町村向け Q6_2】 貴自治体の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集について教えてください。／②手段と収集している情報の内容

図表 3－2－37 手段と収集している情報の内容

	N値	1 老人クラブの会員数	2 老人クラブの会計報告	3 活動計画	4 各種活動実績（活動一覧や内容、参加者数など）	5 活動の効果や振り返りに関する報告	6 今後の運営に関する課題	7 行政への要望・支援ニーズ	8 その他の情報
貴自治体で用意した様式（選択肢から選ぶもの・数字記入するもの。アンケート調査含む）	257	86.4	85.6	75.5	73.9	10.5	5.1	3.9	12.1
貴自治体で用意した様式（自由記述式のもの。アンケート調査含む）	185	49.7	55.7	70.8	71.4	14.1	13.0	11.4	18.9
様式自由の書類	138	59.4	60.9	66.7	71.0	22.5	11.6	15.2	21.7
自治体職員によるヒアリングやインタビュー	160	28.1	28.8	35.6	52.5	32.5	52.5	47.5	25.0
自治体職員による老人クラブ活動現場への訪問・見学や活動参加など	254	6.7	7.5	17.3	52.4	20.9	26.8	30.7	38.6
自治体職員による対話・意見交換・打ち合わせ等（対面・Web会議・電話など全て含む）	289	30.4	29.1	39.8	43.9	33.6	59.5	63.7	35.3
老人クラブ連合会による情報収集の結果報告（間接的な情報収集）	375	55.2	47.5	57.1	66.7	34.4	36.3	35.7	30.1
中間支援者（老人クラブ連合会を除く）や外部委託先による情報収集の結果報告（間接的な情報収集）	84	54.8	47.6	52.4	61.9	26.2	33.3	36.9	33.3

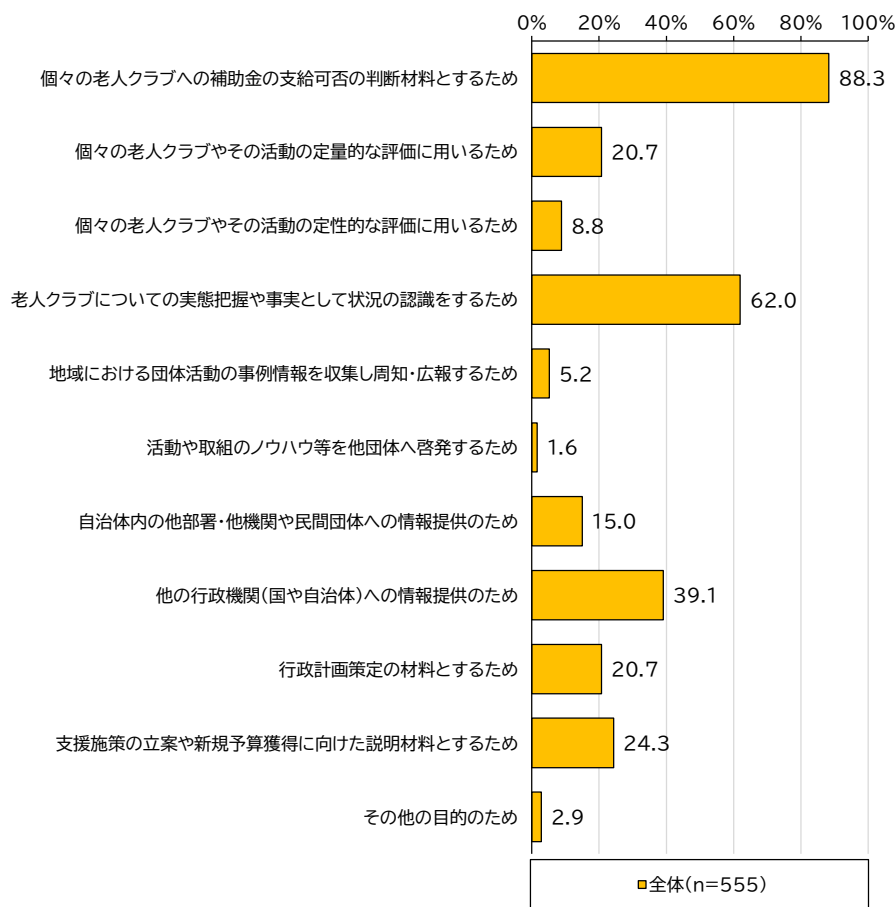
【老人クラブの活動に関する情報収集の目的】

収集している情報の内容を回答した市区町村に、その情報を収集している目的について、項目別に尋ねた。

「老人クラブの会員数」については、「個々の老人クラブへの補助金の支給可否の判断材料とするため」が88.3%と最も多く、次いで「老人クラブについての実態把握や事実として状況の認識をするため」が62.0%。

【市区町村向け Q6_3_1】 貴自治体の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集について教えてください。／③情報の収集目的／老人クラブの会員数

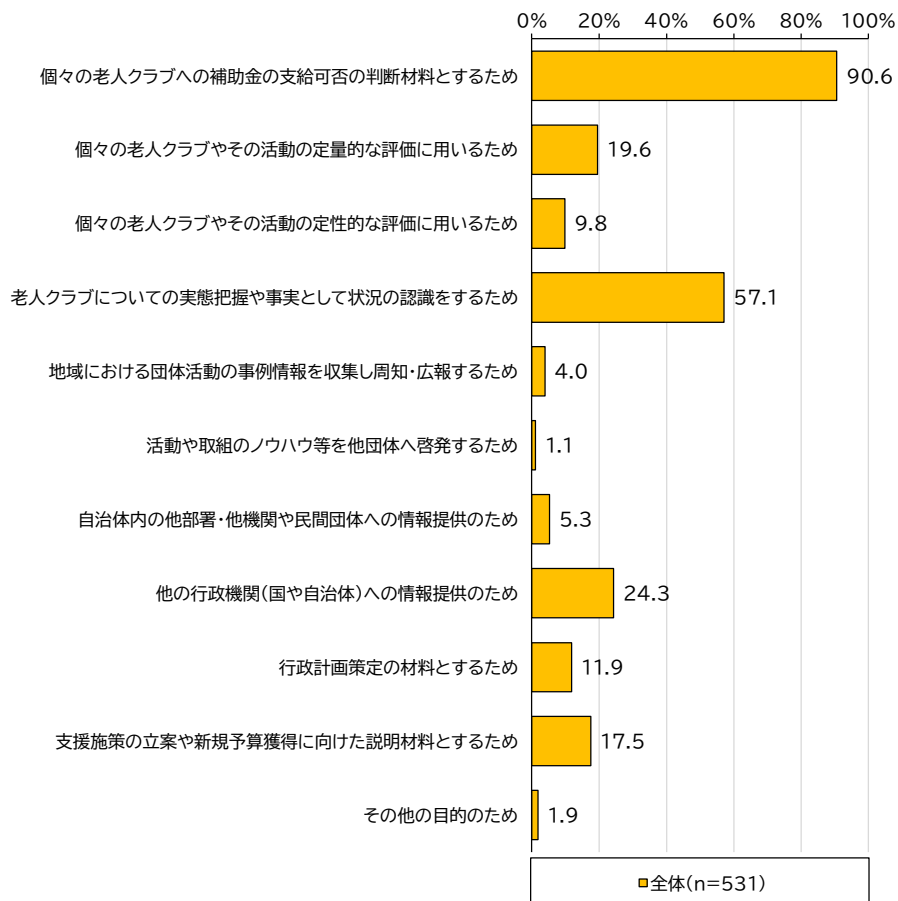
図表 3-2-38 情報の収集目的／老人クラブの会員数



「老人クラブの会計報告」については、「個々の老人クラブへの補助金の支給可否の判断材料とするため」が90.6%と最も多く、次いで「老人クラブについての実態把握や事実として状況の認識をするため」が57.1%。

【市区町村向け Q6_3_2】 貴自治体の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集について教えてください。／③情報の収集目的／老人クラブの会計報告

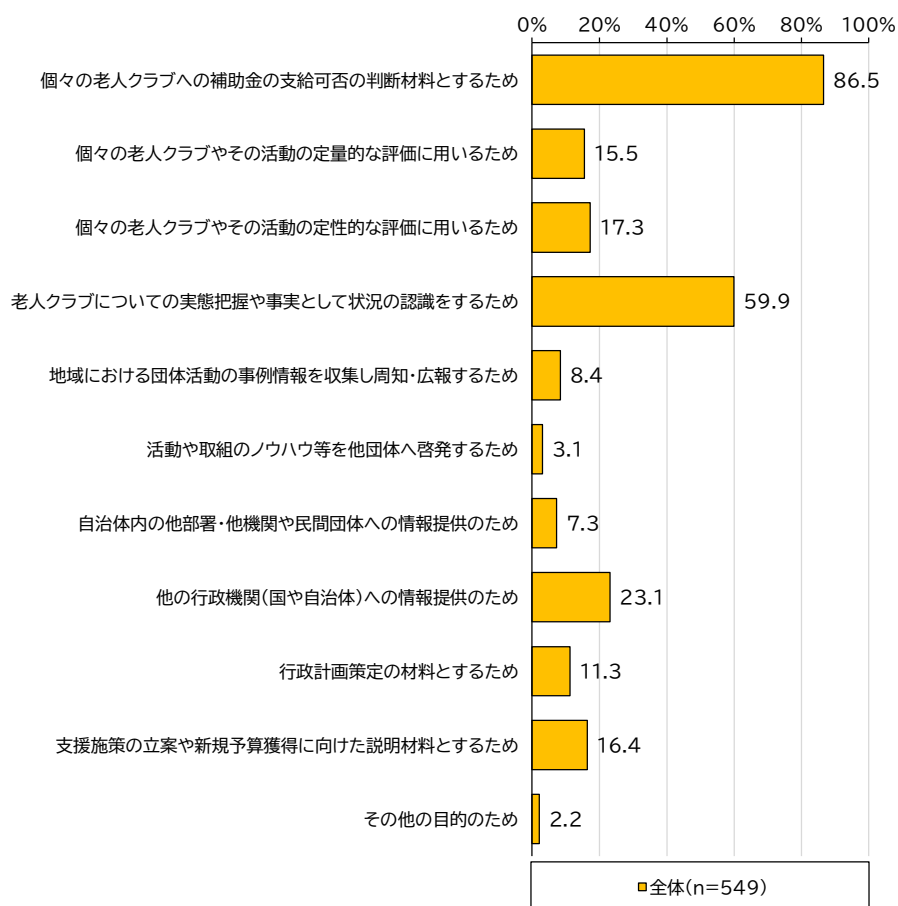
図表 3-2-39 情報の収集目的／老人クラブの会計報告



「活動計画」については、「個々の老人クラブへの補助金の支給可否の判断材料とするため」が86.5%と最も多く、次いで「老人クラブについての実態把握や事実として状況の認識をするため」が59.9%。

【市区町村向け Q6_3_3】 貴自治体の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集について教えてください。／③情報の収集目的／活動計画

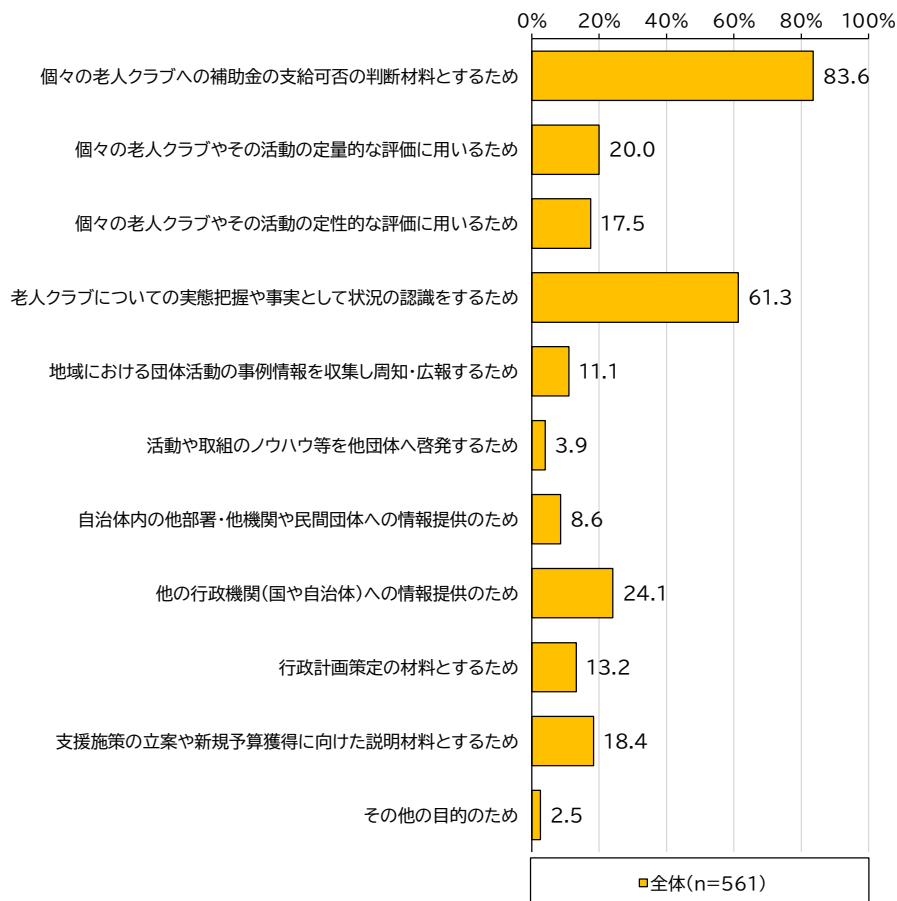
図表 3-2-40 情報の収集目的／活動計画



「各種活動実績（活動一覧や内容、参加者数など）」については、「個々の老人クラブへの補助金の支給可否の判断材料とするため」が83.6%と最も多く、次いで「老人クラブについての実態把握や事実として状況の認識をするため」が61.3%。

【市区町村向け Q6_3_4】 貴自治体の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集について教えてください。／③情報の収集目的／各種活動実績（活動一覧や内容、参加者数など）

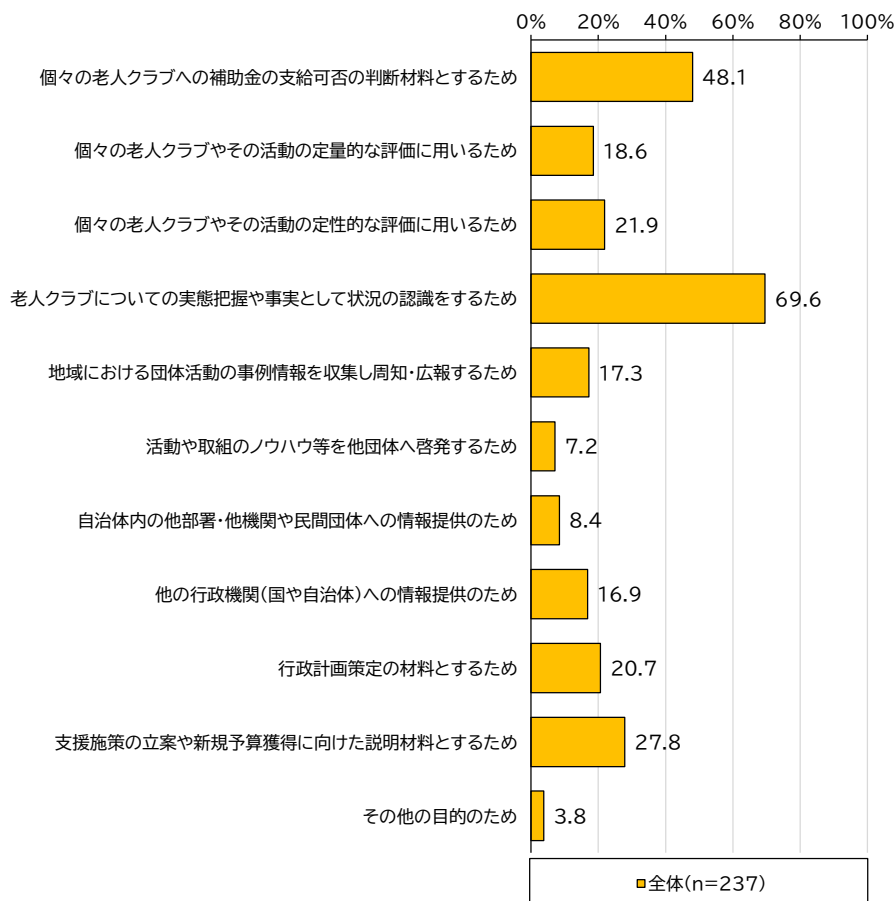
図表 3-2-41 情報の収集目的／各種活動実績（活動一覧や内容、参加者数など）



「活動の効果や振り返りに関する報告」については、「老人クラブについての実態把握や事実として状況の認識をするため」が69.6%と最も多く、次いで「個々の老人クラブへの補助金の支給可否の判断材料とするため」が48.1%。

【市区町村向け Q6_3_5】 貴自治体の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集について教えてください。／③情報の収集目的／活動の効果や振り返りに関する報告

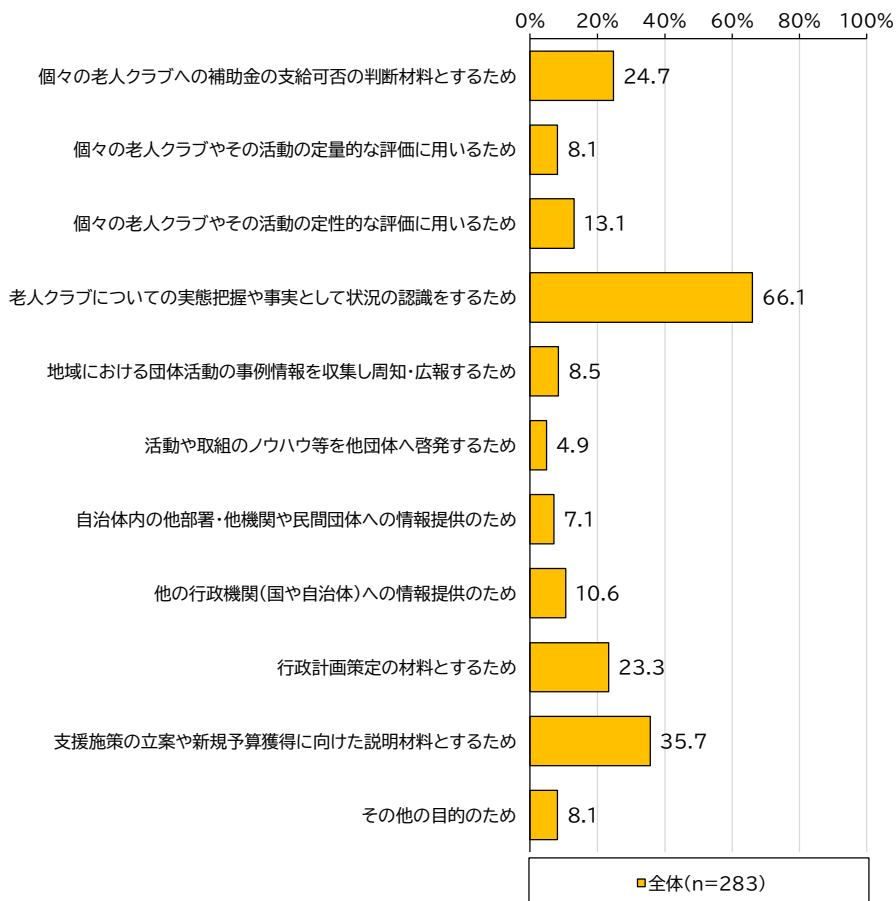
図表 3-2-42 情報の収集目的／活動の効果や振り返りに関する報告



「今後の運営に関する課題」については、「老人クラブについての実態把握や事実として状況の認識をするため」が66.1%と最も多く、次いで「支援施策の立案や新規予算獲得に向けた説明材料とするため」が35.7%。

【市区町村向け Q6_3_6】 貴自治体の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集について教えてください。／③情報の収集目的／今後の運営に関する課題

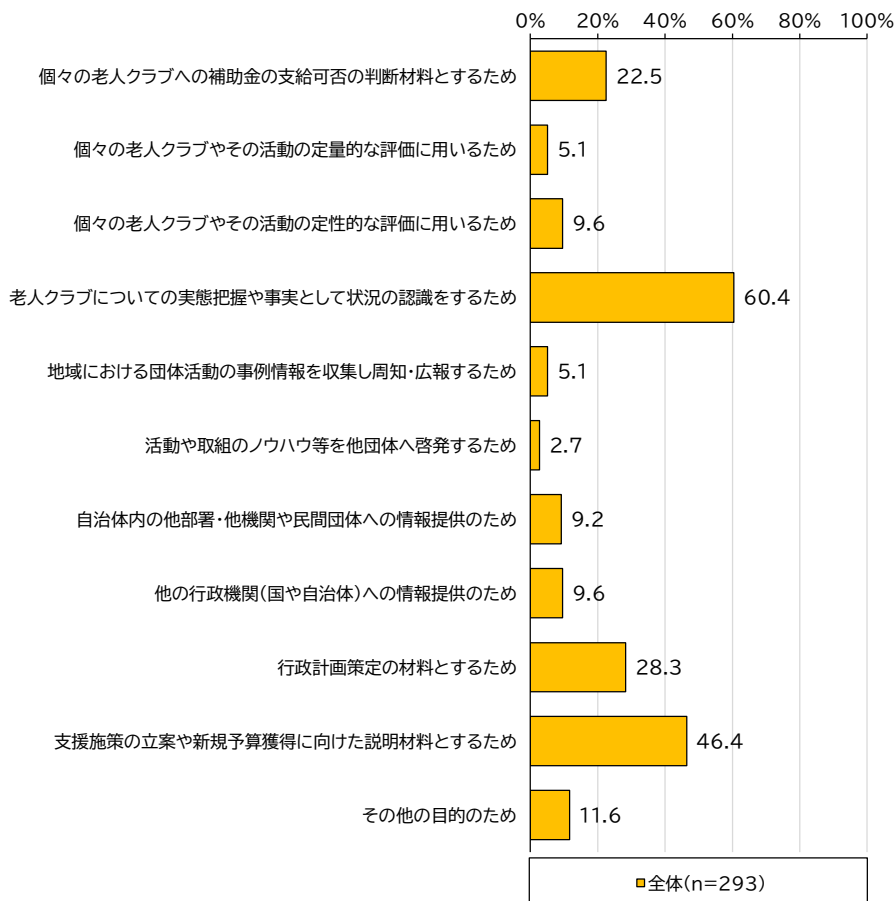
図表 3-2-43 情報の収集目的／今後の運営に関する課題



「行政への要望・支援ニーズ」については、「老人クラブについての実態把握や事実として状況の認識をするため」が60.4%と最も多く、次いで「支援施策の立案や新規予算獲得に向けた説明材料とするため」が46.4%。

【市区町村向け Q6_3_7】 貴自治体の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集について教えてください。／③情報の収集目的／行政への要望・支援ニーズ

図表 3-2-44 情報の収集目的／行政への要望・支援ニーズ



情報の収集目的に関する回答についてすべての項目を比較すると、「活動の効果や振り返りに関する報告」は、「個々の老人クラブやその活動の定性的な評価に用いるため」や「老人クラブについての実態把握や事実として状況の認識をするため」、「地域における団体活動の事例情報を収集し周知・広報するため」といった回答が他の情報よりも多く、これらの目的で収集が行われやすい傾向がある情報であると言える。

【市区町村向け Q6_3】 貴自治体の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集について教えてください。／③情報の収集目的

図表 3-2-45 情報の収集目的

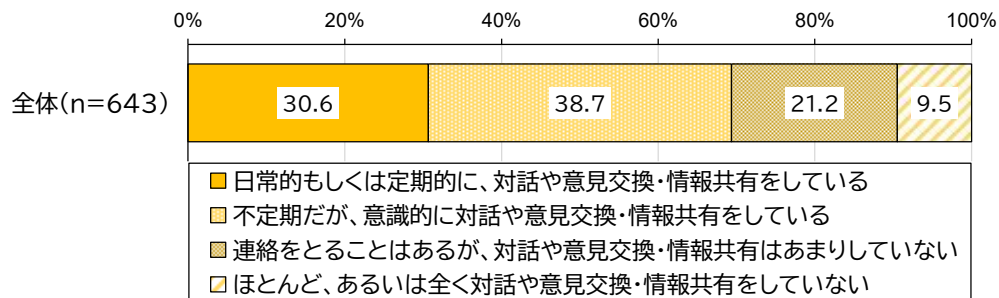
	N値	1 個々の老人クラブへの補助金の支給可否の判断材料とするため	2 個々の老人クラブやその活動の定量的な評価に用いるため	3 個々の老人クラブやその活動の定性的な評価に用いるため	4 老人クラブについての実態把握や事実として状況の認識をするため	5 地域における団体活動の事例情報を収集し周知・広報するため	6 活動や取組のノウハウ等を他団体へ啓発するため	7 自治体内の他部署・他機関や民間団体への情報提供のため	8 他の行政機関(国や自治体)への情報提供のため	9 行政計画策定の材料とするため	10 支援施策の立案や新規予算獲得に向けた説明材料とするため	11 その他の目的のため
老人クラブの会員数	555	88.3	20.7	8.8	62.0	5.2	1.6	15.0	39.1	20.7	24.3	2.9
老人クラブの会計報告	531	90.6	19.6	9.8	57.1	4.0	1.1	5.3	24.3	11.9	17.5	1.9
活動計画	549	86.5	15.5	17.3	59.9	8.4	3.1	7.3	23.1	11.3	16.4	2.2
各種活動実績(活動一覧や内容、参加者数など)	561	83.6	20.0	17.5	61.3	11.1	3.9	8.6	24.1	13.2	18.4	2.5
活動の効果や振り返りに関する報告	237	48.1	18.6	21.9	69.6	17.3	7.2	8.4	16.9	20.7	27.8	3.8
今後の運営に関する課題	283	24.7	8.1	13.1	66.1	8.5	4.9	7.1	10.6	23.3	35.7	8.1
行政への要望・支援ニーズ	293	22.5	5.1	9.6	60.4	5.1	2.7	9.2	9.6	28.3	46.4	11.6

【老人クラブ連合会とのコミュニケーションの機会の有無】

老人クラブ連合会とコミュニケーションをとる機会があるかを尋ねたところ、「不定期だが、意識的に対話や意見交換・情報共有をしている」が38.7%と最も多く、次いで「日常的もしくは定期的に、対話や意見交換・情報共有をしている」が30.6%。

【市区町村向け Q7】 貴自治体では、老人クラブ連合会とコミュニケーションをとる機会がありますか。

図表 3-2-46 老人クラブ連合会とコミュニケーションをとる機会の有無

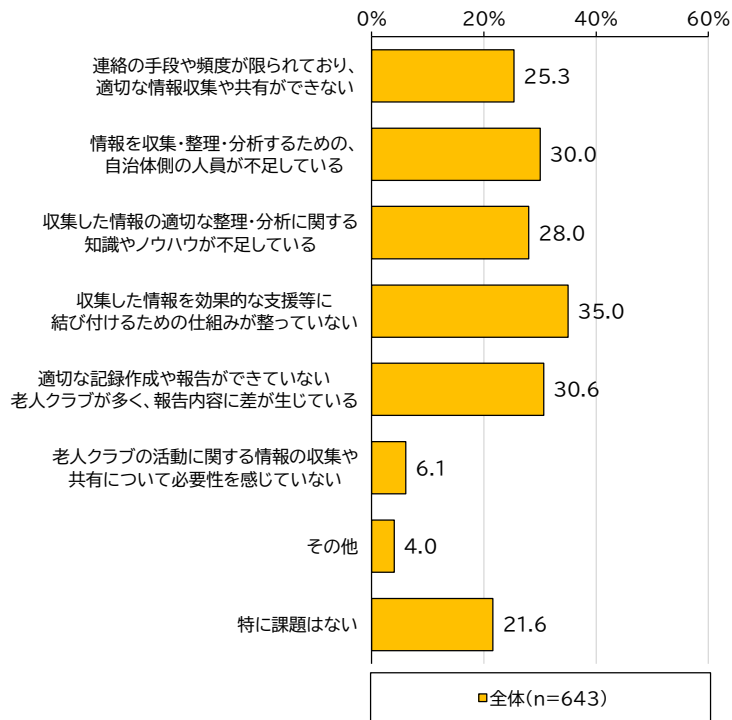


【老人クラブの活動に関する情報の収集や共有に関する課題】

老人クラブの活動に関する情報の収集や共有に関する課題について尋ねたところ、「収集した情報を効果的な支援等に結び付けるための仕組みが整っていない」が35.0%と最も多く、次いで「適切な記録作成や報告ができていない老人クラブが多く、報告内容に差が生じている」が30.6%。

【市区町村向け Q8】 老人クラブの活動に関する情報の収集や共有に関する課題について教えてください。

図表 3-2-47 老人クラブの活動に関する情報の収集や共有に関する課題



④ 各自治体における老人クラブ活動状況等

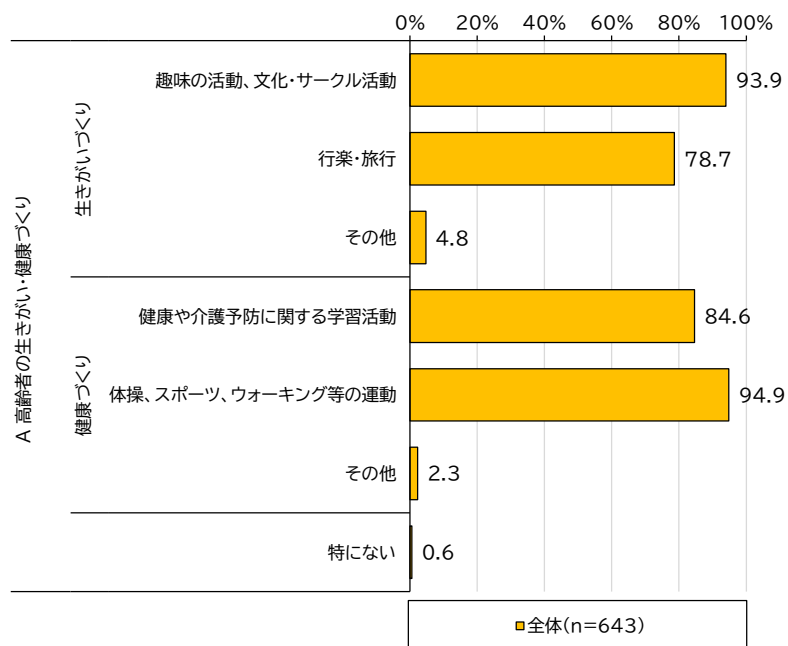
【老人クラブの活動内容】

A・B・C に分類した各分野の老人クラブ活動について、各自治体内の老人クラブによって行われているもの（把握できているもののみ）を尋ねた。

「A 高齢者の生きがい・健康づくり」については、「体操、スポーツ、ウォーキング等の運動」が 94.9% と最も多く、次いで「趣味の活動、文化・サークル活動」が 93.9%。

【市区町村向け Q9A_1】 各分野の活動について、貴自治体内の老人クラブによって行われているもの（把握できているもののみ）を教えてください。

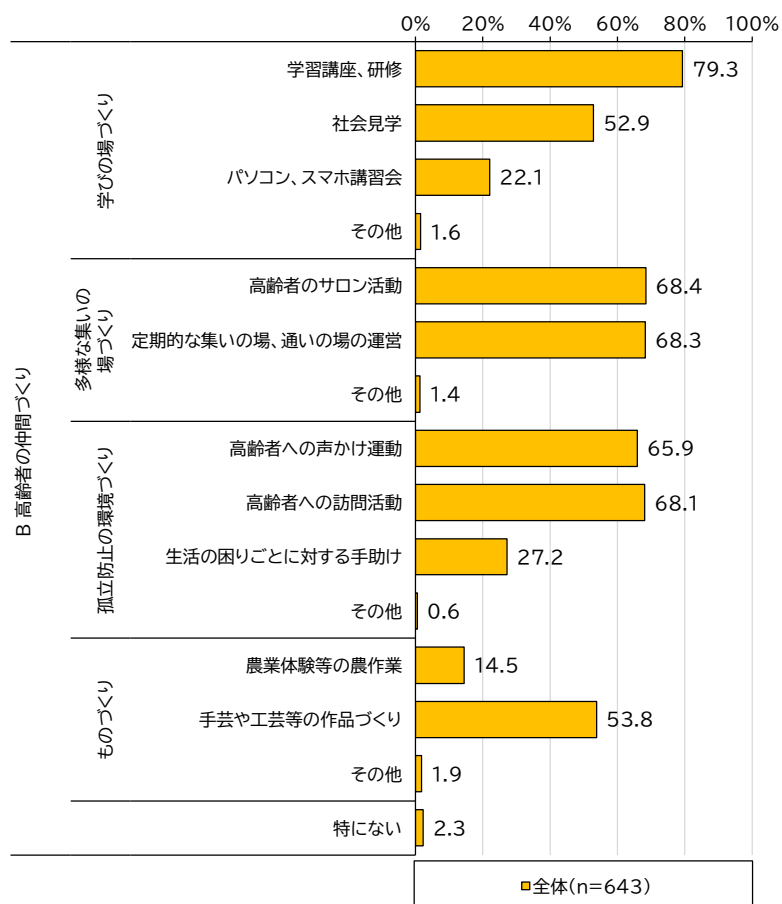
図表 3-2-48 自治体内の老人クラブによって行われている
「高齢者の生きがい・健康づくり」の活動（把握できているもののみ）



「B 高齢者の仲間づくり」については、「学習講座、研修」が79.3%と最も多く、次いで「高齢者のサロン活動」が68.4%。

【市区町村向け Q9B_1】 各分野の活動について、貴自治体内の老人クラブによって行われているもの（把握できているもののみ）を教えてください。

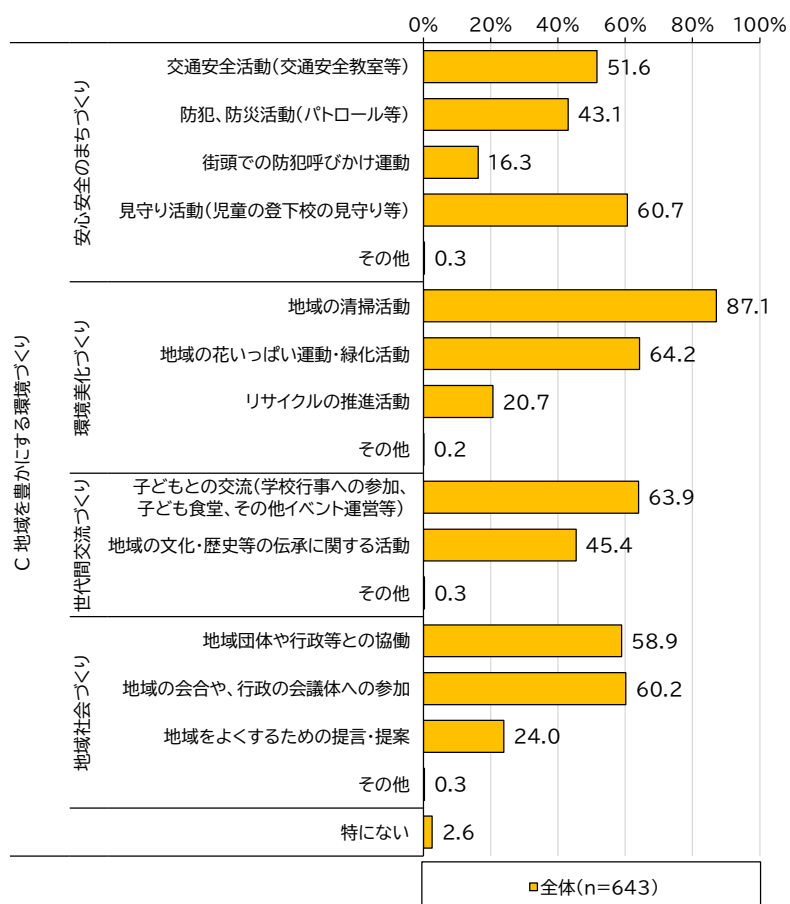
図表 3-2-49 自治体内の老人クラブによって行われている
「高齢者の仲間づくり」の活動（把握できているもののみ）



「C 地域を豊かにする環境づくり」については、「地域の清掃活動」が87.1%と最も多く、次いで「地域の花いっぱい運動・緑化活動」が64.2%。

【市区町村向け Q9C_1】 各分野の活動について、貴自治体内の老人クラブによって行われているもの（把握できているもののみ）を教えてください。

図表 3-2-50 自治体内の老人クラブによって行われている
「地域を豊かにする環境づくり」の活動（把握できているもののみ）



分類ごとの「その他」を除いたすべての項目を比較すると、「体操、スポーツ、ウォーキング等の運動」が94.9%と最も多く、次いで「趣味の活動、文化・サークル活動」が93.9%。他方、「農業体験等の農作業」が14.5%と最も少ない。

【市区町村向け Q9_1】 各分野の活動について、貴自治体内の老人クラブによって行われているもの（把握できているもののみ）を教えてください。

図表 3-2-51 自治体内の老人クラブによって行われている活動（把握できているもののみ）

		活動内容	N値	件数	割合
A 高齢者の生きがい・健康づくり	生きがいづくり	趣味の活動、文化・サークル活動	643	604	93.9
		行楽・旅行	643	506	78.7
		その他	643	31	4.8
	健康づくり	健康や介護予防に関する学習活動	643	544	84.6
		体操、スポーツ、ウォーキング等の運動	643	610	94.9
		その他	643	15	2.3
B 高齢者の仲間づくり	学びの場づくり	学習講座、研修	643	510	79.3
		社会見学	643	340	52.9
		パソコン、スマホ講習会	643	142	22.1
		その他	643	10	1.6
	多様な集いの場づくり	高齢者のサロン活動	643	440	68.4
		定期的な集いの場、通いの場の運営	643	439	68.3
		その他	643	9	1.4
	孤立防止の環境づくり	高齢者への声かけ運動	643	424	65.9
		高齢者への訪問活動	643	438	68.1
		生活の困りごとに対する手助け	643	175	27.2
		その他	643	4	0.6
	もののづくり	農業体験等の農作業	643	93	14.5
		手芸や工芸等の作品づくり	643	346	53.8
		その他	643	12	1.9
C 地域を豊かにする環境づくり	安心安全のまちづくり	交通安全活動(交通安全教室等)	643	332	51.6
		防犯、防災活動(パトロール等)	643	277	43.1
		街頭での防犯呼びかけ運動	643	105	16.3
		見守り活動(児童の登下校の見守り等)	643	390	60.7
		その他	643	2	0.3
	環境美化づくり	地域の清掃活動	643	560	87.1
		地域の花いっぱい運動・緑化活動	643	413	64.2
		リサイクルの推進活動	643	133	20.7
		その他	643	1	0.2
	世代間交流づくり	子どもとの交流(学校行事への参加、子ども食堂、その他イベント運営等)	643	411	63.9
		地域の文化・歴史等の伝承に関する活動	643	292	45.4
		その他	643	2	0.3
	地域社会づくり	地域団体や行政等との協働	643	379	58.9
		地域の会合や、行政の会議体への参加	643	387	60.2
		地域をよくするための提言・提案	643	154	24.0
		その他	643	2	0.3

※青色で指示している項目は、各活動分野の「その他」を除いたときの、最も回答割合が低かった活動内容。赤色の項目は、最も回答割合が高かった活動内容。

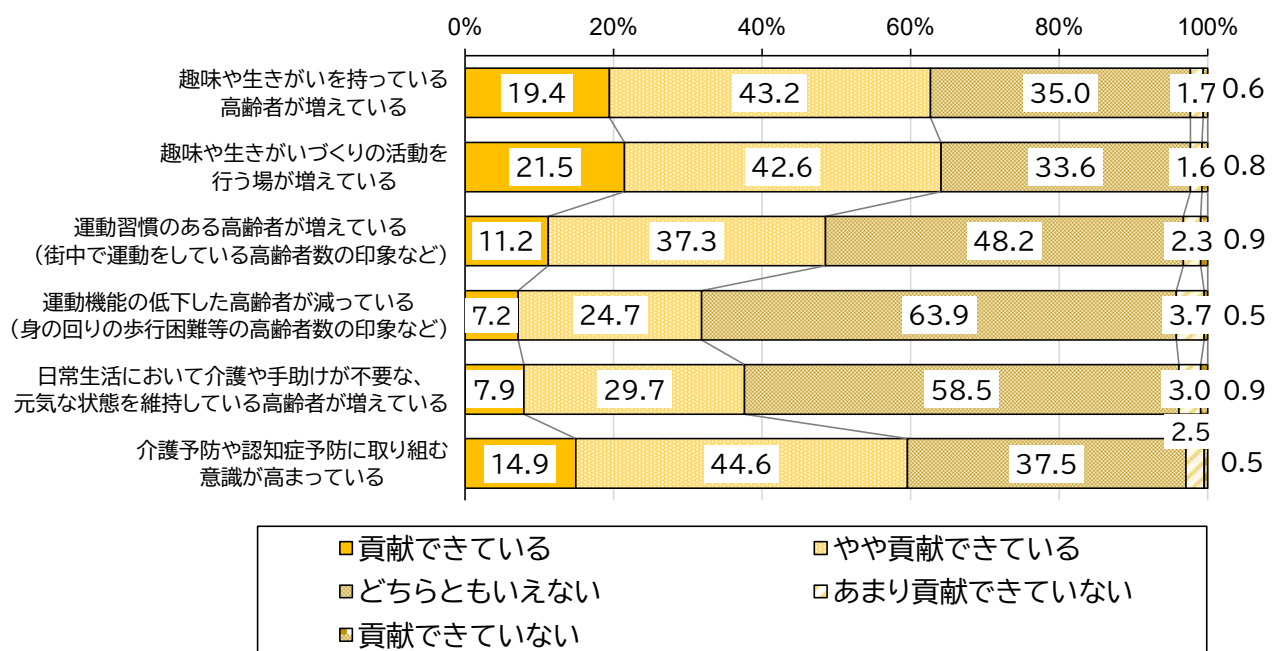
【老人クラブ活動の「地域の状況の変化」への貢献度に関する自治体側の認識】

自治体内の老人クラブによって行われている各分野の活動が、「地域の状況の変化」にどの程度貢献しているか、項目別に尋ねた。

「A 高齢者の生きがい・健康づくり」に関する「地域の状況の変化」への老人クラブ活動の貢献度についての回答をみると、「趣味や生きがいを持っている高齢者が増えている」、「趣味や生きがいづくりの活動を行う場が増えている」、「介護予防や認知症予防に取り組む意識が高まっている」については「貢献できている」と「やや貢献できている」の合計が6割程度となっている。それに対し、「運動機能の低下した高齢者が減っている」や「日常生活において介護や手助けが不要な、元気な状態を維持している高齢者が増えている」については4割未満となっている。

【市区町村向け Q9A_2】 貴自治体内の老人クラブによって行われている各分野の活動について、老人クラブの活動が「地域の状況の変化」にどの程度貢献しているか、「貢献できている」～「貢献できていない」の選択肢からお選びください。

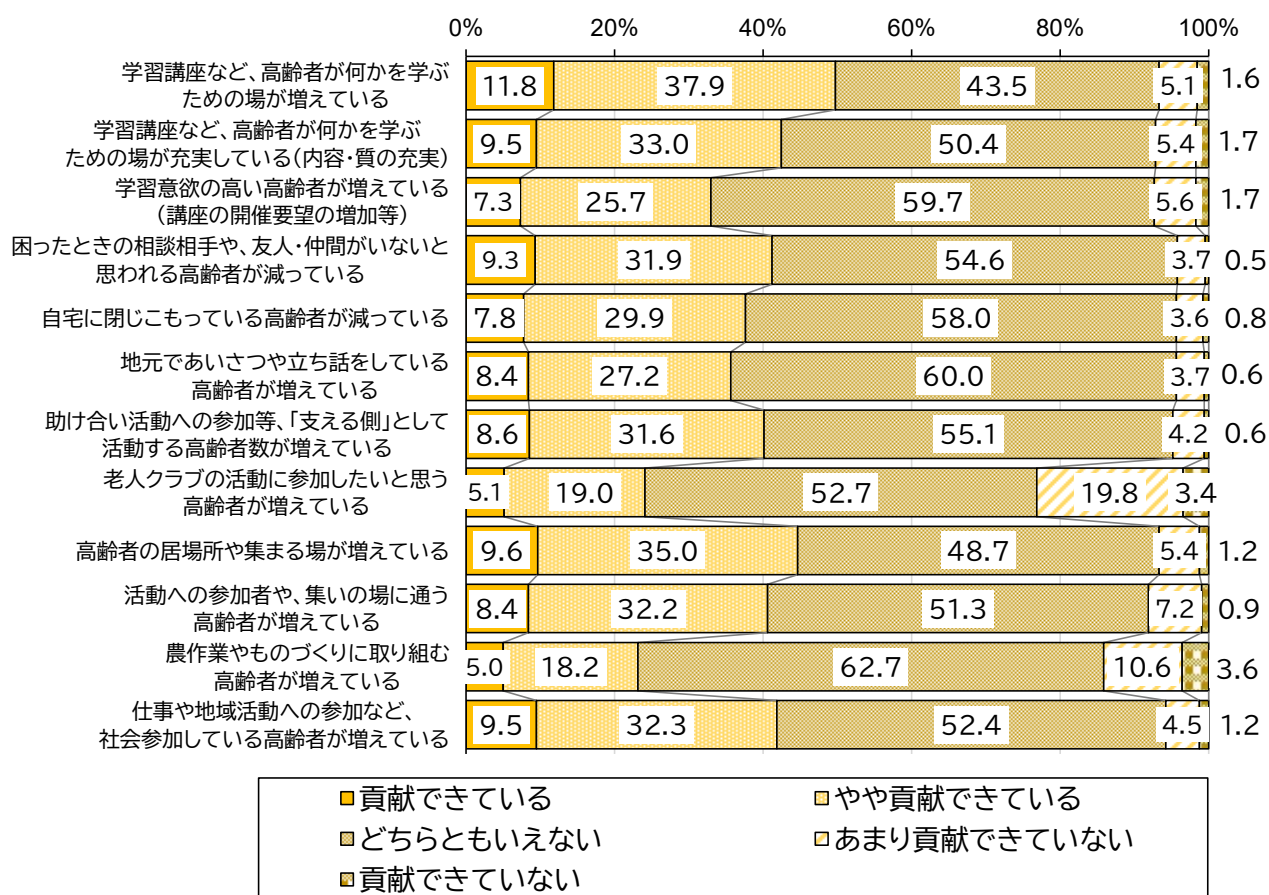
図表 3-2-52 老人クラブ活動の「地域の状況の変化」への貢献度／
「高齢者の生きがい・健康づくり」に関する変化



「B 高齢者の仲間づくり」に関する「地域の状況の変化」への老人クラブ活動の貢献度についての回答をみると、総じて「貢献できている」と「やや貢献できている」の合計が4～5割程度となっているが、「老人クラブの活動に参加したいと思う高齢者が増えている」や「農作業やものづくりに取り組む高齢者が増えている」については回答割合が低い。

【市区町村向け Q9B_2】 貴自治体内の老人クラブによって行われている各分野の活動について、老人クラブの活動が「地域の状況の変化」にどの程度貢献しているか、「貢献できている」～「貢献できていない」の選択肢からお選びください。

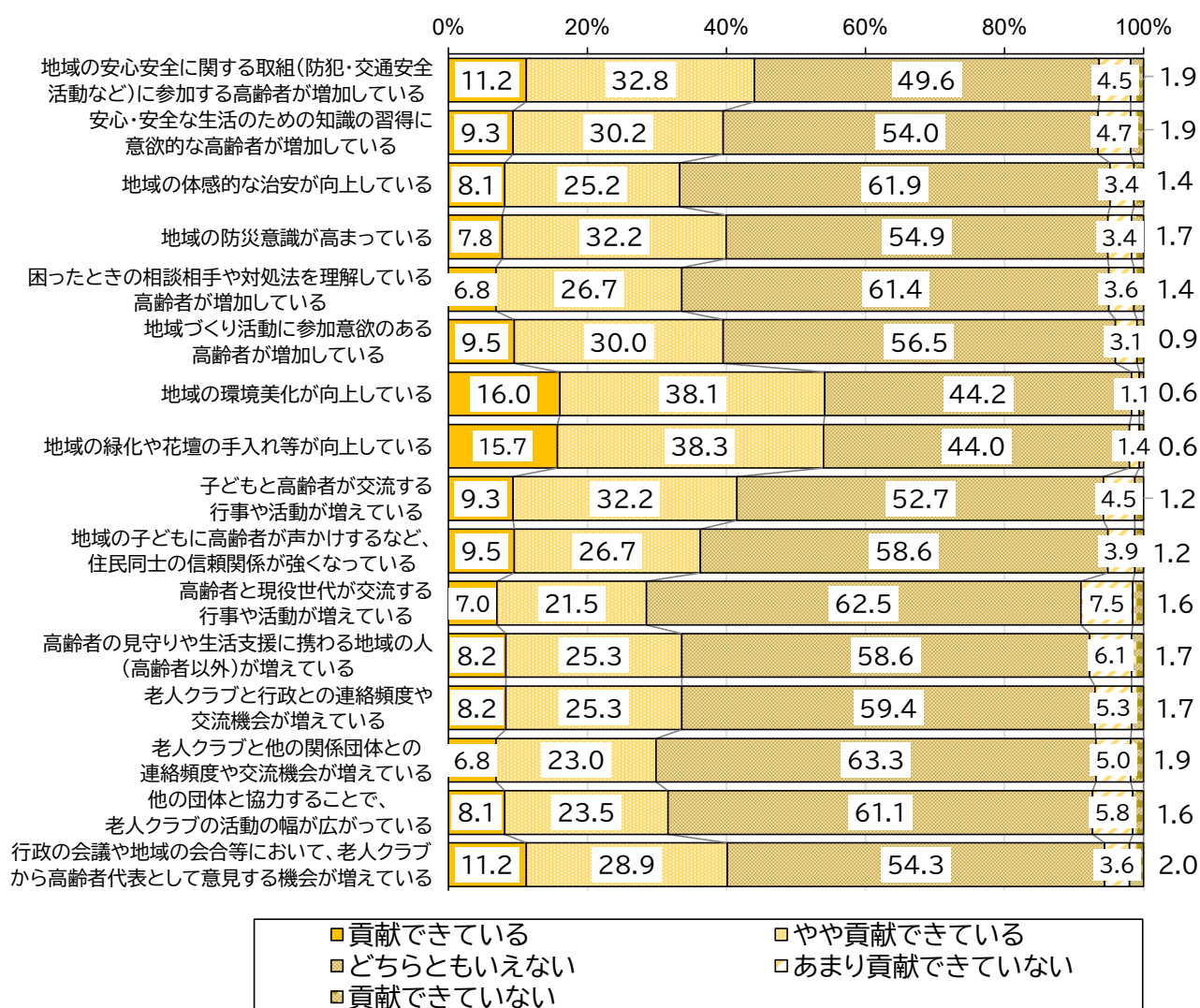
図表 3-2-53 老人クラブ活動の「地域の状況の変化」への貢献度／
「高齢者の仲間づくり」に関する変化



「C 地域を豊かにする環境づくり」に関する「地域の状況の変化」への老人クラブ活動の貢献度についての回答をみると、総じて「貢献できている」と「やや貢献できている」の合計が4～5割程度となっているが、「地域の環境美化が向上している」や「地域の緑化や花壇の手入れ等が向上している」については他の項目と比べ回答割合が高い。

【市区町村向け Q9C_2】 貴自治体内の老人クラブによって行われている各分野の活動について、老人クラブの活動が「地域の状況の変化」にどの程度貢献しているか、「貢献できている」～「貢献できていない」の選択肢からお選びください。

図表 3-2-54 老人クラブ活動の「地域の状況の変化」への貢献度／
「地域を豊かにする環境づくり」に関する変化



「地域の状況の変化」への老人クラブ活動の貢献度についての回答に関し、すべての項目を比較すると、「貢献できている」と「やや貢献できている」を合わせた回答は、「趣味や生きがいづくりの活動を行う場が増えている」が64.1%と最も多く、「農作業やものづくりに取り組む高齢者が増えている」が23.2%と最も少ない。

【市区町村向け Q9_2】 貴自治体内の老人クラブによって行われている各分野の活動について、老人クラブの活動が「地域の状況の変化」にどの程度貢献しているか、「貢献できている」～「貢献できていない」の選択肢からお選びください。

図表 3-2-55 老人クラブ活動の「地域の状況の変化」への貢献度／全項目

		N値	1 貢献でき ている	2 やや貢献 できている	3 どちらとも いえない	4 あまり貢献 できていな い	5 貢献でき ていない	貢献できている + やや貢献できている
A 高齢者の 生きがい・健康づ くり	趣味や生きがいを持っている高齢者が増えている	643	19.4	43.2	35.0	1.7	0.6	62.6
	趣味や生きがいづくりの活動を行う場が増えている	643	21.5	42.6	33.6	1.6	0.8	64.1
	運動習慣のある高齢者が増えている(街中で運動 をしている高齢者数の印象など)	643	11.2	37.3	48.2	2.3	0.9	48.5
	運動機能の低下した高齢者が減っている(身の回 りの歩行困難等の高齢者数の印象など)	643	7.2	24.7	63.9	3.7	0.5	31.9
	日常生活において介護や手助けが不要な、元気な 状態を維持している高齢者が増えている	643	7.9	29.7	58.5	3.0	0.9	37.6
	介護予防や認知症予防に取り組む意識が高まっ ている	643	14.9	44.6	37.5	2.5	0.5	59.5
	学習講座など、高齢者が何かを学ぶための場が増 えている	643	11.8	37.9	43.5	5.1	1.6	49.7
B 高齢者の 仲間づくり	学習講座など、高齢者が何かを学ぶための場が充 実している(内容・質の充実)	643	9.5	33.0	50.4	5.4	1.7	42.5
	学習意欲の高い高齢者が増えている(講座の開催 要望の増加等)	643	7.3	25.7	59.7	5.6	1.7	33.0
	困ったときの相談相手や、友人・仲間がいないと 思われる高齢者が減っている	643	9.3	31.9	54.6	3.7	0.5	41.2
	自宅に閉じこもっている高齢者が減っている	643	7.8	29.9	58.0	3.6	0.8	37.7
	地元であいさつや立ち話をしている高齢者が増 えている	643	8.4	27.2	60.0	3.7	0.6	35.6
	助け合い活動への参加等、「支える側」として活動 する高齢者数が増えている	643	8.6	31.6	55.1	4.2	0.6	40.2
	老人クラブの活動に参加したいと思う高齢者が増 えている	643	5.1	19.0	52.7	19.8	3.4	24.1
	高齢者の居場所や集まる場が増えている	643	9.6	35.0	48.7	5.4	1.2	44.6
	活動への参加者や、集いの場に通う高齢者が増 えている	643	8.4	32.2	51.3	7.2	0.9	40.6
	農作業やものづくりに取り組む高齢者が増してい る	643	5.0	18.2	62.7	10.6	3.6	23.2
C 地域を 豊かにする 環境づくり	仕事や地域活動への参加など、社会参加している 高齢者が増えている	643	9.5	32.3	52.4	4.5	1.2	41.8
	地域の安心安全に関する取組(防犯・交通安全活 動など)に参加する高齢者が増加している	643	11.2	32.8	49.6	4.5	1.9	44.0
	安心・安全な生活のための知識の習得に意欲的な 高齢者が増加している	643	9.3	30.2	54.0	4.7	1.9	39.5
	地域の体感的な治安が向上している	643	8.1	25.2	61.9	3.4	1.4	33.3
	地域の防災意識が高まっている	643	7.8	32.2	54.9	3.4	1.7	40.0
	困ったときの相談相手や対処法を理解している高 齢者が増加している	643	6.8	26.7	61.4	3.6	1.4	33.5
	地域づくり活動に参加意欲のある高齢者が増加し ている	643	9.5	30.0	56.5	3.1	0.9	39.5
	地域の環境美化が向上している	643	16.0	38.1	44.2	1.1	0.6	54.1
	地域の緑化や花壇の手入れ等が向上している	643	15.7	38.3	44.0	1.4	0.6	54.0
	子どもと高齢者が交流する行事や活動が増してい る	643	9.3	32.2	52.7	4.5	1.2	41.5
	地域の子どもの高齢者が声かけするなど、住民同 士の信頼関係が強くなっている	643	9.5	26.7	58.6	3.9	1.2	36.2
	高齢者と現役世代が交流する行事や活動が増えて いる	643	7.0	21.5	62.5	7.5	1.6	28.5
	高齢者の見守りや生活支援に携わる地域の人(高 齢者以外)が増えている	643	8.2	25.3	58.6	6.1	1.7	33.5
	老人クラブと行政との連絡頻度や交流機会が増え ている	643	8.2	25.3	59.4	5.3	1.7	33.5
	老人クラブと他の関係団体との連絡頻度や交流機 会が増えている	643	6.8	23.0	63.3	5.0	1.9	29.8
	他の団体と協力することで、老人クラブの活動の 幅が広がっている	643	8.1	23.5	61.1	5.8	1.6	31.6
	行政の会議や地域の会合等において、老人クラブ から高齢者代表として意見する機会が増えている	643	11.2	28.9	54.3	3.6	2.0	40.1

※青色で指示している項目は、最も回答割合が低かった活動内容。赤色の項目は、最も回答割合が高かった活動内容。

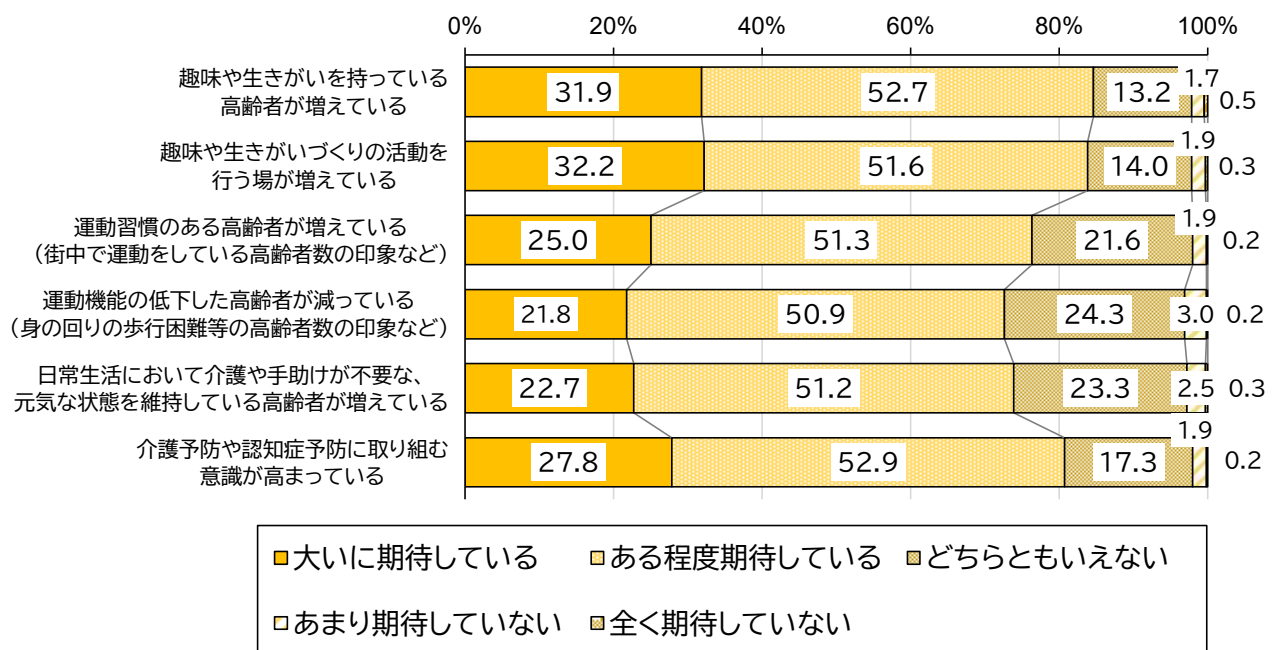
【老人クラブ活動による「地域の状況の変化」への貢献に関する自治体側の期待度】

自治体として、老人クラブ活動に対して「地域の状況の変化」への貢献をどの程度期待しているか、項目別に尋ねた。

「A 高齢者の生きがい・健康づくり」に関する「地域の状況の変化」に対する老人クラブ活動への期待度についての回答をみると、いずれの項目についても「大いに期待している」と「ある程度期待している」の合計が7割以上となっている。

【市区町村向け Q9A_3】 各「地域の状況の変化」について、貴自治体として、老人クラブの活動にどの程度期待しているか、「大いに期待している」～「全く期待していない」の選択肢からお選びください。

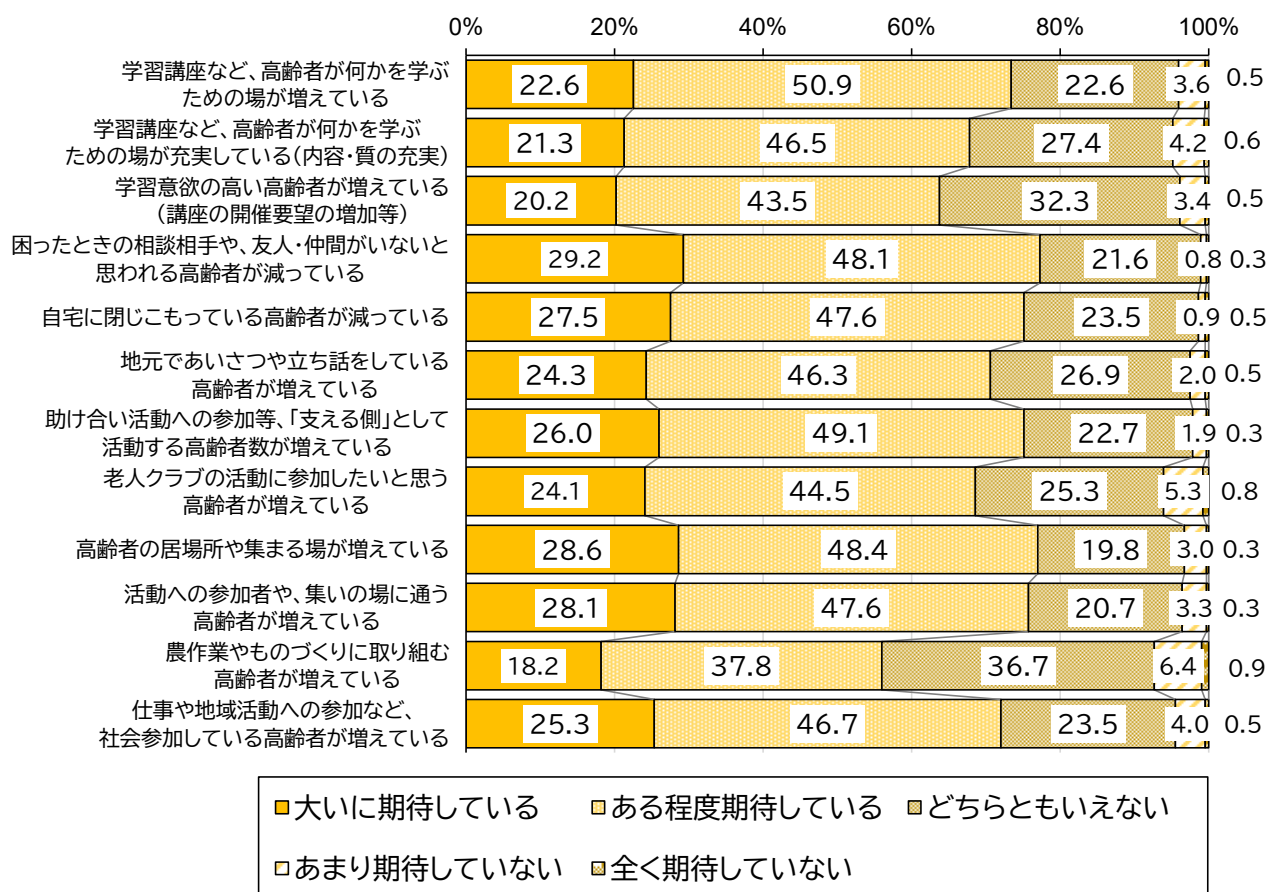
図表 3-2-56 老人クラブ活動への期待度／
「高齢者の生きがい・健康づくり」に関する変化



「B 高齢者の仲間づくり」に関する「地域の状況の変化」に対する老人クラブ活動への期待度についての回答をみると、総じて「大いに期待している」と「ある程度期待している」の合計が7割程度となっているが、「農作業やものづくりに取り組む高齢者が増えている」については他と比べて回答割合が低い。

【市区町村向け Q9B_3_1】 各「地域の状況の変化」について、貴自治体として、老人クラブの活動にどの程度期待しているか、「大いに期待している」～「全く期待していない」の選択肢からお選びください。

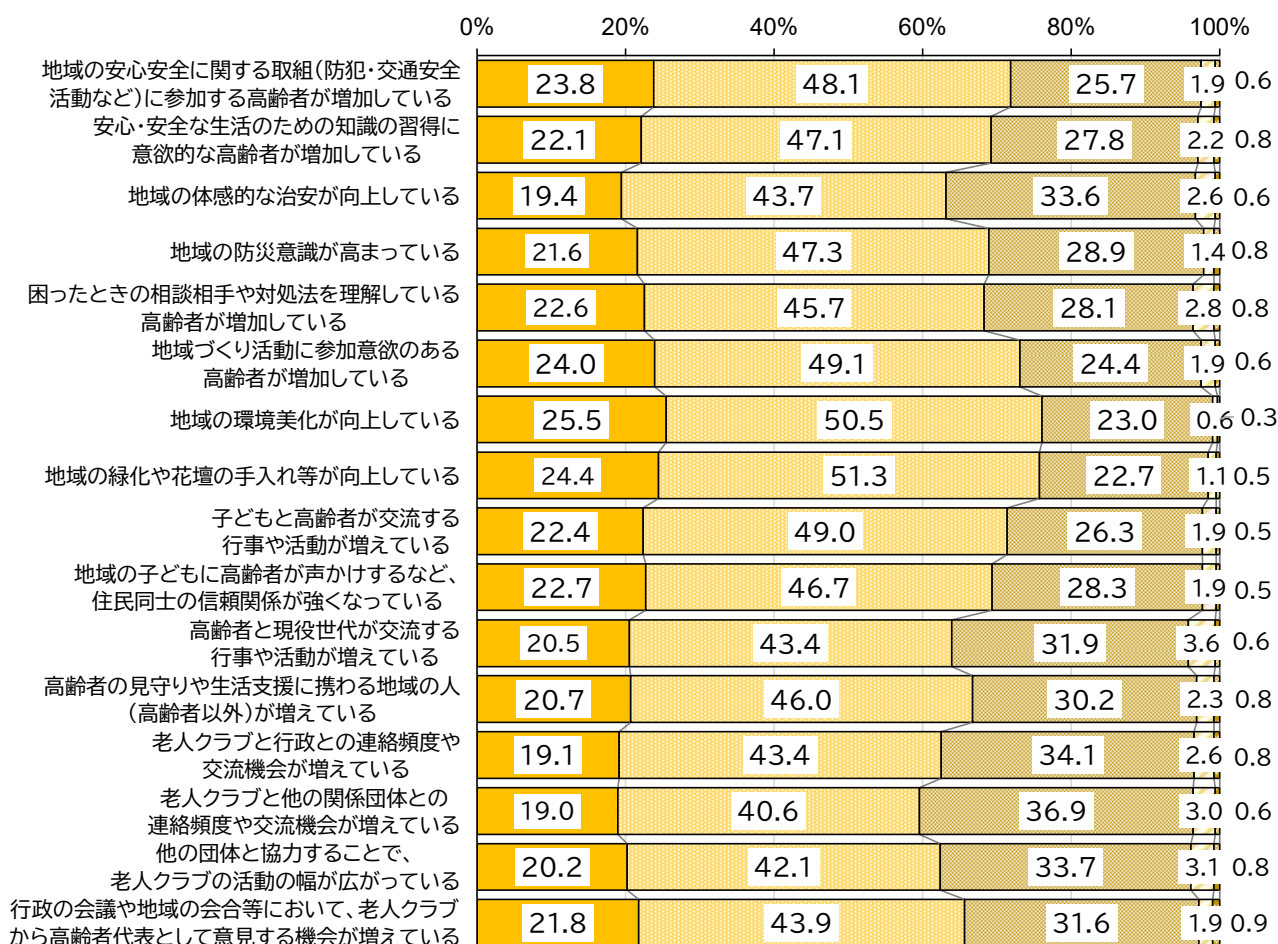
図表 3-2-57 老人クラブ活動への期待度／
「高齢者の仲間づくり」に関する変化



「C 地域を豊かにする環境づくり」に関する「地域の状況の変化」に対する老人クラブ活動への期待度についての回答をみると、いずれの項目についても「大いに期待している」と「ある程度期待している」の合計が6～7割程度となっている。

【市区町村向け Q9C_3_1】 各「地域の状況の変化」について、貴自治体としての老人クラブの活動にどの程度期待しているか、「大いに期待している」～「全く期待していない」の選択肢からお選びください。

図表 3-2-58 老人クラブ活動への期待度／
「地域を豊かにする環境づくり」に関する変化



☐ 大いに期待している ☐ ある程度期待している ☐ どちらともいえない
☐ あまり期待していない ☐ 全く期待していない

「地域の状況の変化」に対する老人クラブ活動への期待度について、すべての項目を比較すると、「大いに期待している」と「ある程度期待している」を合わせた回答は、「趣味や生きがいを持っている高齢者が増えている」が84.6%と最も多く、「農作業やものづくりに取り組む高齢者が増えている」が56.0%と最も少ない。

【市区町村向け Q9_3】 各「地域の状況の変化」について、貴自治体として、老人クラブの活動にどの程度期待しているか、「大いに期待している」～「全く期待していない」の選択肢からお選びください。

図表 3-2-59 老人クラブ活動への期待度／全項目

	N値	1	2	3	4	5	大いに期待している + ある程度期待している
		大いに期待している	ある程度期待している	どちらとも いえない	あまり期待 していない	全く期待し ていない	
A 高齢者の 生きがい・健康づくり	趣味や生きがいを持っている高齢者が増えている	31.9	52.7	13.2	1.7	0.5	84.6
	趣味や生きがいづくりの活動を行う場が増えている	32.2	51.6	14.0	1.9	0.3	83.8
	運動習慣のある高齢者が増えている(街中で運動をしている高齢者数の印象など)	25.0	51.3	21.6	1.9	0.2	76.3
	運動機能の低下した高齢者が減っている(身の回りの歩行困難等の高齢者数の印象など)	21.8	50.9	24.3	3.0	0.2	72.7
	日常生活において介護や手助けが不要な、元気な状態を維持している高齢者が増えている	22.7	51.2	23.3	2.5	0.3	73.9
	介護予防や認知症予防に取り組む意識が高まっている	27.8	52.9	17.3	1.9	0.2	80.7
B 高齢者の 仲間づくり	学習講座など、高齢者が何かを学ぶための場が増えている	22.6	50.9	22.6	3.6	0.5	73.5
	学習講座など、高齢者が何かを学ぶための場が充実している(内容・質の充実)	21.3	46.5	27.4	4.2	0.6	67.8
	学習意欲の高い高齢者が増えている(講座の開催要望の増加等)	20.2	43.5	32.3	3.4	0.5	63.7
	困ったときの相談相手や、友人・仲間がいらないと思われる高齢者が減っている	29.2	48.1	21.6	0.8	0.3	77.3
	自宅に閉じこもっている高齢者が減っている	27.5	47.6	23.5	0.9	0.5	75.1
	地元であいさつや立ち話をしている高齢者が増えている	24.3	46.3	26.9	2.0	0.5	70.6
	助け合い活動への参加等、「支える側」として活動する高齢者数が増えている	26.0	49.1	22.7	1.9	0.3	75.1
	老人クラブの活動に参加したいと思う高齢者が増えている	24.1	44.5	25.3	5.3	0.8	68.6
	高齢者の居場所や集まる場が増えている	28.6	48.4	19.8	3.0	0.3	77.0
	活動への参加者や、集いの場に通う高齢者が増えている	28.1	47.6	20.7	3.3	0.3	75.7
C 地域を 豊かにする 環境づくり	農作業やものづくりに取り組む高齢者が増えている	18.2	37.8	36.7	6.4	0.9	56.0
	仕事や地域活動への参加など、社会参加している高齢者が増えている	25.3	46.7	23.5	4.0	0.5	72.0
	地域の安心安全に関する取組(防犯・交通安全活動など)に参加する高齢者が増加している	23.8	48.1	25.7	1.9	0.6	71.9
	安心・安全な生活のための知識の習得に意欲的な高齢者が増加している	22.1	47.1	27.8	2.2	0.8	69.2
	地域の体感的な治安が向上している	19.4	43.7	33.6	2.6	0.6	63.1
	地域の防災意識が高まっている	21.6	47.3	28.9	1.4	0.8	68.9
	困ったときの相談相手や対処法を理解している高齢者が増加している	22.6	45.7	28.1	2.8	0.8	68.3
	地域づくり活動に参加意欲のある高齢者が増加している	24.0	49.1	24.4	1.9	0.6	73.1
	地域の環境美化が向上している	25.5	50.5	23.0	0.6	0.3	76.0
	地域の緑化や花壇の手入れ等が向上している	24.4	51.3	22.7	1.1	0.5	75.7
	子どもと高齢者が交流する行事や活動が増えている	22.4	49.0	26.3	1.9	0.5	71.4
	地域の子どもの高齢者が声かけするなど、住民同士の信頼関係が強くなっている	22.7	46.7	28.3	1.9	0.5	69.4
	高齢者と現役世代が交流する行事や活動が増えている	20.5	43.4	31.9	3.6	0.6	63.9
	高齢者の見守りや生活支援に携わる地域の人(高齢者以外)が増えている	20.7	46.0	30.2	2.3	0.8	66.7
	老人クラブと行政との連絡頻度や交流機会が増えている	19.1	43.4	34.1	2.6	0.8	62.5
	老人クラブと他の関係団体との連絡頻度や交流機会が増えている	19.0	40.6	36.9	3.0	0.6	59.6
	他の団体と協力することで、老人クラブの活動の幅が広がっている	20.2	42.1	33.7	3.1	0.8	62.3
	行政の会議や地域の会合等において、老人クラブから高齢者代表として意見する機会が増えている	21.8	43.9	31.6	1.9	0.9	65.7

※青色で指示している項目は、最も回答割合が低かった活動内容。赤色の項目は、最も回答割合が高かった活動内容。

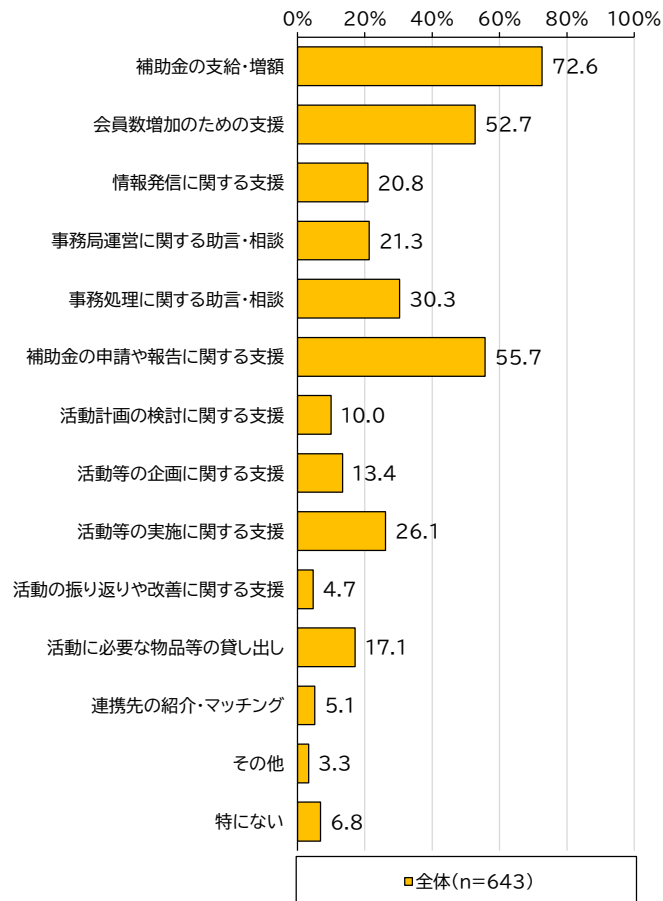
⑤ 老人クラブへの支援の状況

【老人クラブからの支援ニーズ】

老人クラブからの支援ニーズとして挙げられているものを尋ねたところ、「補助金の支給・増額」が72.6%と最も多く、次いで「補助金の申請や報告に関する支援」が55.7%。

【市区町村向け Q10】 老人クラブからの支援ニーズとして挙げられているものについて教えてください。

図表 3-2-60 老人クラブからの支援ニーズ

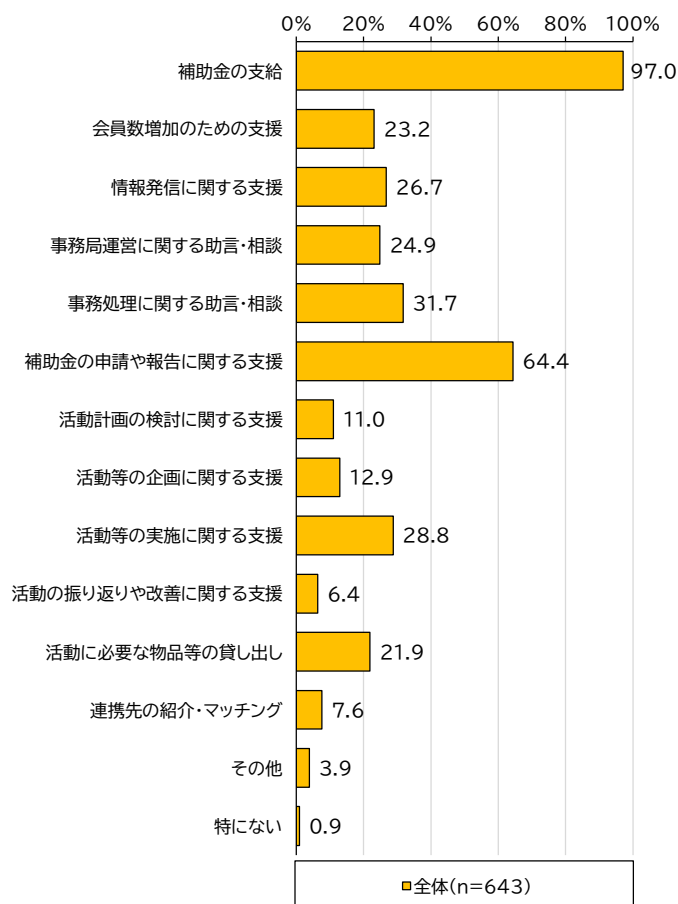


【自治体が現在行っている老人クラブに対する支援】

自治体が現在行っている、老人クラブに対する支援の内容について尋ねたところ、「補助金の支給」が97.0%と最も多く、次いで「補助金の申請や報告に関する支援」が64.4%。

【市区町村向け Q11】 貴自治体が現在行っている、老人クラブに対する支援の内容について教えてください。

図表 3-2-61 自治体が現在行っている老人クラブに対する支援

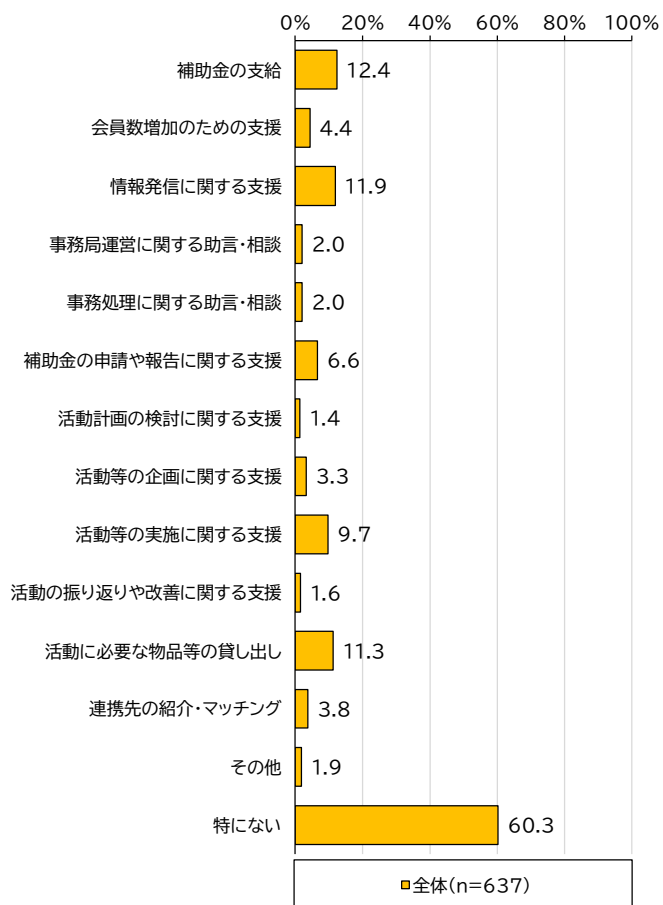


【高齢者福祉以外の所管課と連携して行っている老人クラブに対する支援】

自治体が現在行っている老人クラブに対する支援のうち、高齢者福祉の所管課が、庁内の他の所管課と連携して行っているものを尋ねたところ、「特にない」が60.3%と最も多く、次いで「補助金の支給」が12.4%。

【市区町村向け Q12】 貴自治体が現在行っている老人クラブに対する支援について、高齢者福祉の所管課が、庁内の他の所管課と連携して行っているものがあれば教えてください。

図表 3-2-62 高齢者福祉以外の所管課と連携して行っている老人クラブに対する支援

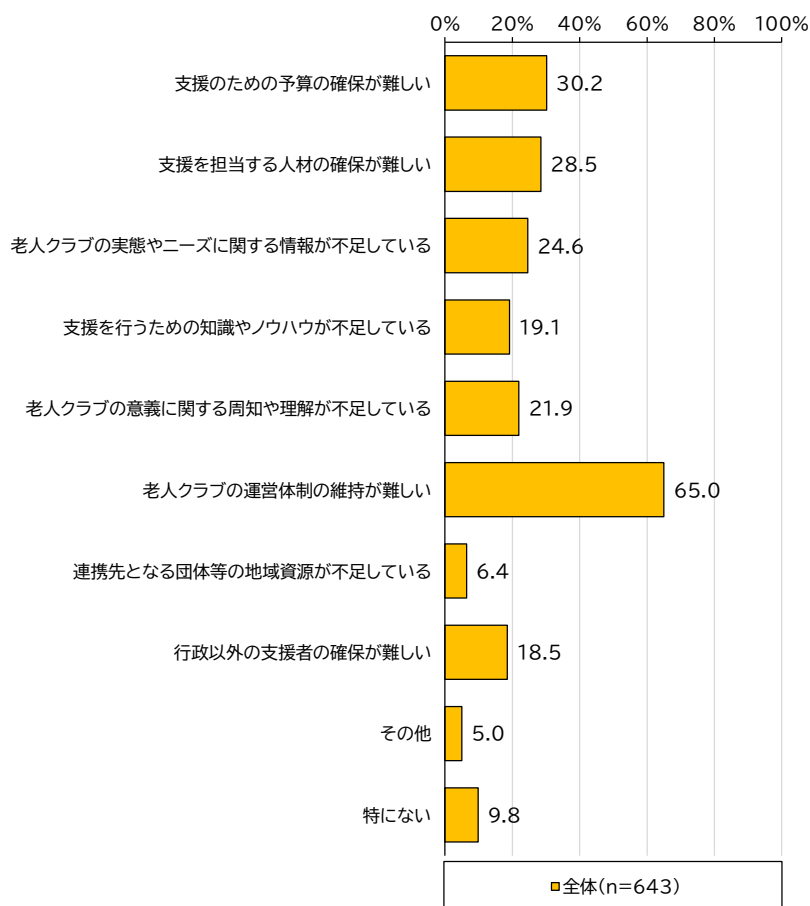


⑥ 老人クラブの支援を行ううえでの課題

老人クラブの支援を行っていくにあたり、どのようなことが課題となっているかを尋ねたところ、「老人クラブの運営体制の維持が難しい」が65.0%と最も多く、次いで「支援のための予算の確保が難しい」が30.2%。

【市区町村向け Q13】 老人クラブの支援を行っていくにあたり、どのようなことが課題となっていますか。

図表 3-2-63 老人クラブの支援を行う上での課題



(3) 調査結果（市区町村老人クラブ連合会向け調査）

① 老人クラブの活動状況

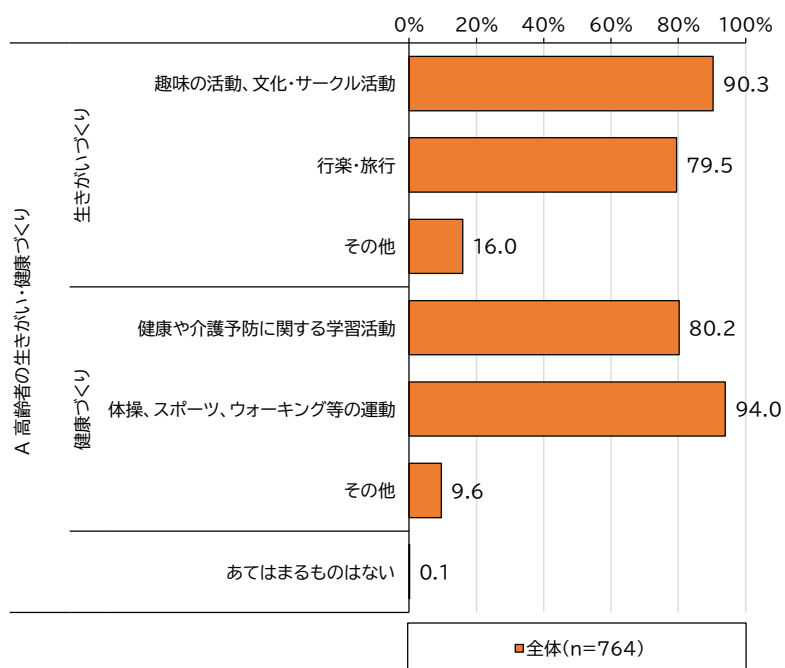
【行っている活動の内容】

A・B・Cに分類した各分野の老人クラブ活動について、実際に行っているものを尋ねた。

「A 高齢者の生きがい・健康づくり」に関する活動については、「体操、スポーツ、ウォーキング等の運動」が94.0%と最も多く、次いで「趣味の活動、文化・サークル活動」が90.3%。

【市区町村老人クラブ連合会向け調査 Q1_1A_1】 高齢者の生きがい・健康づくりに関する活動について、行っている活動をお知らせください。

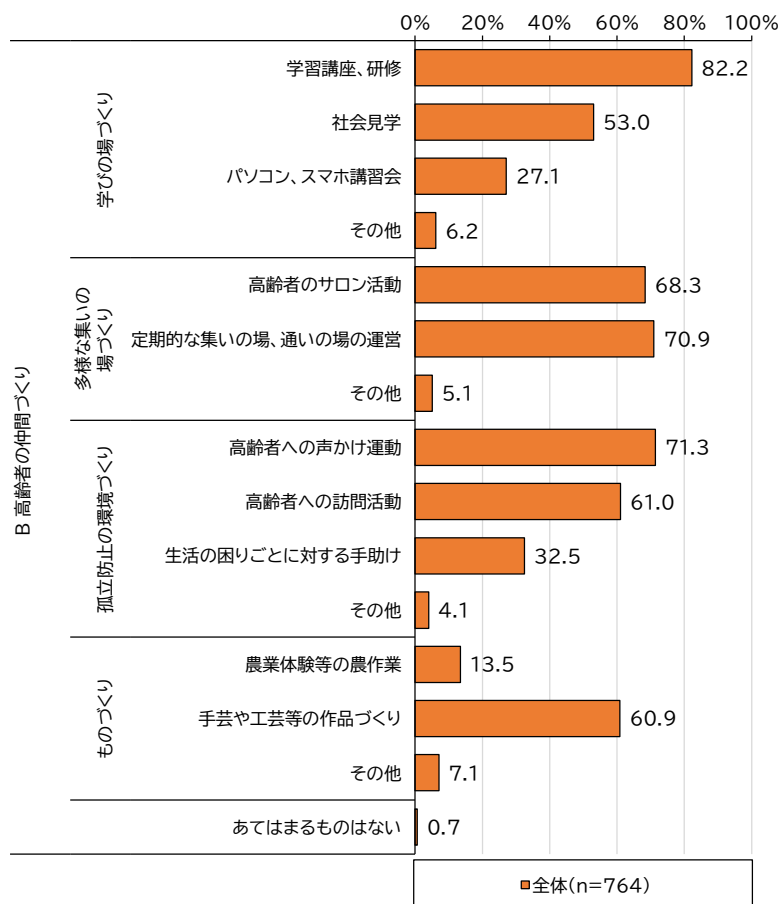
図表 3-3-1 実際に行っている「高齢者の生きがい・健康づくり」の活動



「B 高齢者の仲間づくり」については、「学習講座、研修」が82.2%と最も多く、次いで「高齢者への声かけ運動」が71.3%。

【市区町村老人クラブ連合会向け調査 Q1_1B_1】 高齢者の仲間づくりに関する活動について、行っている活動をお知らせください。

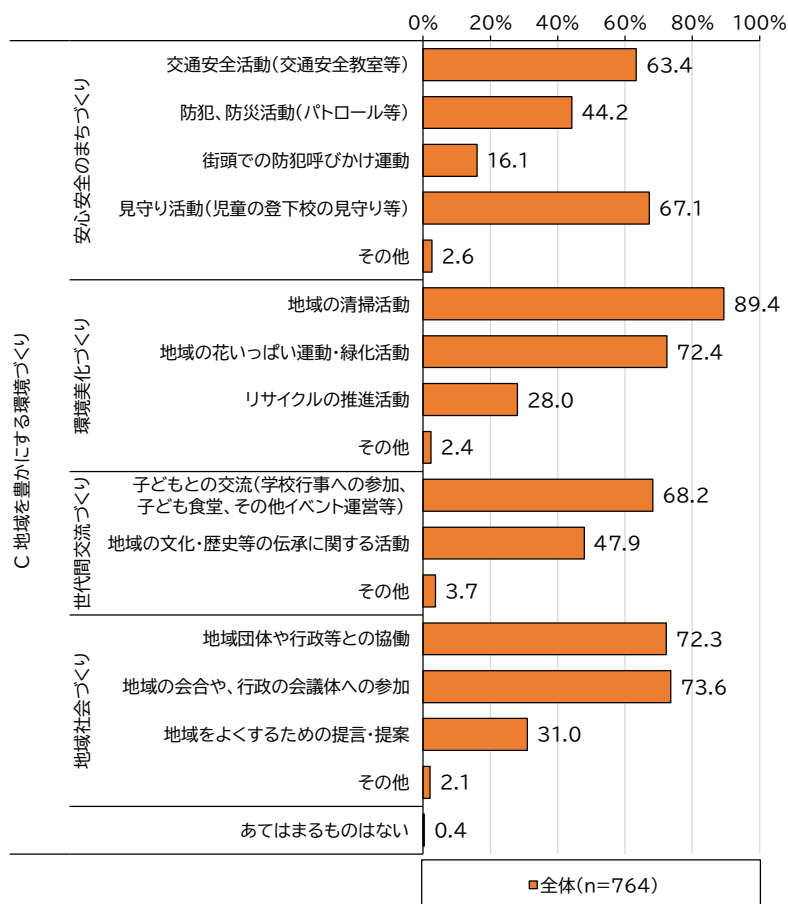
図表 3-3-2 実際にやっている「高齢者の仲間づくり」の活動



「C 地域を豊かにする環境づくり」については、「地域の清掃活動」が89.4%と最も多く、次いで「地域の会合や、行政の会議体への参加」が73.6%。

【市区町村老人クラブ連合会向け調査 Q1_1C_1】 地域を豊かにする環境づくりに関する活動について、行っている活動をお知らせください。

図表 3-3-3 実際にやっている「地域を豊かにする環境づくり」の活動



分類ごとの「その他」を除いたすべての項目を比較すると、「体操、スポーツ、ウォーキング等の運動」が94.0%と最も多く、次いで「趣味の活動、文化・サークル活動」が90.3%。他方、「農業体験等の農作業」が13.5%と最も少ない。

【市区町村老人クラブ連合会向け調査 Q1_1_1】 行っている活動をお知らせください。

図表 3-3-4 実際に行っている活動

		活動内容	N値	件数	割合
A 高齢者の生きがい・健康づくり	生きがいづくり	趣味の活動、文化・サークル活動	764	690	90.3
		行楽・旅行	764	607	79.5
		その他	764	122	16.0
	健康づくり	健康や介護予防に関する学習活動	764	613	80.2
		体操、スポーツ、ウォーキング等の運動	764	718	94.0
		その他	764	73	9.6
B 高齢者の仲間づくり	学びの場づくり	学習講座、研修	764	627	82.1
		社会見学	764	405	53.0
		パソコン、スマホ講習会	764	207	27.1
		その他	764	47	6.2
	多様な集いの場づくり	高齢者のサロン活動	764	522	68.3
		定期的な集いの場、通いの場の運営	764	542	70.9
		その他	764	39	5.1
	孤立防止の環境づくり	高齢者への声かけ運動	764	545	71.3
		高齢者への訪問活動	764	467	61.1
		生活の困りごとに対する手助け	764	249	32.6
		その他	764	31	4.1
	ものづくり	農業体験等の農作業	764	103	13.5
		手芸や工芸等の作品づくり	764	465	60.9
		その他	764	54	7.1
C 地域を豊かにする環境づくり	安心安全のまちづくり	交通安全活動(交通安全教室等)	764	484	63.4
		防犯、防災活動(パトロール等)	764	337	44.1
		街頭での防犯呼びかけ運動	764	124	16.2
		見守り活動(児童の登下校の見守り等)	764	513	67.1
		その他	764	20	2.6
	環境美化づくり	地域の清掃活動	764	683	89.4
		地域の花いっぱい運動・緑化活動	764	553	72.4
		リサイクルの推進活動	764	213	27.9
		その他	764	18	2.4
	世代間交流づくり	子どもとの交流(学校行事への参加、子ども食堂、その他イベント運営等)	764	521	68.2
		地域の文化・歴史等の伝承に関する活動	764	366	47.9
		その他	764	28	3.7
	地域社会づくり	地域団体や行政等との協働	764	552	72.3
		地域の会合や、行政の会議体への参加	764	561	73.4
		地域をよくするための提言・提案	764	236	30.9
		その他	764	16	2.1

※青色で指示している項目は、各活動分野の「その他」を除いたときの、最も回答割合が低かった活動内容。赤色の項目は、最も回答割合が高かった活動内容。

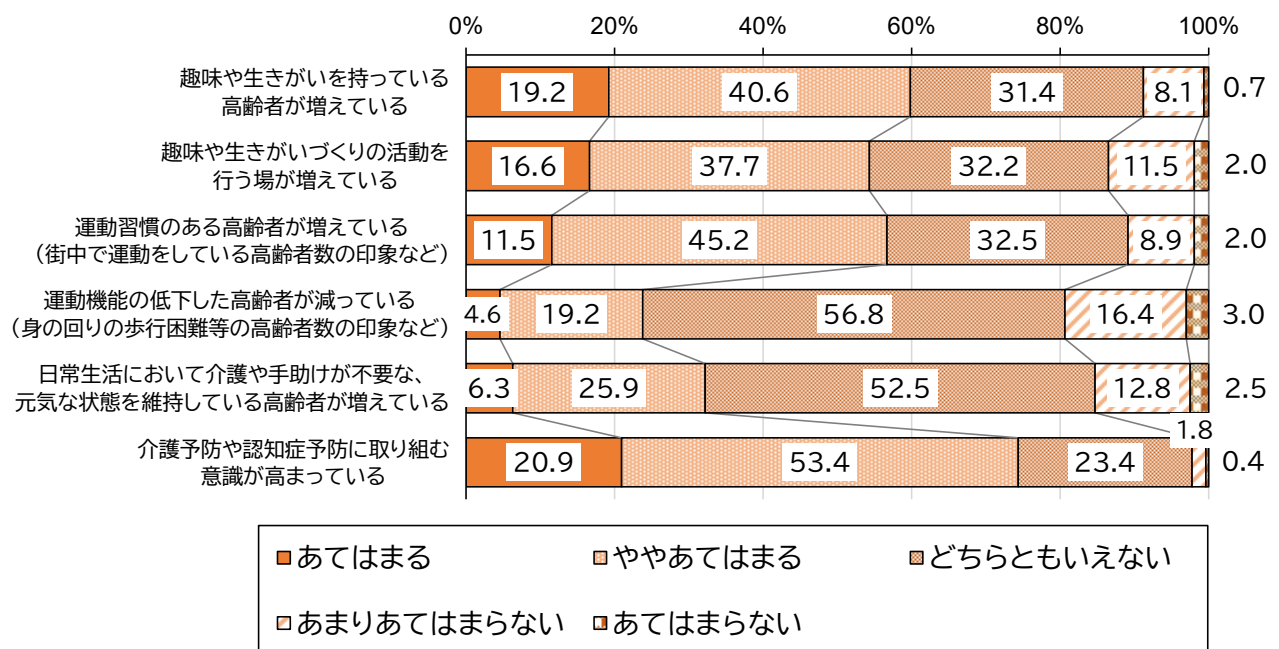
【「地域の状況の変化」に対する実感】

老人クラブ連合会として、「地域の状況の変化」に対しどのような実感を得ているか、項目別に尋ねた。

「A 高齢者の生きがい・健康づくり」に関する「地域の状況の変化」の実感についての回答をみると、「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計が6～7割程度の項目が多いが、「運動機能の低下した高齢者が減っている」や「日常生活において介護や手助けが不要な、元気な状態を維持している高齢者が増えている」といった項目では他よりも回答割合が低くなっている。

【市区町村老人クラブ連合会向け調査 Q1_1A_2】 地域の状況の変化に対する実感について、お知らせください。

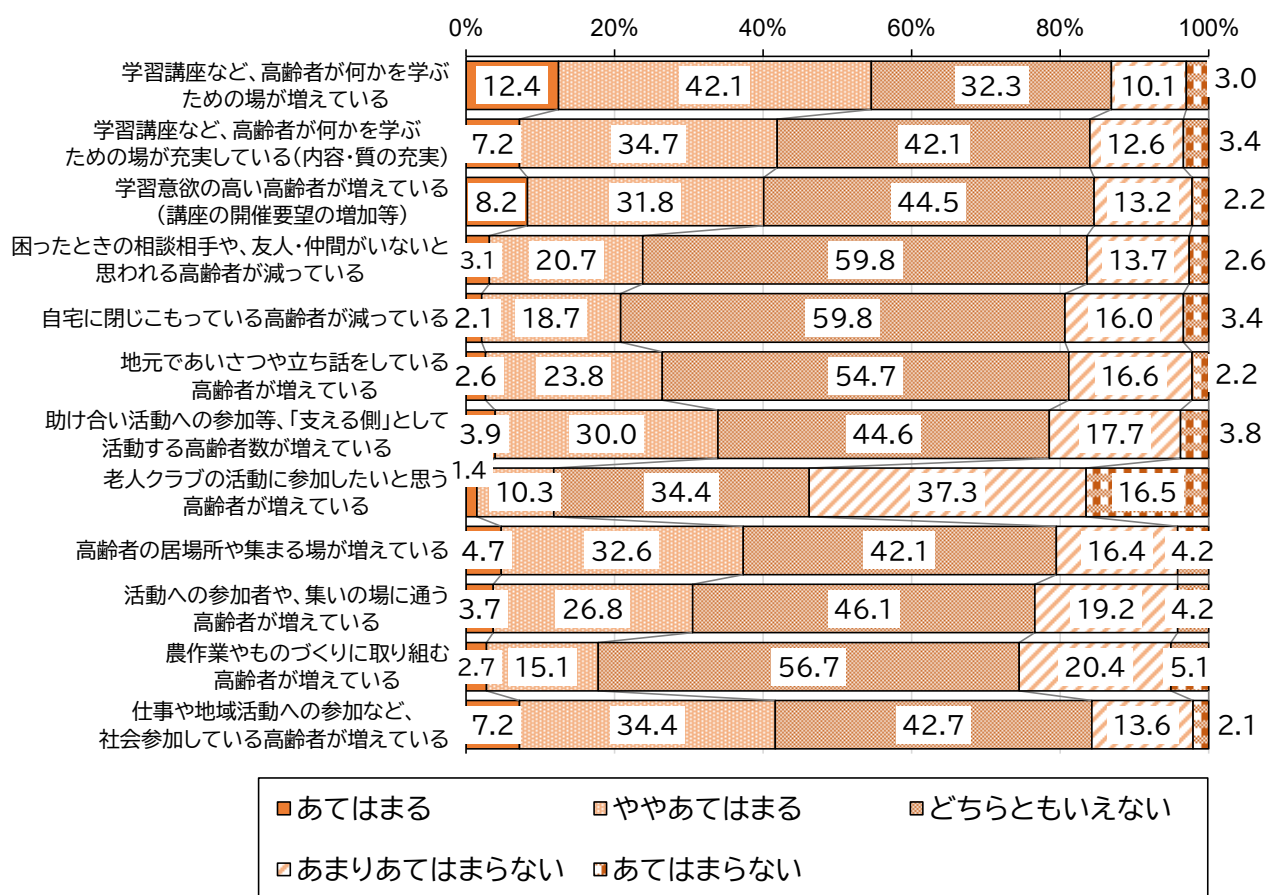
図表 3-3-5 「地域の状況の変化」に対する実感／
「高齢者の生きがい・健康づくり」に関する変化



「B 高齢者の仲間づくり」に関する「地域の状況の変化」の実感についての回答をみると、「学習講座など、高齢者が何かを学ぶための場が増えている」については「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計が5割を超えているが、他の項目では5割未満となっており、特に「困った時の相談相手や、友人・仲間がいらないと思われる高齢者が減っている」や「自宅に閉じこもっている高齢者が減っている」といった項目では回答割合が低くなっている。

【市区町村老人クラブ連合会向け調査 Q1_1B_2】 地域の状況の変化に対する実感について、お知らせください。

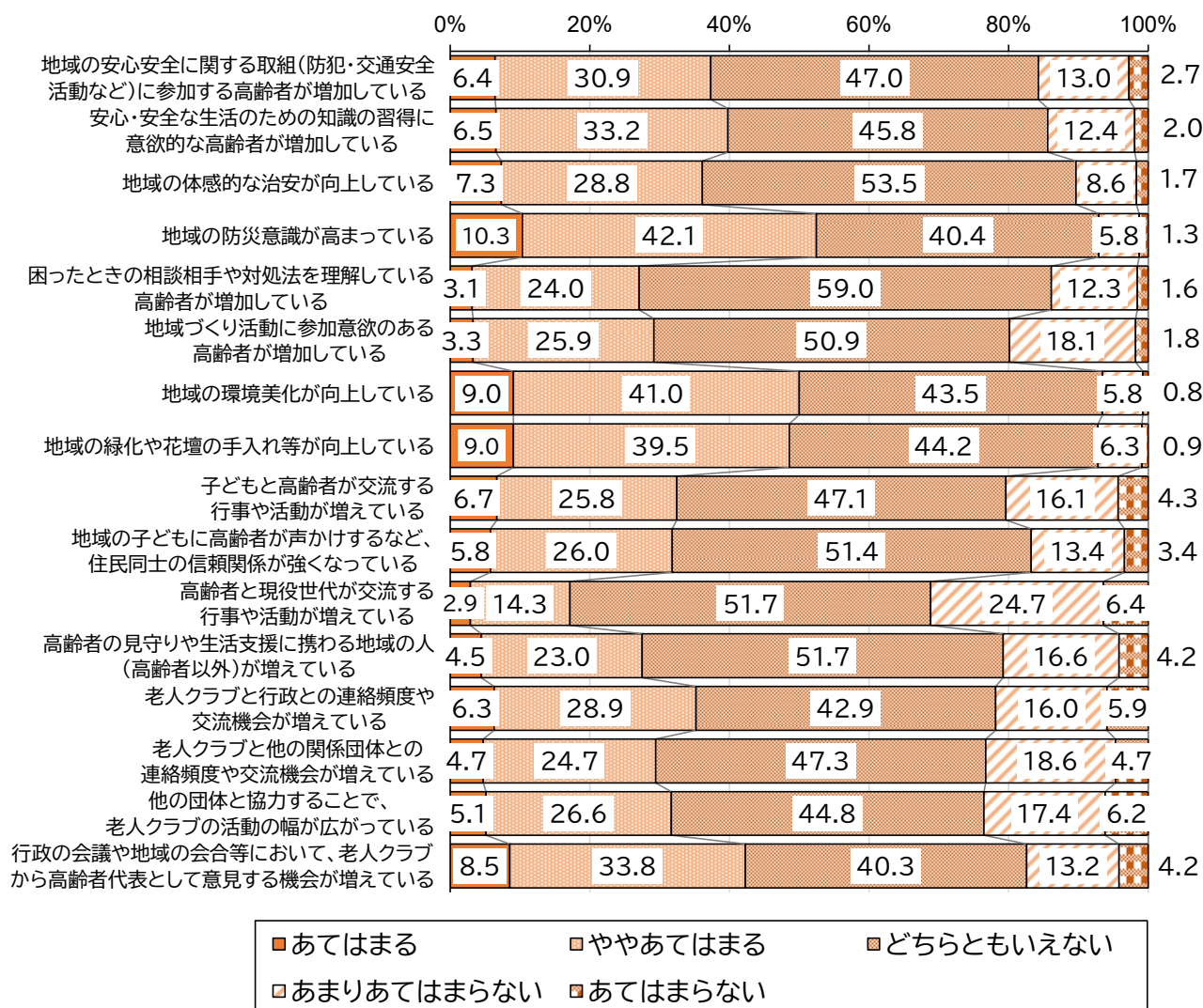
図表 3-3-6 「地域の状況の変化」に対する実感／
「高齢者の仲間づくり」に関する変化



「C 地域を豊かにする環境づくり」に関する「地域の状況の変化」の実感についての回答をみると、総じて「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計が3～4割程度となっているが、「地域の防災意識が高まっている」や「地域の環境美化が向上している」、「地域の緑化や花壇の手入れ等が向上している」などでは他よりも回答割合が高くなっている。

【市区町村老人クラブ連合会向け調査 Q1_1C_2】 地域の状況の変化に対する実感について、お知らせください。

図表 3-3-7 「地域の状況の変化」に対する実感／
「地域を豊かにする環境づくり」に関する変化



「地域の状況の変化」に対する実感についての回答に関し、すべての項目を比較すると、「あてはまる」と「ややあてはまる」を合わせた回答は、「介護予防や認知症予防に取り組む意識が高まっている」が74.3%と最も多く、「老人クラブの活動に参加したいと思う高齢者が増えている」が11.7%と最も少ない。

【市区町村老人クラブ連合会向け調査 Q1_1_2】 地域の状況の変化に対する実感について、お知らせください。

図表 3-3-8 「地域の状況の変化」に対する実感／全項目

		N値	1	2	3	4	5	あてはまる + ややあてはまる
			あてはまる	ややあては まる	どちらとも いえない	あまりあて はまらない	あてはまら ない	
A 高齢者の 生きがい・健康づく り	趣味や生きがいを持っている高齢者が増えている	764	19.2	40.6	31.4	8.1	0.7	59.8
	趣味や生きがいづくりの活動を行う場が増えている	764	16.6	37.8	32.1	11.5	2.0	54.4
	運動習慣のある高齢者が増えている(街中で運動 をしている高齢者数の印象など)	764	11.5	45.2	32.5	8.9	2.0	56.7
	運動機能の低下した高齢者が減っている(身の回 りの歩行困難等の高齢者数の印象など)	764	4.6	19.4	56.7	16.4	3.0	24.0
	日常生活において介護や手助けが不要な、元気な 状態を維持している高齢者が増えている	764	6.3	26.0	52.4	12.8	2.5	32.3
	介護予防や認知症予防に取り組む意識が高まっ ている	764	20.9	53.4	23.4	1.8	0.4	74.3
B 高齢者の 仲間づく り	学習講座など、高齢者が何かを学ぶための場が増 えている	764	12.4	42.1	32.3	10.1	3.0	54.5
	学習講座など、高齢者が何かを学ぶための場が充 実している(内容・質の充実)	764	7.2	34.8	42.0	12.6	3.4	42.0
	学習意欲の高い高齢者が増えている(講座の開催 要望の増加等)	764	8.2	31.9	44.4	13.2	2.2	40.1
	困ったときの相談相手や、友人・仲間がいないと 思われる高齢者が減っている	764	3.1	20.8	59.7	13.7	2.6	23.9
	自宅に閉じこもっている高齢者が減っている	764	2.1	18.8	59.7	16.0	3.4	20.9
	地元であいさつや立ち話をしている高齢者が増え ている	764	2.6	24.0	54.6	16.6	2.2	26.6
	助け合い活動への参加等、「支える側」として活動 する高齢者数が増えている	764	3.9	30.1	44.5	17.7	3.8	34.0
	老人クラブの活動に参加したいと思う高齢者が増 えている	764	1.4	10.3	34.4	37.3	16.5	11.7
	高齢者の居場所や集まる場が増えている	764	4.7	32.7	42.0	16.4	4.2	37.4
	活動への参加者や、集いの場に通う高齢者が増え ている	764	3.7	26.8	46.1	19.2	4.2	30.5
C 地域を 豊かにする 環境づくり	農作業やものづくりに取り組む高齢者が増えてい る	764	2.7	15.1	56.7	20.4	5.1	17.8
	仕事や地域活動への参加など、社会参加している 高齢者が増えている	764	7.2	34.3	42.8	13.6	2.1	41.5
	地域の安心安全に関する取組(防犯・交通安全活 動など)に参加する高齢者が増加している	764	6.4	30.9	47.0	13.0	2.7	37.3
	安心・安全な生活のための知識の習得に意欲的な 高齢者が増加している	764	6.5	33.4	45.7	12.4	2.0	39.9
	地域の体感的な治安が向上している	764	7.3	28.9	53.4	8.6	1.7	36.2
	地域の防災意識が高まっている	764	10.3	42.3	40.3	5.8	1.3	52.6
	困ったときの相談相手や対処法を理解している高 齢者が増加している	764	3.1	24.1	58.9	12.3	1.6	27.2
	地域づくり活動に参加意欲のある高齢者が増加し ている	764	3.3	25.8	51.0	18.1	1.8	29.1
	地域の環境美化が向上している	764	9.0	41.0	43.5	5.8	0.8	50.0
	地域の緑化や花壇の手入れ等が向上している	764	9.0	39.7	44.1	6.3	0.9	48.7
	子どもと高齢者が交流する行事や活動が増えてい る	764	6.7	25.8	47.1	16.1	4.3	32.5
	地域の子どもの高齢者が声かけするなど、住民同 士の信頼関係が強くなっている	764	5.8	26.0	51.4	13.4	3.4	31.8
	高齢者と現役世代が交流する行事や活動が増えて いる	764	2.9	14.4	51.6	24.7	6.4	17.3
	高齢者の見守りや生活支援に携わる地域の人(高 齢者以外)が増えている	764	4.5	23.2	51.6	16.6	4.2	27.7
	老人クラブと行政との連絡頻度や交流機会が増え ている	764	6.3	28.9	42.9	16.0	5.9	35.2
	老人クラブと他の関係団体との連絡頻度や交流機 会が増えている	764	4.7	24.7	47.3	18.6	4.7	29.4
	他の団体と協力することで、老人クラブの活動の 幅が広がっている	764	5.1	26.6	44.8	17.4	6.2	31.7
	行政の会議や地域の会合等において、老人クラブ から高齢者代表として意見する機会が増えている	764	8.5	33.8	40.3	13.2	4.2	42.3

※青色で指示している項目は、最も回答割合が低かった活動内容。赤色の項目は、最も回答割合が高かった活動内容。

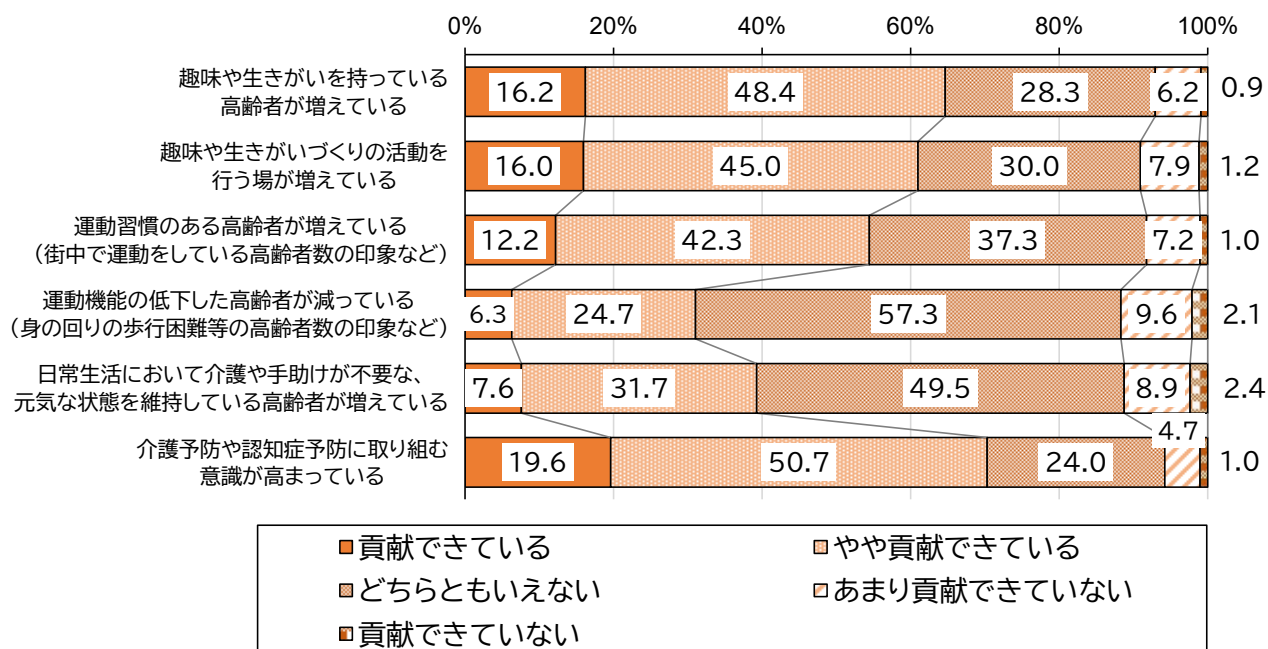
【「地域の状況の変化」に対する老人クラブの貢献度の認識】

老人クラブ連合会として、「地域の状況の変化」に対しどの程度貢献できていると感じているか、項目別に尋ねた。

「A 高齢者の生きがい・健康づくり」に関する「地域の状況の変化」への貢献度についての回答をみると、「地域の状況の変化」の実感についての回答と概ね同様の結果となっているが、「介護予防や認知症予防に取り組む意識が高まっている」については、他の項目と比べ「貢献している」という意識が高いことがうかがえる。

【市区町村老人クラブ連合会向け調査 Q1_1A_3】 地域の状況の変化に対する老人クラブの貢献度について、お知らせください。

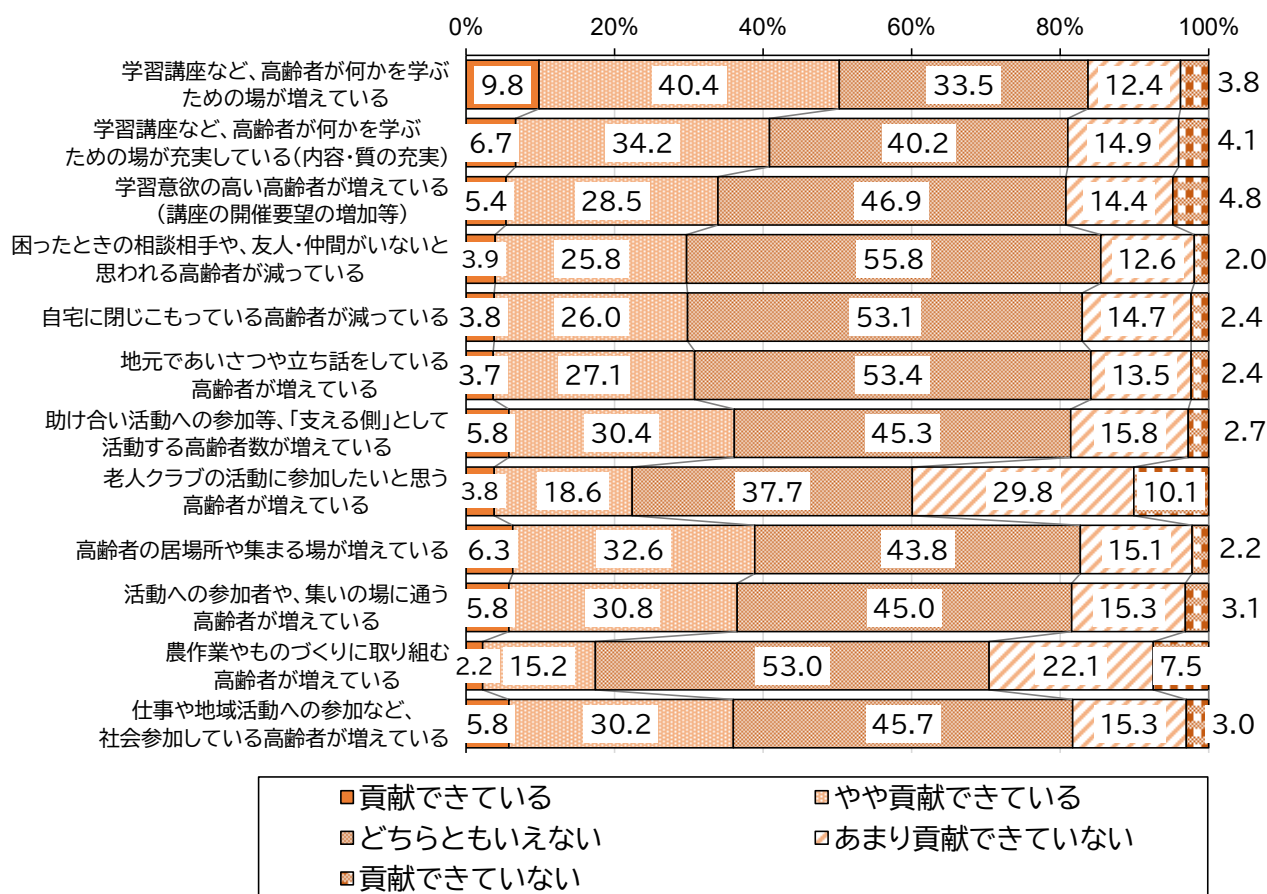
図表 3-3-9 「地域の状況の変化」に対する貢献度の認識／
「高齢者の生きがい・健康づくり」に関する変化



「B 高齢者の仲間づくり」に関する「地域の状況の変化」への貢献度についての回答をみると、総じて「貢献できている」と「やや貢献できている」の合計が3～4割程度となっているが、「学習講座など、高齢者が何かを学ぶための場が増えている」については 50.2%と、他の項目と比べ回答割合が高くなっている。

【市区町村老人クラブ連合会向け調査 Q1_1B_3】 地域の状況の変化に対する老人クラブの貢献度について、お知らせください。

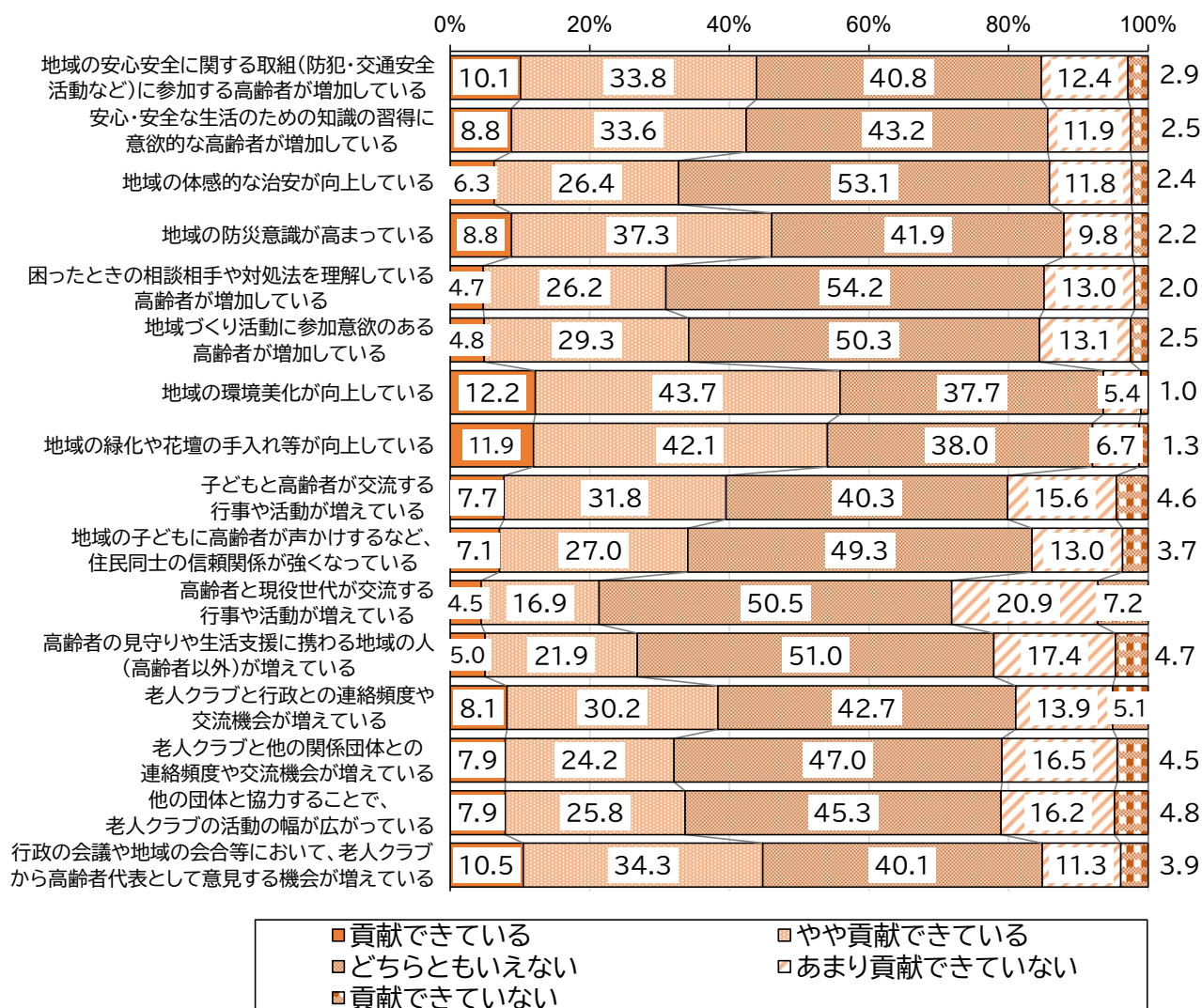
図表 3-3-10 「地域の状況の変化」に対する貢献度の認識／
「高齢者の仲間づくり」に関する変化



「C 地域を豊かにする環境づくり」に関する「地域の状況の変化」への貢献度についての回答をみると、総じて「貢献できている」と「やや貢献できている」の合計が3～4割程度となっているが、「地域の環境美化が向上している」や「地域の緑化や花壇の手入れ等が向上している」についてはいずれも約5割であり、他の項目と比べ回答割合が高くなっている。

【市区町村老人クラブ連合会向け調査 Q1_1C_3】 地域の状況の変化に対する老人クラブの貢献度について、お知らせください。

図表 3-3-11 「地域の状況の変化」に対する貢献度の認識／
「地域を豊かにする環境づくり」に関する変化



「地域の状況の変化」に対する貢献度についての回答に関し、すべての項目を比較すると、「貢献できている」と「やや貢献できている」を合わせた回答は、「介護予防や認知症予防に取り組む意識が高まっている」が70.3%と最も多く、「農作業やものづくりに取り組む高齢者が増えている」が17.4%と最も少ない。

【市区町村老人クラブ連合会向け調査 Q1_1_3】 地域の状況の変化に対する老人クラブの貢献度について、お知らせください。

図表 3-3-12 「地域の状況の変化」に対する貢献度の認識／全項目

		N値	1 貢献でき ている	2 やや貢献 できている	3 どちらとも いえない	4 あまり貢献 できていな い	5 貢献でき ていない	貢献できている + やや貢献できている
A 高齢者の 生きがい・健康づく り	趣味や生きがいを持っている高齢者が増えている	764	16.2	48.3	28.4	6.2	0.9	64.5
	趣味や生きがいづくりの活動を行う場が増えている	764	16.0	45.0	30.0	7.9	1.2	61.0
	運動習慣のある高齢者が増えている(街中で運動 をしている高齢者数の印象など)	764	12.2	42.3	37.3	7.2	1.0	54.5
	運動機能の低下した高齢者が減っている(身の回 りの歩行困難等の高齢者数の印象など)	764	6.3	24.7	57.3	9.6	2.1	31.0
	日常生活において介護や手助けが不要な、元気な 状態を維持している高齢者が増えている	764	7.6	31.7	49.5	8.9	2.4	39.3
	介護予防や認知症予防に取り組む意識が高まっ ている	764	19.6	50.7	24.0	4.7	1.0	70.3
B 高齢者の 仲間づく り	学習講座など、高齢者が何かを学ぶための場が増 えている	764	9.8	40.3	33.6	12.4	3.8	50.1
	学習講座など、高齢者が何かを学ぶための場が充 実している(内容・質の充実)	764	6.7	34.2	40.2	14.9	4.1	40.9
	学習意欲の高い高齢者が増えている(講座の開催 要望の増加等)	764	5.4	28.7	46.9	14.3	4.8	34.1
	困ったときの相談相手や、友人・仲間がいないと 思われる高齢者が減っている	764	3.9	25.8	55.8	12.6	2.0	29.7
	自宅に閉じこもっている高齢者が減っている	764	3.8	26.0	53.1	14.7	2.4	29.8
	地元であいさつや立ち話をしている高齢者が増え ている	764	3.7	27.1	53.4	13.5	2.4	30.8
	助け合い活動への参加等、「支える側」として活動 する高齢者数が増えている	764	5.8	30.5	45.2	15.8	2.7	36.3
	老人クラブの活動に参加したいと思う高齢者が増 えている	764	3.8	18.6	37.7	29.8	10.1	22.4
	高齢者の居場所や集まる場が増えている	764	6.3	32.5	44.0	15.1	2.2	38.8
	活動への参加者や、集いの場に通う高齢者が増え ている	764	5.8	30.8	45.0	15.3	3.1	36.6
C 地域を 豊かにする 環境づくり	農作業やものづくりに取り組む高齢者が増してい る	764	2.2	15.2	53.1	22.0	7.5	17.4
	仕事や地域活動への参加など、社会参加している 高齢者が増えている	764	5.8	30.1	45.8	15.3	3.0	35.9
	地域の安心安全に関する取組(防犯・交通安全活 動など)に参加する高齢者が増加している	764	10.1	33.6	41.0	12.4	2.9	43.7
	安心・安全な生活のための知識の習得に意欲的な 高齢者が増加している	764	8.8	33.6	43.2	11.9	2.5	42.4
	地域の体感的な治安が向上している	764	6.3	26.6	53.0	11.8	2.4	32.9
	地域の防災意識が高まっている	764	8.8	37.4	41.8	9.8	2.2	46.2
	困ったときの相談相手や対処法を理解している高 齢者が増加している	764	4.7	26.3	54.1	13.0	2.0	31.0
	地域づくり活動に参加意欲のある高齢者が増加し ている	764	4.8	29.3	50.3	13.1	2.5	34.1
	地域の環境美化が向上している	764	12.2	43.7	37.7	5.4	1.0	55.9
	地域の緑化や花壇の手入れ等が向上している	764	11.9	42.1	38.0	6.7	1.3	54.0
	子どもと高齢者が交流する行事や活動が増してい る	764	7.7	31.8	40.3	15.6	4.6	39.5
	地域の子どもの高齢者が声かけするなど、住民同 士の信頼関係が強くなっている	764	7.1	26.8	49.5	13.0	3.7	33.9
	高齢者と現役世代が交流する行事や活動が増えて いる	764	4.5	17.0	50.4	20.9	7.2	21.5
	高齢者の見守りや生活支援に携わる地域の人(高 齢者以外)が増えている	764	5.0	22.0	50.9	17.4	4.7	27.0
	老人クラブと行政との連絡頻度や交流機会が増え ている	764	8.1	30.2	42.7	13.9	5.1	38.3
	老人クラブと他の関係団体との連絡頻度や交流機 会が増えている	764	7.9	24.3	46.9	16.5	4.5	32.2
	他の団体と協力することで、老人クラブの活動の 幅が広がっている	764	7.9	25.8	45.3	16.2	4.8	33.7
	行政の会議や地域の会合等において、老人クラブ から高齢者代表として意見する機会が増えている	764	10.5	34.3	40.1	11.3	3.9	44.8

※青色で指示している項目は、最も回答割合が低かった活動内容。赤色の項目は、最も回答割合が高かった活動内容。

② 活動から得られるやりがい、達成感

活動から得られるやりがい、達成感について、自由記述形式で尋ねたところ、主な回答として以下のようことが挙げられている。

【市区町村老人クラブ連合会向け調査 Q1_2A_1SQ】 活動から得られるやりがい、達成感

図表 3-3-13 活動から得られるやりがい、達成感（高齢者の生きがいづくり・健康づくり）

主な回答の分類	記述内容の概観
心身の健康維持・増進につながる	・運動による身体の健康維持に加え、心の健康や認知症の予防等についても効果が出ている
活動を通じて仲間ができる	・活動に参加することで人と触れ合うことができる ・活動を通じ、会員や参加者同士の仲が深まる、知り合いの輪が広がる
充実感・達成感がある	・発表会など人に見てもらえる機会があることで、活動を通じた充実感が得られる ・新しいことの学び、自身の成長を実感できる ・競技会への参加など目標を達成すること、目標に向けて練習・努力することに充実感や達成感を感じる
活動すること自体が楽しい	・集まって活動すること自体が楽しみとなっている ・参加者が笑顔になることが励みになる（運営側の視点）
生きがいができる	・活動に参加することで、日常の中での目的や生きがいができる

図表 3-3-14 活動から得られるやりがい、達成感（高齢者の仲間づくり）

主な回答の分類	記述内容の概観
活動を通じて仲間ができる	・活動に参加することで、人と触れ合うことができる ・活動を通じ、会員や参加者同士の仲が深まる、知り合いの輪が広がる
孤立化の防止につながる	・孤独感が解消できる ・閉じこもりや孤立化の防止につながる
活動すること自体が楽しい	・集まって活動すること自体が楽しみとなっている ・参加者が笑顔になることが励みになる（運営側の視点）
地域との関係が強化される	・地域の住民（高齢者以外を含む）との接点が増える ・地域の中に知り合いが増える
充実感・達成感がある	・仲間と活動することで、生活の充実感が高まる

図表 3-3-15 活動から得られるやりがい、達成感（地域を豊かにする環境づくり）

主な回答の分類	記述内容の概観
地域の役に立っている	・ 地域の環境づくりに貢献できる ・ 地域の美化や緑化、交通安全や見守り等の活動で地域の人に喜ばれている
地域との関係が強化される	・ 活動を通じ、町内会やその他の団体との連携が強まる ・ 高齢者以外の世代との交流ができる ・ 地域の一員としての意識が高まる
充実感・達成感がある	・ 花壇がきれいにできたり、地域の環境がよくなっていることが実感できると達成感が得られる ・ 地域の清掃など、活動をやり遂げたことによる充実感が得られる
地域の人から感謝される	・ 活動中に声をかけられたり、地域の住民から「ありがとう」と言われると励みになる
活動を通じて仲間ができる	・ 活動に参加することで人との交流が生まれ、仲間ができる ・ 活動中に話をするなどして、関係が深まる

③ 活動の課題、問題点と感ずること

活動の課題、問題点について、自由記述形式で尋ねたところ、主な回答として以下のようなことが挙げられている。

【市区町村老人クラブ連合会向け調査 Q1_2A_2SQ】 活動の課題、問題点と感ずること

図表 3-3-16 活動の課題、問題点と感ずること

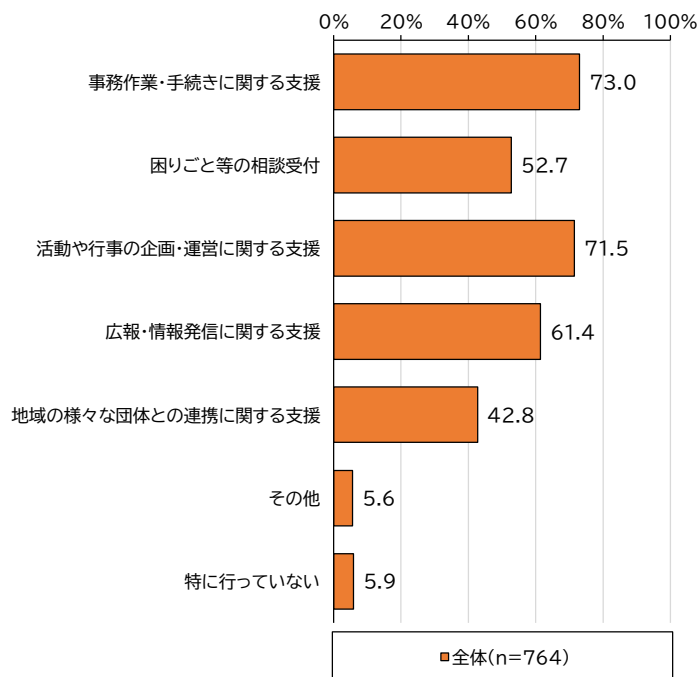
主な回答の分類	記述内容の概観
会員数・活動参加者の減少	・ 会員数や活動への参加者数が減少している ・ その結果、活動規模の縮小やクラブの休止・解散といった問題も生じている
会員の高齢化、顔ぶれの固定化	・ 新規入会が増えないことによりメンバーが固定化し、世代交代が進まないことから徐々に高齢化が進行
新規入会の減少・伸び悩み	・ 定年や再雇用の延長などにより、前期高齢者など比較的若い世代に仕事をしている人が増え、老人クラブに参加する余裕がないことなどを背景に、新規入会が進まない ・ 老人クラブ以外の活動の場やサービスが以前より充実していることも影響し、地域のクラブに参加したいという若い高齢者が減少している
担い手・後継者の不足	・ クラブの役員など、活動の担い手や世話役のなり手・後継者が不足しており、今後の運営に不安がある
活動内容の縮小、マンネリ化	・ 会員の高齢化や活動参加者・担い手の不足等により、従来の活動ができなくなるなどして活動の幅が狭まり、例年と同じことを続ける以上の活動が難しくなっている

④ 単位老人クラブに対する支援

単位老人クラブに対して行っている支援について尋ねたところ、「事務作業・手続きに関する支援」が73.0%と最も多く、次いで「活動や行事の企画・運営に関する支援」が71.5%。

【市区町村老人クラブ連合会向け調査 Q2_1】 貴会では、単位老人クラブに対して以下のような支援を行っていますか。

図表 3-3-17 単位老人クラブに対する支援

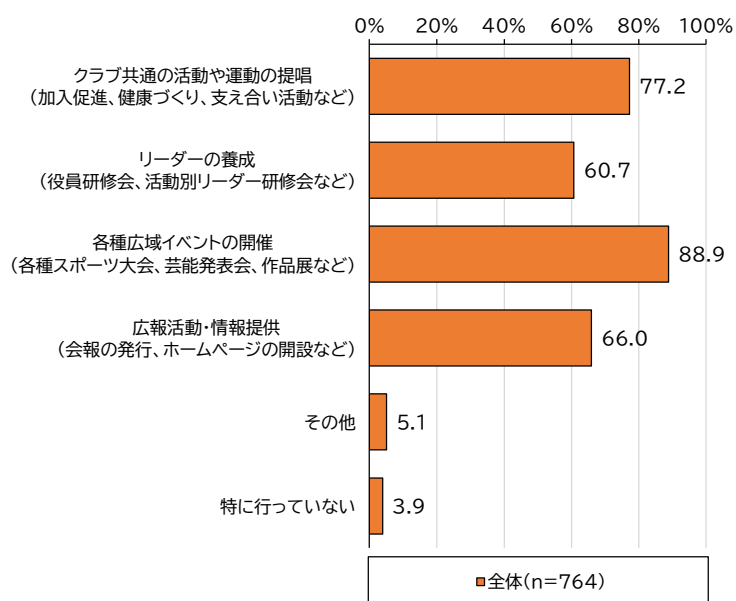


⑤ 単位老人クラブの活動推進をはかるための事業

単位老人クラブ活動の推進をはかるためにどのような事業を行っているかを尋ねたところ、「各種広域イベントの開催（各種スポーツ大会、芸能発表会、作品展など）」が 88.9%と最も多く、次いで「クラブ共通の活動や運動の提唱（加入促進、健康づくり、支え合い活動など）」が 77.2%。

【市区町村老人クラブ連合会向け調査 Q2_2】 貴会では、単位老人クラブ活動の推進をはかるためにどのような事業を行っていますか。

図表 3-3-18 単位老人クラブ活動の推進をはかるための事業



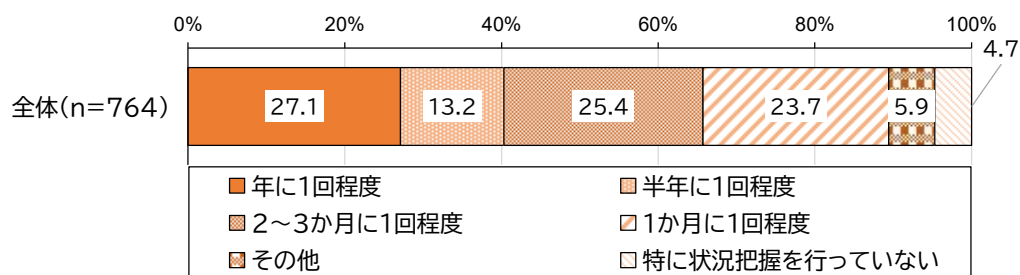
⑥ 単位クラブとの連絡状況

【単位クラブの状況把握の頻度】

単位クラブの状況について、どの程度の頻度で把握しているかを尋ねたところ、「年に1回程度」が27.1%と最も多く、次いで「2～3か月に1回程度」が25.4%。

【市区町村老人クラブ連合会向け調査 Q2_3A】 単位クラブの状況について、どの程度の頻度で把握していますか。

図表 3－3－19 単位クラブの状況把握の頻度

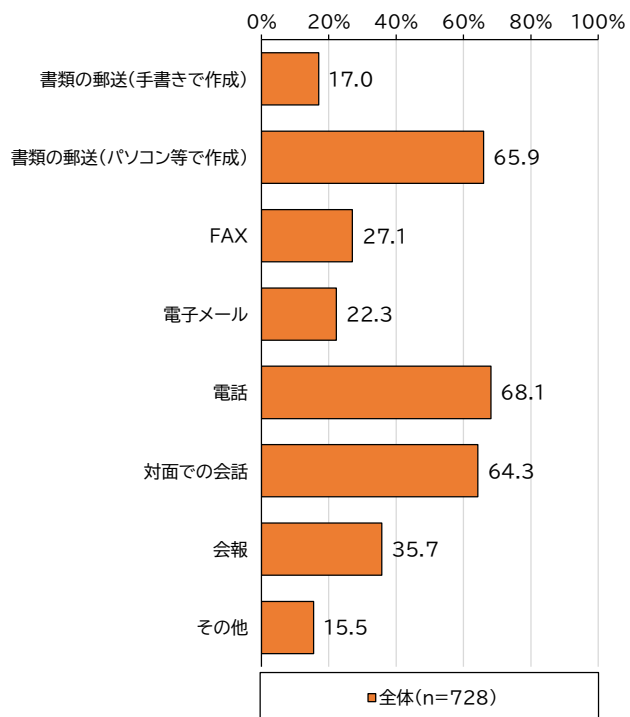


【単位老人クラブとの連絡・活動の情報共有等の方法】

単位老人クラブとの連絡や、活動の情報共有等に用いている方法について尋ねたところ、「電話」が68.1%と最も多く、次いで「書類の郵送（パソコン等で作成）」が65.9%。

【市区町村老人クラブ連合会向け調査 Q2_3B】 単位老人クラブとの連絡や、活動の情報共有等に用いている方法について教えてください。

図表 3－3－20 単位老人クラブとの連絡・活動の情報共有等の方法

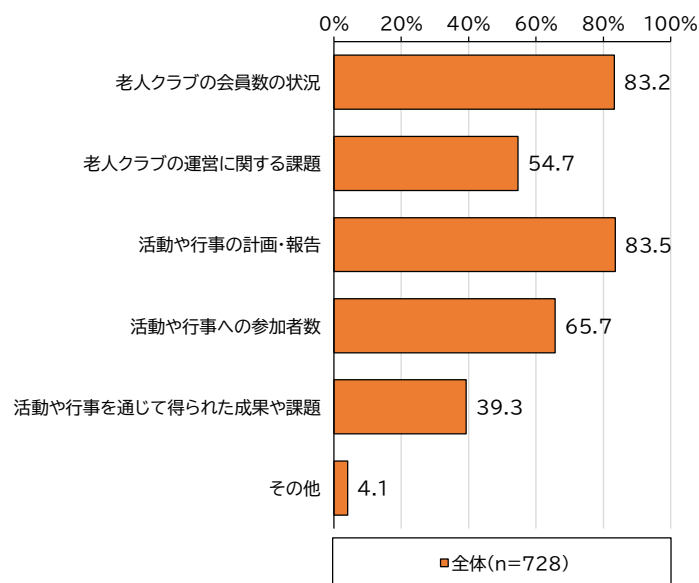


【単位老人クラブとの情報共有の内容】

単位老人クラブとの情報共有の内容について尋ねたところ、「活動や行事の計画・報告」が 83.5%と最も多く、次いで「老人クラブの会員数の状況」が 83.2%。

【市区町村老人クラブ連合会向け調査 Q2_3C】 単位老人クラブとの情報共有の内容はどのようなものですか。

図表 3-3-21 単位老人クラブとの情報共有の内容



4. ヒアリング調査結果

(1) ヒアリング調査の実施概要

① 調査目的

全国の地方自治体（市区町村）における老人クラブとのコミュニケーションや活動支援、老人クラブの活動内容の把握や見直し等に関する現状や課題等を把握することを目的に、アンケート調査よりもさらに詳細な実態把握を行うため、各自治体の老人クラブ事業担当者、及び老人クラブ関係者を対象としたヒアリング調査を実施した。

なお、ヒアリング調査の際には老人クラブの活動に関する振り返りシートの検討案を持参し、その内容や使用方法等についての意見聴取もあわせて行った。

② 調査対象

ヒアリング調査の対象となった自治体等については以下のとおりである。なお、調査対象については自治体の規模のバランスや現地での老人クラブの活動等の情報を考慮しながら、有識者研究委員会における委員の意見等も踏まえて選定した。

地域	調査対象	実施方法	備考
神奈川県横浜市	横浜市役所	現地訪問	
	横浜市老人クラブ連合会	現地訪問	
大阪府堺市	堺市役所	現地訪問	両者のヒアリングを同時に実施
	堺市老人クラブ連合会	現地訪問	
千葉県松戸市	松戸市役所	オンライン	両者のヒアリングを同時に実施
	松戸市内の老人クラブ	オンライン	
島根県松江市	松江市役所	現地訪問	
	松江市老人クラブ連合会	現地訪問	
滋賀県長浜市	長浜市役所	オンライン	
	長浜市内の老人クラブ	オンライン	
大分県臼杵市	臼杵市役所	現地訪問	両者のヒアリングを同時に実施
	臼杵市老人クラブ連合会	現地訪問	

(2) ヒアリング調査結果

① 事例1：神奈川県横浜市

【自治体へのヒアリング】

■ ヒアリング概要

ヒアリング実施日	2025年2月6日（木）13:00～14:30
ヒアリング実施方法	対面でのヒアリング（場所：横浜市役所）

■ 自治体概要：2024年9月30日現在（人口は住民基本台帳人口を記載）

総人口	3,754,044人	高齢化率	25.1%
高齢者人口	941,316人	第1号被保険者の要介護要支援認定率	20.1%

■ 地域内の老人クラブ概要：2024年4月時点

地域内連合会	横浜市老人クラブ連合会、区老人クラブ連合会(18区)		
単位老人クラブ数	1,357団体	全体単位老人クラブの会員数合計	82,511人

老人クラブの活動内容に関する情報収集・情報共有の現状

■ 行政の関わり方・老人クラブとの関係性

- 単位老人クラブとのコミュニケーションについては、補助金を通じたやり取りが基本となるが、個別にはあまり接点は持っていない。補助金は、行政から横浜市老人クラブ連合会（市老連）を経由して各区の老人クラブ連合会（区老連）・単位老人クラブに交付される。なお、市老連に未加入の単位老人クラブも存在しているが、こちらについては区役所が窓口となり、行政から直接補助金を交付する形となっている。
- 補助金の要綱に、活動の方向性・取り組むべき内容を提示しているが、老人クラブは自主的な活動を行う組織であるため、行政から活動内容について強制するような対象ではないとの認識のもと、行政としては少し距離を取っており、個別の活動については特に関与していない。
- 市老連が区老連をまとめる形となっているが、区老連や単位老人クラブが市老連の傘下にあるという認識ではなく、市老連・区老連はそれぞれ中間支援組織的な位置づけである。今のところ大きな問題が起きていないため、行政（市役所・区役所）は老人クラブの活動に対し、補助金等の後方支援を行う役割となっている。

■ 老人クラブとのコミュニケーションの現状

- 老人クラブの活動に関し、市役所の主なコミュニケーションの相手は市老連であり、単位老人クラブと直接やり取りする機会はあまりないため、個別の活動計画等について、市役所が知る機会はあまりないのが現状。市老連に未加入の単位老人クラブについては、区役所が直接やり取りをするため、ある程度状況を把握しているようである。
- 市役所として、老人クラブの組織としての重要性は理解しており、地域の担い手になっていただきたい。行政側で取り組んでもらいたいと考えている内容に合致した活動等を実施しているクラブについては、市老連を通じて好事例を聞き取り、国の表彰事業への推薦等に情報を活用している。

■ 老人クラブの活動に関する課題認識

- これまで、老人クラブは個別に自主的・自由に活動を進めてきているが、その結果、各クラブでの活動内容が外部から分かりづらくなり、仲間内の組織になってしまっている点は課題であるように思う。
- 老人クラブの活動自体は自主的なものであるが、活動費が補助金（公金）で賄われている状況であることから、行政運営の適切性の観点に基づき、ある程度は活動内容に関する確認や評価が必要になるのではないかと考える。
- 実際、市内でも老人クラブへの補助金交付にあたり、その効果や意義についての説明が求められている。横浜市はクラブの規模も大きいので、老人クラブ関連の補助金として3億円（うち市費1億円以上）を支給していることから、高齢者自身のみならず地域社会にも有効な活動をしている組織・活動であることは示していく必要があるのではないかと考える。

自治体の福祉施策・政策への老人クラブ活動の結び付けや、高齢福祉に関する事業計画等における老人クラブとの連携・協働に関する位置づけ等に関する取組状況

■ 老人クラブの活動の施策への位置づけ

- 横浜市の高齢者福祉施策において、老人クラブは高齢者の生きがい・介護予防につながる活動として位置づけている。元気高齢者がそのまま健康を維持して生活できるようにするための活動としての位置づけである。他方で、元気高齢者は自主的に活動ができる人とも言えるため、元気高齢者のみならず広く高齢者、あるいは地域社会への効果を意識する必要がある。
- 老人クラブでの活動を通じて、「会員自身の健康増進や仲間づくりにつながり、活動を通じてできた仲間・組織が自治会等の他地域団体と結びつき、見守り活動を実践して、子どもを含む地域の人の安全を守っている」という効果の波及もあると考えられる。そこで、老人クラブにおける、地域社会にも有益な活動について、市の高齢者保健福祉計画内のコラム等で紹介し、その意義を示している。例えば、交通手段が不便な地域において、老人クラブが中心となって移動販売を実施している事例では、老人クラブに加入することが難しい人にとっても、活動を通じてメリットが得られている点を示す。
- ただし、すべての老人クラブが同様の活動をしているわけではなく、市老連も単位老人クラブに対して活動内容を指示することは難しいとの見解である。現状は好事例の紹介までであり、市の福祉施策における老人クラブの活用・連携については、その位置づけがあまり具体的ではない。加えて、補助金に関連して市内で周知・説明することはあるが、一般の地域住民に老人クラブの活動の好事例やその効果に関する情報が広まっている状況ではない。

■ 地域への情報発信・周知啓発にあたっての協働

- 横浜市の老人クラブには、8～9万人の会員がいるため、老人クラブは市の取組や情報の周知啓発にあたって重要なセクターである。例えば、介護予防事業の活動に老人クラブも参画してもらうことで、参加者が数十人単位で増加する。また、周知啓発したい情報を市老連の会合等で説明することで、単位老人クラブ内でも共有され、8～9万人に情報を届けることができ、発信手段として有効である。このように、行政としては情報を普及するための重要な連携先として捉えている。
- 現在、情報共有はすべて市老連が窓口となっている。なお、市内の他局からの相談事項・情報発信の要望があれば、所管している高齢健康福祉課経由で市老連と連絡を取っている。

■ 他自治体や国との情報共有

- 政令指定都市の間では、補助金に関する情報交換は毎年行っている。しかし、老人クラブとの具体的な関りや活動内容、老人クラブに関する施策等については特に情報共有はしていない。各地域の文化もあり、行政がそこまで深入りはしていないのが現状。
- 老人クラブの活動に関する都道府県や国とのやり取りは市老連が行っており、市役所は関与していない。

活動の企画・運営や振り返りに関する、他の主体との連携やコミュニケーションの状況

■ 活動内容に関する報告・コミュニケーションの現状

- 先述のとおり、各单位老人クラブの活動に関する情報は具体的には把握できていない。そのため、他局から活動に関する相談があっても、老人クラブでそれが実施できるかの判断ができないこともある。
- 現状、単位老人クラブは自主・独立した組織として動いており、市役所としても周知啓発の依頼で関わる他には接点がありません。市老連も補助金関連や要望がある際にコミュニケーションを取ることが基本となっており、日々の活動内容に関する報告や情報共有を行う機会はあまりないのが実情である。
- 市老連からは、各クラブを支援しているとの報告はある。しかし、市老連の職員は 10 名程度であり、個別の対応を行っていくには限界がある。また区老連についても取組状況にばらつきがあり、活動を統率していくことが難しいところもあるのが実情である。

■ 振り返り・情報把握における課題

- クラブ数や会員数の増加に向け、活動内容や加入条件等の情報を一元化して、加入希望者に周知できるように考えている。これと関連して、市老連でも各クラブでの活動内容を調査している。
- 好事例の紹介にとどめていることからもうかがえるように、市老連からあれこれ指示をすることで、単位クラブが煩わしく思ってしまうことを懸念し、これまで活動内容についてはあまり踏み込まないようにしてきた。しかし、行政としても老人クラブについて対外的な説明が求められることがあるため、社会的意義を把握することは課題のひとつである。

「振り返りシート(案)」の構成や記載項目等に関するご意見(より実用的なものとするために必要な改善点等)

■ 振り返りシートを通じて老人クラブ側に期待されるメリット・効果

- 振り返りシートを通じて、単位老人クラブも自分たちが地域に貢献していることを実感した方が活動も活発になる、やる気を向上させることにつながるのではないかと。ただし、これを単位老人クラブだけで作成することは難しく、やってくれない場合もあると思われるので、市老連の関与のもと、一緒に振り返り作業が実施できると良い。横浜市の場合、市老連経由で補助金を交付している他、事務局職員もいるため、ある程度主導的に協働していけるのではないかと。
- 単位老人クラブの中には活動計画を立てているところも見られるが、このような事例は多くないと思われる。単位老人クラブの代表者の人柄・意向によるところが大きいのではないかと。計画を作成している単位老人クラブでは、会員に対して“やらせる”というイメージではなく、“こういうことをやってみよう”、“去年はこれで失敗したから来年に活かそう”といった雰囲気を作り、自発的に取り組むようにしていると聞いている。
- 単位老人クラブの会員数は平均 40～50 人であり、組織的に集まって振り返りや計画を立てるポテンシ

ヤル自体はあると思われる。個人に対するアンケートとしては項目数の多さ等がネックになるが、クラブ単位で記入するシートであると誘導できれば、集まるきっかけや議論のネタとしても活かされるのではないかな。

■ 振り返りシートを通じて行政側に期待されるメリット・効果

- 各クラブの地域への貢献の詳細が統計的に分かると、効果的な点、期待できない点を整理し、行政が力を入れる施策を判断する材料になる。現在は、実態が分かっているがゆえに、行政がやってほしいことを言いたい放題になっている可能性がある。どのような活動意向があるのか、人員や資金は足りているのか等が見えていないなかで、老人クラブの活動を社会的意義と結び付けて補助金を確保している状況である。
- 現状とのミスマッチが起きていれば、シートを通じて視覚化される。行政の意図を実行できているか、どのクラブにヒアリングをするか、どこに予算を付けるかの判断ができるようになるかもしれない。
- 現状では各単位老人クラブの活動内容を吸い上げる手段がないが、振り返りシートがあれば、資金面以外の視点での現状や課題について聞くことができるのではないかな。行政からのソフト面での支援の検討にもつながると思われる。
- 「生きがいづくり・健康づくり」や「仲間づくり」は老人クラブとしても取り組んでいる意識があるだろう。「地域を豊かにする環境づくりに関する活動」は、行政としても気づきを得やすい点である。地域への貢献性がある活動として胸を張って説明しやすくなる。
- 項目がある程度細かいからこそ、どういった活動をしているか、より気づきやすいのではないかな。行政が老人クラブの活動に意識を向けるきっかけにもなると思われる。

■ 振り返りシートの運用に関する課題

- 単位老人クラブにおいて、年1回、振り返りシートを活用して活動の振り返りや見直しを行うことは可能だと思うが、市老連がどの程度関与できるかが課題ではないかなと思われる。横浜市内には単位老人クラブ数が約 1,300 あり、各区 70~80 クラブが活動している。振り返りの時期も年度末に集中するであろうことから、市老連がすべての単位老人クラブの情報管理・支援を行うことは難しい。
- 各単位老人クラブでの振り返りを促しつつ、一部クラブを抽出して市老連が支援しながら振り返りを行うことが現実的である。なお、現状では事例紹介や聞き取りなどについては市老連も協力しやすい、活動が盛んなクラブを対象とすることが多く、やや偏りが見られるが、各単位老人クラブで記載した振り返りシートの内容を踏まえて、クラブを抽出するようにすれば、現状よりも多様な話が聞けるだろう。
- 行政としても、良い活動ばかり報告を受けていると、どの老人クラブに過大な期待をしてしまうが、実態は一部クラブしか実施できていないということもある。振り返りシートの活用にあたっては、好事例の活動以外も抽出し、振り返りの支援をすることが望ましい。

■ コミュニケーションの方法と課題

- 市老連とはメールでやり取りをしている。ただ、区老連からは例えば「ホームページがないため支援が欲しい」という相談を受けている等、インターネットを十分に活用できていないのが現状である。当然、60歳以上が加入する老人クラブにおいて高齢化も進んでいるため、中心メンバーは70歳後半となる。
- 現在の単位老人クラブの運営を担っている方々は、現役時代もインターネットを活用していなかった世代でもあり、IT化はあまり進んでいない印象である。
- 市老連は、情報を集約してデータ化する能力はあると思うが、マンパワーに問題がある。実際に振り返り

シートを活用する場合は、電子データとして収集・整理したいが、そこまで実施できるかは懸念がある。紙媒体のシートで情報を集める場合には、データ化する人材の確保が課題となる。

老人クラブの活動や自治体の福祉施策に関する理解促進、情報発信等への取組状況

- イベントや表彰事業等については、市役所からもある程度情報発信をしている。ただし、ルーティン的に行っている情報発信以外での、老人クラブの理解促進を図る支援はあまり行われていない。これは情報共有があまり進んでおらず、各单位老人クラブでの活動を把握していないことが要因となっている。
- 予算の確保や補助金申請の時期には市老連との連絡も多い一方、各年度の活動が始まると、活動計画や進捗についての共有の機会は少ない。単位老人クラブの活動状況に関する情報共有が適宜できるようになると、市役所としても安心して情報発信ができると思う。

老人クラブ連合会へのヒアリング

■ ヒアリング概要

ヒアリング実施日	2025 年 2 月 27 日（木）13:00～15:00
ヒアリング実施方法	現地訪問

■ 老人クラブ連合会の組織概要

- 横浜市(以下「市」)の OB が3人、プロパー7人の体制で、事業課と総務課に分かれている。
- 横浜市老人クラブ連合会(以下「市老連」)は各区の老人クラブ連合会(以下「区老連」)を窓口として単位老人クラブを支援しているという位置づけである。区老連は任意団体、市老連は公益財団法人であり、市を含め3者の役割や立場において上下関係はない。
- 区老連の事務所は各区の社会福祉協議会(以下「社協」)に設置されているケースが多く、18 区合わせて約 46 人の職員がいる。職員とは別に、単位老人クラブから選出されたメンバーが会長・副会長など役員として活動している。区老連の事務所はかつて各区役所に設置されていたが、社協に移管されたケースが多い。
- 区老連の中に、連合町内会とほぼ同一のエリアに設定された地区連合会が存在する。区老連の定例会は地区連合会単位の会長が参加する会議となっている。
- 単位老人クラブは、基本的に町内会に一つ存在するようなエリア設定となっている。しかし、現在では市内に町内会が約 2,800 あるのに対し、老人クラブは約 1,400 である。
- 様々な事情で区老連に加盟していない独立系の老人クラブがあるため、すべての単位老人クラブの状況が把握できているわけではない。

■ 老人クラブ連合会の役割

- 市老連では、単位老人クラブや区老連に対し、市からの補助金を分配する役割を担っている。
- 各単位クラブの状況整理などは区老連に整理してもらい、それを市老連で取りまとめ、市老連から市に伝えている。

老人クラブの活動における企画検討や目標設定の実施方法

■ 補助金交付の流れ

- 4月内に区老連から集約される各単位クラブの会員数に基づき、6月末頃に補助金を単位老人クラブに交付している。交付額については、概ね会員数 10 人ごとに段階を設けており、人数の多い団体には多めに配分している。
- 区老連の活動に対しては、年4回に分けて補助金を交付している。
- 市老連を介した補助金交付の対象となる老人クラブの要件として、金融機関の口座が開設できていること、会員・会則が存在すること、区老連に加入していることの3つが主な条件となる。これら3つの条件を満たすことで、単位老人クラブとしての情報が区老連から市老連に共有されるようになる。

活動の振り返り～活動内容や目標の更新・修正等の検討をどのように行っているか

■ 単位クラブの活動内容の把握

- 単位クラブの事業計画と前年度の決算については、区老連が取りまとめと確認を行っており、その結果が市老連にて集約されている。
- 市老連は実態調査(監査)として年1回活動状況の確認を行っているが、市内に約 1,400 ある単位クラブのすべてを確認できるわけではなく、一部を抽出して確認する形となっている。
- 市老連では補助金交付時点での事業計画等の確認は行っていない。事業計画等を市老連で確認するのは、監査や委員会開催等のタイミングに限られる。

活動の企画・運営や振り返りに関する、他の団体(市区町村、社会福祉協議会、自治会・町内会等)との連携・協働の状況、及び日頃のコミュニケーションの状況

■ 区老連との連携・協働や日頃のコミュニケーション

- 単位老人クラブの活動上の課題等の相談については区老連が対応しており、単位老人クラブからの相談が直接的に市老連に寄せられることは、基本的にはない。
- 市老連では、各区の老連の代表を数人集め、老人クラブの活性化を検討する「プロジェクト会議」を3年前ごろから開催している。これは老人クラブへの加入者数の減少、老人クラブの活動への参加者減少といった背景から始められたプロジェクトである。
- 単位老人クラブから区老連、区老連から市老連という情報伝達経路は存在しているため、単位老人クラブに市老連から情報を提供することは可能である。ただし、内容によっては区老連と市老連の間で情報提供の意図や認識に相違が生まれることはある。区老連は各区で活動状況等が異なっており、画一的な存在ではない。

■ 市区町村との連携・協働や日頃のコミュニケーション

- 単位老人クラブ・区老連における相談対応は活動内容に応じて、主に各区役所の担当部署が窓口となっている。

■ 町内会との連携・協働や日頃のコミュニケーション

- 単位老人クラブは町内会とほぼ同一エリア内で活動している。双方が同一のメンバーで円滑に運営できているクラブや町内会もあれば、情報共有等に課題を抱えているクラブ・町内会も存在する。また、どちらも任意加入の組織であるため、状況が変化しやすい。
- 中には町内会から補助金をもらって活動している単位老人クラブも存在している。そういったクラブの場合、町内会のエリア外からのメンバー加入は難しい場合もある。

■ その他組織との連携・協働や日頃のコミュニケーション

- 数年前に市老連創立 60 周年を記念して、孤立防止に向けた地域連携をテーマにして座談会を実施した。以降、民生委員と老人クラブの連携を強化するための話し合いを継続的に行っている。
- 民生委員、老人クラブ双方とも、自らの組織だけでは孤立の問題に対応できないという問題意識があり、組織の垣根をなくしたいと考えている。
- 一方で、民生委員の高齢化や、構成員の立場の違いといった点が今後の問題になりうる。また、老人クラブ側の希望だけでは話が進まない点も多い。

活動継続や企画～振り返り等に関して、自治体等に支援してほしいこと

■ 単位クラブ・区老連・市老連における課題・問題意識

- 長らく「友愛」という考え方にに基づき、助け合いの活動が単位クラブによって行われていたが、今は集まるだけの活動も「友愛」としてとらえられており、本来の理想とは離れているように思われる。老人クラブの活動の意義について、孤立の防止という意識が薄く、孤立・孤独を老人クラブの活動の対極にあるように感じている人が多い傾向にある事は、問題であると感じる。
- 単位老人クラブの会長職をはじめ、活動を支える人の確保は課題である。責任や負担を負いたくない人が多くなっているということだと思うが、責任や負担なしに気楽に集まれる活動も必要かもしれない。または、会長一人に責任や負担が一任されるのではなく、複数人がその役を担う世話人会のような形で、負担と責任を分担できるような仕組みも必要ではないか。
- 単位老人クラブの活動において、メンバー同士の話し合い・コミュニケーションは非常に大切である。したがって集まりの場のお茶代は非常に重要な費用なのだが、老人クラブの活動予算で賄える範囲には限りがある。
- 単位老人クラブの活動は、地域に求められていなければ地域貢献にはならない。一つの単位老人クラブではできないことを、実現できるように動くというのが、連合会等の中間組織の在り方だと思う。

■ 自治体等に求める支援

- 活動内容・分野によって、相談先となる行政側の担当部署が異なるため、老人クラブからの相談内容が庁内でうまく共有されていないことがある。行政側の窓口を一つにする、もしくは情報共有が正しく行われることが望ましい。
- 活動の場所の確保状況は単位老人クラブによって異なっているため、地域ケアプラザと連携して活動場所を確保できるとよいと考えている。町内会との関係が良好であれば町内会館を利用可能だが、すべての単位クラブが使えるわけではない。
- 単位老人クラブの会長職を一定年数継続したら市や市老連から表彰される制度があるが、この制度が結果的に円滑な組織運営の権限移譲を妨げているケースもあるため、見直す必要があるかもしれない。かつては少数のカリスマによる組織運営が成り立っていたが、地域の状況に応じて適切な体制を考える必要がある。

「振り返りシート」の構成や記載項目等に関するご意見(より実用的なものとするために必要な改善点)

■ 運用における課題

- 市老連は単位老人クラブの活動現場からは離れていて、あまり活動現場を知る機会がない。今回提示された「振り返りシート」について、市老連では印象で回答するしかないため、回答したものを活用することも難しいのではないかと。
- 活動の目標や意義を達成できているかどうかを確認するシートになっているが、実際に活動している会員レベルでは、活動の全体像や重要な理念といった発想を持っているかどうか疑問である。市老連と関わりがある人や、区老連の役員レベルであれば回答可能かもしれない。
- 以上を踏まえると、単位老人クラブにおける活動の振り返りを行うためには、よりシンプルな内容で構成されるシートが望ましいのではないかと。

■ 活用の可能性

- 単位老人クラブでは総会等で年度の振り返りや次年度の活動計画策定を行っていると思われるが、その際に、会員からのニーズを吸い上げるためのツールとして使えるかもしれない。限られた役員で回答するのではなく、会員みんなで、楽しみながら考えられるツールとした方がよい。
- 単位老人クラブでできる活動の全体像を見せ、今までやっていないことに挑戦してもらえるように仕向けることが重要ではないか。例えばどの活動ジャンルが今の老人クラブに欠けているか、レーダーチャートで示すことも考えられるのではないか。各単位老人クラブが将来像を組み立てられるようにすることが大事である。
- アンケートを定期的実施すると、単位老人クラブは手間を感じてしまう。老人クラブが重視しているのは、「会員が楽しめているかどうか」、「会員のニーズを満たせているか」という2点であり、ここを確認するのが限界ではないか。むしろ、この2点を満たせば単位クラブの活動は続けられるのではないかと思う。

■ 自治体との協働の可能性

- 行政の役割として、単位老人クラブが頑張っているところ、頑張してほしいところを評価することが大事だと考える。「振り返りシート」は、単位老人クラブの活動の幅、活動の可能性を広げるために、プラスの評価をするためのシートとして使われるべきではないか。

老人クラブの活動に関する理解促進、情報発信等への取組状況

- 老人クラブの「見える化」には、単位老人クラブの活動領域の広がりを「クラブ内部に見えるようにする」方向と、「外部に単位クラブの活動の価値を見せる」方向、その両方があったほうがよい。外部からは、高齢者が集まって話したり、ゲートボールをしたりしているだけの団体にしか見えていない場合もあるかもしれないが、社会的に重要な意義があるという、老人クラブの役割が周りから理解されることが重要である。

② 事例2：大阪府堺市

自治体へのヒアリング

■ ヒアリング概要

ヒアリング実施日	2025年3月11日(火)13:00~15:00
ヒアリング実施方法	対面(市老人クラブ連合会 同席)

■ 自治体概要：2024年10月1日現在（人口は住民基本台帳人口を記載）

総人口	813,053人	高齢化率	28.3%
高齢者人口	230,129人	第1号被保険者の要介護要支援認定率	25.7%

■ 地域内の老人クラブ概要：2024年4月時点

地域内連合会	堺市フェニックスクラブ(老人クラブ連合会)(1)、各行政区老人クラブ連合会(7)、校区老人クラブ連合会(64)		
単位老人クラブ数	346 団体(うち、市老連加盟クラブは262)	全体単位老人クラブの会員数合計	33,859人

老人クラブの活動内容に関する情報収集・情報共有の現状

■ 行政の関わり方・老人クラブとの関係性

- ・ 堺市(以下「市」)の担当課の課長が、堺市フェニックスクラブ(以下「市老連」)の理事の一員である。
- ・ 市から市老連、単位老人クラブ、それぞれの補助金要綱に基づき、補助金を交付している。
- ・ 補助金は構成員30人以上の単位老人クラブに交付しており、30~44名のクラブだと年間2.4万円となっている。人数に応じて割り増しがある。(45~89名で52,560円、以降50名増える毎に45,000円を上乗せ)
- ・ 単位老人クラブの数は、補助金を交付しているクラブ数でカウントしているため、構成員30人未満の小規模なクラブや補助金の申請がないクラブに関する実態把握できていない。
- ・ 申請書類は小規模な単位老人クラブの場合は簡素になるようにしている。申請手続きの負担を軽減してほしいという声はよく聞かれる。
- ・ 申請書類は各行政区の地域福祉課担当者が内容を確認し、長寿支援課も合議の際に確認している。

■ 老人クラブとのコミュニケーションの現状

- ・ 補助金の交付申請に関する手続きの相談は、一定数発生している。
- ・ 各単位老人クラブの状況を把握するような機会は市・区ともに設けていない。行政と単位老人クラブの接点は、補助金交付にかかる内容以外ではあまりないのが現状である。(市老連とのコミュニケーションはある。)

■ 老人クラブの活動に関する課題認識

- ・ 市に対して、会員数減少や役員の成り手不足によってクラブの解散を考えているといった声を聞くことはある。市は活動補助金による単位老人クラブの支援は行っているが、組織運営の助言等は市老連が対応してくれている。

- ・ 老人クラブの加入率も自治会と同様に昔より低くなっている。老人クラブの会員と自治会の会員が重複している場合もあるが、別の組織である。それぞれの団体に交付された補助金を、組織をまたいで流用することがないよう、注意喚起を行っている。

自治体の福祉施策・政策への老人クラブ活動の結び付けや、高齢福祉に関する事業計画等における老人クラブとの連携・協働に関する位置づけ等に関する取組状況

■ 老人クラブの活動の施策への位置づけ

- ・ 単位老人クラブは任意団体であるため、市が単位老人クラブに対して、高齢者福祉施策における明確な役割を担うことを計画等に定めるような記載はしていない。計画においては、高齢者の社会参加と生きがい創出を支援する施策において、老人クラブは地域社会における多様な担い手のうちの一つとして紹介している。
- ・ 市から単位老人クラブに対して画一的に何かをしてもらうよう求めることは、現在の行政と単位老人クラブの関係性、地域性の違い、クラブの活動状況の違い等の観点から難しいと感じる。市老連であれば、高齢者福祉施策の一部の担い手として位置づけられる可能性はあるかもしれない。

■ 地域への情報発信・周知啓発にあたっての協働

- ・ 市の福祉施策について、市老連で説明の上、各単位老人クラブへの情報周知を依頼することがある。
- ・ 市から市老連や単位老人クラブに対して、委託事業を発注することはないが、事業実施の際のモデルケースとしての協力を、単位老人クラブに依頼する場合がある。

活動の企画・運営や振り返りに関する、他の主体との連携やコミュニケーションの状況

■ 活動内容に関する報告・コミュニケーションの現状・課題

- ・ 市役所内の他部署からは、政策検討の委員会等に、高齢者の当事者団体として市老連の理事に参画してほしいという要望がある。

「振り返りシート(案)」の構成や記載項目等に関するご意見(より実用的なものとするために必要な改善点等)

■ シートを通じて期待されるメリット・効果

- ・ 単位クラブが自らの活動の本来の目的や社会への貢献度に気付く機会を提供するという、「振り返りシート」の意義・目的は重要であると認識している。
- ・ 行政内部であっても、老人クラブの活動が生存確認や健康づくりにつながっているという、老人クラブの趣旨や存在意義は十分に理解されていない。それを理解してもらうため、また趣旨や存在意義を言語化するためのツールとなるとよい。

■ 運用上の課題点

- ・ 単位老人クラブのメンバーではシートの記入が難しい場合に、市役所、区役所で記入を手伝うといった対応は難しいと考える。
- ・ 「振り返りシート」の運用を自治体が支援すること場合は、市から作成をお願いする資料という位置づけになると考える。行政関連の義務的な書類と受け取られ、回答への抵抗があったりハレーションがおきたり

することも想像される。

- クラブによってはレクリエーションを主目的としている場合も多く、そのようなクラブにとってはシートを作成する意義があまりなく、記入に協力いただけたとしても「よくわからない」という回答となると推察する。その場合、活動に積極的かつ地域貢献等の意識を明確に持っているクラブに、回答が偏ってしまう可能性があるのではないかと。
- すべての各単位クラブで活用するには、負担が大きく、シートの提供だけでは、実効性を確保するのが難しいと感じた。
- シートの位置づけを明確にしておく必要がある。（市や市老連の調査シートなのか、各単位クラブで活用いただけるツールとするのかなど。）

老人クラブへのヒアリング

■ ヒアリング概要

ヒアリング実施日	2025 年 3 月 11 日（月）13：00～15:00
ヒアリング実施方法	対面（自治体 同席）
ヒアリング対象	堺市フェニックスクラブ（市老人クラブ連合会）

■ 老人クラブ連合会（フェニックスクラブ）の組織概要

- 市老連は一般社団法人であり、加盟している単位クラブのメンバーが社員ということになっている。事務局は4名であり、市役所 OB 等で構成されている。
- 市老連以外に、行政区単位の連合会（以下「区老連」）、小学校区単位の連合会（以下「校区老連」）が存在する。市老連に加盟しているクラブは、自動的に区老連、校区老連にも属する形になっている。
- 区老連、校区老連の中でも会議や部会が存在しており、各団体によってその運営実態は異なる。また、各団体の代表者の決め方、任期、会則等も異なる。
- 市が補助金を交付しているクラブ数のうち約 25%は市老連に加盟していない。活動が非常に活発で市老連に加盟しなくても活動が継続できるクラブ、もしくは活動実態がほとんどないクラブにおいて、未加盟のクラブが多くなっている。

老人クラブの活動における企画検討や目標設定の実施方法

■ 単位クラブの活動内容の日常的な把握

- 単位クラブの活動内容はそれぞれの団体で決定しており、市老連では活動の方向性の統一や目標設定等はしていない。
- 区老連であれば、会員増強等に方向性を一にして取り組んでいる様子が見られる。
- 単位クラブの相談窓口は基本的に市老連となっている。参加人数の減少等の相談が多くなっている。

活動の企画・運営や振り返りに関する、他の団体（市区町村、社会福祉協議会、自治会・町内会等）との連携・協働の状況、及び日頃のコミュニケーションの状況

■ 市区町村との連携・協働や日頃のコミュニケーション

- 市老連の理事会には、市役所担当課の課長が理事として参画している。
- 単位老人クラブが補助金を申請する際は、区の職員と直接やり取りをしている。市老連では補助金に関する取りまとめ等は行っていない。
- 市老連の事務局は市の OB を中心に構成されており、人員体制という面で市のバックアップがあるといえる。

■ 町内会との連携・協働や日頃のコミュニケーション

- 単位老人クラブの活動エリアは自治会単位で設定されている場合が多い。また、校区老連単位のイベントは多いため、校区老連内での単位老人クラブは結束力がある傾向にある。
- 区老連、校区老連、単位老人クラブには固定の活動場所や事務所は存在していないため、自治会との関係性が良い団体は自治会館で活動しているケースも多い。

- 単位老人クラブの減少に伴い、住んでいる地域に参加できるクラブがないという相談は増加している。その場合は可能であれば近隣のクラブを紹介しているが、自治会単位で単位老人クラブの活動エリアが設定されているため、受け入れ側からは、金銭的な面や人間関係の面で他地域の住民の加入することに反発があるケースもある。
- 加入する際に居住地域を問わないクラブを作ることは考えていない。現在所属しているクラブとの棲み分けが難しく、クラブを組成するためのマンパワーが市老連の事務局には不足している。また、老人クラブの本来の趣旨・目的の一つである地域貢献の視点が失われることも懸念している。

■ その他組織との連携・協働や日頃のコミュニケーション

- 市老連としては、全老連や近畿老連といった組織との活動に関わっており、情報交換を定期的に行っている。ただ、堺市は政令市のため府県の連合会と同じ階層に属しているが、府県の連合会と堺市老連では規模や状況が異なるため、参考になる情報は少ない。
- 区老連、校区老連、単位老人クラブについて、外部組織との連携は、各団体の活動の積極性によるのが現状である。活発に活動している団体では、消防と連携した防災訓練や、企業と連携したスマホ教室の開催、熱中症防止の講演、病院と連携した終活に関するセミナー等の開催事例がある。
- 高齢者の健康増進という観点から、社会福祉協議会との連携は進めていかなければならないと感じているが、事務局のマンパワー不足により実現していない。民生委員についても同様である。
- 多くの単位老人クラブが、小学校の登下校時の見守り活動に協力しているが、その協力の取り決め等は各単位クラブや校区老連と学校の間で行われている。

活動継続や企画～振り返り等に関して、自治体等に支援してほしいこと

■ 単位クラブに関する課題・問題意識

- メンバーの高齢化や活動資金の不足を理由として市老連加盟クラブ数は減少している。単位老人クラブの合併も多く、校区単位で一つの単位クラブに集約した例もある。
- 解散した単位老人クラブは、財源確保や担い手確保の必要性に気付いた段階では、すでに手遅れになっていたクラブが多い。
- 近年市老連では各単位クラブに対して、担い手の育成を計画的に行っていくこと、少数のメンバーだけに役割を集中させないこと、少額でも会費を徴収すること等のアドバイスを行っている。
- 会費を徴収していないクラブは、構成員が補助金交付に必要な 30 人を下回った場合に、運営が直ちに立ち行かなくなってしまうことから、ごく少額でも会費を徴収しておくべきとアドバイスをしている。また、会費を徴収することで、参加者の団体への帰属意識が高まるという効果もある。

■ 堺市様に関する課題・問題意識、支援してほしい内容

- 区老連、校区老連からは、市に対して支援や負担軽減に関する要望・要求は多く上がっている。
- 単位老人クラブが減少しているなか、近隣住民に限定した組織でないといけないのかというのは、考える必要があると感じている。一方で、単位老人クラブは自治会とも密接に結びついており、活動や組織のルールを整理する必要があり難しさを感じている。

「振り返りシート」の構成や記載項目等に関するご意見(より実用的なものとするために必要な改善点)

■ シートを通じて老人クラブ側に期待されるメリット・効果

- ・ 事務局長の立場からするとこういうツールはありがたい。老人クラブにも PDCA のような活動の振り返りや見直しのサイクルを実施してもらう必要はあると思う。
- ・ 自分たちに足りないところ、得意なところ、というのを振り返ったり気づいたりできるツールというのは必要だと思う。期待しているような目的で利用できるのは一部のクラブに限られるかもしれないが、それでもいいのではないか。

■ 運用上の課題点

- ・ 構成員の娯楽の目的での活動が主目的になっている単位老人クラブでは、「振り返りシート」に回答する必要性がないと感じてしまうのではないか。
- ・ シートを見たときに、難しくてよくわからないという反応が多そうである。また、自分たちの活動を客観的に見られる人は多くないと考えられ、回答内容はかなり主観的なものになるだろう。「わからない」「どちらともいえない」という回答も多くなるのではないか。
- ・ 市老連の調査でも回答率は8割程度である。市老連の調査より難しい内容であるため、回答率はもう少し下がるのではないか。
- ・ 任意回答として配布した場合や、行政側から回答義務のような形で配布した場合は、回答への抵抗感があると思われる。一方で、協力を仰ぐような依頼の仕方をすれば、前向きな協力が得られる傾向にある。依頼の仕方は重要になるだろう。

老人クラブの活動に関する理解促進、情報発信等への取組状況

- ・ 市老連では年2回新聞を発行しており、単位老人クラブの活動報告を行っている。
- ・ また単位老人クラブの活動状況を、写真付きでホームページにて紹介しているが、コンテンツが不足していると感じている。
- ・ 単位老人クラブと校区老連を対象に実態調査を実施した。その事例報告会を近々実施する予定である。老人クラブの活動については、運営に課題を感じているクラブの参考になるように今後積極的に共有していきたいと考えている。

③ 事例3：千葉県松戸市

自治体へのヒアリング

■ ヒアリング概要

ヒアリング実施日	2025年2月10日（月）10:00～11:45
ヒアリング実施方法	オンラインでのヒアリング（老人クラブ 同席）

■ 自治体概要：2024年10月1日現在（人口は住民基本台帳人口を記載）

総人口	500,082人	高齢化率	25.8%
高齢者人口	128,996人	第1号被保険者の要介護要支援認定率	19.3%

■ 地域内の老人クラブ概要：2024年4月時点

地域内連合会	松戸市老人クラブ連合会(1)、支部(11)		
単位老人クラブ数	168団体	全体単位老人クラブの会員数合計	5,997人

老人クラブの活動内容に関する情報収集・情報共有の現状

■ 行政の関わり方・老人クラブとの関係性

- 毎年4～5月に、補助金申請に必要な書類として、単位老人クラブから昨年度の事業報告・決算と今年度の事業内容・予定回数等をまとめた事業計画・予算を提出してもらい、市役所にて活動内容を確認している。
- 各単位老人クラブが直接市役所に提出する形となっており、基本的には郵送での送付を依頼しているが、近隣の団体や質問等がある団体の場合は担当課の窓口へ直接来所することもある。来所している団体とは、受取の際に直接話を聞く等の情報収集も行っている。
- 市役所側では担当課の職員1～2名で対応しているが、単位老人クラブが市内に168団体あるため、毎年4～5月は、担当者が補助金申請の関連業務にかかりっきりの状況になっている。
- 事業計画に関連して、規模の大きいイベントや役員会等の会議開催等の希望がある場合は、市役所が講堂や会議室等を確保し、実施状況の確認や助言をするといった後方支援も行っている。

■ 支部を通じたより詳細な情報把握の取組

- 状況把握なくして効果的な支援はできないため、単位老人クラブを管轄している支部長からクラブの状況をヒアリングする機会を新たに設ける等、より詳細な情報把握に努めている段階である。単位クラブの管理をしている支部長が状況をどの程度把握できているかを知りたいと考え、令和7年2月に試行的にヒアリングの機会を設定した。
- 各支部では会長会（地区内の単位老人クラブの会長が集まる会合）を定期的に行い、各クラブの情報を吸い上げている。松戸市では補助金の対象とする単位老人クラブについて「会員数が概ね30人以上」という要件を設けているのだが、各支部で会員数30人を下回るクラブがあると把握された場合は、市老連も会員を増やすフォローも行っており、例えば、所属していた単位老人クラブが解散してしまい活動場所がない、どこにも所属していないといった近隣住民に声掛けをする等していると聞く。（単位老人クラブが解散し、他クラブに所属を変える人もいる一方、そのまま活動を辞めてしまう人もいる。）
- ヒアリングを通じて、支部会がどの程度フォローできているのか、自治会・町会とのつながりで人が流入している実態がある、どういった活動をしているか等を把握することができた。また、どの支部も役員が辞めると

担い手がいけないことが課題であり、その点を行政としてどうフォローできるかは今後の検討課題である。また、補助金規程の「概ね 30 人以上」を下回るクラブへの補助金交付は、行政としても検討すべき事項である。

- 行政からすると、前年度の2月末に補助金申請書類を各クラブに送付し、年度が明けた4～5月の回収段階で、初めて解散するクラブがあるという実態を知ることになる。事前に把握する必要があると考えたことも、ヒアリングを実施した理由となっている。

自治体の福祉施策・政策への老人クラブ活動の結び付けや、高齢福祉に関する事業計画等における老人クラブとの連携・協働に関する位置づけ等に関する取組状況

■ 市主催の会議体への委員としての参加促進

- 「いきいき安心プラン まつど」(高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画)では、生涯現役社会・健康寿命延伸を柱としており、「社会参加を通じた生きがいづくり」として老人クラブを位置づけ、運営や活動の支援について記載している。
- また、地域福祉計画内では、重点課題である「地域での支え合い活動の推進」のなかで、高齢者を孤立させない取組として位置づけ、「クラブの有効活用に努める」と記載している。
- 上記のような計画への位置づけのほか、市主催の会議体への委員として参加してもらう等により、地域の関係者・代表者として活躍してもらっている。その他、介護予防推進にあたり、「グリーン・スローモビリティ地域推進事業」等に積極的に関わっている会員がいる。関連して、昨年度に市内の地域公共交通計画を策定する地域公共交通活性化協議会が立ち上がっており、市老連の代表者が委員として参加している。
- その他、健康づくり推進会議、地域ケア会議、介護保険運営協議、地域福祉計画推進委員会の委員にも就任を依頼している。老人クラブは総勢 6,000 人規模で活動しており、生きがいづくり、健康づくりの観点からも、社会参加して元気に活動してもらえることは貴重であると考えており、老人クラブからのご意見を市政に反映している。

■ 老人クラブの周知啓発に関する課題意識

- 「はつらつクラブ連合会」をはじめ、老人クラブはあまり一般の人に知られていない。広報の一環として、ホームページがあった方が良いとの意見が出たが、連合会役員の中にはホームページ作成・運営の技術を持つ人材はいない。
- 老人クラブのホームページに関しては、行政もともに継続して検討を続けている。その他、市内老人クラブ共通のパンフレットを作成し、周知に活用している。
- 基本的に、行政が活動内容等について依頼や指示はせず、老人クラブが活動しやすくなるために、会場確保や広報等の行政として協力できることがあれば関与するという姿勢である。

活動の企画・運営や振り返りに関する、他の主体との連携やコミュニケーションの状況

■ 会員確保に向けた自治会・町会との連携可能性

- 町会長が老人クラブの役員を兼ねている場合もあり、そうしたクラブは町会と別組織になっているクラブよりも、活動に広がりがあることが分かってきている。
- 全国的な動向と同様、松戸市でも老人クラブは減少傾向にあり、会員の高齢化、役員の担い手不足が課題である。高齢化の影響で、活動場所まで移動できなくなるといった移動手段の問題も、参加者減少の理

由の一つとなっている。

- 地域により特色があり、30 人を上回るクラブもあれば、下回る団体もある。例えば、マンションの住人を対象とした老人クラブでは、会員は増えづらい。クラブが所属する町会内で募集しても会員が集まらないため、隣の町会からも参加できる等募集して人数を確保しているクラブもある。全体を通じて会員確保が大きな課題である。

■ 実態把握・連携における現状と課題意識

- 単位老人クラブは、支部の集まりを通じて活動を把握しているが、社会福祉協議会とも連携があるか等は、市の老人クラブ担当者においては明確に把握できていない。
- 市が管理する施設での祭りに市老連として協力してもらう等はあるが、市主催の事業等に単位老人クラブが関与することはあまり多くない。

「振り返りシート(案)」の構成や記載項目等に関するご意見(より実用的なものとするために必要な改善点等)

- 老人クラブの活動として該当する項目もあると思うが、市の担当者等がヒアリングやディスカッションしながら書き込む形でないと、記入は難しいのではないかと。また、「地域の状況の変化に対する実感」は直観・感覚での回答で良いとのことだが、「地域の状況の変化に対する老人クラブの貢献度」も主観での評価になるため、かなり曖昧なデータになると感じる。
- 振り返りシートへの記入作業を通じて、老人クラブが自分たちの活動が大事であると気づいたり、自分の健康や生活、生きがいに影響していることが見える化することにより、活動の励みにつながるとすれば、次のステップに向けたシートとして活かされるだろう。
- 項目が詳細であり、振り返りの負担感と項目の必要性は検討が必要である。多様な活動のうちどこに重点を置くか判断する、経年比較により変化を実感できる等のきっかけづくりとしては良いのではないかと。

老人クラブの活動や自治体の福祉施策に関する理解促進、情報発信等への取組状況

■ 広報や地域団体同士のつながりづくりにおける展望と課題

- 現在は広報の一環としてホームページの作成について検討を進めている。町会・自治会と結びついている場合は、老人クラブの会員としても参加している様子が見受けられる。町会・自治会と一貫した取組ができないか、つながりづくりができないか検討を進めている。
- ただし、担当する行政職員も少なく、0次予防への注目等もあり、高齢福祉を担当する部署としての業務量が増えてもおり、老人クラブ関連の業務に対応する時間を今よりも確保することは現実的に厳しい部分もある。

老人クラブへのヒアリング

■ ヒアリング概要

ヒアリング実施日	2025 年 2 月 10 日（月）11：00～11:45
ヒアリング実施方法	オンラインでのヒアリング（自治体 同席）
ヒアリング対象	松戸市老人クラブ連合会・松戸市内の単位老人クラブ

■ 老人クラブの体制・活動内容の概要

- 当クラブは 33 名の会員のうち、75歳以上が4～5名のみで、85歳以上が半分以上を占める。最高齢は 97 歳だが休会中である。
- 会員のうち、現在男性は4名のみである。会員の男女比は団体により異なるが、当クラブの場合、男性の参加が少ない点は困っている。
- 以前は、公園のごみ拾いをして缶を集めて販売する、駅近辺での草むしりやごみ拾い等をしていたが、85 歳以上が多くなったため、現在はできていない。その他、日本舞踊の教室を開いていたが、踊りの先生の具合が悪くなり企画がなくなった、80 名程が集まっていた隣町のカラオケ教室も今は 30 名程になっている等、高齢化により、これまでできていたことの多くができなくなっている。
- 会合等は町会が利用する町会会館を借りている。
- フレイル予防に関連した、市役所の出前講座もある。
- 年配の会員は、活動の予定を忘れることも多いため、各班の班長が電話連絡をして呼びかけている。

■ 老人クラブでの活動における課題

- いずれのクラブも役員の担い手がない点が課題であり、役員不足のため急に解散に至ることもある。先日 90 代の方が会長を務めるクラブから、解散したい旨が連合会に伝えられた。ただ解散するのではなく、近隣のクラブに入る等会員に依頼してもらえないか伝えているが、各クラブで雰囲気も異なり、他クラブへの参加が難しい場合もある。
- 松戸市は、以前は 15,000 人の会員がいたが、コロナ禍を経て 6,000 人程度に半減している。また、減少とともに会員の高齢化も進んでいる。
- 松戸市はベッドタウンのため、東京に働きに出ている人も多い。就労していた男性が高齢になり、地元で生活をするようになって、やる事がなくなってしまった人も多いという。アンケート調査をすると「社会の役に立っていない」という回答も多く、老人クラブで何か「役に立っている」という実感が得られる活動ができると良いのかもしれない。
- 当クラブの場合は、以前は祭りの屋台の運営に男性が参加してくれていたが、活動場所であった公園がなくなり活動ができなくなった点がネックとなっている。

老人クラブの活動における企画検討や目標設定の実施方法

- 一年間の行事計画を立てて活動している。毎月の役員会等での話し合いや、単位老人クラブの会員との定例会をふまえ、3月の総会の際に計画を作成している。行政への申請と合わせて、会員に対しても情報を届けている。
- 近隣の市川市、船橋市、浦安市、野田市等との市区町村連合同士の会長会議等もある。他都市が実施している健康増進の講演等、参考になるものは取り入れている。例えば、浦安市では大学の先生を招いて講演をしていると聞き、松戸市では市内の病院の医師と連携して講座を持つ予定である。

活動の振り返り～活動内容や目標の更新・修正等の検討をどのように行っているか

- 一回取り組んでみてダメだったら次別のことを考えよう、と進めている。会員それぞれ知恵を絞ってくれており、何とか事業が続いている状況である。
- 松戸市内には、各地域の単位老人クラブで構成される 11 の支部があり、毎月常任理事会を開催している。常任理事会には、支部長をはじめ、各支部より3人ずつ参加している。最終的には役員会で決定するが、常任理事との話し合いのほか、定例会を通じて会員の声を聞いている。声を聞いていくことは大事だと考えている。

活動の企画・運営や振り返りに関する、他の団体(市区町村、社会福祉協議会、自治会・町内会等)との連携・協働の状況、及び日頃のコミュニケーションの状況

■ 自治体とのコミュニケーションの状況

- 老人クラブもメールアドレスを持っているため、データ等を送る必要がある際に活用している。会員の中でも、メールでの連絡ができる人とできない人がいる状況である。
- 月1回の常任理事会には行政職員も必ず出席している。また、常任理事会前には、連合会の三役会(本部の会長・副会長・総務・会計)があり、行政職員も同席している。月2回は顔を合わせる機会があるため、その際に話をすることが多い。
- 会議体での直接のコミュニケーションのほか、必要に応じて電話での連絡を取っている。常任理事会もリモートでの開催ができると良いのかもしれないが、人により得意・不得意があり現状は難しい。

■ 社会福祉協議会とのコミュニケーションの状況

- 社会福祉協議会が運営する「いきいきサロン」で民生委員の活動を手伝っていたこともあるが、会員の高齢化が進んだこともあり、現在は特に手伝ってはいない。社会福祉協議会とは合同での開催はないが、行事等での関わりは現在もある。
- 常盤平支部として、年2回の会長会のほか、役員会を毎月開催しており、悩み相談をしている。社会福祉協議会や行政に対して相談することはあまりなく、支部の会長会の中で話し合いをするまでである。

■ 自治会・町会とのコミュニケーションの状況

- 町会の盆踊りの手伝いをする、町会会館の掃除をする、周囲のごみ拾いをする等で町会との関係もあったが、現在は会員の高齢化により、こうした取組は行われていない。
- 近隣の老人クラブでは、町会の役員が老人クラブの会員にもなっているが、当クラブは町会との関わりが薄くなっている。
- 以前は、子ども会・婦人部・老人クラブ・町会関係者の会合が毎月開催されていたが、町会長が新しくなって以降、声がかからず、現在は会合への参加がない点が課題である。町会長に話を通して、連携をしたいと考えている。

■ その他、地域の団体とのコミュニケーションの状況

- 以前は、こども会とコラボしてお手玉づくり等もしていたが現在は中止している。
- 以前は、婦人クラブが中心となり、盆踊りやバーベキュー等を企画し、町会や老人クラブも一緒にやっていたが、婦人部も現在は 10 人程で活動しており、縮小している。仕事をしている人が増え、仕事をしながら

婦人部に入ることは難しい。老人クラブもどうかと声掛けをしたが、まだ年齢的にも老人クラブには加入したくはないとのことであった。

- 日本舞踊の講師とは、会員が習いに行っていたことをきっかけに、連合会本部にある芸能部の講師も依頼することとなった。月3回実施しており、以前は45名程が、現在は26名程が参加している。会場にエレベーターがない等で辞める人もいる点がネックだが、踊りが好きで続けている会員もあり、地域の祭りに参加して演舞予定の人もいる。
- 老人クラブ連合会の名誉会長が、市内の病院の理事も務めている関係でつながりがある。また、社会福祉協議会の元職員が、現在はその病院の事務方に勤めており、相談事を持ちかけることが多く、その職員の力が大きい。

活動継続や企画～振り返り等に関して、自治体等に支援してほしいこと

- 活発な活動を継続させるため、市からの補助金や会場確保、助言等の支援も継続してほしい。
- フレイル予防については、今年度まだ事業を実施できていないため考える必要がある。

老人クラブの活動に関する理解促進、情報発信等への取組状況

- 広報の一環でホームページの検討も進んでおり理想的ながら、会員は機械に弱いため運用は難しい。過去にタブレットの使い方講座をやったこともあるが、実際にタブレットを購入したのは1名のみという状況である。LINE等で連絡が取れれば、毎回事前の電話連絡をする必要もなくなるため理想だが、現状その点が課題である。
- パンフレットやチラシを単位老人クラブ内で配布したとしても、なかなか会員増加にはつながっておらず、知り合いを通じての加入が多い。
- 以前は町会に出席した際に老人クラブの宣伝もしていたが、現在は疎遠になっている。町会や地域に声をかけるほか、チラシを手作りしてポスティングする等、何かしら工夫をしたいと考えている。

④ 事例4：島根県松江市

自治体へのヒアリング

■ ヒアリング概要

ヒアリング実施日	2025年2月21日（金）10:00～11:30
ヒアリング実施方法	現地訪問

■ 自治体概要：2024年10月1日現在（人口は住民基本台帳人口を記載）

総人口	194,532人	高齢化率	30.7%
高齢者人口	59,694人	第1号被保険者の要介護要支援認定率	19.9%

■ 地域内の老人クラブ概要：2024年4月時点

地域内連合会	松江市高齢者クラブ連合会（なお、市内29地区ごとに別途連合会が存在する）		
単位老人クラブ数	173団体	全体単位老人クラブの会員数合計	9,582人

老人クラブの活動内容に関する情報収集・情報共有の現状

■ 行政の関わり方・老人クラブとの関係性

- 松江市内の老人クラブは、29の地区連合会、173の単位老人クラブで構成されている。なお、松江市の高齢者福祉計画においては老人クラブの会員数を維持することが目標となっているが、現状としてはクラブ数・会員数ともに減少傾向にある。
- 各地区のクラブとの連絡・調整については、主に松江市高齢者クラブ連合会（松江市老連）が担っており、市が各地区の連合会や単位老人クラブと直接的にやり取りを行うことはあまりない。
- 老人クラブの活動に関する補助金については、市から松江市老連に預けられたのち、各地区の連合会を通じて単位老人クラブに交付されるという経路となっている。
- 老人クラブに関する事業の市側の人員体制としては、担当者は実質1名であり、他の業務との兼務もしている。そのため、各地区や単位老人クラブの活動内容の把握や連絡等を個別に行うことは、現実的には難しいと思われる。なお、毎年3～4月が補助金の申請時期となっているが、その際には担当者の業務負担が大きくなる。

■ 老人クラブとのコミュニケーションの現状

- 先述のとおり、老人クラブに関する事業において、市のカウンターパートは主に松江市老連となっており、連絡や相談については日頃から密に行っている。なお、松江市老連の現在の事務局長は市のOG（2025年2月現在）であり、互いの事情をよく理解してくれていることから、連携はとりやすい関係となっている。
- また、年に1回懇談会（松江市側の出席者は副市長、健康福祉部長、松江市老連側の出席者は会長・副会長）を開催し、市内の老人クラブの活動に関する現状や課題等に関する情報共有を行っている。
- そのほか、松江市老連にて会報が年2回（7月、1～2月）作成・発行されており、これが市内の老人クラブの活動に関する情報を把握する上で重要な手段となっている。

自治体の福祉施策・政策への老人クラブ活動の結び付けや、高齢福祉に関する事業計画等における老人クラブとの連携・協働に関する位置づけ等に関する取組状況

■ 老人クラブの活動の施策への位置づけ

- ・ 松江市老連の活動計画については市でも確認しており、市内の老人クラブが全体としてどのような方向で活動を行うことを考えているかについては、ある程度把握している。ただし、基本的に市が各地区の連合会や単位老人クラブと接点を持つことはあまりなく、したがって活動状況等に関する情報を得る機会はない。市としても、このことについて課題と感じている。
- ・ また、老人クラブは自主的な活動団体であるため、その活動内容について行政の側から「こうしてほしい」という要望はなかなかやりにくいところがある。

■ 老人クラブや他の団体との連携による事業

- ・ 松江市では、松江市・松江市老連・松江市社会福祉協議会との連携により、高齢者のスポーツ大会を年に1回開催している。これは市内の全老人クラブから、関係者を含めて 700 人近くが参加する大規模な行事であり、老人クラブの年間の活動において重要な位置づけとなっている。なお、本イベントの実施においては保健師などの専門職の協力も得ている。
- ・ 松江市老連とその他の団体の連携については、例えば「和やか寄り合い」などの活動がある。そのほかにも、介護予防事業などの取組で庁内の各担当部署と個別に連携しているところはあると思うが、人員体制の都合もあり、市の老人クラブ担当者がその全部を把握することは難しい。

■ 松江市の高齢者福祉施策における老人クラブの位置づけ

- ・ 松江市の高齢者福祉計画においては、「高齢者の活躍の場・生きがいづくり」に関する施策として、老人クラブの振興が盛り込まれている。同計画中には「会員数の増加(維持)」が数値目標として設定されているが、先述のとおり、近年では会員数やクラブ数の減少が見られる。
- ・ 松江市老連には、市の高齢者福祉計画の策定に関する委員会に委員として出席してもらっているが、そのほかにも様々な審議会に参加してもらい、高齢者代表として、市の政策運営に対する意見をもらっている。
- ・ 市の施策に関する周知や情報発信を行う際には、老人クラブのネットワークを活用している。例えば高齢者向けのバスカードを従来のカードから ICOCA に切り替える際、市内の高齢者に対し、各地区の老人クラブを介してその通知を行った。高齢者の集まりであるという点で、老人クラブはこうした部分で非常に有効な協力先となっている。

「振り返りシート(案)」の構成や記載項目等に関するご意見(より実用的なものとするために必要な改善点等)

■ 振り返りシートの有効性

- ・ 市の担当者が市内の単位老人クラブの活動状況等を知るための手段としては、「振り返りシート」のようなものの活用は確かに有効ではないかと思われるが、質問の分量が多いこともあり、現状の「振り返りシート案」の内容を各単位老人クラブに回答してもらうことは難しいかもしれない。なお、松江市老連の事務局であれば回答可能な構成・内容にはなっていると思う。

■ 振り返りシートを通じて行政側に期待されるメリット・効果

- 市では単位老人クラブと直接的なやり取りを持っていないため、彼らの活動実態や考え、あるいは活動継続に関する課題等を直接聞き取る機会がありません。そのため、「単位老人クラブがどのような活動を行っているか」という情報を把握できるだけでも意義があるのではないかと思います。
- その点では、「あなたたち(単位老人クラブ)が昨年度に行った、代表的な活動、重要だと考える活動を3つ挙げてください」という程度の、簡単な報告を求めるだけであっても、市の担当者にとっては有用な情報が得られると思う。
- なお、老人クラブの活動の関係者(松江市・松江市老連・各地区の連合会・単位老人クラブ等)全員が同じ書式を用いて振り返りを行うのではなく、対象別に内容の異なる書式を用意し、それぞれから収集する情報のレベル感を調節したほうがよいのではないかと。

■ 振り返りシートの運用に関する課題

- 各単位老人クラブが「振り返りシート」を作成・提出したとして、市の担当者がその内容すべてに目を通し、取りまとめたりすることは難しいと思う。例えば、松江市老連において各地区の老人クラブからの報告をとりまとめ、その結果を市に報告してもらうという方法であれば、老人クラブの活動状況に関する情報源として有効活用できるかもしれない。

老人クラブの活動や自治体の福祉施策に関する理解促進、情報発信等への取組状況

- 老人クラブの活動等に関する情報発信については、松江市老連で行っていること(ホームページの作成・運営、会報の作成等)はあるが、市の取組としては、高齢者向けのチラシの作成・配布(65 歳になったときに渡す資料一式に折り込む)以外には、特に行っていない。まだやれることはあると思うが、現状ではこのとおりである。

老人クラブ連合会へのヒアリング

■ ヒアリング概要

ヒアリング実施日	2025 年 2 月 21 日（金）13:30～15:30
ヒアリング実施方法	現地訪問

■ 老人クラブ連合会の役割

- ・ 松江市老人クラブ連合会(以下「松江市老連」)は、市内 29 地区の老人クラブ連合会の活動を支援する組織という位置づけである。なお、連絡等の経路がこうになっているのであって、意思決定等における上下関係はない。
- ・ 松江市老連の運営には、各地区の代表者が理事として参画しているほか、「若手委員会」・「婦人委員会」等の委員会を組成し、行事の企画・運営等の取組を進めている。
- ・ なお、松江市では老人クラブではなく「高齢者クラブ(愛称:いきいきクラブ)」という名称を用いているが、これは「老人」という表現に抵抗感(高齢者側の、「自分はまだ老人ではない」という反応)を示す方が多かったことから、平成 25 年に名称を変更したことによる。

■ 老人クラブ連合会の組織概要

- ・ 事務局の職員は2名。
- ・ 松江市老連では 29 地区の連合会を通じ、各単位クラブの状況把握や相談対応等の支援を行っている。基本的には各地区の連合会とのやり取りを行うことが多いが、ケースによっては個別の単位老人クラブから相談を受け、対応することもある。
- ・ 単位老人クラブの規模は様々であり、何百人もの会員がいるクラブもあれば、少数で活動しているところもある。会員数は全市合計で1万人弱であり、男女比としては男性1:女性 1.3 くらいの割合であるが、実際に活動に参加している方だけで見ると、女性の割合はより高くなる可能性がある。

老人クラブの活動における企画検討や目標設定の実施方法

■ 単位老人クラブにおける活動計画の検討状況

- ・ 単位老人クラブでの活動については、29 地区でそれぞれ年間の計画を立てており、各地区の計画が松江市老連に報告される。基本的に計画の内容について松江市老連から指摘や要望を行うことはないが、各老人クラブ側から相談があった場合には個別に対応している。各地区では、月1回程度の役員会などを通じて、活動内容の計画等が行われているようである。

■ 補助金交付の流れ

- ・ 老人クラブの活動に関する補助金については、松江市から松江市老連が受け取り、各地区への活動費を委託料として支払っている。それを 29 地区の連合会に配分する形で交付を行っている。
- ・ 活動予算については、活動計画の内容に関わらず、毎年4月1日現在の会員数に応じて各地区に分配されている。

活動の振り返り～活動内容や目標の更新・修正等の検討をどのように行っているか

■ 単位老人クラブの活動内容の把握

- 単位老人クラブの事業計画については、年に1回の補助金申請の際、各地区で取りまとめと確認が行われ、集約されたものが松江市老連に報告される。ただし、松江市老連側ですべての単位老人クラブの活動計画を詳細に確認することは、現状の人員体制では難しい。
- 松江市老連から各地区への連絡については、主に電話や FAX、郵送で行われている。各地区の事務局では、まだパソコン等を使いこなせていない方も多いため、現状においては E メール等での対応に切り替えることは難しいと思われる。

活動の企画・運営や振り返りに関する、他の団体(市区町村、社会福祉協議会、自治会・町内会等)との連携・協働の状況、及び日頃のコミュニケーションの状況

■ 地区の連合会や単位老人クラブとの連携・協働や日頃のコミュニケーション

- 日常的に、関係者間で連絡を取り合っており、行事の準備や、個別の相談対応も行っている。
- 老人クラブに関する情報共有・発信の取組として、会報については年に2回発行している。松江市老連から各地区等に原稿を依頼する形で作成作業を進めており、これも各クラブとの接点となっていると思う。また、会報は各地区の老人クラブを通じ、それぞれの全会員に配布されている。

■ 老人クラブの運営に関する課題

- 単位老人クラブの課題としては、寄せられている相談内容から「役員のなり手がいない」というものが多いことがうかがえる。活動に参加すること自体には前向きであっても、役員等の「担い手」として活動することについてはあまり積極的ではない会員も少なくないようである。こうした課題について相談があった場合に、松江市老連が直接的に解決を支援することは難しいが、他での取組事例などを紹介し、アドバイスを行っている。このように、市老連は地域の老人クラブからの相談先としての役割も担っている。
- また、中には地区の中での活動にうまく馴染めていないという方もいるようなので、こういった方々の受け皿として、地域の人間関係にとらわれない活動を提供できるようにすることはできないものかと検討しているところである。

■ 市区町村との連携・協働や日頃のコミュニケーション

- 松江市老連としての活動計画については、松江市と相談しながら検討している。
- 事務局の職員は松江市の OB・OG であり、現役時代のつながり等も活用しながら活動している。また、事務局が市の福祉施設内に位置していることもあり、日頃から市の職員と連絡を取る機会は多く、密接に連携できている。

■ 松江市老連としての取組姿勢

- 松江市老連としては、自分たちの活動を地域に還元することを意識している。例えば、介護予防事業を松江市老連で先行的に実践し、参加者にその内容や運営に関するノウハウを各地区に持ち帰って、同じように取り組んでもらうといった取組を進めている。そのまま真似をすれば各地区で実践が可能のように、プログラムの内容やノウハウを伝えやすいように工夫している。
- 実際に、このようなやり方で各地区の老人クラブにおける活動の実施に結び付いた事例もあり、活動を地域に浸透させるためには有効な手段であると思われる。

■ その他組織との連携・協働や日頃のコミュニケーション

- ・ 松江市では年に1回、全市の老人クラブ会員を対象とした大規模な高齢者スポーツ大会を開催している。こちらの運営については、松江市や松江市社会福祉協議会との連携(合同開催)により行っており、大会に向けた準備や当時の運営には、市の職員も参画してくれている。各地区対抗で、得点や順位までつけており、参加者による非常に白熱した競技が見られる。
- ・ また、市の様々な審議会等にも松江市老連役員が参画し、行政計画の検討や福祉施策の運営に協力している。新しい取組としては、今年度からフレイル予防の研修会を市の介護保険課・理学療法士会との連携により実施しているが、これも、先述のとおり松江市老連が先行実施し、プログラムの内容や運営ノウハウを各地区に還元できるような形で進めている。
- ・ 自治会・町内会と直接のやり取りはないが、老人クラブの関係者がこれらの役員等を兼任している場合も多い。また、高齢者の活躍機会の提供についてはシルバー人材センターとも連携している。その他、学校教育との連携事業(昔の遊びの体験活動や、登下校時の見守り活動など)も行っている。

「振り返りシート」の構成や記載項目等に関するご意見(より実用的なものとするために必要な改善点)

■ 運用における課題

- ・ 松江市の場合、老人クラブの活動計画を考えるのは各地区の連合会であり、少なくとも単位老人クラブに「振り返りシート案」に記載された詳細な内容を尋ね、回答してもらうことは難しいと思う。活動内容の把握に関しては、調査の対象をどこに設定するかについて、それぞれの自治体の状況等に応じて考えることが必要ではないか。
- ・ 活動の記録について、独自の様式を使っているところもあるかもしれないが、全国老人クラブ連合会からは日誌や会計報告の様式が提供されており、こうした全国共通のものを基準として、当てはまる項目の紐づけを行うようにすると、既存の報告様式に基づいて「振り返りシート」の記入を行いやすくなるのではないか。なるべく既存のものを活用し、普段のコミュニケーションの仕組みに乘せるような形で設計すると、より実用的な仕組みになるのではないかとと思われる。
- ・ また、こうした振り返りをどの程度の頻度で、誰がどのように行っていくかの検討が必要になると思われるが、毎年詳細な振り返り・評価を行うことは、行政や老人クラブ連合会の担当者の負荷を考えると、現実的には難しいのではないかとと思われる。例えば高齢者福祉計画の策定周期(3年ごと)に合わせて行うなど、負荷のバランスを考えたほうがよい。また、毎年の記録が必要であれば、なるべく内容を簡潔にし、構成や項目の数について検討することが重要だと思われる。

老人クラブの活動に関する理解促進、情報発信等への取組状況

- ・ 先述のとおり、松江市老連では会報を年に2回発行しており、これが主な情報発信手段となっている。なお、こちらの冊子はちょうど真ん中にあたるページ(綴りから外すと1枚の紙として取り出せるページ)に健康情報等の特集記事を掲載し、冷蔵庫などに貼っていつでも見られるようにするという、冊子の作り方に関する工夫をしている。
- ・ 各単位老人クラブの活動実態を把握することは、なかなか難しい。地区によって発信の上手さに差があるため、そういうことが得意なクラブについては情報が手に入りやすいが、他方であまり得意でないクラブについては情報が入ってこない。様々な地区の活動を紹介することが重要であると考え、会報等ではなるべく

く多様な事例を紹介したいと思っている。

- 松江市の健康福祉フェスティバルへの出展により活動を紹介し、加入促進を図っている。

⑤ 事例5：滋賀県長浜市

自治体へのヒアリング

■ ヒアリング概要

ヒアリング実施日	2025年2月20日（木）10:00～11:30
ヒアリング実施方法	オンラインでのヒアリング

■ 自治体概要：2024年10月1日現在（人口は住民基本台帳人口を記載）

総人口	112,607人	高齢化率	29.7%
高齢者人口	33,399人	第1号被保険者の要介護要支援認定率	20.3%

■ 地域内の老人クラブ概要：2024年4月時点

地域内連合会	長浜市老人クラブ連合会		
単位老人クラブ数	234団体	全体単位老人クラブの会員数合計	不詳

老人クラブの活動内容に関する情報収集・情報共有の現状

■ 老人クラブの活動の把握状況

- 老人クラブ数を正確に把握できていない。昨年末に調査したところ、約230の老人クラブがあり、うち110団体程が、補助金申請のうえ活動している。補助金を申請しているクラブに関しては、活動計画書・予算書の提出を通じて、活動内容を確認しているが詳細までは把握できていない。
- 近隣自治体の実施状況と比べたことはないが、話を聞くと県内他市に比べ、クラブ数が多いようである。
- 単位老人クラブの会員の高齢化は課題である。近年、定年延長も影響しているのか、65歳から70歳前半の加入が非常に少ない。長浜市は都市部と郡部に分けられ、都市部においてより顕著な傾向となっている。

■ 老人クラブとのコミュニケーションの状況

- 市区町村老人クラブ連合会が一つあり、地区の支部が連なる。基本、連合会に加入している単位老人クラブの会員が、支部や連合会の事務員を担う。行政職の勤務経験者が事務を担っていることが比較的多い。
- 年1回、各支部から話を聞く機会を設けており、支部の状況、支部に所属している単位老人クラブの状況を聞き取っている。その他、行政・支部ともに必要に応じて聞きたいことがある場合は、随時、互いにコミュニケーションを取っている。
- 補助金に関しては、行政から単位老人クラブに直接交付しており、補助金に関連して、単位老人クラブから直接問合せが来ることはある。申請書や報告書は、支部が各単位老人クラブからの書類を集約し、支部がまとめて行政に提出する流れとなっている。支部は集約までで、内容の指導・精査までは実施していない。
- 健康体操や介護予防の事業を実施しているが、直接、単位老人クラブに周知はしていない。申請書等の書類を送る時期に合わせて案内を送るほか、支部経由で案内してもらっている。

■ 支部・連合会の取組状況

- 支部は、行政との間に立って書類のとりまとめ等をするほか、単位老人クラブの枠を超えた大きなイベント等を実施する場合に、企画・主催をしている。長浜市は広域合併の経緯があり、旧町単位の連合会が、支部となり活動しているイメージである。

- ・ 市区町村老人クラブ連合会は、コロナ禍もあり、大きな大会等の活動は現在実施していない。支部単位での事業や活動を取りまとめて、行政に連絡・調整をしている。イベントの企画等のとりまとめではなく、報告資料等の調整が主な業務となっている。

自治体の福祉施策・政策への老人クラブ活動の結び付けや、高齢福祉に関する事業計画等における老人クラブとの連携・協働に関する位置づけ等に関する取組状況

■ 行政計画内の位置づけ

- ・ 老人クラブの協力を前提にした事業はないが、内容により協力を依頼することはある。行政計画内でも、特に老人クラブに関する活動の明記はしていない。
- ・ 高齢者が地域で元気に過ごすためにも、まずは現状維持をしていただきたいと考えている。健康でいることが大事であり、行政として老人クラブに対しては、健康増進、健康寿命の延伸に向けた積極的な取組や、地域の社会参加を進めていってもらうことを期待している。

■ 高齢者の代表としての市主催の会議体等への参加

- ・ 高齢者保健福祉審議会や認知症に関する連絡協議会において、老人クラブから委員として出席してもらい、意見を聞くことはあるが、各単位老人クラブからの要望の実態は把握しきれていない。高齢者の意見を聞く目的のほか、老人クラブでの活動をより充実させてほしいとの思いもあり委員を依頼している。
- ・ 例えば、主体的にサロンを実施している老人クラブもあり、サロン参加者数を増やしたり、サロンを新たに立ち上げる等の活動を期待している。

活動の企画・運営や振り返りに関する、他の主体との連携やコミュニケーションの状況

■ 地域内の多様な団体との連携

- ・ 長浜市には、旧町かそれより小さい単位で、地域の様々な団体が集まり、その地域の課題をどう解決するか話し合う場である「福祉の会」があり、老人クラブからも支部単位で参加している。「福祉の会」の取組の中で、社協等と連携して健康講座を実施している老人クラブがあるとの報告も聞いている。

■ 他市の団体との関わり

- ・ 他市に視察に行ったり、他市の老人クラブが現地視察に来ること等がたまにはあり、その場で互いの困りごとや悩みを共有していると聞く。自身の活動の振り返りや課題意識共有の観点で、外部との交流の機会があることは良いと感じる。

■ 活動の振り返り・情報把握における現状と課題

- ・ 活動に対する振り返りやフィードバックの取組は特にない。老人クラブは自主的な団体であることに加え、毎年単位老人クラブの代表が交代することから、継続的な活動が難しい点もある。
- ・ 同じ部署ながら、補助金の担当者と健康寿命・介護予防の推進の担当者が異なっている。介護予防の推進に関する事業の案内をする係と、活動内容を把握し補助金を申請する係が別々に動いている状況である。担当する専門職の違いや業務量の大小により、現状分かれている。
- ・ 高齢福祉以外の防犯や防災、子育て関連等の他分野に関連して、必要であれば個別に行政に問合せをしていることもあるだろうが、高齢福祉分野の担当部署が把握しているものはない。
- ・ 市区町村老人クラブ連合会より、単位老人クラブから聞き取った意見を伝えてもらっているものの、クラ

ブ数が多いほか、連合会も意見をまとめる力が十分でない。意見を聞いて、新たな事業を企画したり、協力依頼をする等の具体的な話を伝えるまでには至っていないのが現状である。

- 行政としても、老人クラブに何を求めるか、話し合っているが、連合会の力が十分ではないなか、連合会に何か求めることは難しい。単位老人クラブに対しては、会員が居住する地域内において、高齢者同士で介護予防や声の掛け合いをする等、小さな地域の中で活動する団体として存続してってもらいたい、という印象である
- 単位老人クラブの活動が難しくなった場合、行政に話が来る段階では、「どうしたらよいか」という相談ではなく、「解散します」という報告となって届く。例えば、自治会の範囲内で細々活動していくことはできても、旧町単位の活動は難しいため、補助金を受けず独自に活動するという報告だと、行政としてはどうしようもない。活動が難しいから連合会を抜けるという事例がほとんどである。支部には相談等しているかもしれないが、行政に対して相談を受けている等の報告は特にない。

「振り返りシート(案)」の構成や記載項目等に関するご意見(より実用的なものとするために必要な改善点等)

■ 振り返りシートの運用における課題

- 回答箇所が非常に多いため、高齢者は苦勞する。必要な項目だとは思いますが、多くない方が回答しやすい。また、指標に記載の内容を意識して活動しているわけではない。活動がどの指標に該当するかで迷い、回答が止まってしまう可能性がある。
- ツールを使い、活動がどの指標に該当するか考える機会にしてもらおうのは良いと思うが、実際にどう解釈して回答したかが行政としては掴みづらい。行政の想定と異なる回答をしていた場合、共有してもらってもすれ違ってしまい、うまく活用できないだろう。
- 老人クラブでは、自治会や町内会と同様に、総会を開催している。そういった会議の場で事業報告を行っているため、各単位老人クラブにおいて、年間の事業計画等を決めて実行していると思うが、どういった目的で実施するかは定めていないのではないかと。補助金を申請していないクラブに関して、活動内容は全く分からない。
- 単位老人クラブへの後方支援は、支部の事務員個々のバックグラウンド次第で変わる。支部に属する単位老人クラブの活動報告・共有をうまく別団体に伝えられるかは、事務員の力量に左右され、属人的な要素が大きい。
- 支部単位で定期的に集まり情報共有をしていると聞くと、総会のように大規模に集まらないうと、100 を超える単位老人クラブへのサポート等は実際難しいのではないかと。他方で、総会の場でシートを記入し合い、他団体と意見交換をして学び合うようなワークの場を企画したとして、支部の事務員の力量次第でもあり、当日どれほど集まってくれるか未知数である。ツールの内容を見て、よく分からないから参加しないという人も多いただろう。各団体が集まって記入するワークのような機会を設けることは運用面で現実味がない。

■ 振り返りシートの活用可能性

- 行政と老人クラブのコミュニケーションを活性化させようというよりは、老人クラブに対しては、各クラブが考えていることを各々実施してもらうことが基本と考えている。
- 行政が事務局を担っていないため、自主団体として一定の距離を取るという位置づけにある。今後、今以上に密にコミュニケーションを取っていく、という方向性も特に見据えていない。
- 目的を定めて体系づけて活動していないクラブが大多数であり、伝統的に実施してきた活動を継続して

いるまでである。従来の取組を新たな指標で見て気づきを得るという点では良いツールだと思うが、補助金申請においても様式を減らすようにとの意見が聞かれるなか、ツールがあっても長浜市としては二の足を踏むところである。

老人クラブの活動や自治体の福祉施策に関する理解促進、情報発信等への取組状況

■ 周知啓発の取組状況

- ・ 特に行政として、老人クラブ加入に関する周知啓発には取り組んでいない。ホームページにて、老人クラブの所在等の情報を掲載しており、一定の周知は行っている。
- ・ 事務局機能は行政になく、別組織として老人クラブ連合会が活動しており、市役所近隣施設内に事務局を構えている。周知啓発は老人クラブ連合会主体で取り組んでおり、定期的に広報を出している。旧町単位で広く発信しており、会員募集にも取り組んでいる。
- ・ 地域向けの広報誌を発行するほか、地区内に全戸配布したり、支部の事務局が所在する施設や公民館等で配架する等で情報発信している。実質的に連合会や支部がすでに行っているため、行政では特に情報発信等に取り組んでいない。
- ・ 支部が資料の印刷等も行っている。単位老人クラブへの補助金とは別に、老人クラブ連合会への補助金を別途設けており、事務局の活動費用としている。

■ 老人クラブの活動に関する行政としての見解・展望

- ・ 高齢化率が上昇し、老人クラブの活動が衰退しているのみならず、自治会自体も消滅しつつある。老人クラブとして存在してもらうことも重要だが、地域内で世代別にいくつもの団体に分かれるのではなく、一つにまとめ、その中の高齢者部会のような形で活動していく形も良いのではという意見も行政内から出ている。
- ・ 支部に話を聞くなかで、自治会の中に高齢者部門を立ち上げ、実質的に老人クラブの役割を担っている地域もすでにあると聞いた。高齢化率の高い地域だと、老人クラブの会員が自治会の役員を担っているところも増えている印象である。自治会も老人クラブと同様、昔以上に活発に活動している自治会もあれば、最低限の活動のみの自治会もある等、地域により差がある。
- ・ 長浜市は小さい自治体であり、都市部もあれば山間部もある広い市域である。古い地域は昔からの地縁もあり、老人クラブも継続していかなければならないという思いもあるが、都市部では加入者が減少し活動もままならないクラブが増えており、老人クラブの在り方に関して過渡期を迎えている。しかし、他自治体の話を聞くと、地域性というよりは意識の高い高齢者が参加しているようでもある。65 歳になったら加入するものだというかつての意識から変化しているなか、他自治体の都市部がこういった状況なのか気になる。

老人クラブへのヒアリング

■ ヒアリング概要

ヒアリング実施日	2025 年 2 月 21 日（金）14:00～15:00
ヒアリング実施方法	オンラインでのヒアリング
ヒアリング対象	長浜市内の単位老人クラブ

■ 単位老人クラブの活動概要

- 花見、研修旅行、夏休みの子どものラジオ体操への参加、日々のスクールガードの取組や、各クラブでの健康体操やグランドゴルフ等の日常活動がある。その他、神社掃除、自治会内の美化活動のボランティア等、多くの活動を行っている。
- 単位老人クラブの役員は会長、副会長、役員3人の計5人。任期は、当クラブの場合は男性2年間、女性1年間。月1～2回の頻度で定例会を開催している。
- 役員による定例会は、役員も仕事や家事があるため、現在は 19:30～21:00 の1時間半以内に終わらせるようにしている。以前は 21:30 や 22:00 になっていたこともある。老人と言っても数え年 60 歳以上が加入するため、定年延長もあり現役で仕事をしている人も多い。昼の時間帯の開催は難しい。

■ 補助金の使途

- 補助金がないとやっていけない。年間約9万円であり、大半は活動の必要な備品やお茶代等の会議費となる。ここ数年で一番大きい使途はボランティア活動に必要な道具を購入する等の備品代である。今年度も必要なものを購入したが、1台4万円弱かった。
- 申請時点では具体的な購入品名の記入は不要だが、年間の活動予定と活動予定人数をふまえ、行政からの支給額が決まる。一般活動の補助金額はここ2か年で変動はない。
- 研修旅行の補助金が急遽減額されたことがあり困ったが、特に年度初めの4月等に企画をしていた老人クラブからは憤りの声もあった。

■ 市区町村老人クラブ連合会支部の活動概要

- 会長1名、副会長1名、女性部長・副部長各1名。副会長を2年務めた後、会長を2年務める4年間の任期となる。女性部長・副部長は2年間の任期。他に総務文化部、研修部、広報部、体育部の4つの部会があり、各部長は1年の任期。
- 引継ぎもあるものの、実際には自身も参加しながら活動内容を覚えている。いずれ会長になるため、活動内容を急ぎ把握しなければならないと感じており、やや負担である。
- 支部独自で企画している行事への参加が主な活動である。
- 支部で旅行、各種軽スポーツ大会等をする際には、支部経由で単位老人クラブに周知がなされ、申込書等を支部に提出する流れとなっている。そういった場合も含め、単位老人クラブと連合会支部でコミュニケーションを取る機会は作ろうと思えばある。個人的に周知の仲であると気楽に相談等をしている。

老人クラブの活動における企画検討や目標設定の実施方法

- 各クラブでの活動は任せているが、老人クラブ全体で行うものについては年間計画を定めている。役員による毎月の定例会を通じ相談しており、作成後は会員に配布している。
- おおよそ年間計画通りに進めている。総会等は具体的に日時も含めて決めているが、花見等のイベントの

場合は、3月下旬～4月上旬等の期間で計画を立てている。

活動の振り返り～活動内容や目標の更新・修正等の検討をどのように行っているか

- 当クラブでは、単位老人クラブの役員会が定例化しているため、年間を通じての振り返りというよりは、各月の定例会の中で都度、振り返りを行っている。次年度の自分たちの活動に活かされる内容について、良かった点のみならず、改善点等も話している。
- 例えば、花見はコロナ禍で中止になって以降令和5年度まで実施していなかったが、会員と地域の中で対話していると、花見をやりたいとの声が上がったため、令和6年度は久々に実施した。しかし、しばらく企画がなかったために、やり方が分からなかった。いつまでにこういった準備をするべきか、準備で何が不足していたか等については、実施後の定例会の場で振り返りを行っており次年度に活かしたい。
- 定例会の場で振り返りを行うのは、クラブが主催する活動や、クラブが中心となって共催する活動である。例えば、スクールガードは子ども会や自治会からの依頼で老人クラブが協力している形の活動であるため、活動に関するアンケート調査への回答はしているが、老人クラブでの定例会の中で取り上げることはしていない。

活動の企画・運営や振り返りに関する、他の団体(市区町村、社会福祉協議会、自治会・町内会等)との連携・協働の状況、及び日頃のコミュニケーションの状況

■ 市区町村との連携・協働や日頃のコミュニケーション

- 単位老人クラブと行政のコミュニケーションは基本的にはない。行政からの相談や依頼等も特になかった。
- 分からないことがあれば、直接、行政の担当部署に電話して問い合わせればよいと考えており、自身も何度か電話連絡をしたことがある。積極的な関わり合いはなく、こちらからアプローチしないと関わりはないというのが実態である。
- 補助金の申請等は支部を通じて提出しており、単位クラブと行政とのやり取りの間に必ず支部が関与する。行政も支部を頼りにしていると思われる。行政と直接つながらなくとも、支部を通じてコミュニケーションは取れるものと考えている。
- 行政側も相談や依頼等を支部に伝えているのかもしれないが、どういったつながりがあるか、任期が始まって間もないため把握できておらず、引継ぎもない。今後数年関わればそのようなこともあるかもしれない。

■ 社協等との連携・協働や日頃のコミュニケーション

- 単位老人クラブとして直接的な関わりや積極的な関わりはない。
- 支部が実施している事業の中で、地域づくり協議会や社協との連携・共催のもと実施しているものがあり、イベント等があれば老人クラブも参加しているという関係性である。

■ 自治会との連携・協働や日頃のコミュニケーション

- スクールガードの活動は、子ども会から自治会に依頼があり、一般の自治会員への依頼のほか、老人クラブにも依頼が来ている活動である。地域内に孫が住んでおり、個人で協力している人もいる。老人クラブ内でも協力できる人が活動をしている。スクールガード以外にも適宜協力依頼はある。
- 自治会の保管庫に老人クラブの備品を置いてもらっているという協力もあるほか、自治会長と LINE を交換しており、普段から連絡を取り合う関係にある。

活動継続や企画～振り返り等に関して、自治体等に支援してほしいこと

- 金銭面での補助がほしい。現在の補助金は使途の制限があり、1円単位で領収書を管理し報告を行っている。老人クラブとして、高齢者に楽しんでもらうことを第一に活動しようと考えているが、そのためにはそれなりの出費が伴う。例えば、お酒を飲もうと思っても飲食は補助金の使途外となるため、参加者の出費となっている。お酒は難しくとも、食費は一部認めてもらいたい。使途の制限をもう少し緩和してもらえると助かる。
- 老人クラブの活動に役立つような講演会や研修会等があれば周知してもらいたい。
- LINE やパソコン教室等を、市主催で老人クラブの会員対象に企画してもらえると、興味がある人は参加してくれるのではないかと。パソコンができるからといってスマホができるわけではない。老人クラブ側から行政に要望したら実施できるのかもしれないが、行政は前年度に予算を取る必要もある。

「振り返りシート」の構成や記載項目等に関するご意見(より実用的なものとするために必要な改善点)

■ 運用における課題

- 大きくは問題ないが、どこに該当するか迷う部分がある。役員でも老人クラブのすべてを分かっているわけではないため、回答が難しい項目もあると感じる。
- 自身は Excel や Word もある程度使えるが、役員の中でもパソコンを使えるか否かは人によるので、パソコンを使って回答を求めるのは難しいのではないかと。人により得意分野が異なるほか、性格にもよる。全部を答えるのは大変だが、答えられる範囲で良ければできるかもしれない。
- シートを基に定例会の場で話し合いながら記入するのであれば面白いかもしれない。しかし、定例会の場での議題は普段から多く、例えば旅行の企画一つをとっても1回、2回の定例会で決まるわけではない。そこに新たに時間がかかる作業が追加されることを煩わしく感じ、協力してくれないかもしれない。
- 一からみんなで作成するというよりは、一人が記入したものをもとに役員間で確認し合うという進め方にするかもしれない。

■ 自治会等の他団体との協働の可能性

- 各団体で実施する仕事がある。自治会は老人クラブ以上に大変であり、通常業務にも時間を要する。時間的な制約もあり、協働は現実的には難しいだろう。
- 老人クラブで議論し、必要な事項だけ自治会にも相談をするという程度ではないか。

■ 自治体との協働の可能性

- 日頃の接点がないため想像がつかない。役所が老人クラブに持ち込んでヒアリングしながら記入するにしても、逆に老人クラブから役所に持ち込んでも相談するにしても、普段の人間関係次第である。

■ 他クラブとの協働の可能性

- 単位老人クラブの会長が集まり、30分程時間を取って回答し、小グループで議論する、といった運用も難しいと感じる。ただ、互いにどんな活動をしているかの話題提供はできるかもしれない。実際に支部の集まりでも互いの活動を知る機会があり、その際の情報源・材料にもなるだろう。コミュニケーションのきっかけにはなると思う。
- 例年実施している取組は、当初は目的があって開始したのかもしれないが、新しく引き継ぐなかで、目的

を知らずに続いている部分はある。例えば、年2回行っている一人暮らし高齢者の訪問では、訪問をしてみてもういった人か、どういった事情を抱えているかを知ることができ、民生委員とも双方から情報共有ができ、困ったことを分かったうえでのコミュニケーションにつながった。シートの指標を見て、この訪問の活動も貢献につながっているのだと実感した。

老人クラブの活動に関する理解促進、情報発信等への取組状況

- 役員を務めていることで、他の支部や単位老人クラブの活動を知る機会があるが、一般の会員だと他のクラブのことは知らないこともある。
- 田舎であり、日頃からある程度広い範囲で顔の見える関係にあるため、組織のつながりとは関係のないつながりから事情が分かることがある。
- 会員の入会は単位老人クラブによりやり方が異なり、59 歳になるとよほどでない限り全員が自動入会する会もあれば、加入条件を満たす人に声をかけて本人の意思で入会を決める会もある。
- 自動入会の場合は、会費が無料であるから成り立つ話でもあり、行事は参加費が伴うため、参加するか否かは本人の意思による。

⑥ 事例6：大分県臼杵市

自治体へのヒアリング

■ ヒアリング概要

ヒアリング実施日	2025年2月27(木) 10:00~12:30
ヒアリング実施方法	臼杵市社会福祉センターでのヒアリング(老人クラブ 同席)

■ 自治体概要：2024年10月1日現在（人口は住民基本台帳人口を記載）

総人口	35,086人	高齢化率	42.3%
高齢者人口	14,825人	第1号被保険者の要介護要支援認定率	18.4%

■ 地域内の老人クラブ概要：2024年4月時点

地域内連合会	臼杵市老人クラブ連合会(1)		
単位老人クラブ数	68団体	全体単位老人クラブの会員数合計	1,984人

老人クラブの活動内容に関する情報収集・情報共有の現状

■ 単位老人クラブとの関係性

- 単位老人クラブと直接のやり取りはあまりなく、連絡をする場合は、臼杵市老人クラブ連合会(市老連)と連絡を取っている。単位老人クラブに関しては、補助金申請書類に含まれる事業報告を見て、参加者数や実施時期を把握することが基本である。
- 通いの場等の調査がある際には、事業報告書をもとに調査票を作成している。
- 年度末には、単位老人クラブの会長を対象に、次年度の補助金に関する説明会を行っている。臼杵地域と野津地域別に2日間に分けて行政から説明を行っている。単位老人クラブの会長とは、年度末の補助金説明会と5月に開催される総会や高齢者・心身障がい者体育大会などで接点を持つ程度である。

■ 市老連との関係

- 補助金は各単位老人クラブの口座に振り込んでいるが、補助金申請に係る書類は市老連が取りまとめて市役所に提出している。
- 市老連の担当者とは密にコミュニケーションを取る関係性にあり、市役所との基本的な窓口となっている。

自治体の福祉施策・政策への老人クラブ活動の結び付けや、高齢福祉に関する事業計画等における老人クラブとの連携・協働に関する位置づけ等に関する取組状況

■ 市計画での位置づけ

- 総合計画、介護保険事業計画上では、生きがいを持った高齢者が元気に活動できるように活動の場となっている老人クラブに助成金を支払う、という旨を記載している。老人クラブ含め通いの場を増やすという数値目標はあるが、老人クラブのみの数値目標はない。
- 市老連の会長は、市主催の会議体等に委員として参加している。

■ 老人クラブへの期待

- 独居の高齢者や高齢者のみの世帯が増えており、地域の中で助け合ってもらうことが理想である。老人クラブに加入して、日々の行事や活動に参加してもらい、「最近あの人見ないな」と話題に上がるだけでも十分大事なことである。

「振り返りシート(案)」の構成や記載項目等に関するご意見(より実用的なものとするために必要な改善点等)

- 電子申請(ネット調査形式等)で実施できるのであればまとめるのは楽になるかもしれない。
- 行政との連絡頻度や交流機会に関しては、市老連とやり取りすることが基本であるため、単位老人クラブの多くは「当てはまらない」と回答するのではないかな。
- 「行政の会議や地域の会合等において、老人クラブから高齢者代表として意見機会が増えている」も、市老連の会長なら当てはまるかもしれないが、単位老人クラブに関しては想像がつかない。
- 情報収集という意味では有効かもしれない。指標の中では、「生きがいを持っている高齢者が増えている」を一番強調したいと考える。

老人クラブの活動や自治体の福祉施策に関する理解促進、情報発信等への取組状況

- 市報の挟み込みを通じて老人クラブの活動を紹介することもある。
- 老人クラブのほかサロン等も含む活動の場の一覧は作成しホームページ上で公開している。

老人クラブへのヒアリング

■ ヒアリング概要

ヒアリング実施日	2025 年 2 月 27 (木) 10:00~12:30
ヒアリング実施方法	臼杵市社会福祉センターでのヒアリング(自治体 同席)
ヒアリング対象	臼杵市老人クラブ連合会

■ 単位老人クラブの活動概要

- ・ 臼杵市における老人クラブの組織率は 17%であり、大分県全体でも 20%以下である。ここ3年、会員増強運動をしており、入院や死亡等を理由として会長の担い手がいけないことによるクラブの消滅・解散があるものの、単位老人クラブ数が増加したことに伴い、会員数も増加している。
- ・ いずれのクラブも役員が良く世話をしており、老人クラブが維持できているのは役員のおかげでもある。
- ・ 臼杵市では、前会長の提唱により、歩こう会、盆踊りをする芸能集団等の同好会活動を主体的に行う団体も老人クラブとして取り込んでおり、クラブ数の増加を実現してきた。高齢者が活動に参加して盛り上がるのみならず、文化の伝承にもつながっている。
- ・ 単位老人クラブ主催の行事として鎮南山を愛する会(ミツマタの花の鑑賞会)、七島会(舞踊・カラオケ・変面ショー・盆踊りの伝承)といった企画も行っている。他の単位老人クラブの会員にも声をかけて参加可能にする等、老人クラブ同士の横のつながりも作っている点は臼杵市の特徴である。
- ・ 地区の単位老人クラブ主体でスカットボールのイベントを行ったところ、「役員のおかげで楽しい一日を過ごせてありがたい」との言葉をもらった。役員も運営が大変だとのことで解散も考えていたが、会員の言葉を聞いたら残さなければいけないと気持ちを新たにした。集まる人は 10 年前に比べると減少し、50 人ほど来ていたところ先日は 28 人ほどの参加であった。

■ 単位老人クラブの活動における課題

- ・ 市老連の前会長が、今後、地区の住民による単位老人クラブだけではやっていけなくなる、発展させるためには同好会の団体も取り込んで地区を越えてつながりを持つことも重要だと提案した。臼杵市の行政は同好会の団体の受け入れにも柔軟であり、クラブ数の増加にもつながった。他方で、同好会に税金を使うのかという批判もあった。
- ・ 老人クラブが潰れていき、活動場所がなく寂しいという「老人クラブ難民」が出ているが同好会活動に参加することで解決できている。
- ・ しかし、既存の老人クラブだと、地区単位で 60~70 人所属しているが、同好会活動だと 20~30 人程度である。同好会活動を通じてクラブ数が増えても、既存の老人クラブが解散してしまうと会員数自体は減少してしまう。老人クラブの会員数を増やしたいと考え、同好会活動を通じた拡大も図っているが、なかなかクラブ数の増加・会員増につながらない点は市老連としてのジレンマとなっている。
- ・ 長く同じ会長が務めている老人クラブは次のリーダーを育てていないケースが多い。会長が辞任すると同時にクラブが消滅する例が多く見られた。跡継ぎをしっかりと育てる必要がある。

■ 市老連としての務め

- ・ クラブ単位の横のつながりは推奨しているが、地区主体のクラブと同好会クラブに同時に加入することはできない。所属先のクラブは一つにするよう徹底して周知を行っている。
- ・ 単位老人クラブの補助金申請書類の取りまとめを行っている。単位老人クラブへの補助金は、使途が決

まっているほか、補助金以外の収入源に関しても細かく報告が求められる。単位老人クラブの役員側も、きちんと書かなければならないという意識が強く、市老連として書類作成に関する相談を受け、サポートしている。

- 大分県からのパワフルシニア活動応援事業補助金を活用し、様々な活動を行っている。市老連も同補助金を活用して、『オレンジカフェ』を立ち上げ、地域住民の憩いの場としての役割を担っている。単位クラブでも補助金で麻雀セットや囲碁ボールなどを購入している。それによって、市老連も麻雀大会や囲碁ボール大会など新しい行事を増やすことができた。

老人クラブの活動における企画検討や目標設定の実施方法

■ 連合会としての目標・方針周知の難しさ

- 地区単位で活動している老人クラブがなくなると、地域の美化活動や清掃のほか、高齢者が抱える、ごみを捨てる、電球を取り替える等の生活上の細かな困りごとに対応する活動もできなくなる。本来的には老人クラブを作って助け合う社会を作る必要がある。
- ただし、老人クラブの会員の中にも、社会に対して何かしたいとの気持ちがある人もいれば、今まで一生懸命働いたからこそこれからは好きなことをしたい人もおり、どちらも正しいため強制はできない。市老連として単位老人クラブ全体に対する一つの方針を立てることは難しいのが実情である。
- 老人クラブには、「健康・友愛・奉仕」の三本柱があるが、全クラブが同じように活動しているわけではなく様々である。
- 会員の年齢にも幅があり、70歳前後は社会参加や奉仕活動に比較的強い思いを持っているが、80歳以上になると、活動を打ち出しても実施できない、自分のために楽しいことをしたい、という人が多い。会員が“二層”に分かれている点に課題意識はあるものの、市老連としては忙しくて対応しきれていないのが実情である。
- 市老連は単位老人クラブのとりまとめ役を担うほか、市老連主催で行事を執り行い、会員に元気に活動してもらうことが目標である。

活動の振り返り～活動内容や目標の更新・修正等の検討をどのように行っているか

- 単位クラブの会長と話をする、活動的に取り組んでおり、毎月誕生日会を行ったり、会合を定期的に行う等、会長中心に努力していることが伺える。会合では、いつ旅行に行くか、次回のカラオケ大会をどうするか等を各々話し合っており、多いところでは毎週会合を開いている。
- 市老連として、会員が活動しやすくなるよう応援したいのが一番である。連合会の事務所には毎日様々な人が来て、誰も来ない日はほとんどないくらい来客が多い。連合会の事務所が憩いの場のようにもなっており、事務局としても、単位老人クラブと顔が見える関係を築くことができおり、うまく連携していると感じる。
- パソコンが苦手で調べてほしい、大分県の補助金事業を活用したいがどう申請したら良いか等の相談が寄せられる。囲碁ボールも大分県のパワフルシニア活動応援事業の補助金を活用しており、各クラブの活動したい思いに応じて相談に対応している。

活動の企画・運営や振り返りに関する、他の団体(市区町村、社会福祉協議会、自治会・町内会等)との連携・協働の状況、及び日頃のコミュニケーションの状況

■ 地域振興協議会（区長）とのコミュニケーションの状況

- 地域振興協議会は旧小学校区(約3km 圏内)ごとの組織であり、地域福祉に関わる活動をしている。地域振興協議会の下組織として、各地区に区長、老人会(老人クラブ)、婦人会、子ども会等が連なっているが、地域振興協議会は実質区長が運営している自治組織である。旧小学校区の自治会が地域振興協議会の事務局を担い運営している。
- 老人クラブと、地域振興協議会及び自治会とは、協力関係はあるが、活動内容が類似しているせいか、地域によっては人材の取り合いとなることがある。ある地域では、区長主催の敬老を祝うイベントや、民生委員や福祉委員が中心に取り仕切るイベント等で、老人クラブ側が活動実施の希望を伝えても、自治会・町内会で実施しているからと断られるなど、連携・協働が実現しないことがあった。
- 高齢になると、老人クラブに関する書類作成も大変だが、地域振興協議会の事務方が支援に入ってくれていることもある。そのため、老人クラブを解散して地域振興協議会の参加者として合流し、地域振興協議会の体操クラブやサロン等、老人クラブと同種の活動に参加すれば、金銭管理や書類作成をせずに同じ活動ができていくような事例もある。
- 他方で、地域振興協議会が活動する旧小学校区は広いため、主な活動場所(コミュニティセンター)の近隣住民は参加できても、遠方の住民は参加が難しく、周縁部の高齢者が何も活動できないといった事案が起こり始めている。
- ただ、地域振興協議会の中には、老人クラブの必要性を実感し、新たに単位老人クラブを作りたいと相談に来る人もいた。サロンはあるものの、老人クラブは別途必要であるとのことであった。その認識を浸透させることは難しいが、地域振興協議会の中にも老人クラブの必要性を実感してくれる人が一人でもいれば、クラブは増えていくと考えている。
- 社会福祉協議会では、5人以上で成立するサロン活動を支援している。公民館が主な活動場所となっていて、市内各地にあることで移動距離が少ないため高齢者にとって集まりやすさがある。さらに、臼杵市では老人クラブは15人以上いないとクラブとして認められないため、人数要件が低いサロン活動の方が実施しやすく、老人クラブの活動が成立しにくいという制度的な事情がある。
- 老人クラブ・地域振興協議会・社会福祉協議会は、一部の地域で連携が生まれなかったり、競合が起きてしまったりしている点は課題である。ただ、いずれの団体も同じ方向を向いて活動していると考えている。

■ 行政とのコミュニケーションの状況

- 臼杵市では認知症施策に力を入れている。老人クラブでは、認知症サポーター700人(会員の3分の1)を目標に養成講座の受講等を推奨してきた。行政も臼杵市全体でサポーター1万人を目標に掲げており、図らずも同じ年に目標を達成したことから、行政から声掛けがあり、表彰の場が設けられた。
- 市老連の前会長はプロデュースが上手であり、臼杵市が認知症施策に力を入れていることを把握して、認知症サポーター養成講座を推奨したと思われる。認知症サポーターをはじめ様々に取組を拡大していった。
- 行政とはメールでの連絡もしている。行政との関わりは60年に及んでおり、行政側の担当者が変わってもパイプをつないでくれたからこそ、今も密に連絡が取れている。一般的には、行政は敷居が高い印象もあるが、そうならないように最初に関わり始めた担当者が関係を作ってくれたことで、現在の関係がある。

■ 身体障害者の団体や行政とも連携した体育大会の開催

- ・ 臼杵市では、市老連が主体となって高齢者と身体障がい者合同の体育大会を開催しており、前日から準備を進め、臼杵市の職員も15～20人程がスタッフとして道具の出し入れ等の応援に入る。その点、臼杵市は行政と老人クラブが近い関係と感じる。
- ・ 体育大会は500人以上が集まる大規模なイベントとなっており、市内で一番大きい小学校の児童数400人を超える規模である。以前は身体障がい者の参加も多かったが、最近は高齢化も相まって参加が難しくなっている。高齢者のためだけの大会ではないとの思いから、名前は残していきたい。
- ・ 身体障がい者は申請をしなくともサポートがある等、社会が変わってきており、従来のように身体障がい者団体として集まって国に訴えかける必要もなくなったことから、身体障がい者の会に入る人がほとんどいなくなったことが背景にある。
- ・ 前市老連会長の提案により、5色に分かれて応援合戦もやっている。以前は5色のタオルで応援合戦をしていたが、今年度は応援団も作り、応援合戦と結びついて非常に盛り上がった。全参加者が「こんな体育大会になるとは」と満足していた。
- ・ 調整は事務局が行っているが役員や団長の協力で開催ができている。
- ・ 今年度は広報紙で、体育大会の特集号の作成を予定している。

「振り返りシート」の構成や記載項目等に関するご意見(より実用的なものとするために必要な改善点)

■ 振り返りシートを通じた老人クラブの活動意義や課題の確認

- ・ シートにある活動・指標を網羅することが難しい。しかし、シートの情報を通じて、老人クラブの意義を分かってもらえるのは良いと思う。自身も加入前はゲートボールをしている姿しか目に入らなかったが、老人クラブでの活動を通じて集まることで元気になることは知ってもらいたい。
- ・ シートは老人クラブ側の意識づけにも良いと考えるが、記入は面倒だという不満はあるだろう。
- ・ 小項目レベルでも十分で、自分たちがやっていることに価値があるかを確認できれば良い。奉仕活動として継続できていることも有意義なことである。
- ・ 例えば、囲碁将棋の活動は、内容は変わらないが年間130日活動している。そんなに多く活動できるクラブはまずないし、もっとやりたいという人もいるほどである。活動を辞める人はいるため、クラブとして改革や工夫は必要ながら、維持できていることに価値はある。
- ・ 市内のサロンは増えているが、老人クラブは増えていない。その点も行政にどのように伝えるかは課題である。
- ・ 現在は老人クラブに限らず様々な組織が潰れており、残金で運営して資金が尽きたら解散という組織もある。組織がなくなることは、つまるところ社会とのつながりがなくなることでもある。孤独死が問題となっているなか、老人クラブがなくなればますます、孤立する人が増えるだろう。集まる場はやはり重要であり、認知症予防にもつながる。

■ 振り返りシートの形式について

- ・ ○を付けるだけで良いならまだしも、自由記述が必要になると忌避するのではないか。自由記述は任意にするなら良いかもしれない。空欄でもよいとプレッシャーを与えずに依頼する方が良い。
- ・ 項目はできる限り少ない方が良く、簡単に分かる、誰でも嫌がらずに手を付けられるものが望ましい。

- 各指標に関する質問は5択ではなく、「あてはまる・どちらともいえない・あてはまらない」の3択はどうか。
- A3 サイズにする等大きい必要はある。

■ 振り返りシートの運用について

- 単位老人クラブはメールでのやり取りはできない。できる人もいるがほんの数人である。パソコンを持っていない人も多い。
- 補助金説明会等で集まる際に、その場でシートを記入するのが良いのではないか。

老人クラブの活動に関する理解促進、情報発信等への取組状況

■ 市民に対する活動の周知啓発の必要性

- 老人クラブの活動をもっと知ってもらいたい。活動を写真でも紹介している広報紙を作成し、会員と区長に配布しているが、現在は発行 4,000 部であり、臼杵市の人口約3万人には行き渡らない。老人クラブが何をしているかアピールすることができれば良く、例えば1枚物のペーパーでも良いのかもしれない。
- 現在は区長に配布しているが、区全体への回覧に変えられないか、相談してみたい。市報に老人クラブの活動の紹介を挟み込むのも良いかもしれない。
- 臼杵市の女性委員会は、『オレンジカフェ』をはじめ様々に活動している。全老連から表彰を受けたところであり、市老連としても後押ししている。この活動のことも市民に周知してもらう必要がある。

■ クラブの充実化や協働に向けた他地域団体への周知啓発の必要性

- 老人クラブの宣伝は必要である。特に区長に対して、老人クラブの切実な意義を伝えるものが必要と考えている。歴史的経緯として、元は区長が老人クラブを作ってきたのだが、現在は区長自身がクラブに加入していない。
- 老人クラブを活発化させるため、区長に相談して一定の年齢になったら老人クラブに入ってもらおうよう依頼したいという希望もあるが、実際は難しい。老人クラブの会員が少ないところは、区長中心にクラブに力添えしてもらえると活発になると思う。
- 各地区で老人クラブの組織がきちんと成り立ち、他の地域団体同士が助け合えると良い。老人クラブが充実すれば民生委員や福祉委員とも助け合うことができるため、その目的でも老人クラブを作っていくことが大事である。その意識をなかなか広められないことが課題である。
- 会員数が減るのは仕方がないが、クラブが解散してしまうのは阻止しなければならない。今後も高齢者は増えていくため、老人クラブとしてどういった役目をしていくかを考えなければならない。規模が小さくなくてもクラブとして残ってもらいたい。

5. 調査結果から見た老人クラブの活動の「見える化」の重要性と取組の要点

(1) 老人クラブの活動継続・発展に向けての課題

ア) 老人クラブの活動継続に向けての課題

老人クラブの今後の活動に関する課題について、昨年度の調査研究事業の結果において「会員数・活動参加者の減少」や「会員の高齢化」といったことが指摘されていたが、このことは統計資料や全国老人クラブ連合会の実施した調査の結果等、定量的なデータからも確認できる。

また、今回実施したアンケート調査、ヒアリング調査の結果からも同様の課題が抽出されているが、特にアンケート調査における老人クラブの活動継続に関する課題についての自由記述回答の内容をみると、主な課題として挙げられた項目にはそれぞれ関係があることがうかがえる。「会員数・活動参加者の減少」という事象の原因として「新規入会の減少・伸び悩み」があり、そのことが「会員の高齢化、顔ぶれの固定化」といった事象につながり、その影響として「担い手・後継者の不足」や「活動内容の縮小、マンネリ化」といった問題が生じていると推察される。

要約すると、「新規入会の減少・伸び悩み」が老人クラブの活動継続に関する様々な問題の根源にあり、比較的若い高齢者（前期高齢者等）の新規加入をいかに増やしていくかということが、今後の老人クラブの存続に向けて取り組むべき、最大の課題となっていることが分かる。

図表 5-1-1 【再掲】老人クラブの活動に関する課題（自由記述）

主な回答の分類	記述内容の概観
会員数・活動参加者の減少	・会員数や活動への参加者数が減少している ・その結果、活動規模の縮小やクラブの休止・解散といった問題も生じている
会員の高齢化、顔ぶれの固定化	・新規入会が増えないことによりメンバーが固定化し、世代交代が進まないことから徐々に高齢化が進行
新規入会の減少・伸び悩み	・定年や再雇用の延長などにより、前期高齢者など比較的若い世代に仕事をしている人が増え、老人クラブに参加する余裕がないことなどを背景に、新規入会が進まない ・老人クラブ以外の活動の場やサービスが以前より充実していることも影響し、地域のクラブに参加したいという若い高齢者が減少している
担い手・後継者の不足	・クラブの役員など、活動の担い手や世話役のなり手・後継者が不足しており、今後の運営に不安がある
活動内容の縮小、マンネリ化	・会員の高齢化や活動参加者・担い手の不足等により、従来の活動ができなくなるなどして活動の幅が狭まり、例年と同じことを続ける以上の活動が難しくなっている

イ) 老人クラブへの新規入会が伸び悩んでいる理由

老人クラブの新規入会が伸び悩んでいる理由として、アンケート調査及びヒアリング調査においては以下のようなことが挙げられている。

- ・ 定年の引き上げや雇用延長の普及により、60歳以降も仕事を持っている人が増えている
- ・ 以前と比べると、老人クラブ以外の活動の場が充実している
- ・ 地域住民同士のつながりが希薄化している

ここでいう「新規入会」とは、主に60歳～70代前半程度の、比較的若い高齢者の新規入会を指す。新規入会が少なく、活動の中心メンバーが入れ替わらないまま年齢を重ね、徐々に活動への参加や、クラブの運営を担っていくことが難しい会員が増えてきた結果、活動の範囲縮小等の影響が生じてしまっているというのが現状である。

比較的若い世代の高齢者が老人クラブに加入しないことには、上記のような様々な要因が影響していると考えられるが、彼らに対して「老人クラブとの接点がない、活動の内容・やりがい等が伝わっていない（その結果、自分とは関係のないものだと思われる）」ということも影響しているのではないと思われる。

そのため、新規の会員を増やすためには、老人クラブがどのような活動を行っているのか、その活動には地域社会にとってどのような意義があるのかということについて世の中に情報を発信し、理解促進を図っていくこと、すなわち「活動の『見える化』に関する取組」が重要であると考えられる。

(2) 老人クラブと地方自治体とのコミュニケーションの現状

老人クラブの活動の「見える化」を図り、継続・発展に向けた支援や協働を進めるためには、支援者である地方自治体とのコミュニケーションが重要であると考えられる。本調査研究事業より得られた情報より、老人クラブと地方自治体のコミュニケーションの現状や課題等について以下のとおり整理する。

① 地方自治体による老人クラブに関する情報収集等の状況

今回実施したヒアリング調査においては、地方自治体の担当者が単位老人クラブの活動状況を把握したり、直接的にやり取りを行ったりということはあまりなく、個々のクラブにおける活動実態についてはあまり情報を得ることができていないという課題意識が挙げられた。

また、アンケート調査の結果からも、単位老人クラブとの接点については年に一度の補助金交付に関するやり取りが主であることが推測され、それ以外にはあまり頻度の高い連絡・情報収集等は行われていないという結果が得られた。

加えて、会員数や会計報告、活動計画及び実績（参加者数等）については情報収集を行っている自治体は多いものの、活動の効果等に関する振り返りや、今後の運営に関する課題の把握については情報を収集している自治体の割合は比較的低くなっていた。

図表 5-2-1 【再掲】地方自治体による老人クラブの活動に関する情報収集の状況

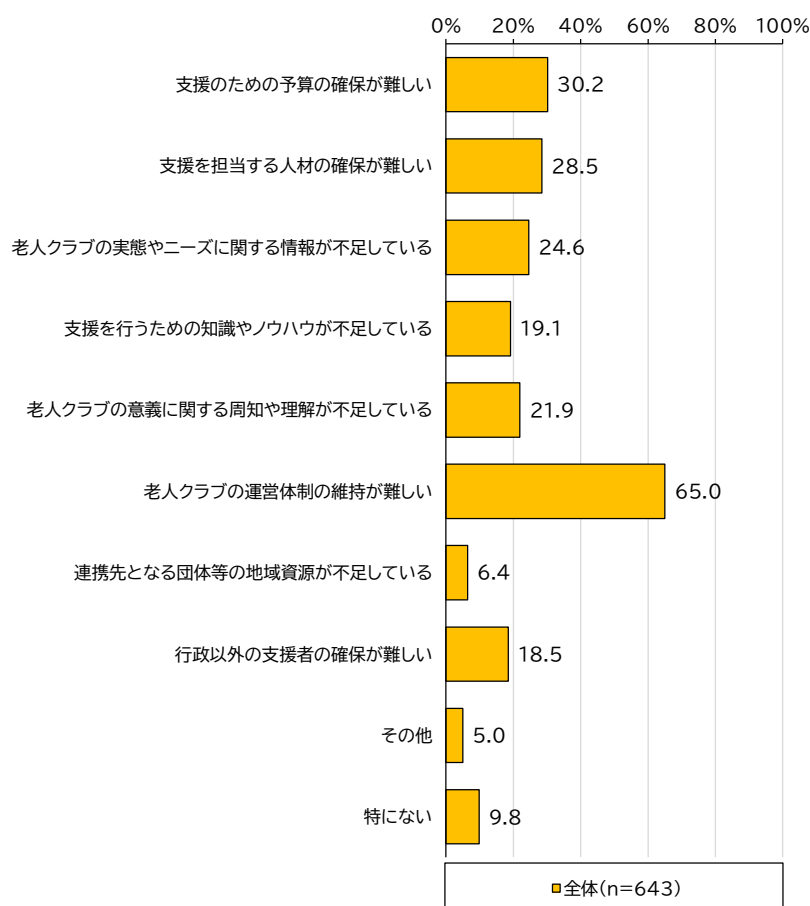
	N値	1 1か月に1 回以上	2 2～3か 月に1回 程度	3 半年に1 回程度	4 年に1回 程度	5 2～3年 に1回以 下	6 行ってい ない
貴自治体で用意した様式(選択肢から選ぶもの・数字記入するもの。アンケート調査含む)	643	0.3	0.5	5.8	31.9	1.6	60.0
貴自治体で用意した様式(自由記述式のもの。アンケート調査含む)	643	0.3	0.3	3.7	22.4	2.0	71.2
様式自由の書類	643	0.5	0.9	2.5	17.4	0.2	78.5
自治体職員によるヒアリングやインタビュー	643	1.4	4.5	5.3	11.8	1.9	75.1
自治体職員による老人クラブ活動現場への訪問・見学や活動参加など	643	2.8	14.0	9.2	11.7	1.9	60.5
自治体職員による対話・意見交換・打ち合わせ等(対面・Web会議・電話など全て含む)	643	7.5	12.8	7.9	15.7	1.1	55.1
老人クラブ連合会による情報収集の結果報告(間接的な情報収集)	643	6.8	10.0	8.7	32.2	0.6	41.7
中間支援者(老人クラブ連合会を除く)や外部委託先による情報収集の結果報告(間接的な情報収集)	643	0.9	3.1	2.5	6.1	0.5	86.9

図表 5-2-2 【再掲】地方自治体による老人クラブの活動に関する情報収集の手段と内容

	N値	1 老人クラブの会員数	2 老人クラブの会計報告	3 活動計画	4 各種活動実績(活動一覧や内容、参加者数など)	5 活動の効果や振り返りに関する報告	6 今後の運営に関する課題	7 行政への要望・支援ニーズ	8 その他の情報
貴自治体で用意した様式(選択肢から選ぶもの・数字記入するもの。アンケート調査含む)	257	86.4	85.6	75.5	73.9	10.5	5.1	3.9	12.1
貴自治体で用意した様式(自由記述式のもの。アンケート調査含む)	185	49.7	55.7	70.8	71.4	14.1	13.0	11.4	18.9
様式自由の書類	138	59.4	60.9	66.7	71.0	22.5	11.6	15.2	21.7
自治体職員によるヒアリングやインタビュー	160	28.1	28.8	35.6	52.5	32.5	52.5	47.5	25.0
自治体職員による老人クラブ活動現場への訪問・見学や活動参加など	254	6.7	7.5	17.3	52.4	20.9	26.8	30.7	38.6
自治体職員による対話・意見交換・打ち合わせ等(対面・Web会議・電話など全て含む)	289	30.4	29.1	39.8	43.9	33.6	59.5	63.7	35.3
老人クラブ連合会による情報収集の結果報告(間接的な情報収集)	375	55.2	47.5	57.1	66.7	34.4	36.3	35.7	30.1
中間支援者(老人クラブ連合会を除く)や外部委託先による情報収集の結果報告(間接的な情報収集)	84	54.8	47.6	52.4	61.9	26.2	33.3	36.9	33.3

活動の詳細についての情報収集・整理が難しい理由としては、ヒアリング調査からは、単位老人クラブの数に対する自治体職員の数が少なく、十分な個別対応が難しいということが挙げられていたほか、アンケート調査結果では「老人クラブの運営体制の維持が難しい」ことが支援を行う上での課題として多く挙げられていた。現状の体制・仕組みの中では十分なコミュニケーションを図ることが難しい状況にあるということがうかがえる。

図表 5-2-3 【再掲】地方自治体が老人クラブの活動支援を行う上での課題



② 老人クラブへの補助金の交付や、連絡・相談における中間組織の役割

自治体による老人クラブの活動に関する情報収集の状況については先に述べた通りであり、年に一度の補助金交付に関するやり取りが重要な接点となっている。なお、老人クラブに関する事業の運営体制は自治体によって様々であり、昨年度調査研究事業でも整理されているように、補助金等について「自治体が単位老人クラブと直接やり取りしているタイプ」、または「老人クラブ連合会が連絡の窓口となっているタイプ」など、様々なパターンが把握されているが、今回実施したヒアリング調査においても、自治体によってその体制や仕組みが異なっていることが確認された。

また、単位老人クラブと自治体との直接的な連絡頻度は低いことがうかがえるが、今回のヒアリングでは、両者の間をつなぐ中間組織として、補助金の分配や各種連絡・調整、イベントの企画運営等において地区等の老人クラブ連合会が重要な役割を担っていることが把握された。

活動内容の検討や振り返りについては、基本的に単位老人クラブや中間組織（地区の連合会等）

にて自主的に検討・実施されており、行政側で内容のチェックや指導等は行っていないとのことであったが、活動の企画・検討について、各地域の連合会が相談対応や助言を担っているケースも見られた。

老人クラブの活動継続・発展に向けた様々な支援を行っていく上では、自治体と単位老人クラブをつなぐ存在である老人クラブ連合会の役割にも着目し、各種の支援や連絡の経路における連合会の位置づけを考慮しながら運営体制を構築することが重要であると考えられる。

(3) 老人クラブ側の意識と自治体側の意識の比較（「見える化」の試行）

老人クラブの活動の「見える化」の試行として、それぞれの活動において老人クラブ側や自治体側がどのような意識・実感を持っているかの比較分析を行った。

なお、分析を行うにあたり、データ集計の準備として以下のような処理を行った。

- ①老人クラブ向け調査における、活動の振り返り指標（貢献度）に関する質問について、関連性のある活動を「行っている」と回答した回答者のみを集計対象として選定
- ②市区町村向け調査における、活動の振り返り指標（貢献度及び期待度）に関する質問について、関連性のある活動が行われていることを「把握している」と回答した回答者のみを集計対象として選定

※なお、各振り返り指標の集計対象とする判定基準は以下のとおり

分類A：高齢者の生きがい・健康づくり

振り返り指標		集計対象の要件
趣味・生きがいづくり	趣味や生きがいを持っている高齢者が増えている	行っている活動・把握している活動について「あてはまるものはない」との回答以外
	趣味や生きがいづくりの活動を行う場が増えている	
健康増進	運動習慣のある高齢者が増えている（街中で運動をしている高齢者数の印象など）	運動や介護予防に取り組んでいるとの回答があったもの
	運動機能の低下した高齢者が減っている（身の回りの歩行困難等の高齢者数の印象など）	
	日常生活において介護や手助けが不要な、元気な状態を維持している高齢者が増えている	
	介護予防や認知症予防に取り組む意識が高まっている	介護予防に取り組んでいるとの回答があったもの

分類B：高齢者の仲間づくり

振り返り指標		集計対象の要件
高齢者の学び	学習講座など、高齢者が何かを学ぶための場が増えている	学習、社会見学、講習会等の活動に取り組んでいると回答のあったもの
	学習講座など、高齢者が何かを学ぶための場が充実している（内容・質の充実）	
	学習意欲の高い高齢者が増えている（講座の開催要望の増加等）	

振り返り指標		集計対象の要件
高齢者の孤立防止	困ったときの相談相手や、友人・仲間がいないと思われる高齢者が減っている	声かけ、訪問活動等に取り組んでいると回答のあったもの
	自宅に閉じこもっている高齢者が減っている	
	地元であいさつや立ち話をしている高齢者が増えている	
	助け合い活動への参加等、「支える側」として活動する高齢者数が増えている	
高齢者の集まる場づくり	老人クラブの活動に参加したいと思う高齢者が増えている	サロン、通いの場等の活動に取り組んでいると回答のあったもの
	高齢者の居場所や集まる場が増えている	
	活動への参加者や、集いの場に通う高齢者が増えている	
高齢者の社会参加の推進	農作業やものづくりに取り組む高齢者が増えている	農業体験、作品作りに取り組んでいると回答のあったもの
	仕事や地域活動への参加など、社会参加している高齢者が増えている	

分類C：地域を豊かにする環境づくり

振り返り指標		集計対象の要件
安心安全な地域の実現	地域の安心安全に関する取組（防犯・交通安全活動など）に参加する高齢者が増加している	交通安全や見守り活動に取り組んでいると回答のあったもの
	安心・安全な生活のための知識の習得に意欲的な高齢者が増加している	
	地域の体感的な治安が向上している	
	地域の防災意識が高まっている	防災活動に取り組んでいると回答のあったもの
	困ったときの相談相手や対処法を理解している高齢者が増加している	交通安全や見守り活動に取り組んでいると回答のあったもの
地域環境向上	地域づくり活動に参加意欲のある高齢者が増加している	清掃、緑化、リサイクルに取り組んでいると回答のあったもの
	地域の環境美化が向上している	
	地域の緑化や花壇の手入れ等が向上している	緑化に取り組んでいると回答のあったもの
世代間の交流促進	子どもと高齢者が交流する行事や活動が増えている	多世代交流や文化継承に取り組んでいると回答のあったもの
	地域の子どもに高齢者が声かけするなど、住民同士の信頼関係が強くなっている	
	高齢者と現役世代が交流する行事や活動が増えている	
	高齢者の見守りや生活支援に携わる地域の人（高齢者以外）が増えている	
行政や地域との関係団体との連携促進	老人クラブと行政との連絡頻度や交流機会が増えている	他団体との協働や、自治体の会議出席、提言等に取り組んでいると回答のあったもの
	老人クラブと他の関係団体との連絡頻度や交流機会が増えている	
	他の団体と協力することで、老人クラブの活動の幅が広がっている	
	行政の会議や地域の会合等において、老人クラブから高齢者代表として意見する機会が増えている	

老人クラブの活動が社会にもたらしている効果に対する意識について、老人クラブ向け調査と市区町村向け調査の回答結果を比較すると、以下のとおりである。

① 高齢者の生きがいづくり・健康づくりに関する活動

ア) 地域の状況改善に対する貢献度に対する評価

両者の回答は概ね同様の結果となっているが、「介護予防や認知症予防に取り組む意識が高まっている」については老人クラブ側の評価のほうが13.4ポイント高い。

図表 5-3-1 老人クラブの貢献度評価の比較（高齢者の生きがいづくり・健康づくり）

		老人クラブ	自治体
		貢献できている +やや貢献できている	貢献できている +やや貢献できている
趣味・ 生きがいづくり	趣味や生きがいを持っている高齢者が増えている	64.7% (n=763)	63.1% (n=639)
	趣味や生きがいづくりの活動を行う場が増えている	61.1% (n=763)	64.5% (n=639)
健康増進	運動習慣のある高齢者が増えている（街中で運動をしている高齢者数の印象など）	55.1% (n=749)	49.0% (n=630)
	運動機能の低下した高齢者が減っている（身の回りの歩行困難等の高齢者数の印象など）	31.5% (n=749)	32.2% (n=630)
	日常生活において介護や手助けが不要な、元気な状態を維持している高齢者が増えている	39.9% (n=749)	37.9% (n=630)
	介護予防や認知症予防に取り組む意識が高まっている	76.3% (n=613)	62.9% (n=544)

イ) 地域の状況改善に対する貢献度と自治体の期待度の比較

いずれの項目についても自治体側の期待度のほうが高くなっており、特に「運動機能の低下した高齢者が減っている」や「日常生活において介護や手助けが不要な、元気な状態を維持している高齢者が増えている」といった数量に対する意識を尋ねる項目についてはその差が大きくなっている。

図表 5-3-2 貢献度評価と自治体からの期待度の比較（高齢者の生きがいづくり・健康づくり）

		老人クラブ	自治体
		貢献できている +やや貢献できている	大いに期待している +ある程度期待している
趣味・ 生きがいづくり	趣味や生きがいを持っている高齢者が増えている	64.7% (n=763)	85.1% (n=639)
	趣味や生きがいづくりの活動を行う場が増えている	61.1% (n=763)	84.4% (n=639)
健康増進	運動習慣のある高齢者が増えている（街中で運動をしている高齢者数の印象など）	55.1% (n=749)	77.1% (n=630)
	運動機能の低下した高齢者が減っている（身の回りの歩行困難等の高齢者数の印象など）	31.5% (n=749)	73.5% (n=630)
	日常生活において介護や手助けが不要な、元気な状態を維持している高齢者が増えている	39.9% (n=749)	74.8% (n=630)
	介護予防や認知症予防に取り組む意識が高まっている	76.3% (n=613)	84.0% (n=544)

② 高齢者の仲間づくりに関する活動

ア) 地域の状況改善に対する貢献度に対する評価

「生きがいづくり・健康づくり」に関する活動と同様、「仲間づくり」に関する活動においても、老人クラブの貢献度について、老人クラブ側と自治体側での差はあまり見られないが、「困った時の相談相手や、友人・仲間がいないと思われる高齢者が減っている」については 11.5 ポイントと、他の項目と比べて差が大きくなっている。

図表 5-3-3 老人クラブの貢献度評価の比較（高齢者の仲間づくり）

		老人クラブ	自治体
		貢献できている +やや貢献できている	貢献できている +やや貢献できている
高齢者の学び	学習講座など、高齢者が何かを学ぶための場が増えている	54.3% (n=680)	55.2% (n=547)
	学習講座など、高齢者が何かを学ぶための場が充実している（内容・質の充実）	44.1% (n=680)	47.3% (n=547)
	学習意欲の高い高齢者が増えている（講座の開催要望の増加等）	36.8% (n=680)	36.9% (n=547)
高齢者の孤立防止	困ったときの相談相手や、友人・仲間がいないと思われる高齢者が減っている	32.2% (n=642)	43.7% (n=513)
	自宅に閉じこもっている高齢者が減っている	31.5% (n=642)	40.0% (n=513)
	地元であいさつや立ち話をしている高齢者が増えている	32.4% (n=642)	38.6% (n=513)
	助け合い活動への参加等、「支える側」として活動する高齢者数が増えている	39.4% (n=642)	44.4% (n=513)
高齢者の集まる 場づくり	老人クラブの活動に参加したいと思う高齢者が増えている	22.8% (n=675)	25.4% (n=551)
	高齢者の居場所や集まる場が増えている	40.7% (n=675)	48.8% (n=551)
	活動への参加者や、集いの場に通う高齢者が増えている	37.8% (n=675)	44.3% (n=551)
高齢者の社会参加 の推進	農作業やものづくりに取り組む高齢者が増えている	21.1% (n=498)	29.5% (n=376)
	仕事や地域活動への参加など、社会参加している高齢者が増えている	41.2% (n=498)	48.7% (n=376)

イ) 地域の状況改善に対する貢献度と自治体の期待度の比較

振り返り指標に対する自治体からの期待度（「大いに期待している」と「ある程度期待している」の合計）については各項目について概ね7～8割程度となっているが、「農作業やものづくりに取り組む高齢者が増えている」については62.5%と、他の項目よりもやや割合が低い。

老人クラブ側の貢献意識と比較すると、いずれの項目においても自治体側の期待度のほうが割合が高くなっており、特に一部の項目については両者の差が40ポイント以上となっている。孤立防止や集まる場づくりなどの項目について老人クラブ側の回答割合が低いために、差が大きくなっていることがうかがえる。

図表 5-3-4 貢献度評価と自治体からの期待度の比較（高齢者の仲間づくり）

		老人クラブ	自治体
		貢献できている +やや貢献できている	大いに期待している +ある程度期待している
高齢者の学び	学習講座など、高齢者が何かを学ぶための場が増えている	54.3% (n=680)	79.0% (n=547)
	学習講座など、高齢者が何かを学ぶための場が充実している（内容・質の充実）	44.1% (n=680)	73.1% (n=547)
	学習意欲の高い高齢者が増えている（講座の開催要望の増加等）	36.8% (n=680)	68.9% (n=547)
高齢者の孤立防止	困ったときの相談相手や、友人・仲間がいなくと思われる高齢者が減っている	32.2% (n=642)	80.1% (n=513)
	自宅に閉じこもっている高齢者が減っている	31.5% (n=642)	78.4% (n=513)
	地元であいさつや立ち話をしている高齢者が増えている	32.4% (n=642)	73.7% (n=513)
	助け合い活動への参加等、「支える側」として活動する高齢者数が増えている	39.4% (n=642)	78.2% (n=513)
高齢者の集まる 場づくり	老人クラブの活動に参加したいと思う高齢者が増えている	22.8% (n=675)	71.3% (n=551)
	高齢者の居場所や集まる場が増えている	40.7% (n=675)	80.4% (n=551)
	活動への参加者や、集いの場に通う高齢者が増えている	37.8% (n=675)	79.5% (n=551)
高齢者の社会参加 の推進	農作業やものづくりに取り組む高齢者が増えている	21.1% (n=498)	62.5% (n=376)
	仕事や地域活動への参加など、社会参加している高齢者が増えている	41.2% (n=498)	79.5% (n=376)

③ 地域を豊かにする環境づくりに関する活動

ア) 地域の状況改善に対する貢献度に対する評価

他の分類と同様、「地域づくり」に関する活動についても老人クラブ側・自治体側の貢献度の評価は概ね近い結果となっているが、「高齢者と現役世代が交流する行事や活動が増えている」については自治体側の評価のほうが10.4ポイント高くなっている。

図表 5-3-5 老人クラブの貢献度評価の比較（地域を豊かにする環境づくり）

		老人クラブ	自治体
		貢献できている +やや貢献できている	貢献できている +やや貢献できている
安心安全な 地域の実現	地域の安心安全に関する取組（防犯・交通安全活動など）に参加する高齢者が増加している	50.0% (n=644)	54.5% (n=495)
	安心・安全な生活のための知識の習得に意欲的な高齢者が増加している	46.6% (n=644)	47.1% (n=495)
	地域の体感的な治安が向上している	35.6% (n=644)	39.2% (n=495)
	地域の防災意識が高まっている	58.9% (n=338)	54.5% (n=277)
	困ったときの相談相手や対処法を理解している高齢者が増加している	32.8% (n=644)	38.2% (n=495)
地域環境向上	地域づくり活動に参加意欲のある高齢者が増加している	35.0% (n=731)	42.1% (n=589)
	地域の環境美化が向上している	58.0% (n=731)	58.4% (n=589)
	地域の緑化や花壇の手入れ等が向上している	65.1% (n=553)	70.2% (n=413)
世代間の交流促進	子どもと高齢者が交流する行事や活動が増えている	47.1% (n=609)	52.0% (n=465)
	地域の子どもに高齢者が声かけするなど、住民同士の信頼関係が強くなっている	38.6% (n=609)	43.4% (n=465)
	高齢者と現役世代が交流する行事や活動が増えている	25.3% (n=609)	35.7% (n=465)
	高齢者の見守りや生活支援に携わる地域の人（高齢者以外）が増えている	30.4% (n=609)	38.5% (n=465)
行政や地域の 関係団体 との連携促進	老人クラブと行政との連絡頻度や交流機会が増えている	40.8% (n=676)	40.2% (n=485)
	老人クラブと他の関係団体との連絡頻度や交流機会が増えている	34.8% (n=676)	35.5% (n=485)
	他の団体と協力することで、老人クラブの活動の幅が広がっている	36.7% (n=676)	37.3% (n=485)
	行政の会議や地域の会合等において、老人クラブから高齢者代表として意見する機会が増えている	47.8% (n=676)	48.9% (n=485)

イ) 地域の状況改善に対する貢献度と自治体の期待度の比較

振り返り指標に対する自治体からの期待度については各項目について概ね7～8割程度となっている。

老人クラブ側の貢献意識と比較すると、いずれの項目においても自治体側の期待度のほうが割合が高くなっており、一部の項目については両者の差が40ポイント以上となっている。活動への参加者数の増加や、他世代との交流等については老人クラブ側の回答割合が低いために差が大きくなっていることがうかがえる。

図表 5-3-6 貢献度評価と自治体からの期待度の比較（地域を豊かにする環境づくり）

		老人クラブ	自治体
		貢献できている +やや貢献できている	大いに期待している +ある程度期待している
安心安全な 地域の実現	地域の安心安全に関する取組（防犯・交通安全活動など）に参加する高齢者が増加している	50.0% (n=644)	80.6% (n=495)
	安心・安全な生活のための知識の習得に意欲的な高齢者が増加している	46.6% (n=644)	77.2% (n=495)
	地域の体感的な治安が向上している	35.6% (n=644)	69.7% (n=495)
	地域の防災意識が高まっている	58.9% (n=338)	83.4% (n=277)
	困ったときの相談相手や対処法を理解している高齢者が増加している	32.8% (n=644)	74.3% (n=495)
地域環境向上	地域づくり活動に参加意欲のある高齢者が増加している	35.0% (n=731)	75.2% (n=589)
	地域の環境美化が向上している	58.0% (n=731)	78.8% (n=589)
	地域の緑化や花壇の手入れ等が向上している	65.1% (n=553)	85.7% (n=413)
世代間の交流促進	子どもと高齢者が交流する行事や活動が増えている	47.1% (n=609)	78.7% (n=465)
	地域の子どもに高齢者が声かけするなど、住民同士の信頼関係が強くなっている	38.6% (n=609)	76.3% (n=465)
	高齢者と現役世代が交流する行事や活動が増えている	25.3% (n=609)	70.1% (n=465)
	高齢者の見守りや生活支援に携わる地域の人（高齢者以外）が増えている	30.4% (n=609)	71.8% (n=465)
行政や地域の 関係団体 との連携促進	老人クラブと行政との連絡頻度や交流機会が増えている	40.8% (n=676)	69.7% (n=485)
	老人クラブと他の関係団体との連絡頻度や交流機会が増えている	34.8% (n=676)	66.8% (n=485)
	他の団体と協力することで、老人クラブの活動の幅が広がっている	36.7% (n=676)	69.5% (n=485)
	行政の会議や地域の会合等において、老人クラブから高齢者代表として意見する機会が増えている	47.8% (n=676)	74.6% (n=485)

(4) 調査結果に基づく「見える化」の重要性と取組の要点

① 老人クラブの活動の「見える化」の重要性

ここまで見てきたように、地方自治体（市区町村）においては人員体制の問題等から個々の老人クラブとの接点が少なく、活動実態の把握があまり進んでいないが、他方でその活動を通じた地域社会への貢献に対しては期待度が大きいことがうかがえる。しかし、日頃接する機会が少ないことから、おそらく現状においては老人クラブ側にそうした期待感が伝わらないまま、老人クラブが活動をしているというケースが少なくないのではないかと推察される。

老人クラブは、自主的な活動を基本とする団体であり、その活動内容について、行政側から内容や方針等について意見することが難しいとの意見がヒアリング調査より把握された。他方、老人クラブの活動に対して補助金を交付していることから、その妥当性を説明し、周囲の理解を促進することの必要性についても指摘された。こうした課題の解決に向けて、活動の意義や効果の「見える化」を図っていくことが重要である。

なお、ここでの「見える化」とは老人クラブの外部から見た際の可視化に加え、内部（クラブの会員や活動に参画する主体）に対して、自分たちの取組の意義の再発見を促し、活動参加者の自信や意欲を高めていくことも重要である。これまでは「自分たちの好きなことを続けている」という意識しかなかったとしても、実際にはその活動が地域に貢献していたということが理解されることで、当人たちの活動意欲を喚起し、またさらなる目標を設定して取組を拡大・深化することにつながる可能性があるのではないと思われる。

老人クラブの活動に関する情報発信としては、会報の発行やホームページでの情報発信等が自治体・老人クラブ連合会等により行われている。他方、自治体においては個々の単位クラブの活動に関する情報収集については「あまりできていない」との意見が多く、「見える化」に向けては情報収集・整理の仕組みづくりや手段の検討などに取り組む必要があることがうかがえる。

加えて、現在行われている情報発信の対象としては高齢者向けのものが多く、それ以外の世代に対して効果的な発信ができていないことが課題として挙げられた。老人クラブの活動継続に関して会員数の減少や高齢化、役員・事務局の担い手の不足が課題となっているなか、新規の会員を増やしていくために、高齢者以外の年齢層や比較的若い高齢者層への発信が重要な課題であると考えられる。

② 老人クラブの活動の「見える化」に関する取組の要点

上記①のような調査結果の整理を踏まえ、本調査研究事業を通じ、老人クラブの活動を振り返り、その状況を「見える化」するための手法について検討を行った。検討のポイントとして、「見える化」に関する取組の要点を以下のように整理した。

ア) 現在の活動に対する老人クラブ側の意識及び課題の認識

アンケート調査の分析結果からは、老人クラブ側で自信を持って取り組んでいること、また取組において課題を感じていることが浮かび上がってきたが、これを活動分野の3つの分類に基づき、次ページのように整理した。

概観として、老人クラブ側では会員に対してはある程度貢献できていると認識しているのに対し、外部に対してはあまり貢献ができていないという意識を持っていることがうかがえる。また、数が増えている・減っているといった評価については、「わからない」との回答割合が高くなっている。

図表 5-4-1 アンケート回答結果から見た、老人クラブの活動に対する意識等の概観

分類A 生きがいづくり・健康づくり	・ 関連する活動を行うクラブが多く、参加者への効果・貢献を実感 ・ 貢献度の評価についても高く、自信をもって取り組んでいる分野
分類B 高齢者の仲間づくり	・ 会員に対する孤立予防には、効果・貢献度ともに一定の評価 ・ 会員でない高齢者への働きかけについて、課題と認識されている
分類C 地域を豊かにする環境づくり	・ 地域の緑化や美化活動には積極的な姿勢、成果にも自信あり ⇒ただし、高齢者以外の世代への働きかけについては課題と認識 ・ 地域社会に役立つこと・地域との関係強化への意欲が感じられる

※総じて、目的の明確な活動を行っている部分については効果・貢献意識が高い。

※客観的な数値等の変化（人数の増減など）のように、老人クラブ側で把握が難しいことについては、活動の効果・貢献意識ともに自信のない回答が目立つ。

イ) アンケートの自由記述に基づく、活動のやりがいの整理

今回実施したアンケート調査（老人クラブ向け調査）では、3つの分野における活動のやりがいについて、以下のような回答が得られた。

図表 5-4-2 【再掲】老人クラブの活動から得られるやりがい、達成感
（高齢者の生きがいづくり・健康づくり）

主な回答の分類	記述内容の概観
心身の健康維持・増進につながる	・ 運動による身体の健康維持に加え、心の健康や認知症の予防等についても効果が出ている
活動を通じて仲間ができる	・ 活動に参加することで人と触れ合うことができる ・ 活動を通じ、会員や参加者同士の仲が深まる、知り合いの輪が広がる
充実感・達成感がある	・ 発表会など人に見てもらえる機会があることで、活動を通じた充実感が得られる ・ 新しいことの学び、自身の成長を実感できる ・ 競技会への参加など目標を達成すること、目標に向けて練習・努力することに充実感や達成感を感じる
活動すること自体が楽しい	・ 集まって活動すること自体が楽しみとなっている ・ 参加者が笑顔になることが励みになる（運営側の視点）
生きがいができる	・ 活動に参加することで、日常の中での目的や生きがいができる

図表 5-4-3 【再掲】老人クラブの活動から得られるやりがい、達成感（高齢者の仲間づくり）

主な回答の分類	記述内容の概観
活動を通じて仲間ができる	・活動に参加することで、人と触れ合うことができる ・活動を通じ、会員や参加者同士の仲が深まる、知り合いの輪が広がる
孤立化の防止につながる	・孤独感が解消できる ・閉じこもりや孤立化の防止につながる
活動すること自体が楽しい	・集まって活動すること自体が楽しみとなっている ・参加者が笑顔になることが励みになる（運営側の視点）
地域との関係が強化される	・地域の住民（高齢者以外を含む）との接点が増える ・地域の中に知り合いが増える
充実感・達成感がある	・仲間と活動することで、生活の充実感が高まる

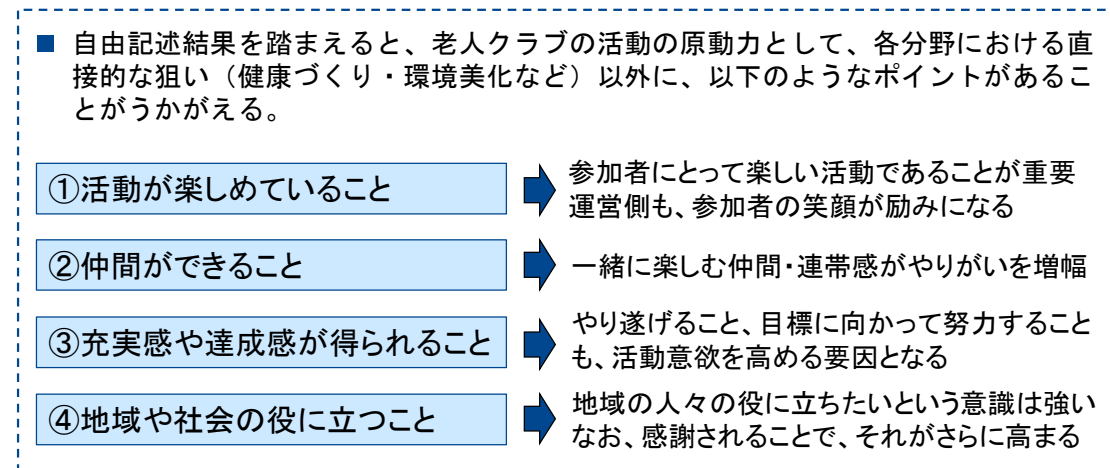
図表 5-4-4 【再掲】老人クラブの活動から得られるやりがい、達成感（地域を豊かにする環境づくり）

主な回答の分類	記述内容の概観
地域の役に立っている	・地域の環境づくりに貢献できる ・地域の美化や緑化、交通安全や見守り等の活動で地域の人に喜ばれている
地域との関係が強化される	・活動を通じ、町内会やその他の団体との連携が強まる ・高齢者以外の世代との交流ができる ・地域の一員としての意識が高まる
充実感・達成感がある	・花壇がきれいにできたり、地域の環境がよくなっていることが実感できると達成感が得られる ・地域の清掃など、活動をやり遂げたことによる充実感が得られる
地域の人から感謝される	・活動中に声をかけられたり、地域の住民から「ありがとう」と言われると励みになる
活動を通じて仲間ができる	・活動に参加することで人との交流が生まれ、仲間ができる ・活動中に話をするなどして、関係が深まる

こうした回答結果に基づき、老人クラブの活動のやりがいについて、以下のように整理した。

振り返り手法の検討や指標の設定にあたっては、参加者の意欲を高めるものであることが望ましいと考えられることから、振り返りの手法や指標がこれらのやりがいの源泉となるように各種の検討を行った。

図表 5-4-5 老人クラブの活動のやりがい（要点整理）

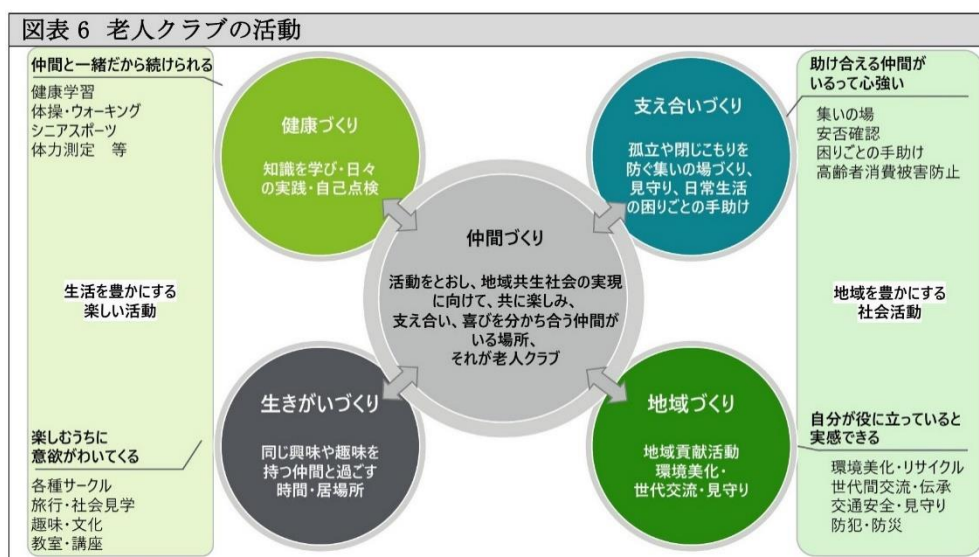


➡ 振り返り指標の設定においては、このような意識も考慮することが重要
（活動への意欲・自己肯定感を高めるような目標設定）

ウ）調査結果等に基づく、老人クラブの活動分野や「ロジックモデル」の再整理

本報告書冒頭で述べたとおり、本調査研究事業は昨年度調査研究事業の検討結果を踏まえて各種調査を実施しており、昨年度調査研究事業では老人クラブの活動分野について図表5-4-6ののとおり整理されていたが、今年度の調査結果を踏まえ、老人クラブの活動内容について、改めて図表5-4-7のように分類・整理を行った。なお、本調査研究事業の成果物である「ガイドブック」については、新しく整理した活動分野に基づき作成している。

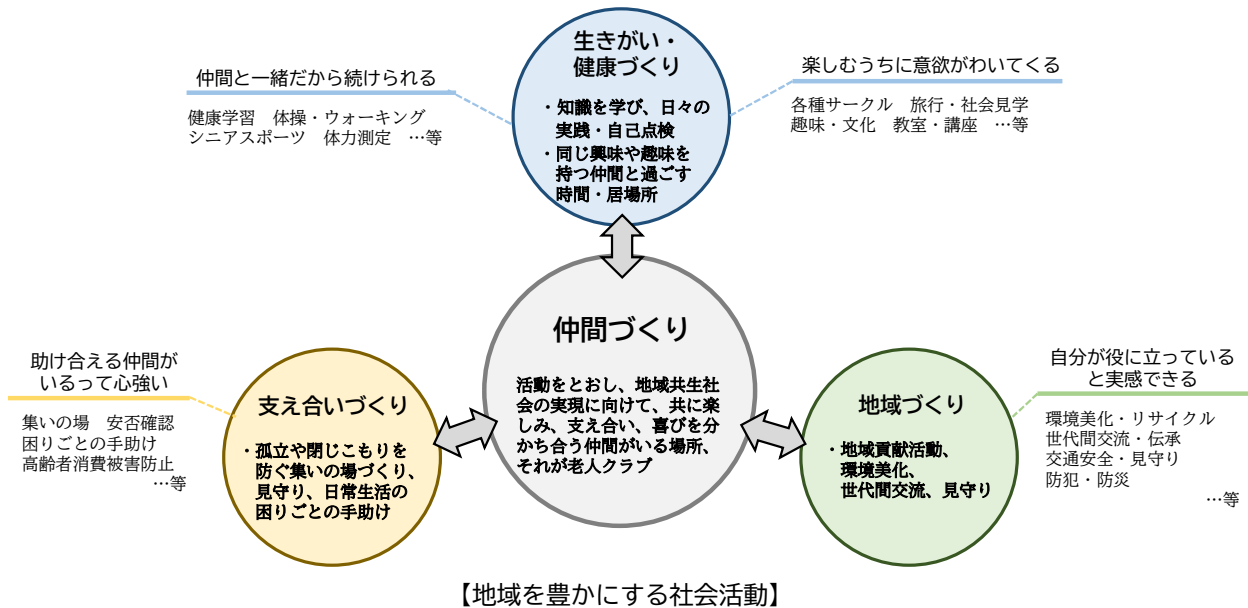
図表 5-4-6 再掲 老人クラブの活動分野（昨年度調査研究事業における整理）



出典：有限責任監査法人トーマツ「令和5年度老人保健健康増進等事業 老人クラブにおける効果的な活動促進に関する調査研究事業 調査研究報告書」

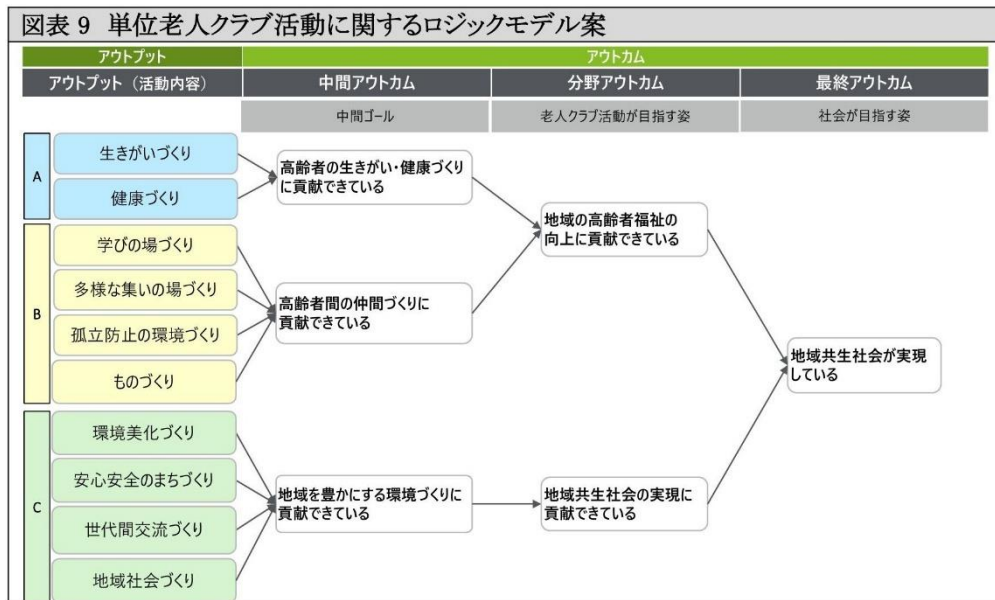
図表 5-4-7 老人クラブの活動分野の再整理

【生活を豊かにする楽しい活動】



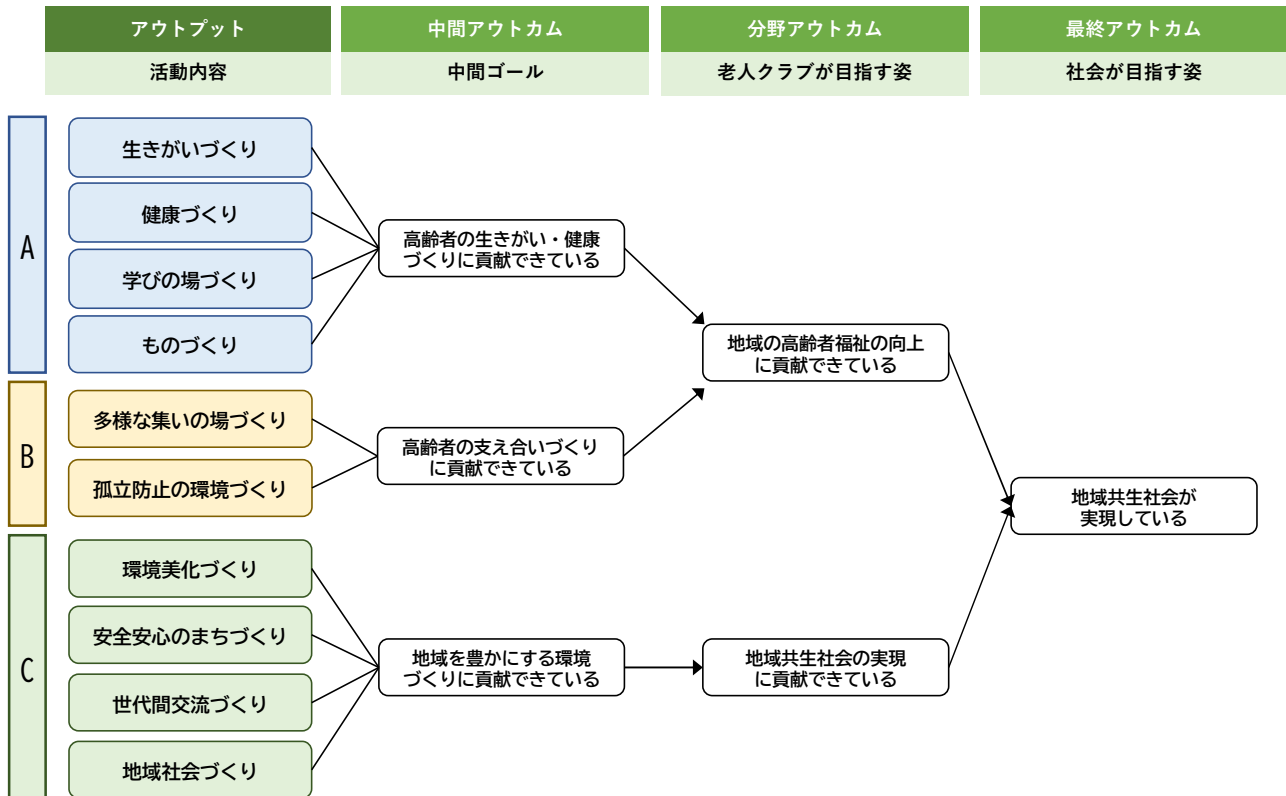
また、老人クラブの活動に関する「ロジックモデル」について、昨年度調査研究事業では図表5-4-8のように整理されていたが、こちらも今年度の調査結果に基づき図表5-4-9のような形に改めて整理を行った。次章に記載する、老人クラブの活動を振り返るためのワークシートの構成や記載項目等については、こちらのモデルをもとに検討・作成を行っている。

図表 5-4-8 再掲 老人クラブの活動のロジックモデル（昨年度調査研究事業における整理）



出典：有限責任監査法人トーマツ「令和5年度老人保健健康増進等事業 老人クラブにおける効果的な活動促進に関する調査研究事業 調査研究報告書」

図表 5-4-9 老人クラブのロジックモデルの再整理



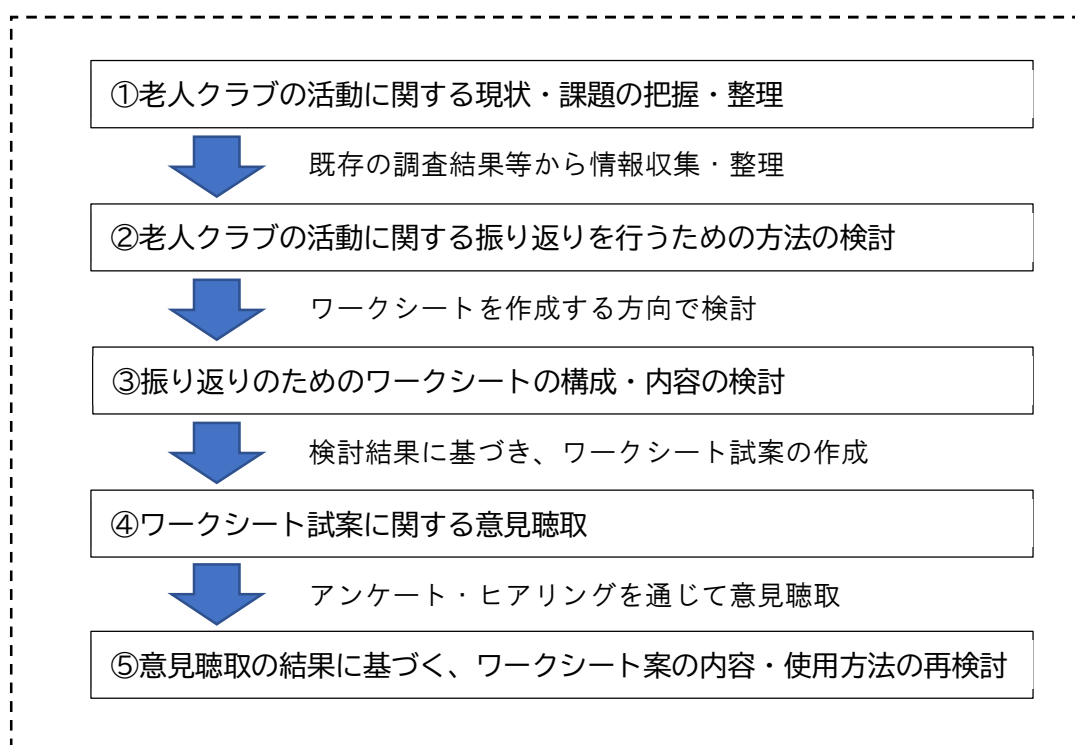
6. 老人クラブの活動の振り返りに関する手法の提案

(1) 老人クラブの活動の振り返りに関する手法の検討過程

本調査研究事業においては、老人クラブの活動を振り返り、その内容や意義についての「見える化」を図るための手法の検討を目的の一つとしている。各調査の結果より、老人クラブの活動の「見える化」の重要性について先述のとおり整理したが、ここからは「見える化」の取組に関する具体的な手法の検討・提案について記述する。

なお、本調査研究事業を通じて行った、振り返りに関する手法についての検討過程は、概ね以下のとおりである。振り返り用のワークシートの作成及びそれを用いた活動内容の把握・整理等を行うことを主軸とした手法を想定し、その具体的な内容についてアンケート調査・ヒアリング調査及び有識者研究委員会での意見聴取等を行いながら内容の調整を行うという流れで検討を進めた。

図表 6-1-1 老人クラブの活動の振り返りに関する手法の検討過程



(2) 「老人クラブの活動の振り返りに関するワークシート」の提案

① 「老人クラブの活動の振り返りに関するワークシート」のねらい

本調査研究事業を通じて作成した、「老人クラブの活動の振り返りに関するワークシート」（以下、「振り返りシート」という）のねらいは以下のとおりである。

「老人クラブの活動の振り返りシート」のねらい

- (1) 地域で活動する老人クラブ（単位老人クラブ）の活動内容を把握する手段として活用する
- (2) 老人クラブの活動に対する達成感や、地域の環境向上への貢献度を振り返り、活動状況や今後の活動に対する考えの具体化や、自分たちの活動の社会的意義に気づくきっかけとする
- (3) 老人クラブの活動継続における課題や、今後取り組みたいと思うことについての、関係者の情報共有手段として活用する

② 「老人クラブの活動の振り返りに関するワークシート」試案に対する検討結果

ア) 振り返りシートの構成や使用方法に対する意見及び調査結果

アンケート調査の内容に振り返りシートの試案を盛り込んだほか、ヒアリング調査時に振り返りシートの試案を提示して意見聴取を行った。なお、これらの意見聴取においては、老人クラブ向け調査のアンケート調査のQ1に該当する部分と同じものを使用している（詳細は資料編を参照）。

また、それらの結果に基づき有識者研究委員会にて意見交換を行った結果も合わせて、振り返りシートの作成における要点として、以下のようなポイントが整理された。

【振り返りシートの構成や使用方法に関する主な意見】

◆振り返りシートの作成・使用の意義

- ・ 地方自治体（市区町村）においては、単位老人クラブとの接点が少ないことから、担当者が各クラブの活動実態を知る機会が少ないことが課題となっている。活動状況を知るための方法、あるいはコミュニケーションの手段として、「振り返りシート」を活用することにはある程度の意義があるのではないか。

◆内容の検討に関するポイント

- ・ 老人クラブ側では、活動を通じて「会員のニーズ充足」と「活動を通じた充実感」を得ることが重視されているため、こういった部分を把握できるような構成とするとよいのではないか。
- ・ 調査項目の内容及び分量について、すべての単位老人クラブに対し、活動やその振り返り等に関する細かい事項の回答を求めるのは難しいのではないかと（回答できるクラブもあると思われるが、回答が難しいクラブも多いのではないかと）。

◆振り返りシートの運用にあたっての留意点

- ・ 自治体や老人クラブ連合会の事務局の人員体制を考慮すると、シートを用いてすべての単位老人クラブの活動を把握し、結果をまとめるのは現実的には難しいと思われるので、対象を抽出して対応するなど、実際の運用方法については工夫・検討が必要となる。また、振り返りや活

動内容の見直し・検討を行う頻度や期間を明示しておく必要がある。

- ・様式を配布して記入してもらっただけではうまくいかないことも考えられる（回答者ごとの認識のずれ、質問内容の理解度等の差があることから）。支援者が同席して相談・ヒアリングしながら記入する、またはクラブの会合等で相談しながら記入するなど、的確な情報を収集できる仕組みの検討が必要。

こうした意見を踏まえると、振り返りシートの導入・活用には意義があると思われるものの、その内容や運用方法については、各地の老人クラブの運営体制や活動状況等を踏まえて検討することが必要であることがうかがえる。

イ）振り返りシートの作成に向けた要点整理

上記ア）の意見等に基づき、振り返りシートの作成に向けては以下のようなポイントを踏まえた検討を行った。

◆振り返りシートの構成

- ・老人クラブの現場での作成過程（関係者が集まる場で、話し合いを行いながら作成）をイメージし、なるべくシンプルに、必要最低限かつ回答しやすい内容・分量で作成する。

◆振り返り指標の設定

- ・数値の根拠がないと判断しにくい項目（〇〇が増えた・減った）は避け、関係者の主観で回答しやすく、次の目標を考えやすい項目（△△ができた・できなかった…が基本）とする。
- ・指標の設定にあたっては、参加者が老人クラブの活動に求める「やりがい」を考慮し、活動の継続・発展に向けて前向きな考えを持てる、達成感が感じられるような項目を設定する。

◆振り返りシートの使用手順

- ・【①各クラブに記入してもらう⇒②内容を踏まえ、自治体担当者とクラブ関係者が対話⇒③話し合いを通じて今後の活動を一緒に検討】という３ステップを基本とし、可能な範囲（対象抽出など）での対応を想定。
- ・振り返りの間隔は、状況把握は年に１回、福祉施策への老人クラブの位置づけや活動の方向付けの見直し・検討は３年ごと（計画策定サイクルに合わせる）と想定。

なお、活動内容や振り返り項目、参考データは本調査研究事業を通じて得られた調査結果等を踏まえて設定したものであるが、より実用的なワークシートとするためには、各地域の状況等に基づき、必要に応じて適切なものを検討・設定した上で使用されることが望ましい。本調査研究事業の成果を公表している Web ページ (<https://www.yokohama-ri.co.jp/html/investigation/jutaku.html> 巻末の奥付にも記載あり) に、内容の書き換えが可能な PowerPoint 形式のファイルが掲載されているので、こちらを活用されたい。

図表 6-2-2 老人クラブの活動の振り返りに関するワークシート（案）の構成について

① 《老人クラブが記入》
各分野、行っている活動の内容に○

③ 《老人クラブが記入》
やりがいと感じていること、今後の課題・改善したい点について記入

老人クラブの活動に関する振り返りワークシート

クラブ名： _____ 作成日： _____ 年 月 日

① 行っている活動に○

【分類A：高齢者の生きがい・健康づくり】

健康についての学習	行楽・旅行
体操、運動	学習講座、研修
社会見学	手芸、工芸等
農業体験	趣味の活動（上記以外）
その他（ ）	

【分類B：高齢者の支え合いづくり】

声かけ運動	高齢者の訪問活動
集いの場、通いの場	困りごとの助け合い
サロン活動	
その他（ ）	

【分類C：地域を豊かにする環境づくり】

交通安全活動	リサイクル推進
防災、防犯活動	子ども・若者との交流
見守り活動	文化・歴史の継承
清掃活動	行政の会議への出席
緑化活動	
その他（ ）	

② 各活動を通じて取り組んでいることについて回答（取組の状況について、5段階での評価を数字で記入）

できていない ← 1 2 3 4 5 → できている

高齢者の生きがいづくり	高齢者の趣味の活動の充実
高齢者の運動の機会づくり	高齢者の健康の維持・増進
介護予防意識の向上	健康・介護予防に関する知識や情報の発信
学びの場・機会の充実	高齢者の活躍の場や機会の提供

相談相手や話し相手のいない高齢者への働きかけ	高齢者の閉じこもり防止
地域の高齢者の交流の活発化	地域の助け合いの活発化
高齢者の居場所づくり	

安全・安心な地域づくり	防災意識の向上
防犯意識の向上	地域の美化・清掃
地域の緑化	地域住民との交流
子ども・若者との交流	見守り活動
他の活動団体との連携	行政連携

③ 各分野の活動の、やりがいや活動の課題、今後の目標を記入

【やりがいと感じること】

【活動にあたっての課題・今後の目標】

【参考データ】

要介護認定率	
全国	本市
%	%
主観的健康観	
全国	本市
%	%
生きがいを持っている高齢者の割合	
全国	本市
%	%

閉じこもり傾向のある高齢者の割合	
全国	本市
%	%
通いの場の数（人口千人あたり）	
全国	本市
%	%

地域づくり活動への参加意欲のある高齢者の割合	
全国	本市
%	%

② 《老人クラブが記入》
行っている活動について、達成感や貢献度の自己評価を5段階で記入

④ 《各自自治体で記入》
振り返りの参考として、各地域の数値データを、全国の数値と併記する形で記載（項目の数や内容については適宜変更）
⇒参考となるデータベース等について、以下に参考情報を記載

※「参考データ」の記入や項目検討にあたって参考となる情報の例

○地域包括ケア「見える化」システム (<https://mieruka.mhlw.go.jp/>)

⇒こちらに記載の統計数値や、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の結果については全国と各市区町村の比較が可能

○医療経済研究機構 保険者シート 分析ツール① (<https://hokenja-sheet.jp/utilize/>)

⇒「分析ツール指標リスト」から指標を選び、「分析ツール①」から全国と各自治体の値を得ることが可能

○介護保険事業報告 月報 (<https://www.mhlw.go.jp/topics/0103/tp0329-1.html>)

⇒介護保険事業の状況について、最新の情報が記載されている

○統計で見る市町村のすがた (<https://www.stat.go.jp/data/s-sugata/index.html>)

⇒各自治体の人口や世帯、経済等の様々な情報がまとめられており、上記の資料以外の項目について、全国や他の自治体との比較を行いたい場合に活用が可能

（いずれも 2025 年 3 月 31 日最終閲覧）

④ 「老人クラブの活動の振り返りに関するワークシート」の使用方法

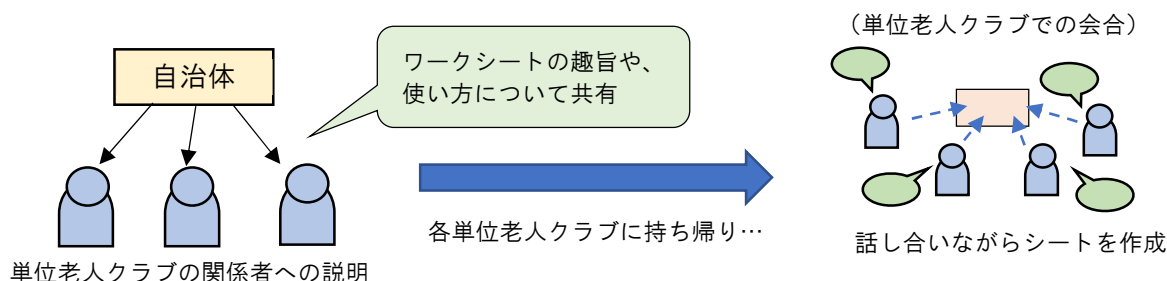
ア) 振り返りシートの使用場面の想定

振り返りシートは、主に単位老人クラブの関係者に、自分たちの取り組んでいる内容やその成果について振り返りを行い、それぞれの状況を整理してもらうことを想定したものであるが、これを各クラブに配布して、記入を依頼するだけでは、シートの趣旨が理解されない状態での回答となってしまうなど、あまり効果が発揮されない可能性がある。このシートがどのような意図で作成され、その結果がどのように活用されるのかについて、単位老人クラブの関係者に対する説明を行うことが必要であり、場合によっては記入方法等の指導や相談対応等のフォローを行うことが望ましい。

また、シートへの記入にあたっては、代表者など一部の関係者だけの考えで記入するのではなく、関係者が集まり、これまでの活動を振り返り、今後の活動を考えるという機会づくりとして活用してもらうことにより、自分たちの活動の意義を見つめ直し、活動意欲を喚起することについてより効果が高まることが期待される。老人クラブでは、総会など様々な場面で関係者が会合を持ちながら活動を行っていることが把握されていることから、「振り返りシート」の記入にあたっては、そのような集まりを活用し、「関係者が集まって、話し合いながら書き込んでもらう」という形式を提案したい。

なお、振り返りシートの配布方法については、現状においてはEメールでの送付に一本化することは難しいのではないかと指摘があったことから、郵送やFAXとの併用も考慮することが望ましい。また、個々の自治体により行政と老人クラブの連絡に関する体制や仕組み等が異なることから、振り返りシートを用いた情報収集の仕組みについて、担当者（自治体や連合会）及び老人クラブ側の負担、活用可能な手段等を含め、実施可能な方法について検討することが求められる。

図表 6-2-3 ワークシートの使用方法・使用場面のイメージ

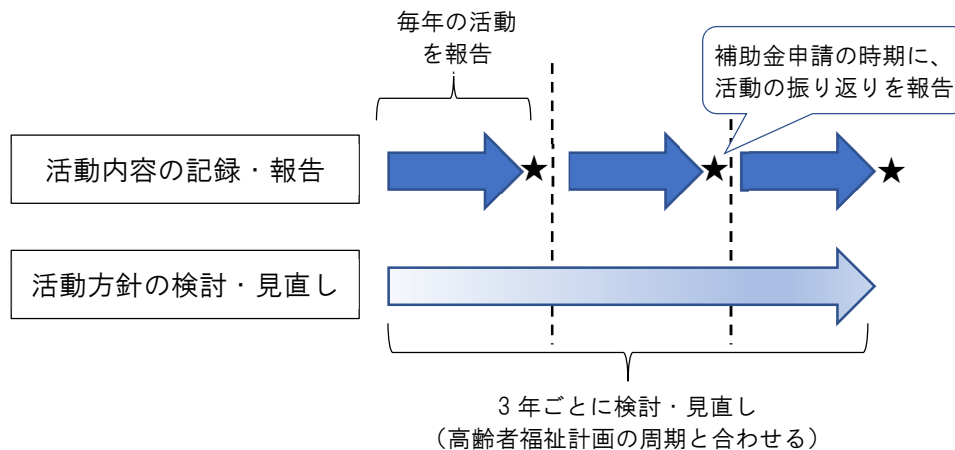


イ) 振り返りシートの使用場面の想定

活動の記録・報告について、あまり頻繁に行うことは老人クラブ側、行政担当者側のいずれにおいても負担が大きいことから、各年1回程度、例えば補助金申請のタイミングで行うのが適切ではないかと思われる。

各自治体においては3年ごとに高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定を行うこととなっているが、計画策定を行う際、各自治体の高齢者福祉政策の中での老人クラブの位置づけについて改めて確認・検討を行っていくことが望ましいと思われることから、毎年の記録に基づき、老人クラブの今後の活動方針の検討・見直しを行うのが妥当ではないかと考える。

図表 6-2-4 ワークシートを用いた情報収集・活動方針検討の頻度

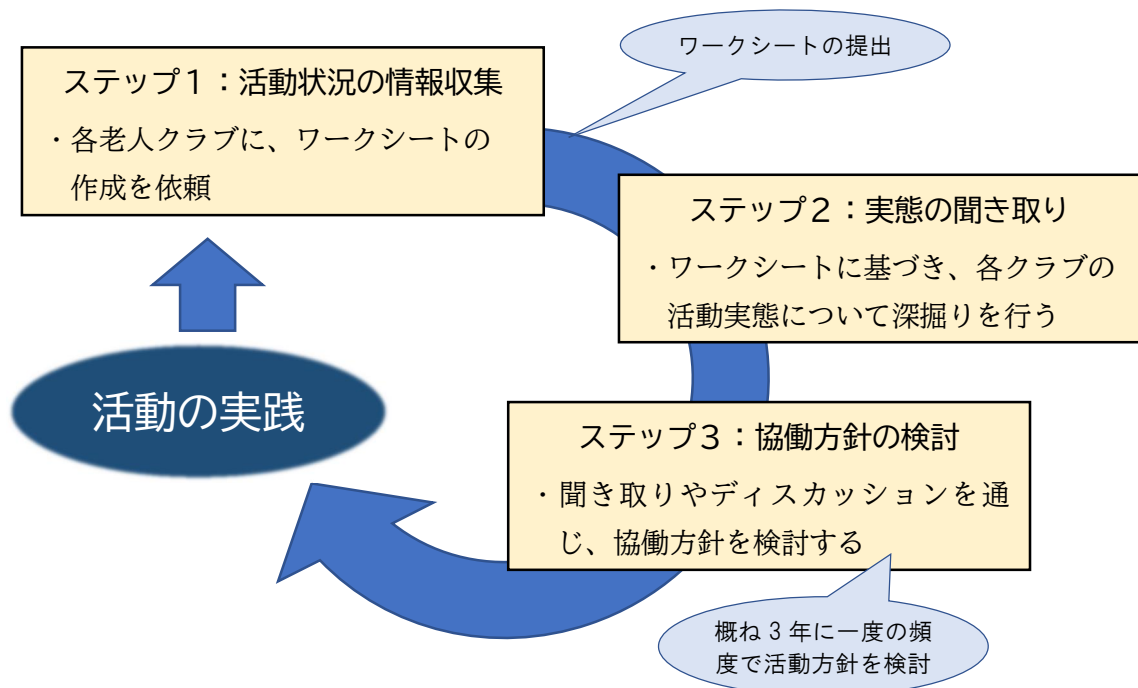


ウ) 振り返りシートを用いた意見聴取から活動計画を考えるまでの「3つのステップ」

実際に老人クラブの活動の見直しや活性化を図るためには、単に振り返りシートの提出を求めるだけではなく、集めた情報に基づき、老人クラブと自治体の今後の協働に関する方針を検討するところまでの取組が求められる。

老人クラブの活動実態に関する情報収集から協働方針の検討までを効果的に進めるための手法として、以下の3つのステップで作業を進めることを提案したい（次ページにステップ2、ステップ3のポイントに記載。なお、ステップ1のポイントについては、既にワークシートの構成や使用方法について記述しているため省略）。

図表 6-2-5 振り返りシートを用いた意見聴取から活動計画を考えるまでの「3つのステップ」



【ステップ2：実態の聞き取りに関する取組のポイント】

振り返りシートに記載された内容について、「具体的な活動内容はどのようなものなのだろうか?」、「どのような考えをもって書かれたのだろうか?」という疑問が生じた場合に、その点について当事者から話を聞き、理解することが重要である。

また、各老人クラブが提出した振り返りシートを持参してヒアリング等を行うことにより、内容の深掘りができるだけでなく、お互いの距離が近づき、今後の連携がとりやすくなるなど、コミュニケーションのきっかけとしても大きな効果が期待される。

なお、聞き取りを行う際には、日頃の活動に対するねぎらいや感謝を伝えることを忘れずに、相手に敬意を持って接するように心がけることが重要である。加えて、相手の話を聞くだけでなく、自治体として老人クラブに期待していることなど、行政側の考えを伝えることで、お互いの理解促進につながるのではないかと考えられる。

ただし、各地域に存在する老人クラブの数に対し、自治体側の老人クラブ関連事業の担当者は少なく、すべての団体に話を聞いて回ることは困難であると思われる。そのため、対応可能な件数を抽出し、ある程度の期間を設けて取り組んで行くことが現実的な対応ではないかと思われる。また、取組が順調に進んでいるクラブだけではなく、活動において課題を抱えているクラブに対してもヒアリングの対象とし、対応策と一緒に考えることも、活動の維持・継続に向けた重要なコミュニケーションであると思われる。

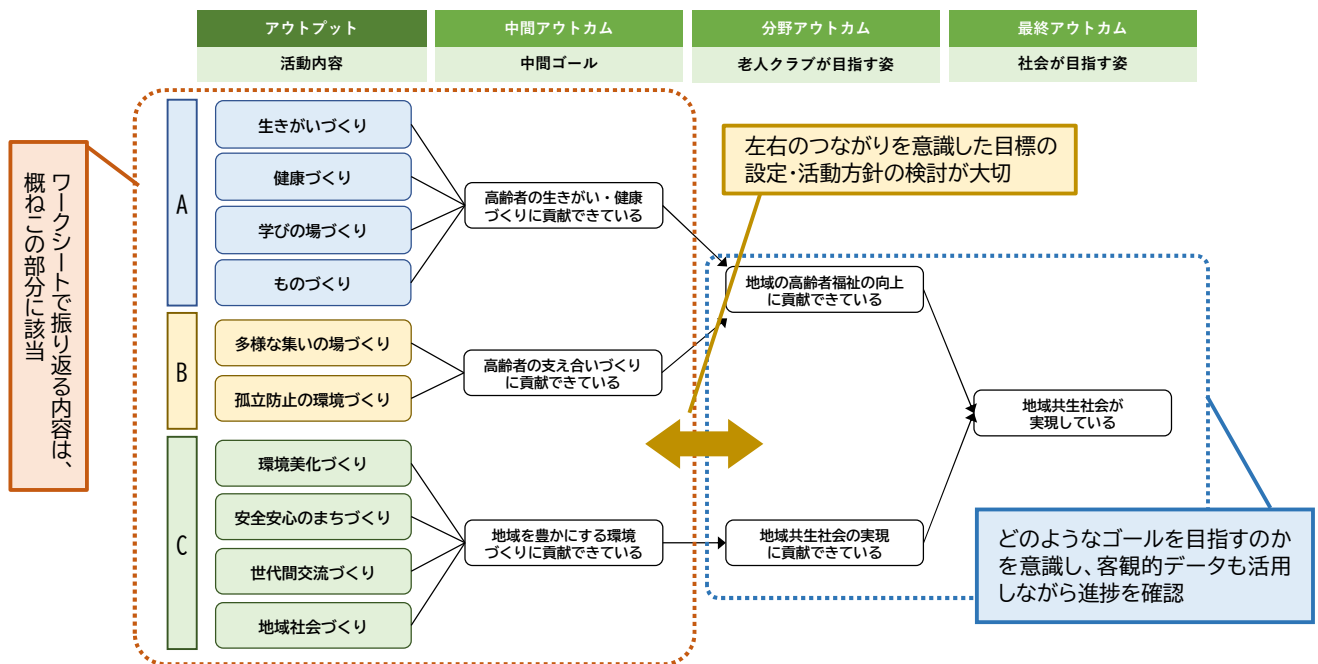
【ステップ3：活動方針の検討 に関する取組のポイント】

老人クラブの今後の活動方針について、基本的には各老人クラブが自主的に考え、行動することが前提となっているが、自治体側の考えをクラブ側に伝え、各自治体の目指す地域福祉の将来像を共有し、そこに向けて老人クラブの活動の方向性を双方が一緒に考えることで、活動の社会的意義を高め、参加する高齢者の意欲や満足感を高めることにつながるのではないかと考えられる。

したがって、老人クラブの活動を「今後、どのようなまちをつくっていききたいか」という全体デザインの中に位置づけるという発想のもとで考えていくことが重要である。より具体的には、各自治体の福祉施策の目標（最終的には地域共生社会を目指すこと）に老人クラブの活動を結び付けるため、老人クラブでの活動によって生じる地域の状況変化（定性的・定量的な変化）とのリンク（言い換えると、ロジックモデルの「左：アウトプットから中間アウトカム」と「右：分野アウトカムから最終アウトカム」の結びつき）を考え、自治体の施策や計画等との関連性を整理し、その中で位置づけや協働の可能性を検討することが重要である。なお、数値データなどに基づく確認・検討については主に自治体側で行うことになると想定される（データの出所に関する参考情報を本書p146に記載した）。

なお、老人クラブは自主的な活動を行うことを基本とした団体であるため、行政側から「あしとほしい・こうしてほしい」と活動方針に関する要求を押し付けるのではなく、両者の対話・理解に基づき、一緒に取り組んで行く方向を検討するという意識で接することが重要である。

図表 6-2-6 老人クラブの活動に関するロジックモデルに沿った、
活動状況の整理や今後の方針検討のイメージ



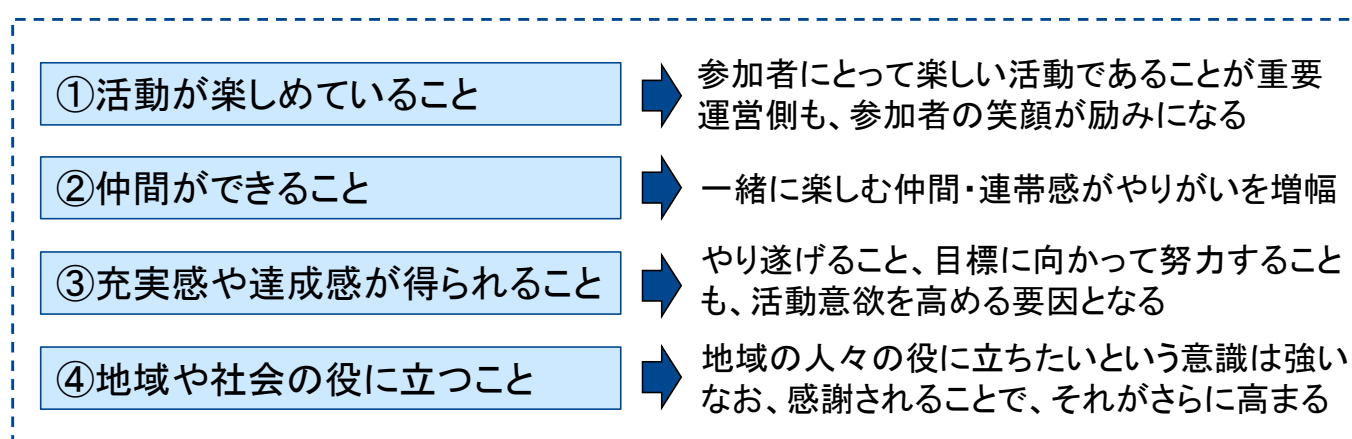
7. 今後の老人クラブの活動支援に向けて

本報告書の最後に、本調査研究事業の結果から見えてきた、今後の老人クラブの活動支援に取り組む上での要点を改めて整理する。なお、本章の内容を含め、老人クラブの「見える化」に向けたポイントを整理した「ガイドブック」を作成しているので、こちらもあわせてご覧いただきたい。

(1) 老人クラブにおける活動の「やりがい」

老人クラブの活動においては、参加者が活動を楽しめていることのほか、充実感や達成感が得られることなど、様々な要素が「やりがい」となっていることが、アンケート調査結果から把握された。回答内容を集約すると、老人クラブの活動における主な「やりがい」には、以下のようなものがあることが分かった。

図表 7-1-1 老人クラブにおける活動の「やりがい」の概観



特に、「やり遂げたという充実感や達成感」は活動の継続・発展に向けて非常に重要な要素であると考えられるが、その源泉としては目標の達成であったり、あるいは地域の役に立っているといった実感であったりと、活動の内容だけでなく、その結果から得られるものが重要であることがうかがえる。老人クラブの活動方針や目標の検討においては、こういったポイントも参考にしながら、関係者で話し合いを行うことが重要と思われる。

(2) 老人クラブの「できていること」・「できていないこと」の意識

老人クラブの様々な活動の意義については、大別して「生きがいづくり・健康づくり」、「高齢者の支え合いづくり」、「地域を豊かにする環境づくり」の3つの分野に集約することができる。これら3つの分野において、社会の状況が好転していると感じるか、またそのことに老人クラブの活動が貢献できているかという意識について、本調査研究事業の結果からは、多くの老人クラブにおいて「自信をもって取り組むことができおり、貢献も実感している」ということがうかがえる部分がある一方、「あまり貢献できていない」と感じている部分の両方があることが分かった。

アンケート調査の回答（自由記述の回答結果を含む）をみると、老人クラブの会員、あるいは地域の環境づくりに対しては活動を通じて様々な効果や貢献ができているとの自信がうかがえるのに対し、老人クラブ会員以外の高齢者や、高齢者以外の世代に対しては活動を通じた効果・貢献の実感が

低くなっている様子がうかがわれる。これは「まだできることがある」という意識の表れとみることもできることから、今後の活動の発展においては、現状でアプローチできていないところと結び付けるための支援が有効ではないかと思われる。

図表 7-2-1 地域の状況変化に対する、老人クラブの貢献意識に関する回答結果の概観

分類A 生きがいづくり・健康づくり	・関連する活動を行うクラブが多く、参加者への効果・貢献を実感 ・貢献度の評価についても高く、自信をもって取り組んでいる分野
分類B 高齢者の支え合いづくり	・会員に対する孤立予防には、効果・貢献度ともに一定の評価 ・会員でない高齢者への働きかけについて、課題と認識されている
分類C 地域を豊かにする環境づくり	・地域の緑化や美化活動には積極的な姿勢、成果にも自信あり ⇒ただし、高齢者以外の世代への働きかけについては課題と認識 ・地域社会に役立つこと・地域との関係強化への意欲が感じられる

※総じて、目的の明確な活動を行っている部分については効果・貢献意識が高い。

※客観的な数値等の変化（人数の増減など）のように、老人クラブ側で把握が難しいことについては、活動の効果・貢献意識ともに自信のない回答が目立つ。

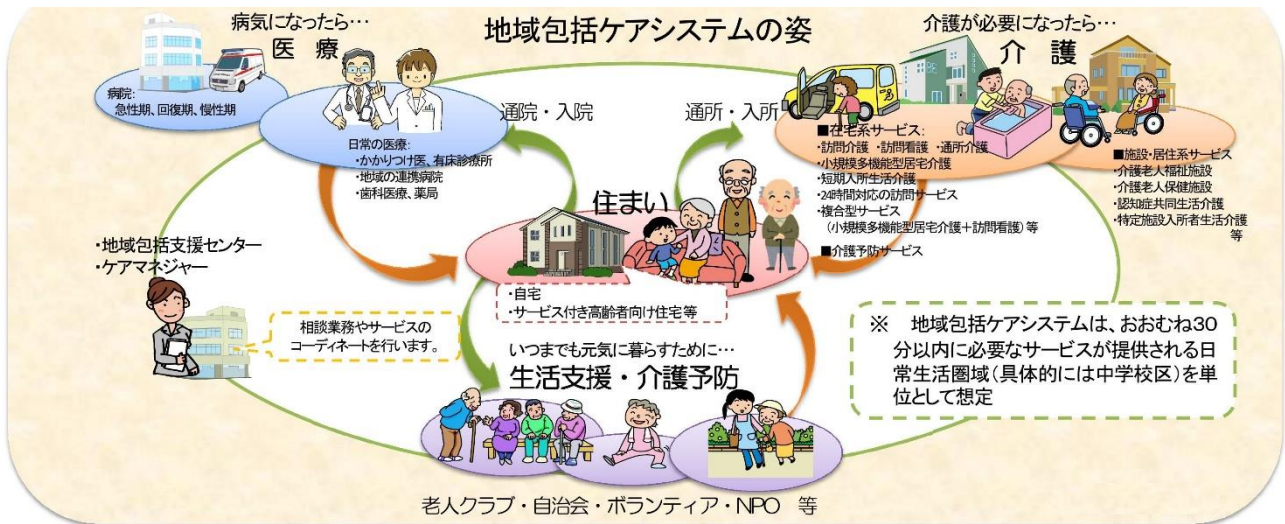
（3）老人クラブにおける活動意欲を高め、協働を推進するための働きかけ

老人クラブの様々な活動は社会貢献につながるものであるが、活動を意欲的に、かつ無理なく続けていくためには、「自分たちが楽しみながら、結果的に社会のためになることをやろう」という姿勢であることが望ましいのではないかと考えられる。また、老人クラブの活動のやりがいには、「地域や社会の役に立つこと」という他者に対する働きかけに関するものも含まれていることから、自分たちが楽しみとして行っている活動が、結果的に地域の環境改善への貢献につながっていることへの気づきを促すことにより、活動意欲を高め、活動範囲の拡大や貢献度の向上といった前向きな発展につなげる効果が期待される。

なお、老人クラブは地域の中で他の世代・団体等とも接点・交流を持ちながら活動する団体であり、国が推進している「地域包括ケアシステム」の中に、老人クラブは「生活支援・介護予防」を担う主体として位置づけられている。会員数の減少や高齢化等により、老人クラブ単体では活動の継続が難しくなっているという事例も把握されているなか、今後も地域の生活基盤を支える担い手としての役割を維持するためには、外部との連携・協働を進めていくことも重要であると考えられる。

以上を踏まえると、老人クラブの活動状況を把握し、活動方針を一緒に考える際には、彼らの活動について地域社会への貢献を感謝するとともに、その効果を地域に発信し、地域の様々な世代・団体等と「一緒に取り組む」という考えの普及・浸透に取り組んで行くことが必要なのではないかと思われる。

図表 7-3-1 地域包括ケアシステムにおける老人クラブの位置づけ



出典：厚生労働省

【資料 1】

(1) アンケート調査項目

- ① 市区町村向け調査 …… 157
- ② 老人クラブ向け調査 … 165

① 市区町村向け調査

老人クラブの活動状況等に関するアンケート（市区町村向け調査）

問1. 貴自治体の概要について教えてください。

①人口（2024年10月1日現在の住民基本台帳人口）

■総人口：()人 ■高齢者人口：()人
■第1号被保険者の要介護・要支援認定率：()%

②地域内の単位老人クラブ数と会員数

■単位老人クラブの数：()団体 ■全単位老人クラブの会員数合計：()人
☐ 把握していない ☐ 把握していない

③老人クラブ事務局機能の有無

1. 老人クラブの事務局機能を自治体が担っている 2. 自治体は担っていない

問2. 貴自治体では、老人クラブ（単位老人クラブのこと、以下同様）の活動に対して評価を行っていますか。（あてはまるものひとつに○）

1. 定量的な評価のみ行っている 2. 定性的な評価のみ行っている
3. 定量的・定性的の両面で評価を行っている 4. 評価を行っていない

【問2で、1～3のいずれかを回答した方のみにお伺いします】

問3. 貴自治体では、老人クラブの活動に対する評価の前後に、次のようなことについて振り返りやフィードバックを行っていますか。（ア～クそれぞれ、あてはまるものひとつに○）

	自治体職員と老人クラブ担当者が 協働して振り返りや フィードバックを行っている	自治体職員のみで振り返り、 老人クラブに内容を フィードバックしている	自治体職員のみで振り返って いるが、老人クラブに内容を フィードバックしていない	振り返りやフィードバックを自治体 では行っていない（老人クラブ単独で 振り返りを行っている場合含む）
ア) 老人クラブの活動目標の妥当性	1	2	3	4
イ) 老人クラブの活動目標の設定方法	1	2	3	4
ウ) 老人クラブの活動計画の妥当性	1	2	3	4
エ) 老人クラブの活動計画の作成方法	1	2	3	4
オ) 老人クラブの活動の実施内容の妥当性	1	2	3	4
カ) 老人クラブの活動の実施方法	1	2	3	4
キ) 老人クラブの活動効果測定の測定項目の妥当性	1	2	3	4
ク) 老人クラブの活動効果測定の方法	1	2	3	4

【問3で、「1. 自治体職員と老人クラブ担当者が協働して振り返りやフィードバックを行っている」もしくは「2. 自治体職員のみで振り返り、老人クラブに内容をフィードバックしている」を1つでも回答した方にお伺いします】

問4. 振り返りやフィードバックを行った結果、みられた影響や得られた効果があれば、教えてください。（あてはまるものすべてに○）

- | |
|---|
| 1. 老人クラブが目指す目標が、自治体が目指す目標やその理念に合致・整合するようになった |
| 2. 老人クラブが目指す目標について、その運営の中心人物が認識できるようになった |
| 3. 老人クラブが目指す目標について、会員内に浸透・認識が一致するようになった |
| 4. 老人クラブが目標を達成するための道筋について、その運営の中心人物が認識できるようになった |
| 5. 老人クラブが目標を達成するための道筋について、会員内に浸透・認識が一致するようになった |
| 6. 老人クラブが目標を達成するための活動を行うようになった |
| 7. 老人クラブが活動のなかで、目標を達成するための工夫を行うようになった |
| 8. 老人クラブから情報を集めることが容易になった |
| 9. 老人クラブが目標を達成したり、会員・参加者が活動から効果を感じたりするようになった |
| 10. 自治体庁内で、老人クラブの活動に対する理解が深まった |
| 11. 自治体と老人クラブとのコミュニケーションの頻度が高まった |
| 12. 自治体庁内で、老人クラブへの補助金給付のための資料作成や口頭説明が容易になった |
| 13. 老人クラブと、自治体や地域活動単体との間で、連携や協働が活発化した |
| 14. その他（ ） |
| 15. 特にみられた影響や得られた効果はない |

【問2で「4. 評価を行っていない」を回答した方、もしくは問3で「4. 振り返りやフィードバックを行っていない」を1つでも回答した方にお伺いします】

問5. 評価や振り返り・フィードバックを行っていない項目について、その理由を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

- | |
|--|
| 1. 評価や振り返り・フィードバックを行おうと考えたことがないから |
| 2. 老人クラブ側が評価や振り返り・フィードバックに消極的だから |
| 3. 評価や振り返り・フィードバックに必要な情報を老人クラブから集めることが難しいから |
| 4. 行ったことがあるが、効果を得ることができなかったから |
| 5. 自治体側に評価や振り返り・フィードバックを行うためのスキルやノウハウがないから |
| 6. 老人クラブが自主的に行っているから |
| 7. その他（ ） |
| 8. わからない |

問6. 貴自治体の高齢者福祉所管課が行っている、老人クラブの活動に関する情報収集について教えてください。

①手段と頻度（ア～クそれぞれ、あてはまるものひとつに○）

	1 か月に1回以上	2 ～3 か月に1回程度	半年に1回程度	年に1回程度	2 ～3 年に1回以下	行 って い ない
ア) 貴自治体で用意した様式（選択肢から選ぶもの・数字記入するもの。アンケート調査含む）	1	2	3	4	5	6
イ) 貴自治体で用意した様式（自由記述式のもの。アンケート調査含む）	1	2	3	4	5	6
ウ) 様式自由の書類	1	2	3	4	5	6
エ) 自治体職員によるヒアリングやインタビュー	1	2	3	4	5	6
オ) 自治体職員による老人クラブ活動現場への訪問・見学や活動参加など	1	2	3	4	5	6
カ) 自治体職員による対話・意見交換・打ち合わせ等（対面・Web会議・電話など全て含む）	1	2	3	4	5	6
キ) 老人クラブ連合会による情報収集の結果報告（間接的な情報収集）	1	2	3	4	5	6
ク) 中間支援者（老人クラブ連合会を除く）や外部委託先による情報収集の結果報告（間接的な情報収集）	1	2	3	4	5	6

②手段と収集している情報の内容（ア～クそれぞれ、あてはまるものすべてに○）

ア～クは、①で「行っていない」以外を回答した項目のみ回答 （回答画面上では、それらのみ表示するよう制御）	老人 クラブの 会員数	老人 クラブの 会計報告	活動 計画	各種 活動実績 （活動一 覧や内容、 参加者数 など）	活動の 効果や 振り返 りに関 する報 告	今後 の運営 に関す る課題	行政 への要 望・支 援ニー ズ	そ 他の情 報
ア) 貴自治体で用意した様式（選択肢から選ぶもの・数字記入するもの。アンケート調査含む）	1	2	3	4	5	6	7	8
イ) 貴自治体で用意した様式（自由記述式のもの。アンケート調査含む）	1	2	3	4	5	6	7	8
ウ) 様式自由の書類	1	2	3	4	5	6	7	8
エ) 自治体職員によるヒアリングやインタビュー	1	2	3	4	5	6	7	8
オ) 自治体職員による老人クラブ活動現場への訪問・見学や活動参加など	1	2	3	4	5	6	7	8
カ) 自治体職員による対話・意見交換・打ち合わせ等（対面・Web会議・電話など全て含む）	1	2	3	4	5	6	7	8
キ) 老人クラブ連合会による情報収集の結果報告（間接的な情報収集）	1	2	3	4	5	6	7	8
ク) 中間支援者（老人クラブ連合会を除く）や外部委託先による情報収集の結果報告（間接的な情報収集）	1	2	3	4	5	6	7	8

③情報の収集目的（ア～キそれぞれ、あてはまるものすべてに○）

ア～キは、②で1つでも回答があった項目のみ回答 （回答画面上では、それらのみ表示するよう制御）	支給可否の判断材料とするため	個々の老人クラブへの補助金の定量的な評価に用いるため	個々の老人クラブやその活動の定性的な評価に用いるため	個々の老人クラブやその活動の実態把握や事実としての状況の認識をするため	老人クラブについての実態把握や地域における団体活動の事例情報を収集し周知・広報するため	活動や取組のノウハウ等を他団体へ啓発するため	自治体内の他部署・他機関や民間団体への情報提供のため	他の行政機関（国や自治体）への情報提供のため	行政計画策定の材料とするため	支援施策の立案や新規予算獲得に向けた説明材料とするため	その他の目的のため
ア）老人クラブの会員数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
イ）老人クラブの会計報告	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
ウ）活動計画	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
エ）各種活動実績（活動一覧や内容、参加者数など）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
オ）活動の効果や振り返りに関する報告	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
カ）今後の運営に関する課題	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
キ）行政への要望・支援ニーズ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11

問7. 貴自治体では、老人クラブ連合会とコミュニケーションをとる機会がありますか。

（あてはまるものひとつに○）

※ 問6①～③でお伺いした「老人クラブに関する情報収集」という目的に限定せず、広くお考えください。

1. 日常的もしくは定期的に、対話や意見交換・情報共有をしている
2. 不定期だが、意識的に対話や意見交換・情報共有をしている
3. 連絡をとることはあるが、対話や意見交換・情報共有はあまりしていない
4. ほとんど、あるいは全く対話や意見交換・情報共有をしていない

問8. 老人クラブの活動に関する情報の収集や共有に関する課題について教えてください。

（あてはまるものすべてに○）

1. 連絡の手段や頻度が限られており、適切な情報収集や共有ができない
2. 情報を収集・整理・分析するための、自治体側の人員が不足している
3. 収集した情報の適切な整理・分析に関する知識やノウハウが不足している
4. 収集した情報を効果的な支援等に結び付けるための仕組みが整っていない
5. 適切な記録作成や報告ができていない老人クラブが多く、報告内容に差が生じている
6. 老人クラブの活動に関する情報の収集や共有について必要性を感じていない
7. その他（)
8. 特に課題はない

問9. 以下のA～Cに分類される活動について、貴自治体内の老人クラブの活動にあてはまるかどうか、振り返ってみてください。

- ① 各分野の活動について、貴自治体内の老人クラブによって行われているもの（把握できているもののみ）を教えてください。（あてはまるものすべてに○）
- ② 貴自治体内の老人クラブによって行われている各分野の活動について、老人クラブの活動が「地域の状況の変化」にどの程度貢献しているか、以下の1～5の選択肢からお選びください。（それぞれ、あてはまるものひとつに○）

- | | | |
|----------------|--------------|--------------|
| 1. 貢献できている | 2. やや貢献できている | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり貢献できていない | 5. 貢献できていない | |

- ③各「地域の状況の変化」について、貴自治体として、老人クラブの活動にどの程度期待しているか、以下の1～5の選択肢からお選びください。（それぞれ、あてはまるものひとつに○）

- | | | |
|---------------|---------------|--------------|
| 1. 大いに期待している | 2. ある程度期待している | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり期待していない | 5. 全く期待していない | |

※②、③は、直接的に関連する活動を実施してない場合であっても、地域の状況やご回答される方のご認識を踏まえ、地域の状況の変化に対する老人クラブの貢献度や期待度についてご回答ください。

A. 高齢者の生きがい・健康づくりに関する活動

活動分野		活動内容	①行われている活動
健康づくり・生きがいづくり	A. 高齢者の生きがいづくり	趣味の活動、文化・サークル活動	1
		行楽・旅行	2
		その他()	3
	健康づくり	健康や介護予防に関する学習活動	4
		体操、スポーツ、ウォーキング等の運動	5
		その他()	6

目標 (大項目)	目標 (小項目)	地域の状況の変化	②地域の状況の変化に対する貢献度	③老人クラブに対する期待度
高齢者の生きがい・健康づくり	趣味・生きがいづくりに貢献できている	趣味や生きがいを持っている高齢者が増えている	1～5	1～5
		趣味や生きがいづくりの活動を行う場が増えている	1～5	1～5
	健康増進に貢献できている	運動習慣のある高齢者が増えている(街中で運動をしている高齢者数の印象など)	1～5	1～5
		運動機能の低下した高齢者が減っている(身の回りの歩行困難等の高齢者数の印象など)	1～5	1～5
		日常生活において介護や手助けが不要な、元気な状態を維持している高齢者が増えている	1～5	1～5
		介護予防や認知症予防に取り組む意識が高まっている	1～5	1～5

B. 高齢者の仲間づくり

活動分野		活動内容	①行われている活動
B. 高齢者の仲間づくり	学びの場づくり	学習講座、研修	7
		社会見学	8
		パソコン、スマホ講習会	9
		その他()	10
	多様な集いの場づくり	高齢者のサロン活動	11
		定期的な集いの場、通いの場の運営	12
		その他()	13
	孤立防止の環境づくり	高齢者への声かけ運動	14
		高齢者への訪問活動	15
		生活の困りごとに対する手助け	16
		その他()	17
	ものづくり	農業体験等の農作業	18
		手芸や工芸等の作品づくり	19
		その他()	20

目標 (大項目)	目標 (小項目)	地域の状況の変化	②地域の状況の変化 に対する貢献度	③老人クラブに 対する期待度
高齢者間の仲間づくりに 貢献できている	高齢者の学び に貢献できている	学習講座など、高齢者が何かを学ぶための場が増えている	1～5	1～5
		学習講座など、高齢者が何かを学ぶための場が充実している (内容・質の充実)	1～5	1～5
		学習意欲の高い高齢者が増えている (講座の開催要望の増加等)	1～5	1～5
	高齢者の孤立 防止に貢献 できている	困ったときの相談相手や、友人・仲間がいらないと思われる 高齢者が減っている	1～5	1～5
		自宅に閉じこもっている高齢者が減っている	1～5	1～5
		地元であいさつや立ち話をしている高齢者が増えている	1～5	1～5
		助け合い活動への参加等、「支える側」として活動する 高齢者数が増えている	1～5	1～5
	高齢者の 集まる場づくりに 貢献できている	老人クラブの活動に参加したいと思う高齢者が増えている	1～5	1～5
		高齢者の居場所や集まる場が増えている	1～5	1～5
		活動への参加者や、集いの場に通う高齢者が増えている	1～5	1～5
	高齢者の社会 参加の推進に 貢献できている	農作業やものづくりに取り組む高齢者が増えている	1～5	1～5
		仕事や地域活動への参加など、社会参加している 高齢者が増えている	1～5	1～5

C. 地域を豊かにする環境づくり

活動分野		活動内容	①行われている活動
C. 地域を豊かにする環境づくり	安心安全のまちづくり	交通安全活動(交通安全教室等)	21
		防犯、防災活動(パトロール等)	22
		街頭での防犯呼びかけ運動	23
		見守り活動(児童の登下校の見守り等)	24
		その他()	25
	環境美化づくり	地域の清掃活動	26
		地域の花いっぱい運動・緑化活動	27
		リサイクルの推進活動	28
		その他()	29
	世代間交流づくり	子どもとの交流(学校行事への参加、子ども食堂、その他イベント運営等)	30
		地域の文化・歴史等の伝承に関する活動	31
		その他()	32
	地域社会づくり	地域団体や行政等との協働	33
		地域の会合や、行政の会議体への参加	34
		地域をよくするための提言・提案	35
		その他()	36

目標 (大項目)	目標 (小項目)	地域の状況の変化	②地域の状況の変化 に対する貢献度	③老人クラブに 対する期待度
地域を豊かにする環境づくりに貢献できている	安心安全な地域の実現に貢献できている	地域の安心安全に関する取組(防犯・交通安全活動など)に参加する高齢者が増加している	1～5	1～5
		安心・安全な生活のための知識の習得に意欲的な高齢者が増加している	1～5	1～5
		地域の体感的な治安が向上している	1～5	1～5
		地域の防災意識が高まっている	1～5	1～5
		困ったときの相談相手や対処法を理解している高齢者が増加している	1～5	1～5
	地域環境向上に貢献できている	地域づくり活動に参加意欲のある高齢者が増加している	1～5	1～5
		地域の環境美化が向上している	1～5	1～5
		地域の緑化や花壇の手入れ等が向上している	1～5	1～5
	世代間の交流促進に貢献できている	子どもと高齢者が交流する行事や活動が増えている	1～5	1～5
		地域の子どもに高齢者が声かけするなど、両者の信頼関係が強くなっている	1～5	1～5
		高齢者と現役世代が交流する行事や活動が増えている	1～5	1～5
		高齢者の見守りや生活支援に携わる地域の人(高齢者以外)が増えている	1～5	1～5
	行政や地域の関係団体との連携促進に貢献できている	老人クラブと行政との連絡頻度や交流機会が増えている	1～5	1～5
		老人クラブと他の関係団体との連絡頻度や交流機会が増えている	1～5	1～5
		他の団体と協力することで、老人クラブの活動の幅が広がっている	1～5	1～5
		行政の会議や地域の会合等において、老人クラブから高齢者代表として意見する機会が増えている	1～5	1～5

問 10. 老人クラブからの支援ニーズとして挙げられているものについて教えてください。

(あてはまるものすべてに○)

1. 補助金の支給・増額	2. 会員数増加のための支援
3. 情報発信に関する支援	4. 事務局運営に関する助言・相談
5. 事務処理に関する助言・相談	6. 補助金の申請や報告に関する支援
7. 活動計画の検討に関する支援	8. 活動等の企画に関する支援
9. 活動等の実施に関する支援	10. 活動の振り返りや改善に関する支援
11. 活動に必要な物品等の貸し出し	12. 連携先の紹介・マッチング
13. その他 ()	14. 特にな

問 11. 貴自治体が現在行っている、老人クラブに対する支援の内容について教えてください。

(あてはまるものすべてに○)

※ 制度はあるものの運用がされていない場合には、あてはまらないものとしてお考えください。

1. 補助金の支給	2. 会員数増加のための支援
3. 情報発信に関する支援	4. 事務局運営に関する助言・相談
5. 事務処理に関する助言・相談	6. 補助金の申請や報告に関する支援
7. 活動計画の検討に関する支援	8. 活動等の企画に関する支援
9. 活動等の実施に関する支援	10. 活動の振り返りや改善に関する支援
11. 活動に必要な物品等の貸し出し	12. 連携先の紹介・マッチング
13. その他 ()	14. 特にな

問 12. 貴自治体が現在行っている老人クラブに対する支援について、高齢者福祉の所管課が、庁内の他の所管課と連携して行っているものがあれば教えてください。

(あてはまるものすべてに○) ※ 問 11 で回答した選択肢のみ表示・回答

1. 補助金の支給	2. 会員数増加のための支援
3. 情報発信に関する支援	4. 事務局運営に関する助言・相談
5. 事務処理に関する助言・相談	6. 補助金の申請や報告に関する支援
7. 活動計画の検討に関する支援	8. 活動等の企画に関する支援
9. 活動等の実施に関する支援	10. 活動の振り返りや改善に関する支援
11. 活動に必要な物品等の貸し出し	12. 連携先の紹介・マッチング
13. その他 ()	14. 特にな

問 13. 老人クラブの支援を行っていくにあたり、どのようなことが課題となっていますか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 支援のための予算の確保が難しい	2. 支援を担当する人材の確保が難しい
3. 老人クラブの実態やニーズに関する情報が不足している	4. 支援を行うための知識やノウハウが不足している
5. 老人クラブの意義に関する周知や理解が不足している	6. 老人クラブの運営体制の維持が難しい
7. 連携先となる団体等の地域資源が不足している	8. 行政以外の支援者の確保が難しい
9. その他 ()	10. 特にな

② 老人クラブ向け調査

老人クラブの活動に関するアンケート調査（調査項目一覧）

1. 老人クラブの活動の振り返りについて

Q1-1. 老人クラブの今後のよりよい活動に向けて、活動の振り返りを行うためのシートの作成について検討しております。

下記のシートに基づき、あなたの地域の老人クラブの、昨年度の活動について振り返ってみてください。

（貴連合会にて所管されている地域内で活動する老人クラブの活動について、主観で問題ございませんのでご回答をお願いいたします）

※直接的に関連する活動を実施してない場合であっても、地域の状況やご回答される方のご認識を踏まえ、地域の状況の変化に対する実感や老人クラブの貢献度についてご回答ください。

A 高齢者の生きがい・健康づくりに関する活動

活動分野		活動内容	①行っている活動に○
高齢者の生きがい・健康づくり	生きがいづくり	・趣味の活動、文化・サークル活動	
		・行楽・旅行	
		・その他（ ）	
	健康づくり	・健康や介護予防に関する学習活動	
		・体操、スポーツ、ウォーキング等の運動	
		・その他（ ）	

目標（大項目）	目標（小項目）	活動の振り返り指標	②地域の状況の変化に対する実感 （5段階）	③地域の状況の変化に対する老人クラブの貢献度 （5段階）
高齢者の生きがい・健康づくりに貢献できている	趣味・生きがいづくりに貢献できている	趣味や生きがいを持っている高齢者が増えている	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
		趣味や生きがいづくりの活動を行う場が増えている	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
	健康増進に貢献できている	運動習慣のある高齢者が増えている（街中で運動をしている高齢者数の印象など）	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
		運動機能の低下した高齢者が減っている（身の回りの歩行困難等の高齢者数の印象など）	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
		日常生活において介護や手助けが不要な、元気な状態を維持している高齢者が増えている	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
		介護予防や認知症予防に取り組む意識が高まっている	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない

B 高齢者の仲間づくりに関する活動

活動分野		活動内容	①行っている活動に○
高齢者の仲間づくり	学びの場づくり	・学習講座、研修	
		・社会見学	
		・パソコン、スマホ講習会	
		・その他（ ）	
	多様な集いの場づくり	・高齢者のサロン活動	
		・定期的な集いの場、通いの場の運営	
		・その他（ ）	
	孤立防止の環境づくり	・高齢者への声かけ運動	
		・高齢者への訪問活動	
		・生活の困りごとに対する手助け	
		・その他（ ）	
	ものづくり	・農業体験等の農作業	
		・手芸や工芸等の作品づくり	
		・その他（ ）	

目標（大項目）	目標（小項目）	活動の振り返り指標	②地域の状況の変化に対する実感（5段階）	③地域の状況の変化に対する老人クラブの貢献度（5段階）
高齢者間の仲間づくりに貢献できている	高齢者の学びに貢献できている	学習講座など、高齢者が何かを学ぶための場が増えている	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
		学習講座など、高齢者が何かを学ぶための場が充実している（内容・質の充実）	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
		学習意欲の高い高齢者が増えている（講座の開催要望の増加等）	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
	高齢者の孤立防止に貢献できている	困ったときの相談相手や、友人・仲間がいなくなると思われる高齢者が減っている	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
		自宅に閉じこもっている高齢者が減っている	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
		地元であいさつや立ち話をしている高齢者が増えている	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
		助け合い活動への参加等、「支える側」として活動する高齢者数が増えている	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない

目標（大項目）	目標（小項目）	活動の振り返り指標	②振り返り指標 に対する実感 （5段階）	③振り返り指標に 対する老人クラブ の貢献度 （5段階）
高齢者間の仲間 づくりに貢献で きている	高齢者の集まる 場づくりに貢献 できている	老人クラブの活動に参加したいと思う高齢者が増えている	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
		高齢者の居場所や集まる場が増えている	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
		活動への参加者や、集いの場に通う高齢者が増えている	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
	高齢者の社会参 加の推進に貢献 できている	農作業やものづくりに取り組む高齢者が増えている	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
		仕事や地域活動への参加など、社会参加している高齢者が増えている	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない

C 地域を豊かにする環境づくりに関する活動

活動分野		活動内容	①行っている活動に○
地域を豊かにする環境づくり	安心安全のまちづくり	・交通安全活動（交通安全教室等）	
		・防犯、防災活動（パトロール等）	
		・街頭での防犯呼びかけ運動	
		・見守り活動（児童の登下校の見守り等）	
		・その他（ ）	
	環境美化づくり	・地域の清掃活動	
		・地域の花いっぱい運動・緑化活動	
		・リサイクルの推進活動	
		・その他（ ）	
	世代間交流づくり	・子どもとの交流（学校行事への参加、子ども食堂、その他イベント運営等）	
		・地域の文化・歴史等の伝承に関する活動	
		・その他（ ）	
	地域社会づくり	・地域団体や行政等との協働	
		・地域の会合や、行政の会議体への参加	
		・地域をよくするための提言・提案	
		・その他（ ）	

目標（大項目）	目標（小項目）	活動の振り返り指標	②地域の状況の変化に対する実感 （5段階）	③地域の状況の変化に対する老人クラブの貢献度 （5段階）
地域を豊かにする環境づくりに貢献できている	安心安全な地域の実現に貢献できている	地域の安心安全に関する取組（防犯・交通安全活動など）に参加する高齢者が増加している	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
		安心・安全な生活のための知識の習得に意欲的な高齢者が増加している	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
		地域の防災意識が高まっている	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
		地域の体感的な治安が向上している	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
		困ったときの相談相手や対処法を理解している高齢者が増加している	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
		地域づくり活動に参加意欲のある高齢者が増加している	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
	地域環境向上に貢献できている	地域の環境美化が向上している	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
		地域の緑化や花壇の手入れ等が向上している	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない

目標（大項目）	目標（小項目）	活動の振り返り指標	②地域の状況の変化 に対する実感 (5段階)	③地域の状況の変化に 対する老人クラブ の貢献度 (5段階)
地域を豊かにする 環境づくりに 貢献できている	世代間の交流促進に貢献できている	子どもと高齢者が交流する行事や活動が増えている	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
		地域の子どもに高齢者が声かけするなど、住民同士の信頼関係が強くなっている	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
		高齢者と現役世代が交流する行事や活動が増えている	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
		高齢者の見守りや生活支援に携わる地域の人（高齢者以外）が増えている	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
	行政や地域の関係団体との連携促進に貢献できている	老人クラブと行政との連絡頻度や交流機会が増えている	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
		老人クラブと他の関係団体との連絡頻度や交流機会が増えている	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
		他の団体と協力することで、老人クラブの活動の幅が広がっている	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない
		行政の会議や地域の会合等において、老人クラブから高齢者代表として意見する機会が増えている	1. あてはまる 2. ややあてはまる 3. どちらともいえない 4. あまりあてはまらない 5. あてはまらない	1. 貢献できている 2. やや貢献できている 3. どちらともいえない 4. あまり貢献できていない 5. 貢献できていない

Q1-2. 下記のシートに、各活動分野から得られるやりがい・達成感についてご記入ください。

また、活動の課題や問題点と感ずることについてもご記入をお願いいたします。

活動分野	活動から得られるやりがい、達成感 (自由記述)	活動の課題、問題点と感ずること (自由記述)
高齢者の生きがい・健康づくり		
高齢者の仲間づくり		
地域を豊かにする環境づくり		

【資料 2】

(2) 老人クラブの活動を振り返るための ワークシート

老人クラブの活動に関する振り返りワークシート

①行っている活動に○

②各活動を通じて取り組んで (取組の状況について、

できていない ←
1 2

【分類A：高齢者の生きがい・健康づくり】

☐	健康についての学習	☐	行楽・旅行
☐	体操、運動	☐	学習講座、研修
☐	社会見学	☐	手芸、工芸等
☐	農業体験	☐	趣味の活動（上記以外）
☐	その他（ ）		

☐	高齢者の生きがいづくり
☐	高齢者の運動の機会づくり
☐	介護予防意識の向上
☐	学びの場・機会の充実

【分類B：高齢者の支え合いづくり】

☐	声かけ運動	☐	高齢者の訪問活動
☐	集いの場、通いの場	☐	困りごとの助け合い
☐	サロン活動		
☐	その他（ ）		

☐	相談相手や話し相手のいない高齢者への働きかけ
☐	地域の高齢者の交流の活発化
☐	高齢者の居場所づくり

【分類c：地域を豊かにする環境づくり】

☐	交通安全活動	☐	リサイクル推進
☐	防災、防犯活動	☐	子ども・若者との交流
☐	見守り活動	☐	文化・歴史の継承
☐	清掃活動	☐	行政の会議への出席
☐	緑化活動		
☐	その他（ ）		

☐	安全・安心な地域づくり
☐	防犯意識の向上
☐	地域の緑化
☐	子ども・若者との交流
☐	他の活動団体との連携

クラブ名： _____

作成日： _____ 年 ____ 月 ____ 日

いることについて回答
5段階での評価を数字で記入)

ふつう → できている
3 4 5

③各分野の活動の、やりがいや
活動の課題、今後の目標を記入

【参考データ】

	高齢者の趣味の活動の充実
	高齢者の健康の維持・増進
	健康・介護予防に関する知識や情報の発信
	高齢者の活躍の場や機会の提供

【やりがいと感ずること】
【活動にあたっての課題・今後の目標】

要介護認定率	
全国	本市
%	%
主観的健康観	
全国	本市
%	%
生きがいを持っている高齢者の割合	
全国	本市
%	%

	高齢者の閉じこもり防止
	地域の助け合いの活発化

【やりがいと感ずること】
【活動にあたっての課題・今後の目標】

閉じこもり傾向のある高齢者の割合	
全国	本市
%	%
通いの場の数 (人口千人あたり)	
全国	本市
%	%

	防災意識の向上
	地域の美化・清掃
	地域住民との交流
	見守り活動の活発化
	行政運営への参画

【やりがいと感ずること】
【活動にあたっての課題・今後の目標】

地域づくり活動への参加意欲のある高齢者の割合	
全国	本市
%	%
ボランティア活動に参加している高齢者の割合	
全国	本市
%	%

厚生労働省 令和6年度老人保健健康増進等事業 成果物

**高齢者の社会参加及び地域貢献に資する
互助組織の推進に関する調査研究事業
調査結果報告書**

作成者：株式会社浜銀総合研究所
作成年月：令和7年3月

※本事業の成果物については以下をご参照ください

<https://www.yokohama-ri.co.jp/html/investigation/jutaku.html>